

経済学部 経済学科 (2012年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 (読替科目: 歴史と政治) 小林 道彦	1学期	1	2	31
	1年				
	家族を問う 閉講		1	2	
	1年				
	人間と文化 (読替科目: 異文化理解の基礎) 神原 ゆうこ	1学期	1	2	32
	1年				
	ことばの科学 (読替科目: ことばの科学) 漆原 朗子	1学期	1	2	33
	1年				
	国際学入門 (読替科目: 国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	34
	1年				
	教養としての平和学 閉講		1	2	
	1年				
	可能性としての歴史 (読替科目: 可能性としての歴史) 小林 道彦	2学期	2	2	37
	2年				
	家族の再生 閉講		2	2	
	2年				
	文化と政治 (読替科目: 現代社会と文化) 神原 ゆうこ	2学期	2	2	38
	2年				
言語と認知 (読替科目: 言語と認知) 漆原 朗子 他	1学期	2	2	39	
2年					
共生社会論 (読替科目: 共生社会論) 伊野 憲治	2学期	2	2	40	
2年					
戦争と平和 (読替科目: 戦争論) 戸蒔 仁司	2学期	2	2	42	
2年					
生活世界の哲学 (読替科目: 生活世界の哲学) 伊原木 大祐	1学期	1	2	35	
1年					
共同体と身体 (読替科目: 共同体と身体) 伊原木 大祐	2学期	2	2	41	
2年					
■スキル科目	メンタル・ヘルスI (読替科目: メンタル・ヘルスI) 中島 俊介	1学期	1	2	141
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII (読替科目：メンタル・ヘルスII) 中島 俊介	2学期	1	2	142
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 高西 敏正	1学期	1	2	143
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 徳永 政夫	1学期	1	2	144
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 加倉井 美智子	1学期	1	2	145
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 高西 敏正	2学期	1	2	146
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 徳永 政夫	2学期	1	2	147
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 加倉井 美智子	2学期	1	2	148
		1年			
	自己管理論 (読替科目：自己管理論) 山本 浩二	2学期	1	2	149
		1年			
キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 真鍋 和博	1学期	1	2	166	
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 石川 敬之	1学期	1	2	167	
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 見館 好隆	1学期	1	2	168	
	1年				
コミュニケーションと思考法 (読替科目：コミュニケーション実践) 真鍋 和博	2学期	1	2	169	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 (読替科目：プロフェッショナルの仕事I) 見館 好隆	1学期	2	2	170	
	2年				
大学論・学問論 閉講		1	2		
	1年				
法律の読み方 (読替科目：法律の読み方) 小野 憲昭	2学期	1	2	116	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	社会調査 (読替科目：社会調査) 稲月 正	2学期	1	2	117
		1年			
	統計を読む・統計をつくる 閉講		1	2	
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)) 黒田 次郎	1学期	1	1	150
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (サッカー)) 山崎 将幸	1学期	1	1	151
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (テニス)) 黒田 次郎	1学期	1	1	152
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (バレーボール)) 美山 泰教	1学期	1	1	153
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	154
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 山本 浩二	1学期	1	1	155
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)) 加倉井 美智子	1学期	1	1	156
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 山崎 将幸	2学期	1	1	157
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 黒田 次郎	2学期	1	1	158	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)) 黒田 次郎	2学期	1	1	159	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	160	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 美山 泰教	2学期	1	1	161	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 山崎 将幸	2学期	1	1	162	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	163
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	164
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	165
		1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 伊原木 大祐	1学期	1	2	43
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 稲月 正	1学期	1	2	44
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 神原 ゆうこ	1学期	1	2	45
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 小林 道彦	1学期	1	2	46
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 徳永 政夫	1学期	1	2	47
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 高西 敏正	1学期	1	2	48
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) (読替科目: 教養基礎演習I (防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	49
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 日高 京子	1学期	1	2	50
		1年			
教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 廣川 祐司	1学期	1	2	51	
	1年				
教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 石川 敬之	1学期	1	2	52	
	1年				
教養基礎演習I (発達障がいセミナー) (読替科目: 教養基礎演習I (発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	1	2	53	
	1年				
教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	53	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習Ⅱ (読替科目: 教養基礎演習Ⅱ) 伊原木 大祐	2学期	1	2	54
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目: 教養基礎演習Ⅱ) 稲月 正	2学期	1	2	55
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目: 教養基礎演習Ⅱ) 神原 ゆうこ	2学期	1	2	56
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目: 教養基礎演習Ⅱ) 小林 道彦	2学期	1	2	57
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目: 教養基礎演習Ⅱ) 徳永 政夫	2学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目: 教養基礎演習Ⅱ) 高西 敏正	2学期	1	2	58
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ(防衛セミナー) (読替科目: 教養基礎演習Ⅱ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	1	2	59
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目: 教養基礎演習Ⅱ) 日高 京子	2学期	1	2	60
		1年			
教養基礎演習Ⅱ (読替科目: 教養基礎演習Ⅱ) 廣川 祐司	2学期	1	2	61	
	1年				
教養基礎演習Ⅱ (読替科目: 教養基礎演習Ⅱ) 石川 敬之	2学期	1	2	62	
	1年				
教養基礎演習Ⅱ(発達障がいセミナー) (読替科目: 教養基礎演習Ⅱ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	1	2	63	
	1年				
教養演習AⅠ (読替科目: 教養演習AⅠ) 伊原木 大祐	1学期	2	2	64	
	2年				
教養演習AⅠ (読替科目: 教養演習AⅠ) 稲月 正	1学期	2	2	65	
	2年				
教養演習AⅠ (読替科目: 教養演習AⅠ) 神原 ゆうこ	1学期	2	2	66	
	2年				
教養演習AⅠ (読替科目: 教養演習AⅠ) 小林 道彦	1学期	2	2	67	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I 徳永 政夫	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習 A I (防衛セミナー) (読替科目: 教養演習 A I (防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	68
		2年			
	教養演習 A I (読替科目: 教養演習 A I) 日高 京子	1学期	2	2	69
		2年			
	教養演習 A I (読替科目: 教養演習 A I) 石川 敬之	1学期	2	2	70
		2年			
	教養演習 A I (発達障がいセミナー) (読替科目: 教養演習 A I (発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	2	2	71
		2年			
	教養演習 A II (読替科目: 教養演習 A II) 伊原木 大祐	2学期	2	2	72
		2年			
	教養演習 A II (読替科目: 教養演習 A II) 稲月 正	2学期	2	2	73
		2年			
	教養演習 A II (読替科目: 教養演習 A II) 神原 ゆうこ	2学期	2	2	74
		2年			
	教養演習 A II (読替科目: 教養演習 A II) 小林 道彦	2学期	2	2	75
		2年			
	教養演習 A II 徳永 政夫	2学期	2	2	
		2年			
教養演習 A II (防衛セミナー) (読替科目: 教養演習 A II (防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	2	2	76	
	2年				
教養演習 A II (読替科目: 教養演習 A II) 日高 京子	2学期	2	2	77	
	2年				
教養演習 A II (読替科目: 教養演習 A II) 石川 敬之	2学期	2	2	78	
	2年				
教養演習 A II (発達障がいセミナー) (読替科目: 教養演習 A II (発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	2	2	79	
	2年				
教養演習 B I (読替科目: 教養演習 B I) 伊原木 大祐	1学期	3	2	80	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ (読替科目: 教養演習BⅠ) 稲月 正	1学期	3	2	81
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目: 教養演習BⅠ) 神原 ゆうこ	1学期	3	2	82
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目: 教養演習BⅠ) 小林 道彦	1学期	3	2	83
		3年			
	教養演習BⅠ 徳永 政夫	1学期	3	2	
		3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー) (読替科目: 教養演習BⅠ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	84
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目: 教養演習BⅠ) 日高 京子	1学期	3	2	85
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目: 教養演習BⅠ) 石川 敬之	1学期	3	2	86
		3年			
	教養演習BⅠ(発達障がいセミナー) (読替科目: 教養演習BⅠ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	3	2	87
		3年			
	教養演習BⅡ (読替科目: 教養演習BⅡ) 伊原木 大祐	2学期	3	2	88
		3年			
	教養演習BⅡ (読替科目: 教養演習BⅡ) 稲月 正	2学期	3	2	89
		3年			
教養演習BⅡ (読替科目: 教養演習BⅡ) 神原 ゆうこ	2学期	3	2	90	
	3年				
教養演習BⅡ (読替科目: 教養演習BⅡ) 小林 道彦	2学期	3	2	91	
	3年				
教養演習BⅡ 徳永 政夫	2学期	3	2		
	3年				
教養演習BⅡ(防衛セミナー) (読替科目: 教養演習BⅡ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	3	2	92	
	3年				
教養演習BⅡ (読替科目: 教養演習BⅡ) 日高 京子	2学期	3	2	93	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII (読替科目:教養演習BII) 石川 敬之	2学期	3	2	94
		3年			
	教養演習BII(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習BII(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	3	2	95
		3年			
プロジェクト演習I (読替科目:プロジェクト演習I) 見館 好隆	1学期	2	2	172	
	2年				
プロジェクト演習II (読替科目:プロジェクト演習II) 見館 好隆 他	2学期	3	2	173	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし (読替科目:自然学のまなざし) 竹川 大介 他	1学期	1	2	96
		1年			
	動物のみかた (読替科目:動物のみかた) 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	97
		1年			
	地球の生いたち (読替科目:地球の生いたち) 長井 孝一	2学期	1	2	98
		1年			
	自然史へのいざない (読替科目:自然史へのいざない) 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	99
		1年			
	くらしと化学 (読替科目:くらしと化学) 秋貞 英雄	1学期	1	2	100
		1年			
	現代人のこころ (読替科目:現代人のこころ) 税田 慶昭 他	1学期	1	2	101
		1年			
数のたのしみ 閉講		1	2		
	1年				
私たちと宗教 (読替科目:私たちと宗教) 佐藤 真人	2学期	1	2	103	
	1年				
思想と現代 (読替科目:思想と現代) 伊原木 大祐	1学期	1	2	104	
	1年				
ものがたりと人間 閉講		1	2		
	1年				
文化と表象 (読替科目:文化と表象) 真鍋 昌賢	2学期	1	2	105	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	言語とコミュニケーション (読替科目: 言語とコミュニケーション) 漆原 朗子 他	2学期	1	2	106
	1年				
	芸術と人間 (読替科目: 芸術と人間) 真武 真喜子	2学期	1	2	107
	1年				
	文学を読む (読替科目: 文学を読む) 生住 昌大 他	2学期	1	2	108
	1年				
	戦争と人間 閉講		1	2	
	1年				
	現代正義論 (読替科目: 現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	109
	1年				
	民主主義とは何か (読替科目: 民主主義とは何か) 中道 壽一	1学期	1	2	110
	1年				
	人権論 (読替科目: 人権論) 柳井 美枝	1学期	1	2	112
	1年				
	ジェンダー論 (読替科目: ジェンダー論) 力武 由美	1学期	1	2	113
	1年				
障がい学 (読替科目: 障がい学) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	114	
1年					
共生の作法 (読替科目: 共生の作法) 高橋 衛 他	1学期	1	2	115	
1年					
北九州学 (読替科目: 環境都市としての北九州) 日高 京子 他	2学期	1	2	102	
1年					
市民活動論 (読替科目: 市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	118	
1年					
企業と社会 (読替科目: 企業と社会) 山下 剛	1学期	1	2	119	
1年					
つながりの人間学 (読替科目: サービスラーニング入門I) 石川 敬之	1学期	1	2	171	
1年					
現代社会と倫理 (読替科目: 現代社会と倫理) 伊原木 大祐	1学期	1	2	120	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会の諸問題 (読替科目：現代社会と新聞ジャーナリズム) 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	121
	1年				
	現代の国際情勢 (読替科目：現代の国際情勢) 山本 直 他	1学期	1	2	122
	1年				
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	1
	1年				
	国際紛争と国連 休講	2学期	1	2	
	1年				
	民族・エスニシティ問題 (読替科目：エスニシティと多文化社会) 篠崎 香織 他	1学期	1	2	127
	1年				
	開発と統治 (読替科目：開発と統治) 三宅 博之 他	2学期	1	2	123
	1年				
	グローバル化する経済 (読替科目：グローバル化する経済) 田中 淳平 他	1学期	1	2	124
	1年				
	テロリズム論 (読替科目：テロリズム論) 戸蔭 仁司	2学期	1	2	125
	1年				
	国際社会と日本 (読替科目：国際社会と日本) 阿部 容子 他	2学期	1	2	126
	1年				
	歴史の読み方I (読替科目：歴史の読み方I) 八百 啓介	1学期	1	2	128
1年					
歴史の読み方II (読替科目：歴史の読み方II) 小林 道彦	1学期	1	2	129	
1年					
そのとき世界は (読替科目：そのとき世界は) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	130	
1年					
戦後の日本経済 (読替科目：戦後の日本経済) 土井 徹平	2学期	1	2	131	
1年					
都市と農村の生活文化史 閉講		1	2		
1年					
ものと人間の歴史 (読替科目：ものと人間の歴史) 中野 博文 他	1学期	1	2	132	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人物と時代の歴史 (読替科目：人物と時代の歴史) 山崎 勇治 他	1学期	1	2	133
		1年			
	教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) (読替科目：教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』)) 読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月 正、永末 康介	2学期	1	2	174
		1年			
	教養特講II (現代社会とエシカル消費) (読替科目：教養特講II (現代社会とエシカル消費)) 大平 剛	1学期	1	2	175
		1年			
	教養特講III (まなびとESD講座I) (読替科目：教養特講III (まなびとESD講座I)) 真鍋 和博	1学期	1	2	176
	1年				
教養特講IV (まなびとESD講座II) (読替科目：教養特講IV (まなびとESD講座II)) 真鍋 和博	2学期	1	2	177	
	1年				
教養特講IV (現代の日本の食と若者を考える) (読替科目：教養特講IV (現代の日本の食と若者を考える)) 三宅 博之	集中	1	2	178	
	1年				
■教職関連科目	日本史 (読替科目：日本史) 古賀 康士	2学期	1	2	134
		1年			
	西洋史 (読替科目：西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	136
		1年			
	東洋史 (読替科目：東洋史) 植松 慎悟	2学期	1	2	135
		1年			
	社会学 (読替科目：社会学的思考) 稲月 正	1学期	1	2	111
		1年			
	人文地理学 (読替科目：人文地理学) 外戸保 大介	2学期	1	2	137
		1年			
土地地理学 (読替科目：土地地理学) 野井 英明	1学期	1	2	138	
	1年				
地誌学 (読替科目：地誌学) 外戸保 大介	1学期	1	2	139	
	1年				
日本国憲法 (読替科目：日本国憲法) 中村 英樹	2学期	1	2	140	
	1年				
倫理学 清水 満	2学期	1	2	2	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング (読替科目: 情報社会への招待) 中尾 泰士	2学期	1	2	36
	1年				
	データ処理 (読替科目: データ処理) 宮浦 崇	1学期	1	2	179
	済1-1.再履				
	データ処理 (読替科目: データ処理) 浅羽 修丈	1学期	1	2	180
	済1-2.再履				
	データ処理 (読替科目: データ処理) 宮浦 崇	1学期	1	2	181
	済1-3.再履				
	データ処理 (読替科目: データ処理) 中尾 泰士	2学期	1	2	182
	1学期未修得者再履				
情報表現 (読替科目: 情報表現) 浅羽 修丈	2学期	2	2	183	
2年					
情報表現 (読替科目: 情報表現) 棚次 奎介	2学期	2	2	184	
2年					
プログラミング基礎 閉講			2	2	
2年					
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (済1-D) (読替科目: 英語I (済1-D)) 安丸 雅子	1学期	1	1	185
	済1-D				
	英語I (済1-E) (読替科目: 英語I (済1-E)) 渡邊 晶子	1学期	1	1	186
	済1-E				
	英語II (済1-D) (読替科目: 英語II (済1-D)) 下條 かおり	2学期	1	1	187
	済1-D				
	英語II (済1-E) (読替科目: 英語II (済1-E)) 渡邊 晶子	2学期	1	1	188
	済1-E				
	英語III (済1-D) (読替科目: 英語III (済1-D)) ジェイムズ・ヒックス	1学期	1	1	189
	済1-D				
英語III (済1-E) (読替科目: 英語III (済1-E)) ホセ・クルーズ	1学期	1	1	190	
済1-E					
英語IV (済1-D) (読替科目: 英語IV (済1-D)) ホセ・クルーズ	2学期	1	1	191	
済1-D					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IV (済 1-E) (読替科目 : 英語IV (済 1-E)) 漆原 朗子	2学期	1	1	192
	済 1 - E				
	英語V (済 2-D) (読替科目 : 英語V (済 2-D)) 村田 希巴子	1学期	2	1	193
	済 2 - D				
	英語V (済 2-E) (読替科目 : 英語V (済 2-E)) 大塚 由美子	1学期	2	1	194
	済 2 - E				
	英語VI (済 2-D) (読替科目 : 英語VI (済 2-D)) 村田 希巴子	2学期	2	1	195
	済 2 - D				
	英語VI (済 2-E) (読替科目 : 英語VI (済 2-E)) 大塚 由美子	2学期	2	1	196
	済 2 - E				
	英語VII (済 2-D) (読替科目 : 英語VII (済 2-D)) ケネス・ギブソン	1学期	2	1	197
	済 2 - D				
	英語VII (済 2-E) (読替科目 : 英語VII (済 2-E)) 十時 康	1学期	2	1	198
	済 2 - E				
	英語VIII (済 2-D) (読替科目 : 英語VIII (済 2-D)) ケネス・ギブソン	2学期	2	1	199
	済 2 - D				
英語VIII (済 2-E) (読替科目 : 英語VIII (済 2-E)) マーニー・セイディ	2学期	2	1	200	
済 2 - E					
英語IX (済営律政 3年) (読替科目 : 英語IX (済営律政 3年)) 伊藤 晃	1学期	3	1	201	
済営律政 3年					
英語X (済営律政 3年) (読替科目 : 英語X (済営律政 3年)) 杉山 智子	2学期	3	1	202	
済営律政 3年					
英語XI (済営律政 3年) (読替科目 : 英語XI (済営律政 3年)) ダニー・ミン	1学期	3	1	203	
済営律政 3年					
英語XII (済営律政 3年) (読替科目 : 英語XII (済営律政 3年)) ダニー・ミン	2学期	3	1	204	
済営律政 3年					
■第二外国語	中国語I (読替科目 : 中国語I) 有働 彰子	1学期	1	1	205
	済営人律政群 1年				
	中国語II (読替科目 : 中国語II) 有働 彰子	2学期	1	1	206
済営人律政群 1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語Ⅲ (読替科目：中国語Ⅲ) ホウ ラメイ (彭腊梅)	1学期	1	1	207	
			済営人律政群 1年			
	中国語Ⅳ (読替科目：中国語Ⅳ) ホウ ラメイ (彭腊梅)	2学期	1	1	208	
			済営人律政群 1年			
	中国語Ⅴ (読替科目：中国語Ⅴ) 有働 彰子	1学期	2	1	209	
			英済営人律政群 2年			
	中国語Ⅵ (読替科目：中国語Ⅵ) 有働 彰子	2学期	2	1	210	
			英済営人律政群 2年			
	中国語Ⅶ (読替科目：中国語Ⅶ) 周 艶阳	1学期	2	1	211	
			英済営人律政群 2年			
	中国語Ⅷ (読替科目：中国語Ⅷ) 周 艶阳	2学期	2	1	212	
			英済営人律政群 2年			
	上級中国語Ⅰ (読替科目：上級中国語Ⅰ) 唐 雋	1学期	3	1	213	
			英国済営比人 3年			
	上級中国語Ⅱ (読替科目：上級中国語Ⅱ) 唐 雋	2学期	3	1	214	
			英国済営比人 3年			
	上級中国語Ⅲ (読替科目：上級中国語Ⅲ) 王 晨	1学期	3	1	215	
			英国済営比人 3年			
	上級中国語Ⅳ (読替科目：上級中国語Ⅳ) 王 晨	2学期	3	1	216	
		英国済営比人 3年				
朝鮮語Ⅰ (読替科目：朝鮮語Ⅰ) 金 貞淑	1学期	1	1	217		
		済営律政群 1年				
朝鮮語Ⅱ (読替科目：朝鮮語Ⅱ) 金 貞淑	2学期	1	1	218		
		済営律政群 1年				
朝鮮語Ⅲ (読替科目：朝鮮語Ⅲ) チャン ユンヒャン	1学期	1	1	219		
		済営律政群 1年				
朝鮮語Ⅳ (読替科目：朝鮮語Ⅳ) チャン ユンヒャン	2学期	1	1	220		
		済営律政群 1年				
朝鮮語Ⅴ (読替科目：朝鮮語Ⅴ) チャン ユンヒャン	1学期	2	1	221		
		済営人律政群 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語VI (読替科目: 朝鮮語VI) チャン ユンヒャン	2学期	2	1	222
		済営人律政群 2年			
	朝鮮語VII (読替科目: 朝鮮語VII) 金 貞淑	1学期	2	1	223
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VIII (読替科目: 朝鮮語VIII) 金 貞淑	2学期	2	1	224
		済営比人律政群 2年			
	上級朝鮮語I (読替科目: 上級朝鮮語I) 金 貞淑	1学期	3	1	225
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語II (読替科目: 上級朝鮮語II) 金 貞淑	2学期	3	1	226
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語III (読替科目: 上級朝鮮語III) 金 貞愛	1学期	3	1	227
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語IV (読替科目: 上級朝鮮語IV) 金 貞愛	2学期	3	1	228
		英中国済営比人 3年			
	ロシア語I (読替科目: ロシア語I) 芳之内 雄二	1学期	1	1	229
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語II (読替科目: ロシア語II) 芳之内 雄二	2学期	1	1	230
		英中国済営比人律政 1年			
ロシア語III (読替科目: ロシア語III) ナタリア・シエスタコーフ	1学期	1	1	231	
	英中国済営比人律政 1年				
ロシア語IV (読替科目: ロシア語IV) ナタリア・シエスタコーフ	2学期	1	1	232	
	英中国済営比人律政 1年				
ロシア語V (読替科目: ロシア語V) 芳之内 雄二	1学期	2	1	233	
	英中国済営比人律政 2年				
ロシア語VI (読替科目: ロシア語VI) 芳之内 雄二	2学期	2	1	234	
	英中国済営比人律政 2年				
ロシア語VII (読替科目: ロシア語VII) ナタリア・シエスタコーフ	1学期	2	1	235	
	英中国済営比人律政 2年				
ロシア語VIII (読替科目: ロシア語VIII) ナタリア・シエスタコーフ	2学期	2	1	236	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語I (読替科目：ドイツ語I) 古賀 正之	1学期	1	1	237
		済営人律政 1年			
	ドイツ語II (読替科目：ドイツ語II) 古賀 正之	2学期	1	1	238
		済営人律政 1年			
	ドイツ語III (読替科目：ドイツ語III) 山下 哲雄	1学期	1	1	239
		済営人律政 1年			
	ドイツ語IV (読替科目：ドイツ語IV) 山下 哲雄	2学期	1	1	240
		済営人律政 1年			
	ドイツ語V (読替科目：ドイツ語V) 山下 哲雄	1学期	2	1	241
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VI (読替科目：ドイツ語VI) 山下 哲雄	2学期	2	1	242
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VII (読替科目：ドイツ語VII) 山下 哲雄	1学期	2	1	243
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII (読替科目：ドイツ語VIII) 山下 哲雄	2学期	2	1	244
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I (読替科目：フランス語I) 山下 広一	1学期	1	1	245
		済営人律政 1年			
	フランス語II (読替科目：フランス語II) 山下 広一	2学期	1	1	246
		済営人律政 1年			
フランス語III (読替科目：フランス語III) 中川 裕二	1学期	1	1	247	
	済営人律政 1年				
フランス語IV (読替科目：フランス語IV) 中川 裕二	2学期	1	1	248	
	済営人律政 1年				
フランス語V (読替科目：フランス語V) 坂田 由紀	1学期	2	1	249	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VI (読替科目：フランス語VI) 坂田 由紀	2学期	2	1	250	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VII (読替科目：フランス語VII) 小野 菜都美	1学期	2	1	251	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語VIII (読替科目: フランス語VIII) 小野 菜都美	2学期	2	1	252
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語I (読替科目: スペイン語I) 岡住 正秀	1学期	1	1	253
		中国済営人律政1年			
	スペイン語II (読替科目: スペイン語II) 岡住 正秀	2学期	1	1	254
		中国済営人律政1年			
	スペイン語III (読替科目: スペイン語III) 辻 博子	1学期	1	1	255
		中国済営人律政1年			
	スペイン語IV (読替科目: スペイン語IV) 辻 博子	2学期	1	1	256
		中国済営人律政1年			
スペイン語V (読替科目: スペイン語V) 青木 文夫	1学期	2	1	257	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VI (読替科目: スペイン語VI) 青木 文夫	2学期	2	1	258	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VII (読替科目: スペイン語VII) 辻 博子	1学期	2	1	259	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VIII (読替科目: スペイン語VIII) 辻 博子	2学期	2	1	260	
	英中国済営比人律政2年				
■専門教育科目 ■専門基本科目	入門演習 (読替科目: 入門演習) 田中 淳平	1学期	1	2	262
		1年			
	入門演習 (読替科目: 入門演習) 林田 実	1学期	1	2	263
		1年			
	入門演習 (読替科目: 入門演習) 前田 淳	1学期	1	2	264
		1年			
	入門演習 (読替科目: 入門演習) 田村 大樹	1学期	1	2	265
	1年				
入門演習 (読替科目: 入門演習) 魏 芳	1学期	1	2	266	
	1年				
入門演習 (読替科目: 入門演習) 後藤 尚久	1学期	1	2	267	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■専門基本科目	入門演習 (読替科目: 入門演習) 藤井 敦	1学期	1	2	268
		1年			
	入門演習 (読替科目: 入門演習) 牛房 義明	1学期	1	2	269
		1年			
	基礎演習 (読替科目: 基礎演習) 後藤 宇生	1学期	2	2	270
		2年			
	基礎演習 (読替科目: 基礎演習) 畔津 憲司	1学期	2	2	271
		2年			
	基礎演習 (読替科目: 基礎演習) 前田 淳	1学期	2	2	272
		2年			
	基礎演習 (読替科目: 基礎演習) 牛房 義明	1学期	2	2	273
		2年			
	基礎演習 (読替科目: 基礎演習) 魏 芳	1学期	2	2	274
		2年			
	基礎演習 (読替科目: 基礎演習) 後藤 尚久	1学期	2	2	275
		2年			
	基礎演習 (読替科目: 基礎演習) 前林 紀孝	1学期	2	2	276
		2年			
基礎演習 (読替科目: 基礎演習) 土井 徹平	1学期	2	2	277	
	2年				
基礎演習 (読替科目: 基礎演習) 柳井 雅人	1学期	2	2	278	
	2年				
演習I (読替科目: 専門演習I) 牛房 義明	1学期	3	2	279	
	3年				
演習I (読替科目: 専門演習I) 城戸 宏史	1学期	3	2	280	
	3年				
演習I (読替科目: 専門演習I) 武田 寛	1学期	3	2	281	
	3年				
演習I (読替科目: 専門演習I) 後藤 宇生	1学期	3	2	282	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	283
	後藤 尚久	3年			
	演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	284
	朱 乙文	3年			
	演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	285
	田中 淳平	3年			
	演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	286
	田村 大樹	3年			
	演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	287
	林田 実	3年			
	演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	288
	藤井 敦	3年			
	演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	289
	前田 淳	3年			
	演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	290
	松永 裕己	3年			
	演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	291
	魏 芳	3年			
演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	292	
土井 徹平	3年				
演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	293	
前林 紀孝	3年				
演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	294	
柳井 雅人	3年				
演習I (読替科目: 専門演習I)	1学期	3	2	295	
畔津 憲司	3年				
演習II (読替科目: 専門演習II)	2学期	3	2	296	
牛房 義明	3年				
演習II (読替科目: 専門演習II)	2学期	3	2	297	
城戸 宏史	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習II (読替科目: 専門演習II) 武田 寛	2学期	3	2	298
		3年			
	演習II (読替科目: 専門演習II) 後藤 宇生	2学期	3	2	299
		3年			
	演習II (読替科目: 専門演習II) 後藤 尚久	2学期	3	2	300
		3年			
	演習II (読替科目: 専門演習II) 朱 乙文	2学期	3	2	301
		3年			
	演習II (読替科目: 専門演習II) 田中 淳平	2学期	3	2	302
		3年			
	演習II (読替科目: 専門演習II) 田村 大樹	2学期	3	2	303
		3年			
	演習II (読替科目: 専門演習II) 林田 実	2学期	3	2	304
		3年			
	演習II (読替科目: 専門演習II) 藤井 敦	2学期	3	2	305
		3年			
演習II (読替科目: 専門演習II) 前田 淳	2学期	3	2	306	
	3年				
演習II (読替科目: 専門演習II) 松永 裕己	2学期	3	2	307	
	3年				
演習II (読替科目: 専門演習II) 魏 芳	2学期	3	2	308	
	3年				
演習II (読替科目: 専門演習II) 土井 徹平	2学期	3	2	309	
	3年				
演習II (読替科目: 専門演習II) 前林 紀孝	2学期	3	2	310	
	3年				
演習II (読替科目: 専門演習II) 柳井 雅人	2学期	3	2	311	
	3年				
演習II (読替科目: 専門演習II) 畔津 憲司	2学期	3	2	312	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習III (読替科目:卒業研究A) 牛房 義明	1学期	4	2	313
		4年			
	演習III (読替科目:卒業研究A) 後藤 宇生	1学期	4	2	314
		4年			
	演習III (読替科目:卒業研究A) 後藤 尚久	1学期	4	2	315
		4年			
	演習III (読替科目:卒業研究A) 朱 乙文	1学期	4	2	316
		4年			
	演習III (読替科目:卒業研究A) 田中 淳平	1学期	4	2	317
		4年			
	演習III (読替科目:卒業研究A) 田村 大樹	1学期	4	2	318
		4年			
	演習III (読替科目:卒業研究A) 林田 実	1学期	4	2	319
		4年			
	演習III (読替科目:卒業研究A) 藤井 敦	1学期	4	2	320
		4年			
	演習III (読替科目:卒業研究A) 前田 淳	1学期	4	2	321
	4年				
演習III (読替科目:卒業研究A) 松永 裕己	1学期	4	2	322	
	4年				
演習III (読替科目:卒業研究A) 魏 芳	1学期	4	2	323	
	4年				
演習III (読替科目:卒業研究A) 土井 徹平	1学期	4	2	324	
	4年				
演習III (読替科目:卒業研究A) 前林 紀孝	1学期	4	2	325	
	4年				
演習III (読替科目:卒業研究A) 柳井 雅人	1学期	4	2	326	
	4年				
演習III (読替科目:卒業研究A) 畔津 憲司	1学期	4	2	327	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習III (読替科目:卒業研究A) 城戸 宏史	1学期	4	2	328
		4年			
	演習IV (読替科目:卒業研究B) 牛房 義明	2学期	4	2	329
		4年			
	演習IV (読替科目:卒業研究B) 後藤 宇生	2学期	4	2	330
		4年			
	演習IV (読替科目:卒業研究B) 後藤 尚久	2学期	4	2	331
		4年			
	演習IV (読替科目:卒業研究B) 朱 乙文	2学期	4	2	332
		4年			
	演習IV (読替科目:卒業研究B) 田中 淳平	2学期	4	2	333
		4年			
	演習IV (読替科目:卒業研究B) 田村 大樹	2学期	4	2	334
		4年			
	演習IV (読替科目:卒業研究B) 林田 実	2学期	4	2	335
		4年			
	演習IV (読替科目:卒業研究B) 藤井 敦	2学期	4	2	336
	4年				
演習IV (読替科目:卒業研究B) 前田 淳	2学期	4	2	337	
	4年				
演習IV (読替科目:卒業研究B) 松永 裕己	2学期	4	2	338	
	4年				
演習IV (読替科目:卒業研究B) 魏 芳	2学期	4	2	339	
	4年				
演習IV (読替科目:卒業研究B) 土井 徹平	2学期	4	2	340	
	4年				
演習IV (読替科目:卒業研究B) 前林 紀孝	2学期	4	2	341	
	4年				
演習IV (読替科目:卒業研究B) 柳井 雅人	2学期	4	2	342	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習Ⅳ (読替科目:卒業研究B) 畔津 憲司	2学期	4	2	343
		4年			
	演習Ⅳ (読替科目:卒業研究B) 城戸 宏史	2学期	4	2	344
		4年			
	ミクロ経済学Ⅰ 休講	2学期	1	2	
		1年			
	マクロ経済学Ⅰ 休講	2学期	1	2	
		1年			
	ミクロ経済学Ⅱ 休講	1学期	2	2	
		2年			
	マクロ経済学Ⅱ 休講	1学期	2	2	
		2年			
	経済学入門A (読替科目:経済学入門A) 藤井 敦	1学期	1	2	345
		1年Aグループ			
	経済学入門A (読替科目:経済学入門A) 後藤 宇生	1学期	1	2	346
		1年Bグループ			
	経済学入門B (読替科目:経済学入門B) 畔津 憲司	1学期	1	2	347
		1年Aグループ			
	経済学入門B (読替科目:経済学入門B) 前林 紀孝	1学期	1	2	348
		1年Bグループ			
数学 (読替科目:数学) 熊谷 啓希	1学期	1	2	261	
	済1年				
簿記論Ⅰ (読替科目:簿記論Ⅰ) 河瀬 宏則	1学期	1	2	349	
	1年				
簿記論Ⅱ (読替科目:簿記論Ⅱ) 河瀬 宏則	2学期	1	2	350	
	1年				
現代日本経済入門A (読替科目:現代日本経済入門A) 柳井 雅人	1学期	1	2	351	
	1年				
現代日本経済入門B (読替科目:現代日本経済入門B) 前田 淳	2学期	1	2	352	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■専門基本科目	計量経済学I (読替科目:実証経済分析) 藤井 敦	1学期	2	2	353
		2年			
	計量経済学II (読替科目:計量経済学) 藤井 敦	2学期	2	2	354
		2年			
	日本経済史I (読替科目:日本経済史I) 土井 徹平	1学期	2	2	356
		2年			
	日本経済史II (読替科目:日本経済史II) 土井 徹平	2学期	2	2	357
		2年			
	プログラミング (読替科目:プログラミング) 中山 仁	2学期	2	2	355
		2年			
	経済学史I (読替科目:経済学史) 村田 和博	1学期	3	2	360
		3年			
	経済学史II 休講	2学期	3	2	
		3年			
	業界研究I (読替科目:業界研究I) 山下 剛	1学期	3	2	361
		3年			
	業界研究II (読替科目:業界研究II) 山下 剛	集中	3	2	362
		3年			
	ビジネス英語A (選抜クラス) (読替科目:ビジネス英語A(選抜クラス)) アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	364
		3年選抜クラス			
ビジネス英語A (読替科目:ビジネス英語A) アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	365	
	3年				
ビジネス英語A (読替科目:ビジネス英語A) 林 裕二	1学期	3	2	366	
	3年				
ビジネス英語B (選抜クラス) (読替科目:ビジネス英語B(選抜クラス)) アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	367	
	3年選抜クラス				
ビジネス英語B (読替科目:ビジネス英語B) アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	368	
	3年				
ビジネス英語B (読替科目:ビジネス英語B) 林 裕二	2学期	3	2	369	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	外書講読 (読替科目：外書講読) 山崎 好裕	2学期	3	2	363
		3年			
	国際比較経済史I (読替科目：西洋経済史) 山崎 勇治	1学期	3	2	358
		3年			
	国際比較経済史II (読替科目：アジア経済史) 山崎 勇治	2学期	3	2	359
		3年			
■選択科目A ■現代経済学系	金融論I (読替科目：金融論I) 後藤 尚久	1学期	2	2	370
		2年			
	金融論II (読替科目：金融論II) 後藤 尚久	2学期	2	2	371
		2年			
	産業組織論I (読替科目：産業組織論I) 川崎 晃央	1学期	2	2	377
		2年			
	産業組織論II (読替科目：産業組織論II) 川崎 晃央	2学期	2	2	378
		2年			
	国際経済論I (読替科目：国際経済論I) 末永 勝昭	1学期	2	2	372
		2年			
	国際経済論II (読替科目：国際経済論II) 末永 勝昭	2学期	2	2	373
		2年			
	財政学I 休講	1学期	3	2	
		3年			
	財政学II 休講	2学期	3	2	
	3年				
ファイナンス論 (読替科目：ファイナンス論) 武田 寛	2学期	3	2	375	
	3年				
公共経済学 (読替科目：公共経済学) 牛房 義明	1学期	3	2	374	
	3年				
環境経済学 (読替科目：環境経済学) 牛房 義明	2学期	3	2	376	
	3年				
国際貿易論I (読替科目：国際貿易論I) 水戸 康夫	1学期	3	2	379	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	国際貿易論II (読替科目: 国際貿易論II) 水戸 康夫	2学期	3	2	380
		3年			
	国際金融論I (読替科目: 国際金融論I) 前田 淳	1学期	3	2	381
		3年			
	国際金融論II (読替科目: 国際金融論II) 前田 淳	2学期	3	2	382
		3年			
	国際マクロ経済学I (読替科目: 国際マクロ経済学I) 末永 勝昭	1学期	3	2	383
		3年			
	国際マクロ経済学II (読替科目: 国際マクロ経済学II) 末永 勝昭	2学期	3	2	384
		3年			
■地域経済学系	経済地理学I (読替科目: 経済地理学I) 近江 貴治	1学期	2	2	385
		2年			
	経済地理学II (読替科目: 経済地理学II) 近江 貴治	2学期	2	2	386
		2年			
	地域経済I (読替科目: 地域経済I) 佐藤 裕哉	1学期	2	2	387
		2年			
	地域経済II (読替科目: 地域経済II) 田村 大樹	2学期	2	2	388
		2年			
	北九州経済分析I (読替科目: 北九州経済分析I) 城戸 宏史	1学期	2	2	390
		2年			
	北九州経済分析II (読替科目: 北九州経済分析II) 城戸 宏史	2学期	2	2	391
		2年			
	地域政策 (読替科目: 地域政策) 松永 裕己	2学期	2	2	389
	2年				
中国経済 (読替科目: 中国経済) 園 康寿	1学期	3	2	393	
	3年				
地域金融分析 閑講	2学期	3	2		
	3年				
都市財政I (読替科目: 地方財政論) 難波 利光	1学期	3	2	392	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目A ■地域経済学系	都市財政II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	東アジア経済論 (読替科目: 東アジア経済論)	1学期	3	2	395
	尹 明憲	3年			
アメリカ経済 (読替科目: アメリカ経済)	2学期	3	2	394	
山崎 好裕	3年				
■選択科目B	経営学入門 (読替科目: 経営学入門)	1学期	1	2	396
	福井 直人	1年Aグループ			
	経営学入門 (読替科目: 経営学入門)	1学期	1	2	397
	福井 直人	1年Bグループ			
	民法総則 (読替科目: 民法総則)	1学期(ペア)	1	4	430
	清水 裕一郎	1年			
	法学総論 (読替科目: 法学総論)	1学期	1	2	422
	梁田 史郎	1年			
	コンピュータシステム (読替科目: コンピュータシステム)	1学期	1	2	409
	武藤 直彦	1年			
	企業論基礎 (読替科目: 企業論基礎)	2学期	1	2	398
	松本 守	1年Aグループ			
	企業論基礎 (読替科目: 企業論基礎)	2学期	1	2	399
	久多里 桐子	1年Bグループ			
	マネジメント論基礎 (読替科目: マネジメント論基礎)	2学期	1	2	400
浦野 恭平	1年Aグループ				
マネジメント論基礎 (読替科目: マネジメント論基礎)	2学期	1	2	401	
浦野 恭平	1年Bグループ				
福祉国家論 (読替科目: 福祉国家論)	2学期	1	2	436	
狭間 直樹	1年				
都市経済論 (読替科目: 都市経済論)	2学期	1	2	437	
田代 洋久	1年				
データ構造 (読替科目: データ構造)	2学期	2	2	411	
隈本 覚	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	データベース (読替科目：データベース) 池田 欽一	2学期	2	2	412
		2年			
	マーケティングI (読替科目：マーケティングI) 別府 俊行	1学期	2	2	404
		2年			
	マーケティングII (読替科目：マーケティングII) 別府 俊行	2学期	2	2	405
		2年			
	原価計算論I (読替科目：原価計算論I) 梅澤 俊浩	1学期	2	2	416
		2年			
	原価計算論II (読替科目：原価計算論II) 梅澤 俊浩	2学期	2	2	417
		2年			
	財務会計論I (読替科目：財務会計論I) 西澤 健次	1学期	2	2	418
		2年			
	財務会計論II (読替科目：財務会計論II) 西澤 健次	2学期	2	2	419
		2年			
	簿記論III (読替科目：簿記論III) 白石 和孝	1学期	2	2	414
		2年			
	工業簿記 (読替科目：工業簿記) 大崎 美泉	集中	2	2	415
		2年			
	地方自治論 (読替科目：地方自治論) 壬生 裕子	集中	2	2	438
		2年			
社会福祉原論 小賀 久	2学期	2	2	3	
	2年				
国際協力論I 大平 剛	1学期	2	2	4	
	2年				
国際協力論II 大平 剛	2学期	2	2	5	
	2年				
公共政策論 (読替科目：公共政策論) 楢原 真二	1学期	2	2	439	
	2年				
雇用関係法 (読替科目：雇用関係法) 石田 信平	1学期	2	2	426	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	労使関係法 (読替科目: 労使関係法)	2学期	2	2	425
	石田 信平	2年			
	政治学 (読替科目: 政治学)	1学期	2	2	442
	秦 正樹	2年			
	途上国開発論 (読替科目: 途上国開発論)	1学期	2	2	443
	三宅 博之	2年			
	国際法I (読替科目: 国際法I)	1学期	2	2	434
	二宮 正人	2年			
	国際法II (読替科目: 国際法II)	2学期	2	2	435
	二宮 正人	2年			
	政治過程論 (読替科目: 政治過程論)	2学期	2	2	440
	秦 正樹	2年			
	企業活動と法 (読替科目: 企業活動と法)	1学期	2	2	431
	今泉 恵子	2年			
	自治体政策研究 (読替科目: 自治体政策研究)	2学期	2	2	441
	楢原 真二	2年			
	地方行政改革論	1学期	2	2	
	休講	2年			
	社会サービス法 (読替科目: 社会サービス法)	2学期	2	2	427
津田 小百合	2年				
経済学特殊講義A	1学期	3	2		
休講	3年				
経済学特殊講義B	2学期	3	2		
休講	3年				
企業ファイナンスI (読替科目: 企業ファイナンスI)	1学期	3	2	402	
松本 守	3年				
企業ファイナンスII (読替科目: 企業ファイナンスII)	2学期	3	2	403	
松本 守	3年				
証券市場論 (読替科目: 証券市場論)	1学期	3	2	406	
久多里 桐子	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	国際経営A	1学期	3	2	
	休講	3年			
	国際経営B (読替科目: 国際経営)	2学期	3	2	408
	王 効平	3年			
	オペレーションズ・リサーチ (読替科目: オペレーションズ・マネジメント)	1学期	3	2	410
	齋藤 朗宏	3年			
	情報ネットワーク (読替科目: 情報ネットワーク)	1学期	3	2	413
	隈本 覚	3年			
	経営学特殊講義A (読替科目: 経営学特殊講義A)	1学期	3	2	420
	工藤 一成	3年			
	経営学特殊講義B (読替科目: 経営学特殊講義B)	2学期	3	2	421
	松田 憲	3年			
	コーポレートガバナンス	2学期	3	2	
	休講	3年			
	地域企業分析	2学期	3	2	
	休講	3年			
	中小企業論 (読替科目: 中小企業論)	1学期	3	2	407
	別府 俊行	3年			
	地方自治法 (読替科目: 地方自治法)	1学期(ペア)	3	4	423
	岡本 博志	3年			
環境法 (読替科目: 環境法)	集中	3	2	428	
下村 英嗣	3年				
独占禁止法 (読替科目: 独占禁止法)	1学期	3	2	429	
諏佐 マリ	3年				
アジア地域統合論 (読替科目: 東南アジアの政治と外交)	2学期	3	2	446	
篠崎 香織	3年				
会社法I (読替科目: 会社法I)	1学期	3	2	432	
高橋 衛	3年				
会社法II (読替科目: 会社法II)	2学期	3	2	433	
高橋 衛	3年				

経済学部 経済学科 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	都市政策論 (読替科目：都市政策論) 田代 洋久	1学期	3	2	444
		3年			
	環境政策論 (読替科目：環境政策論) 申 東愛	2学期	3	2	445
		3年			
	情報公開・個人情報保護法 (読替科目：情報公開・個人情報保護法) 岡本 博志	2学期	3	2	424
		3年			
	Advanced Reading and Discussion 野島 啓一	2学期	3	2	6
	3年				
ビジネス英語研究 (読替科目：ビジネス英語研究) 松田 智	2学期	3	2	447	
	3年				
上級英語I (読替科目：Advanced English I) ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	448	
	3年				
上級英語II (読替科目：Advanced English II) アダム・ヘイルズ	2学期	3	2	449	
	3年				
■自由科目	職業指導A 閉講	1学期	2	2	
		2年			
	職業指導B 閉講	2学期	2	2	
		2年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 楠 凡之	1学期	1	2	7
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	8
		1年			
	教育制度 休講	1学期	3	2	
		3年			
	公民科教育法A 休講	1学期	2	2	
	2年				
公民科教育法B 休講	2学期	2	2		
	2年				
商業科教育法A 休講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	商業科教育法B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	特別活動の研究	2学期	2	2	9
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	1学期	2	2	10
	下地 貴樹	2年			
	教育工学	2学期	2	2	11
	大塚 一徳	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	12
	児玉 弥生 他	3年			
教育実習 2	1学期	4	2		
	4年				
教育相談	1学期	2	2	13	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	14	
楠 凡之	2年				
教職実践演習(中・高)	2学期	4	2		
休講	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	15
	山下 智也	2年			
	教育実習 3	1学期	4	2	
	恒吉 紀寿 他	4年			
	教育法規	2学期	3	2	
休講	3年				
教育社会学	集中	2	2	16	
作田 誠一郎	2年				
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	17
	河嶋 静代	2年			

経済学部 経済学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 (読替科目: 歴史と政治) 小林 道彦	2学期	1	2	450
		1年			
	人間と文化 (読替科目: 異文化理解の基礎) 神原 ゆうこ	1学期	1	2	451
		1年			
	ことばの科学 (読替科目: ことばの科学) 漆原 朗子	1学期	1	2	452
		1年			
国際学入門 (読替科目: 国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	453	
	1年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI (読替科目: メンタル・ヘルスI) 中島 俊介	1学期	1	2	468
		1年			
	メンタル・ヘルスII (読替科目: メンタル・ヘルスII) 中島 俊介	2学期	1	2	469
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目: フィジカル・ヘルスI) 山本 浩二	1学期	1	2	470
		1年			
フィジカル・ヘルスII 休講	2学期	1	2		
	1年				
社会調査 休講	2学期	1	2		
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 休講	1学期	1	1		
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	471	
	1年				
■テーマ科目	地球の生いたち 休講	2学期	1	2	
		1年			
	現代人のこころ (読替科目: 現代人のこころ) 森永 今日子	1学期	1	2	456
		1年			
思想と現代 休講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	文学を読む (読替科目：文学を読む) 生住 昌大 他	2学期	1	2	457
		1年			
	現代正義論 (読替科目：現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	458
		1年			
	民主主義とは何か 休講	1学期	1	2	
		1年			
	人権論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	ジェンダー論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	障がい学 (読替科目：障がい学) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	459
		1年			
	市民活動論 (読替科目：市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	460
		1年			
	企業と社会 休講	1学期	1	2	
		1年			
	現代社会と倫理 (読替科目：現代社会と倫理) 伊原木 大祐	1学期	1	2	461
		1年			
	現代の国際情勢 休講	1学期	1	2	
	1年				
国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	18	
	1年				
国際紛争と国連 (読替科目：国際紛争と国連) 二宮 正人	2学期	1	2	463	
	1年				
開発と統治 休講	2学期	1	2		
	1年				
グローバル化する経済 (読替科目：グローバル化する経済) 田中 淳平 他	1学期	1	2	462	
	1年				
国際社会と日本 (読替科目：国際社会と日本) 中野 博文 他	2学期	1	2	464	
	1年				

経済学部 経済学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方I (読替科目: 歴史の読み方I) 小林 道彦	1学期	1	2	465
	1年				
	歴史の読み方II (読替科目: 歴史の読み方II) 小林 道彦	1学期	1	2	466
	1年				
そのとき世界は 休講	2学期	1	2		
1年					
人物と時代の歴史 (読替科目: 人物と時代の歴史) 山崎 勇治 他	1学期	1	2	467	
1年					
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング (読替科目: 情報社会への招待) 中尾 泰士	2学期	1	2	455
	1年				
	データ処理 (読替科目: データ処理) 浅羽 修丈	2学期	1	2	472
	1学期未修得者再履				
情報表現 (読替科目: 情報表現) 浅羽 修丈	1学期	2	2	473	
2年					
情報表現 休講	2学期	2	2		
2年					
■専門教育科目 ■専門基本科目	入門演習 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	基礎演習 閉講	1学期	2	2	
	2年				
	演習I 閉講	1学期	3	2	
	3年				
	演習II 閉講	2学期	3	2	
	3年				
	演習III 閉講	1学期	4	2	
	4年				
演習IV 閉講	2学期	4	2		
4年					
統計学I (読替科目: 統計学I) 林田 実	2学期	1	2	474	
1年					

経済学部 経済学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基本科目	統計学II (読替科目: 統計学II) 林田 実	1学期	1	2	475
		1年			
	ミクロ経済学I (読替科目: ミクロ経済学I) 朱 乙文	2学期	1	2	476
		1年			
	マクロ経済学I (読替科目: マクロ経済学I) 田中 淳平	2学期	1	2	478
		1年			
	ミクロ経済学II (読替科目: ミクロ経済学II) 朱 乙文	1学期	2	2	477
		2年			
	マクロ経済学II (読替科目: マクロ経済学II) 田中 淳平	1学期	2	2	479
		2年			
	経済学入門A (読替科目: 経済学入門A) 牛房 義明	1学期	1	2	480
		1年			
	経済学入門B (読替科目: 経済学入門B) 後藤 尚久	1学期	1	2	481
		1年			
	数学 休講	1学期	1	2	
		1年			
	簿記論I (読替科目: 簿記論I) 森脇 敏雄	1学期	1	2	482
		1年			
	簿記論II (読替科目: 簿記論II) 森脇 敏雄	2学期	1	2	483
		1年			
現代日本経済入門A 昼のみ開講		1	2		
	1年				
現代日本経済入門B 昼のみ開講		1	2		
	1年				
計量経済学I 閉講	1学期	2	2		
	2年				
計量経済学II 閉講	2学期	2	2		
	2年				
日本経済史I 閉講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	日本経済史II	2学期	2	2	2年
	閉講				
	プログラミング	2学期	2	2	2年
	閉講				
	経済学史I	1学期	3	2	3年
	閉講				
	経済学史II	2学期	3	2	3年
	閉講				
	業界研究I		3	2	3年
	昼のみ開講				
	業界研究II		3	2	3年
	昼のみ開講				
	ビジネス英語A	1学期	3	2	3年
	休講				
ビジネス英語B	2学期	3	2	3年	
休講					
外書講読		3	2	3年	
閉講					
国際比較経済史I	1学期	3	2	3年	
閉講					
国際比較経済史II	2学期	3	2	3年	
閉講					
■選択科目A ■現代経済学系	金融論I	1学期	2	2	2年
	休講				
	金融論II	2学期	2	2	2年
	休講				
	産業組織論I	1学期	2	2	2年
	閉講				
	産業組織論II	2学期	2	2	2年
	閉講				

経済学部 経済学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	国際経済論I (読替科目：国際経済論I) 魏 芳	1学期	2	2	484
	2年				
	国際経済論II (読替科目：国際経済論II) 魏 芳	2学期	2	2	485
	2年				
	財政学I (読替科目：財政学I) 前林 紀孝	1学期	3	2	486
	3年				
	財政学II (読替科目：財政学II) 前林 紀孝	2学期	3	2	487
	3年				
	ファイナンス論 閉講	2学期	3	2	
	3年				
	公共経済学 閉講	1学期	3	2	
	3年				
	環境経済学 休講	2学期	3	2	
	3年				
	国際貿易論I 閉講	1学期	3	2	
	3年				
国際貿易論II 閉講	2学期	3	2		
3年					
国際金融論I 休講	1学期	3	2		
3年					
国際金融論II 休講	2学期	3	2		
3年					
国際マクロ経済学I 閉講	1学期	3	2		
3年					
国際マクロ経済学II 閉講	2学期	3	2		
3年					
■地域経済学系	経済地理学I 休講	1学期	2	2	
	2年				
	経済地理学II 休講	2学期	2	2	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目A ■地域経済学系	地域経済I	1学期	2	2		
	休講	2年				
	地域経済II	2学期	2	2		
	休講	2年				
	北九州経済分析I		2	2		
	休講	2年				
	北九州経済分析II		2	2		
	休講	2年				
	地域政策	2学期	2	2		
	休講	2年				
	中国経済	1学期	3	2		
	閉講	3年				
	地域金融分析	2学期	3	2		
	閉講	3年				
都市財政I		3	2			
昼のみ開講	3年					
都市財政II		3	2			
昼のみ開講	3年					
アメリカ経済	2学期	3	2			
閉講	3年					
■選択科目B	経営学入門	1学期	1	2		
	閉講	1年				
	法学総論		1	2		
	休講	1年				
	コンピュータシステム (読替科目: コンピュータシステム)	泉 英明	1学期	1	2	490
			1年			
	企業論基礎 (読替科目: 企業論基礎)	中間 信博	2学期	1	2	488
		1年				
マネジメント論基礎 (読替科目: マネジメント論基礎)	浦野 恭平	2学期	1	2	489	
		1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目B	データ構造	2学期	2	2		
	休講	2年				
	データベース (読替科目：データベース)	池田 欽一	2学期	2	2	491
			2年			
	マーケティングI			2	2	
	閉講	2年				
	マーケティングII			2	2	
	昼のみ開講	2年				
	原価計算論I			2	2	
	閉講	2年				
	原価計算論II			2	2	
	昼のみ開講	2年				
	財務会計論I (読替科目：財務会計論I)	西澤 健次	1学期	2	2	493
			2年			
	財務会計論II			2	2	
	昼のみ開講	2年				
	簿記論III			2	2	
	昼のみ開講	2年				
	工業簿記			2	2	
	昼のみ開講	2年				
地方自治論			2	2		
休講	2年					
社会福祉原論	坂本 毅啓	2学期	2	2	19	
		2年				
公共政策論 (読替科目：公共政策論)	橋原 真二	1学期	2	2	494	
		2年				
国際法I			2	2		
休講	2年					
国際法II			2	2		
休講	2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
		備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	経済学特殊講義A		3	2		
	昼のみ開講	3年				
	経済学特殊講義B		3	2		
	昼のみ開講	3年				
	企業ファイナンスI	1学期	3	2		
	休講	3年				
	企業ファイナンスII	2学期	3	2		
	休講	3年				
	証券市場論	1学期	3	2		
	休講	3年				
	国際経営A	1学期	3	2		
	閉講	3年				
	国際経営B	2学期	3	2		
	休講	3年				
	オペレーションズ・リサーチ		3	2		
	昼のみ開講	3年				
	情報ネットワーク (読替科目：情報ネットワーク)	劉 怡	1学期	3	2	492
			3年			
	経営学特殊講義A			3	2	
	昼のみ開講	3年				
経営学特殊講義B			3	2		
昼のみ開講	3年					
コーポレートガバナンス		2学期	3	2		
休講	3年					
地域企業分析			3	2		
昼のみ開講	3年					
中小企業論		1学期	3	2		
休講	3年					
会社法I			3	2		
休講	3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	会社法II		3	2	
	休講	3年			
■自由科目	職業指導A	1学期	2	2	
	閉講	2年			
	職業指導B	2学期	2	2	
	閉講	2年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	20
	楠 凡之	1年			
	教育原理	2学期	1	2	21
	見玉 弥生	1年			
	教育制度	1学期	3	2	
	休講	3年			
	公民科教育法A	1学期	2	2	22
	下地 貴樹	2年			
	公民科教育法B	2学期	2	2	23
	吉村 義則	2年			
	商業科教育法A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	商業科教育法B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	特別活動の研究	2学期	2	2	24
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	1学期	2	2	25
	下地 貴樹	2年			
	教育工学	2学期	2	2	
	休講	2年			
教育実習1	2学期	3	2	26	
見玉 弥生 他	3年				
教育実習2	1学期	4	2	27	
恒吉 紀寿 他	4年				

経済学部 経済学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育相談	1学期	2	2	28
	楠 凡之	2年			
	生徒・進路指導論	2学期	2	2	29
	楠 凡之	2年			
	教職実践演習(中・高)	2学期	4	2	
	楠 凡之 他	4年			
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育実習3	1学期	4	2	30
	恒吉 紀寿 他	4年			
	教育法規	2学期	3	2	
	休講	3年			
	教育社会学	1学期	2	2	
	休講	2年			

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それにもなつて、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となつてきている。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1) 【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2) 【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1) 【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2) 【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3) 【社会問題発生メカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1) 【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2) 【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3) 【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成メカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
授業テーマと関連のある新聞記事や文献に(できるだけ)目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

倫理学 【昼】

担当者名 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクションおよび古代ギリシャの倫理(1) ソクラテス
- 第2回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想 【アイデアと国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第6回 近代の倫理思想(1) デカルトの倫理思想 【旅とコギト】
- 第7回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想 【オランダの自由】
- 第8回 近代の倫理思想(4) ルソーの倫理思想 【自然人と社会契約】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想 【理性の神話】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 現代の倫理思想(2) フーコーの倫理思想 【統治性と権力】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む)40パーセント
講義で紹介した原典と参考文献のどれかを読んで書く期末レポート60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で紹介した原典、参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問して下さい。

キーワード /Keywords

社会福祉原論 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉とは何か①【オリエンテーションと社会福祉への理解】
- 2回 社会福祉とは何か②【社会福祉の政策・支援・対象】
- 3回 児童福祉政策の主要な論点と課題①【児童虐待の現状と考え方】
- 4回 児童福祉政策の主要な論点と課題②【児童福祉法と児童虐待防止法】
- 5回 児童福祉政策の主要な論点と課題③【児童相談所の役割と機能】
- 6回 児童福祉政策の主要な論点と課題④【子ども・家族・社会のあり方と虐待防止のための課題】③【】
- 7回 障がい福祉政策の主要な論点と課題①【障がいのある人と近・現代社会】
- 8回 障がい福祉政策の主要な論点と課題②【障がいのある人と社会思想】
- 9回 障がい福祉政策の主要な論点と課題③【障害者総合支援法のしくみと課題】
- 10回 障がい福祉政策の主要な論点と課題④【障害者総合支援法のしくみと課題】
- 11回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題①【高齢者の福祉とは何か】
- 12回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題②【介護保険法の成立と課題】
- 13回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題③【介護保険制度のしくみと課題】
- 14回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題④【介護保険制度に位置づく専門職者の役割と課題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、興味関心のある事柄からでよいので問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な社会福祉政策のあり方と、国民の生活実態について理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

講義レジュメ・資料は Moodle を利用して配布するので、各自がプリントアウトし講義に持参すること。また配布する講義資料に、必要に応じて参考文献を提示するので積極的に講読すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

権利と義務、自立、生活問題

国際協力論I【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 下村恭民他『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。
- 下村恭民、辻一人、稲田十一、深川由紀子著『国際協力：その新しい潮流（第3版）』有斐閣、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助 【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序（NIEO）】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】【経済的コンディショナリティ】
- 第9回 冷戦の終結と援助パラダイムの変化【人間開発】【政治的コンディショナリティ】
- 第10回 グローバルな開発目標の設定【MDGs】【SDGs】
- 第11回 新興国の台頭と秩序の揺らぎ【南南協力】【BRICS】【北京コンセンサス】
- 第12回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第13回 日本のODAの仕組み、理念【開発協力大綱】、【自助努力】
- 第14回 開発協力の今日的課題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...40%（10%×4回） 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に第2次世界大戦後の世界史について復習しておくことが望ましい。事後学習としては、Moodle上にアップした課題を提出する際に学習内容を復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際協力機構（JICA）やOECD（経済協力開発機構）DAC（開発援助委員会）のウェブサイト参照すると、授業理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語厳禁。原則として途中入退室は認めません。

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習し専門的知識を身につけます。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- メアリー・B・アンダーソン『諸国の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。(絶版のため書店購入不可)
- リンダ・ポルマン『クライシス・キャラバン-紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。
- ヨハン・ガルトウング『構造的暴力と平和』、中央大学出版部、1991年。
- オリバー・ラムズボサム、トム・ウッドハウス、ヒュー・マイアル『現代世界の紛争解決学』明石書店、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 平和学の基礎
- 第2回 国家の破綻と崩壊 事例研究1 ルワンダ①【歴史的経緯】
- 第3回 ルワンダ② - 国連PKOの実状 - 【ビデオ】【ディスカッション】
- 第4回 国家の破綻と崩壊 事例研究2 ソマリア①【歴史的経緯経緯】
- 第5回 ソマリア② - 破綻国家の実状 - 【ビデオ】【ディスカッション】
- 第6回 国家の破綻と崩壊 事例研究3 アフガニスタン①【歴史的経緯】
- 第7回 アフガニスタン② - 介入と国家再建 -
- 第8回 アフガニスタン③ - NGOによる和解の可能性【ビデオ】【ディスカッション】
- 第9回 国連PKOの変容
- 第10回 紛争問題解決アプローチの展開【人道的介入】【保護する責任】
- 第11回 「平和構築」アプローチの是非
- 第12回 紛争後復興における開発の役割
- 第13回 Do No Harm原則①【平和へと向かう力、戦争に向かう力】
- 第14回 Do No Harm原則②【援助が持つ物質的影響、倫理的メッセージ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出...30% (10%×3回) 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にイントラ上の学習支援フォルダに掲載される資料に目を通しておくこと。事後学習としては、ビデオを観た後で課題に答えて提出して頂きます(3回、Moodleを活用する予定)。

履修上の注意 /Remarks

JICAのホームページから『課題別指針 平和構築』(2009年)をダウンロードして読んでおくと、講義の後半部分の理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。ビデオを観た回ではグループでディスカッションをしてもらいます。積極的に発言することを心がけてください。

キーワード /Keywords

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は英文を読みながら議論の構成についての分析力を習得して、当該の課題に対する自身の議論構成を組み立てることにある。そのために平素の授業では英文を読みながらどのようなタイプの議論構成がされているかを理解するための着眼点を帰納的に発見するトレーニングを一緒に行う。次の段階では、まず日本語で自分の意見を組み立てる練習を積み、次に英語を書くことによる議論構成の練習を経て言葉を使った議論の提示の仕方についてのノウハウを学ぶ。

教科書 /Textbooks

東大教養学部英語部会編 東大教養英語読本II 東大出版会 ¥1,900

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

足立隼宏 Raymond Sweet 『英語スピーチ』 大阪教育図書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 授業の目的・授業の進め方 単位算出の基準 担当者による授業内容の一部デモ
- 第二回 Session 1&2 The Fires of Vesuvius
- 第三回 Session 3&4 The Great Plains
- 第四回 Session 5&6 Adam's Novel
- 第五回 第二回から第四回の課題から指定したテーマによるレジメ提出およびその議論
- 第六回 Session 7&8 Turing Machine
- 第七回 Session 9&10 Dolittle's Delusion
- 第八回 Session 11&12 The Dynamics of Primate Societies
- 第九回 Session 13&14 The Naming of Names
- 第十回 第六回から第九回の課題から指定したテーマによるレジメ提出およびその議論
- 第十一回 Session 15&16 A Musician's Alphabet
- 第十二回 Session 17&18 Voice of the Century
- 第十三回 Session 19&20 From Food to Nutrients
- 第十四回 Session 21&22 Indian Takeover
- 第十五回 第十一回から第十五回の課題から指定したテーマによるレジメ提出およびその議論

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60% レジメ提出 10%×4回=40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された所を予習・復習すること

履修上の注意 /Remarks

授業毎に、教科内容に即して予習のポイントを概略するので、当該Sessionを学習後各自でポイントの理解度を確認してください。レジメは評価点とともにコメント内容にも注目して以降の議論構成の仕方に反映させるように努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語で表現された内容を正確に理解するには日本語を使って内容を理解する通常の訳読だけでなく英語の語についての精確な理解が必要になります。その意味で、日本語の語に対する観察力ならず英語の語を的確に捉える必要があります。そこで英英辞典を使って英文を読む事の重要性を自覚することが大事になってきます。授業中に英英辞典の読み方についての解説をしますので辞書を通して言葉の意味を考え内容を理解する姿勢を身に付けてください。

キーワード /Keywords

キーワード表現の発見。内容に依存した議論構築のパターン発見。

教師論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

1. 教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。
2. ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。
3. これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。
4. 参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業に必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教職の意義と教員の役割
3. 教員という仕事の魅力と困難さ (外部講師 中学校長)
4. 教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
5. 教員の仕事の理想と現実(外部講師 本学卒業生の中学校教員)
6. 教員に求められる資質 — 子どもとのコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
7. 教員の仕事 その1 教科指導と授業づくり(中学校教諭)
8. 教員の仕事 その2 教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
9. 教員の仕事 その3 8, 9回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事 その4 生活指導実践の主体としての教師 — 子どもの思いを聴きとる力を
11. 教員の仕事 その5 生活指導実践主体としての教師 - 子どもたちと一緒に「発達の花」となる生活を創造する
12. 「反省的实践家」(ドナルド・ショーン)としての教師 - その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために - 体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教師論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提に進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 感覚・身体と教育：五感・感覚教育
- 6回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 7回 教育思想②：日本の教育思想
- 8回 教育史①：西洋の教育史
- 9回 教育史②：日本の教育史
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動の研究【昼】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業を構成するための理論やICT教育の求められる背景を講義する。

また実践において子どもに寄り添う教育とは何か、どのように行うべきかを検討する。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 (有斐閣アルマ) 2012 田中 耕治 (著), 鶴田 清司 (著), 橋本 美保 (著), 藤村 宣之 (著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション

第2回：教育と学習・理論と方法・実践

第3回：授業の歴史 (欧米)

第4回：授業の歴史 (日本)

第5回：学習の理論・協同的な学び

第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会

第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材

第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価

第9回：情報機器・メディア活用の授業

第10回：「学力」について考える

第11回：授業の研究1・学習指導案

第12回：授業の研究2・授業記録を読む

第13回：教師の専門性・専門職性

第14回：教材研究・教材開発

第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (グループワークや質疑などへの参加)・・・30%

発表・レジュメ作成・・・20%

最終試験・課題レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料 (レジュメ) を作成してもらう。

また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。

一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示 東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。
 事後学習としては、課題の作成が必要である。

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学校で求められる人権教育について
- 6回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
- 7回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 8回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 9回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
- 11回 模擬授業②(特別活動 その1 何らかの場面指導)
- 12回 模擬授業③(特別活動 その2 学級活動)
- 13回 模擬授業④(各教科 その1)
- 14回 模擬授業⑤(各教科 その2)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【昼】

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 文科省編 「生徒指導提要」
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 課題レポートの説明
- 2回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
- 3回 子どもの発達課題と教育相談
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 発達障害の問題
- 10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 11回 保護者理解と教育相談
- 12回 教育相談における関係諸機関との連携
- 13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
- 課題として出されたレポートについては必ず提出すること
- 学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの"view"の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の"view"を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、 子どもの発達課題と教育相談、 関係諸機関との連携

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育心理学【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時、情報を提供する。

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意義受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。
事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求められることがある。
（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「1類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
 P.ブルデュー・J.-C,パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
 P.ウイリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
 E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
 広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター
 酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 第2回：教育社会学の対象と方法
 第3回：子どもの社会化と家族・学校
 第4回：学校という組織
 第5回：学校社会と生徒文化
 第6回：学校社会と教師文化
 第7回：文化的再生産論にみる学校社会
 第8回：少年非行と逸脱理論(1) -アノミー論と文化的接触理論
 第9回：少年非行と逸脱理論(2) -コンフリクト理論とラベリング論
 第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
 第11回：いじめ現象の構造とその特徴
 第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
 第13回：グローバリゼーションと教育
 第14回：情報化社会と教育
 第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習に関しては、教育に関わる新聞記事や参考図書等の文献に目を通して置くこと。復習においては、授業内容についてもう一度まとめてその内容の習得に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会化 近代教育制度 学校文化 文化的再生産 教育改革

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 石嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位 / 1学期 /Semester
授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他人の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。③人権教育の指導計画などプログラムの作成や発表、ロールプレイなど参加型の学習を取り入れる。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

稲積謙次郎「同和問題の今、そして未来に向けて」公益財団法人人権教育啓発推進センター
人権教育教材集「新版いのち」北九州市教育委員会
「人権教育ハンドブック」北九州市教育委員会
「教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック」北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重
- 第2回 学校や社会で何が起きているか - 「体罰」「いじめ」「児童虐待」「SNS・インターネット」などの人権侵害
- 第3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 第4回 人権教育の枠組み - 教科を通じた人権教育、学級運営、生徒指導など
- 第5回 人権教育をどのように進めていけばよいのか - 実践例
- 第6回 どうすれば人権感覚・人権意識を養い行動できるか
- 第7回 子どもが自分を守るための技能を養う - アサーティブ・トレーニング
- 第8回 部落差別と人権 「部落差別の解消の推進に関する法律」
- 第9回 子どもの人権 「子どもの権利条約」
- 第10回 障がい児・者の人権 「障害者差別解消法」
- 第11回 「性の多様性」と人権
- 第12回 その他の人権課題 - 女性、高齢者、外国人、ホームレス問題など
- 第13回 「私の人権教育のプログラム」発表
- 第14回 「私の人権教育のプログラム」発表
- 第15回 「私の人権教育のプログラム」発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度、課題、テストなど、総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(60%)、授業への参加度(10%)、課題(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示をされた文献や資料について読んでおくこと。
「私の人権教育のプログラム」発表のためにパワーポイントを作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それにともなって、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきている。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1)【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2)【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1)【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2)【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会問題発生メカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1)【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2)【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成メカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
授業テーマと関連のある新聞記事や文献に(できるだけ)目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

社会福祉原論 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

- ①福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。
- ②福祉政策と関連関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ③相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

児島亜紀子・伊藤文人・坂本毅啓 / 編集『現代社会と福祉』東山書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会福祉の動向編集委員会編『社会福祉の動向 2016』中央法規出版
- ※その他、講義時に随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の概要【現代社会と社会福祉政策】
- 2回 福祉政策と社会問題・現代的課題【社会問題】
- 3回 福祉政策における必要と資源【ニーズ、福祉政策】
- 4回 福祉政策の理念・主体・手法【理念、資源配分システム、政策決定過程・評価】
- 5回 福祉政策の関連領域①【人権擁護】
- 6回 福祉政策の関連領域②【保健医療】
- 7回 福祉政策の関連領域③【所得政策】
- 8回 福祉政策の関連領域④【雇用】
- 9回 福祉政策の関連領域⑤【教育、住宅、震災】
- 10回 社会福祉制度の体系【制度の構造、制度とサービス】
- 11回 福祉サービスの提供【利用、運営管理】
- 12回 福祉サービスと援助活動【相談援助の原則・視点・考え方と方法】
- 13回 福祉サービスと援助活動【地域福祉への展開】
- 14回 福祉政策の課題と展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題提出（20点）+ 期末テスト（80点）= 100点満点で採点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：テキストや講義時に紹介する参考書を読んでおくこと。
- 事後学習：講義時に配布する資料等を基に、学んだ内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

第1学期開講の「現代社会と福祉1」を受講していることを望みます。もし受講されていない場合は、あらかじめ『新・社会福祉士養成講座 現代社会の福祉』（中央法規）を自分で学んでおくようにしてください。
社会福祉士養成課程の指定科目としても開講されますので、社会福祉士を取得することを前提とした内容になります。ただし、社会福祉士を取得しない学生でも分かるように配慮をしますので、教養としても是非学んで欲しいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代社会における社会福祉の必要性について、政策を中心に学ばせていただきます。社会福祉分野だけではなく、法学、経済学といった社会科学への理解も求められます。講義の際には参考文献をご紹介しますので、積極的に学ぶことを期待します。

キーワード /Keywords

社会福祉士、現代社会、福祉政策

教師論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

1. 教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。
2. ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。
3. これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。
4. 参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業に必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教職の意義と教員の役割
3. 教員という仕事の魅力と困難さ (外部講師 中学校長)
4. 教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
5. 教員の仕事の理想と現実(外部講師 本学卒業生の中学校教員)
6. 教員に求められる資質 — 子どもとのコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
7. 教員の仕事 その1 教科指導と授業づくり(中学校教諭)
8. 教員の仕事 その2 教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
9. 教員の仕事 その3 8, 9回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事 その4 生活指導実践の主体としての教師 — 子どもの思いを聴きとる力を
11. 教員の仕事 その5 生活指導実践主体としての教師 - 子どもたちと一緒に「発達の花」となる生活を創造する
12. 「反省的实践家」(ドナルド・ショーン)としての教師 - その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために - 体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教師論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提に進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 感覚・身体と教育：五感・感覚教育
- 6回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 7回 教育思想②：日本の教育思想
- 8回 教育史①：西洋の教育史
- 9回 教育史②：日本の教育史
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。

公民科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説し、公民科の教育課程における位置づけと役割について理解を深める。

学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今後求められる当該教科の実践指導のあり方について学び、また必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 『高等学校学習指導要領解説「公民編」』文部科学省 平成22年版(平成26年1月一部改訂) 320円+税
- 他にも講義内で適宜配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科の理論と実践』学文社 2007 1900円+税
- 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
 - 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
 - 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 現代社会
 - 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
 - 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
 - 第7回：公民科の授業づくり 教材研究・開発
 - 第8回：公民科の授業づくり グループワークについて
 - 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第10回：公民科の授業づくり アクティブラーニングについて
 - 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
 - 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第14回：政治および宗教に関する事項の取扱い
 - 第15回：社会科教師に求められる資質・能力
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習 学習指導要領解説を読み込んでおく
- 事後学習 講義で扱った内容について振り返り、実践と理論について考察する

履修上の注意 /Remarks

- 課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
- 出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【夜】

担当者名 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
 (1) 学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
 (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
 (3) 現代社会・政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
 (4) 能動的・主体的な学びの育成に重点を置き、模擬授業を行う。
 上記の点から、実践的な技能及び授業改善の視点を習得し、最終的には「能動的・主体的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、解説を行う。
 なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

授業の際に配布するレジュメ・資料等
 「高等学校学習指導要領解説 公民編」(文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イン트로ダクション
- 第 2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3回 社会科学的的手法について
- 第 4回 シティズンシップと公民科教育
- 第 5回 教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 6回 学習指導案作成上の留意点
- 第 7回 学習指導案の作成
- 第 8回 模擬授業(参加型授業の展開)
- 第 9回 模擬授業(資料活用法、オリジナル教材の作成)
- 第 10回 模擬授業(現代社会の諸問題)
- 第 11回 模擬授業(政治・経済・法)
- 第 12回 模擬授業(現代の諸課題と倫理)
- 第 13回 模擬授業(受験指導に焦点を当てる)
- 第 14回 模擬授業(社会参加の授業理論)
- 第 15回 まとめ(主権者教育など)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎教材研究や指導案の準備については適宜打ち合わせ等を行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業後にコメント用紙(授業の感想や質問など)を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動の研究【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 (有斐閣アルマ) 2012 田中 耕治 (著), 鶴田 清司 (著), 橋本 美保 (著), 藤村 宣之 (著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育と学習・理論と方法・実践
- 第3回：授業の歴史（欧米）
- 第4回：授業の歴史（日本）
- 第5回：学習の理論・協同的な学び
- 第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
- 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
- 第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
- 第9回：情報機器・メディア活用の授業
- 第10回：「学力」について考える
- 第11回：授業の研究1・学習指導案
- 第12回：授業の研究2・授業記録を読む
- 第13回：教師の専門性・専門職性
- 第14回：教材研究・教材開発
- 第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は、実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
発表・レジュメ作成・・・ 20%
最終試験・課題レポート・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていただきたいと思います。

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学校で求められる人権教育について
- 6回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
- 7回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 8回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 9回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
- 11回 模擬授業②(特別活動 その1 何らかの場面指導)
- 12回 模擬授業③(特別活動 その2 学級活動)
- 13回 模擬授業④(各教科 その1)
- 14回 模擬授業⑤(各教科 その2)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1回 オリエンテーション | 【勤務】 【連絡】 |
| 2回 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】 【中学生への支援】 |
| 3回 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】 【高校生への支援】 |
| 4回 教育実習に向けての課題の整理 | 【教育に求められる資質と教育実習の課題】 |
| 5回 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 6回 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 7回 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 8回 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 9回 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 10回 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 11回 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 12回 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 13回 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 14回 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 15回 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、扱った内容を、教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 文科省編 「生徒指導提要」
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 課題レポートの説明
- 2回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
- 3回 子どもの発達課題と教育相談
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 発達障害の問題
- 10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 11回 保護者理解と教育相談
- 12回 教育相談における関係諸機関との連携
- 13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
- 課題として出されたレポートについては必ず提出すること
- 学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの"view"の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の"view"を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、 子どもの発達課題と教育相談、 関係諸機関との連携

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
2回 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
3回 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
4回 教育実習に向けての課題の整理	【教育に求められる資質と教育実習の課題】
5回 実習校実習②	【教育実習指導】
6回 実習校実習③	【教育実習指導】
7回 実習校実習④	【教育実習指導】
8回 実習校実習⑤	【教育実習指導】
9回 実習校実習⑥	【教育実習指導】
10回 実習校実習⑦	【教育実習指導】
11回 実習校実習⑧	【教育実習指導】
12回 実習校実習⑨	【教育実習指導】
13回 実習校実習⑩	【教育実習指導】
14回 実習校実習⑪	【教育実習指導】
15回 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習2と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習2と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習3のみ受講の場合は教育実習2で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習2の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

歴史と政治【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の課題図書などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と文化

第11回 宗教と家族・コミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、順序を入れ替えて補講を行う。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化」とビジョンII「現代社会と文化」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生み出す本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

ことばの科学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		生活世界の哲学	
		PHR110F	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」および「宗教」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代とは何か【概説】
- 3回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 4回 生活世界の概念【フッサールの科学批判】
- 5回 生活世界の変容（1）【近代産業社会】
- 6回 生活世界の変容（2）【戦争の美学】
- 7回 生活世界の変容（3）【政治の美学】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の分析【アーレントの近代批判】
- 10回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 11回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 12回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域（1）【寛容の概念】
- 14回 宗教の私事性と公的領域（2）【宗教の問い】
- 15回 宗教の私事性と公的領域（3）【衝突と共生】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

情報社会への招待【昼】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	
		INF100F	

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 到達目標 /Class クラス 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【対米宣戦】【「最終的解決」】
- 10回 第二次世界大戦と三国同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】
- 12回 太平洋戦争1【真珠湾攻撃】【ミッドウェイ海戦】【東条英機】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】【サイパン島陥落】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所を目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

可能性としての歴史【昼】

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身に付けることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）、授業中に指示した資料には目を通すこと。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれませんが（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の課題図書などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 本多俊和ほか編2007『人類の歴史・地球の現在』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体近代化

第13回 中間テストの解説

第14回 医療の普遍性と文化

第15回 癒しの多様性 / 講義全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストや課題40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト（またはレポート）の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」や「政治のなかの文化」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語と認知
			LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師) : 2016年度実績 東京大学教授 大堀 壽夫氏
- 第10回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第11回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第12回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第13回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第14回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第15回 まとめ : 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げながら、この問題に迫っていききたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
- 3回 身体の変容と限界 1【夢と現実のあいだ】
- 4回 身体の変容と限界 2【変身する身体】
- 5回 身体の変容と限界 3【排除される身体】
- 6回 身体・家族・社会 1【精神分析的アプローチ】
- 7回 身体・家族・社会 2【脳科学的アプローチ】
- 8回 身体・家族・社会 3【シュレーバー症例】
- 9回 身体の社会的統制 1【政治と規律】
- 10回 身体の社会的統制 2【統制される身体】
- 11回 身体の社会的統制 3【処罰される身体】
- 12回 身体の社会的統制 4【差別される身体】
- 13回 身体の社会的統制 5【補足】
- 14回 日本的身体の表象 1【哲学理論】
- 15回 日本的身体の表象 2【歴史的事例】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

共同体と身体 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

戦争論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養基礎演習Ⅰ	GES101F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論1
- 3回 読解と議論2
- 4回 読解と議論3
- 5回 読解と議論4
- 6回 読解と議論5
- 7回 読解と議論6
- 8回 読解と議論7
- 9回 読解と議論8
- 10回 読解と議論9
- 11回 読解と議論10
- 12回 読解と議論11
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。仮に2年生以上が本基礎演習に登録していたとしても、第1回の授業を欠席した場合には登録を抹消する。
人数調整に際しては、本演習に【友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。
 (1) 社会的なものの見方・考え方
 (2) 文献資料の調べ方
 (3) 質的調査の考え方とやり方
 (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は15人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書、2004
 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
 その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 創造的読書で思考力を鍛える - 『知的複眼思考法』(1)
- 第3回 考えるための作文技法 - 『知的複眼思考法』(2)
- 第4回 問いの立て方と展開の仕方 - 『知的複眼思考法』(3)
- 第5回 複眼思考を身につける - 『知的複眼思考法』(4)
- 第6回 自分の「問い」をたてる
- 第7回 情報を集める(1) - 図書館の利用
- 第8回 情報を集める(2) - Webサイトの利用
- 第9回 情報をまとめる(1) - ブレーンストーミング
- 第10回 情報をまとめる(2) - KJ法
- 第11回 自らの問いと方法を明確にする
- 第12回 質的調査の考え方
- 第13回 フィールドワーク
- 第14回 アクティブ・インタビュー
- 第15回 調査倫理について

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 40% レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題を出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

報告者は、レジюмеを準備すること。
レジюмеには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジюмеの作成方法については授業中に説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：

本演習では、1年生を対象に大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマの文庫や新書を選ぶことが多いです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジュメの作りかた、論点の見つけ方、文献の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、受講者同士の議論を経て、レポートの作成を目指します。

教科書 /Textbooks

難波功士 2014 『「就活」の社会史』 祥伝社新書

本年度は大学生の置かれた状況を客観的に見つめなおすことのできるテキストを選びました。1年生も興味深く読むことができまるのではないかと思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』 慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』 専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 議論のしかた
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第13回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などはそれなりに時間がかかります、妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

・ 出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
・ 履修を希望する学生は、第1回の授業から必ず出席してください。
・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
・ レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出はそれぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジюмеを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習II」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生・3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、まず自分自身を知ること、自分自身を人に理解してもらうことを主眼におき、人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解する
- 3回 自己概念を知るワーク(1)
- 4回 自己概念を知るワーク(2)
- 5回 自己概念を知るワーク(3)
- 6回 自分自身を人に理解させることワーク(1)
- 7回 自分自身を人に理解させることワーク(2)
- 8回 自分自身を人に理解させることワーク(3)
- 9回 カラダを使ったコミュニケーションワーク(1)
- 10回 カラダを使ったコミュニケーションワーク(2)
- 11回 カラダを使ったコミュニケーションワーク(3)
- 12回 カラダを使ったコミュニケーションワーク(4)
- 13回 カラダを使ったコミュニケーションワーク(5)
- 14回 カラダを使ったコミュニケーションワーク(6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 80% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
本年度はキャンプ実習は実施しません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している重要な分野である。しかしながら、生命科学のミクロの現象は多くの難しそうな専門用語で説明されることから、一般には敬遠されがちである。そこで、本演習では「身近な生命科学」を主たるテーマとし、身の回りの生物や生命現象などより自分でテーマを設定し、見つけた「不思議」について調べることによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 テーマ探し (キャンパスの生物など)
- 4回 プレゼンテーションの準備
- 5回 プレゼンテーション (グループ)
- 6回～7回 学内外での調査研究
- 8回 プレゼンテーションの準備
- 9回 プレゼンテーション (グループ)
- 10回～11回 学内外での調査研究
- 12回 プレゼンテーションの準備
- 13回 プレゼンテーション1 (個人)
- 14回 プレゼンテーション2 (個人)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 期間中の土曜日(1～2回)、学内外で調査研究活動を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目(「生命と環境」や「人間と生命」)も合わせて受講するとより理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2010）『水と緑と土 - 伝統を捨てた社会の行方-』中公新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習方法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、講義で概要を理解したうえで、文献、資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：発達障がいの世界1 (発達障がいとは)
- 第3回：発達障がいの世界2 (自閉症理解の歴史)
- 第4回：発達障がいの世界3 (支援法の基礎)
- 第5回：発達障がいの世界4 (応用行動分析的アプローチ)
- 第6回：発達障がいの世界5 (TEACCHプログラムのアプローチ)
- 第7回：発達障がいの世界6 (構造化)
- 第8回：発達障がいの世界7 (コミュニケーション指導法)
- 第9回：発達障がいの世界8 (行動問題への対応)
- 第10回：資料輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50%
議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

北九州市の観光の実態や施策、観光まちづくりなどについて、多様な視点から学ぶことを目的とする。
北九州市の成り立ち、歴史などの基礎知識の習得だけでなく、インバウンド、文学、アニメ、世界遺産、工場夜景など、近年、北九州市が得意とする新たなテーマについても広く学んでいく。また、各テーマに精通した外部講師による講義を予定している。そのため、他の講義以上により興味深い講義が展開される予定である。
講義後半には、前半の講義の踏まえて、フィールドワークを行い、それをもとにまちあるきマップの作成を行う。マップの作成を通して、講義内容を体感することにより、深い学びを得る。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高橋一夫(2017)「DMO 観光地経営のイノベーション」学芸出版社
 - ・矢ヶ崎紀子(2017)「インバウンド観光入門 世界が訪れたい日本をつくるための政策・ビジネス・地域の取組み」晃洋書房
 - 尾家建生、金井万造編(2008)「これでわかる!着地型観光-地域が主役のツーリズム」学芸出版社
 - ・鈴木俊博(2015)「稼げる観光: 地方が生き残り潤うための知恵」ポプラ社
 - NPO法人 観光力推進ネットワーク・関西編(2016)「地域創造のための観光マネジメント講座」学芸出版社
- など。
その他に図書館2階の○○学がわかるコーナーに「まちあるきがわかる、まちあるきが創れる」コーナーを設置していますので、必要に応じて利用すること。

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
北九州市の観光の実態と施策
 - 第2回：北九州市の成り立ち
 - 第3回：北九州市の交通網の成り立ち
 - 第4回：北九州市の歴史・文化1 門司
 - 第5回：北九州市の歴史・文化2 小倉
 - 第6回：北九州市と文学
 - 第7回：北九州市とアニメ・フィルムコミッション
 - 第8回：北九州の世界遺産・近代化遺産
北九州の産業観光・工場夜景
 - 第9回：北九州市の観光まちづくりの動向
北九州市のMICE戦略・インバウンドの実態
 - 第10回：まちあるきの手法
 - 第11回：フィールドワーク1
 - 第12回：フィールドワーク2
 - 第13回：フィールドワークのまとめ1
 - 第14回：フィールドワークのまとめ2
 - 第15回：フィールドワークのまとめ3
- * 上記の授業内容は現在検討中のものであり、実際は変更になる可能性がある

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ ミニレポート：40%
- ・ フィールドワークの成果物：40%
- ・ 授業の貢献度：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に毎回のテーマについて調べ、各回の授業後に、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、北九州の観光について復習し、考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は公益財団法人北九州観光コンベンション協会提供の講義です。また、北九州市が主催する観光市民大学の受講生もいっしょに受講します。
将来、旅行や観光関係の仕事に就きたいと考えている人や、観光による地域の活性化などに興味がある人にはもちろん最適ですが、それ以外にも北九州市について深く知りたい、学びたい人にとっても最適な講義です。

キーワード /Keywords

観光振興、北九州市の成り立ち・歴史・文化、インバウンド、観光まちづくり、まちあるき、DMO、着地型観光

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社プラスアルファ文庫、1997年、950円（税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で購入する必要があります。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%

(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅱ
			GES102F

授業の概要 /Course Description

社会的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

- (1) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
 - ・ 質的調査と量的調査の違いを理解する。
 - ・ インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
 - ・ 調査倫理について理解する。
- (2) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについてレポートを作成する。
 - ・ 自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
 - ・ どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
 - ・ 資料やインタビューを通してレポートを作成する。

インタビュー調査実習（市内）を行う可能性がある。
演習形式で行うため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、資料を配付する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房
- 谷富夫編, 2008, 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』, 世界思想社

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「問い」をたてる
- 第3回 論証戦略を立てる(方法を考える)
- 第4回 情報を集める - 北九大図書館
- 第5回 情報を集める - CiNii、国立国会図書館(NDL-OPAC)、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第6回 質的社会調査の考え方
- 第7回 フィールドワーク
- 第8回 インタビュー
- 第9回 ライフヒストリー分析
- 第10回 調査の企画
- 第11回 データの作成から論文の執筆まで
- 第12回 質的調査の応用
- 第13回 質的調査と調査倫理
- 第14回 インタビュー調査
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題(レポート)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題が出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分でデータをつくり、分析する楽しさを感じてください。

キーワード /Keywords

質的調査、インタビュー、調査倫理

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

レポートの書き方と異文化を学ぶ：

本演習では、「テーマを自分で設定して、調べ物をしてレポートを書く」という作業に迷いがある学生（主として1年生）が、レポートの書き方を基礎から学ぶことを目的としています。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指します。テキストは比較的最近出版された文庫や新書を選ぶことが多いです。一般読者を想定して執筆されたテキストを土台として、そこから関連関連資料の探し方を学び、論点を探し、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、より完成度の高いレポートの作成を目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

小川さやか2016『『その日暮らし』の人類学』光文社文庫

「異文化理解の基礎」「政治のなかの文化」「現代社会と文化」を履修中、履修済みの学生は楽しめるテキストではないかと思ます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編)2006『アカデミック・スキルズ』慶應義塾大学出版会
- 慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員2014『ダメレポート脱出法』慶應義塾大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは？
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本をどう活用するのか？
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマのを見つけかた
- 第9回 レポートの書き方
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 レポート最終報告会

※受講者数に応じて内容を変更することもあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、演習中の発言、その他の提出物など）50%
ただし、報告者の無断欠席や課題未提出者は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・レジュメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などにはそれなりに時間がかかります。妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、書くまでの準備にも時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

キーワード /Keywords

レポートの書きかた、問題のたてかた、考察のしかた、本の読みかた、議論のしかた

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

皆さんのレジユメをコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
授業開始前までに報告用レジユメを作成しておくこと。授業終了後には演習での討論を踏まえて、レジユメや報告の改善に取り組むこと。
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、自分を知ること、そして仲間づくりをすすめるコミュニケーションワークなどを通して、人間関係づくりのトレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること
- 3回 自分自身を人に理解させること
- 4回 人を理解すること(1)
- 5回 人を理解すること(2)
- 6回 コンセンサスと人間関係づくり(1)
- 7回 コンセンサスと人間関係づくり(2)
- 8回 リーダーシップとは(1)
- 9回 リーダーシップとは(2)
- 10回 コミュニケーションワーク(1)
- 11回 コミュニケーションワーク(2)
- 12回 コミュニケーションワーク(3)
- 13回 コミュニケーションワーク(4)
- 14回 コミュニケーションワーク(5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 80% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
本年度は、スキー実習は実施しません

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養基礎演習 II	GES102F

授業の概要 /Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。

②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間(8月中下旬～9月上旬)に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はいかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみがかかります)。

③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義期間中の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 テーマ探し(キャンパスの生物など)
- 4回 プレゼンテーションの準備
- 5回 プレゼンテーション(グループ)
- 6回~7回 学内外での調査研究
- 8回 プレゼンテーションの準備
- 9回 プレゼンテーション(グループ)
- 10回~11回 学内外での調査研究
- 12回 プレゼンテーションの準備
- 13回 プレゼンテーション1(個人)
- 14回 プレゼンテーション2(個人)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 1～2回、昼休みを利用した調査研究活動を行う予定。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命と環境」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来、態度） 50%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本授業は、履修者同士で教え合うスタイルである。
したがって、受け身の授業ではなく、学生が学生に教えるという「教育的視点」を持てるものが履修すること。
そのため、予め当該担当章の内容については、しっかりと精読した上で、自分の考えを確立したうえで、授業に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、資料、文献を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜配布、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習Iの復習。
- 第3回：教養基礎演習Iの復習。
- 第4回：教養基礎演習Iの復習。
- 第5回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第6回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第7回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第8回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第9回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第10回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第11回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第12回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第13回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第14回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

伊野担当の教養基礎演習I (発達障がいセミナー) を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意欲がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。すでに本演習に登録済みの場合でも、第1回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消する。4年生であっても例外は認めない。
人数調整に際しては、本演習に【友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

AI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野巨・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習 AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を集める2 - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第11回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第14回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

文献レビューの際、報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論等を記したレジюмеを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

文化と社会について学びながらレポートの書き方を向上させる：
本演習では文化と社会に関するテーマに関する新書を入り口として、そこから各自の関心に応じて「自分でテーマを設定し、学びを深め、レポートを書く」ということを目指します。今学期は、視覚と触覚の文化の差、障がい者の歴史と文化、バリアフリー社会に関して知識を深めつつ、勉強の仕方でも学ぶことを目指します。

教科書 /Textbooks

広瀬浩二郎 2017『目に見えない世界を歩く：「全盲」のフィールドワーク』

様々な論点を提示している本です。自分と異なる生き方・感性をする他人を理解することを深く考えてみましょう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○松嶋健 2014『プシコナウティカ』世界思想社
佐渡島紗織 2015『レポート・論文をよくする「書き直し」ガイド』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学における本の読みかた・探しかた
- 第2回 議論のしかた
- 第3回 論点の広げ方
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論④
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

教養演習 AI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業における取りくみ50%
ただし、報告者の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ レジユメの作成、レポートの執筆にはそれなりに時間がかかります。妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

・ 履修を希望する学生は第1回から出席してください。修正申告終了までは履修登録できますが、欠席分の授業内容を自習する努力が必要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ 担当者の講義（「異文化理解の基礎」「政治のなかの文化」「現代社会の文化」など）を履修したことがあると、理解が深まります。

キーワード /Keywords

異文化、視覚、触覚、障がい、バリアフリー

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジュメ」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジュメを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジュメの内容...50%
無断欠席やレジュメの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジュメを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジュメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AII」とセットで履修することを希望します。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習 AI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
- 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している重要な分野である。しかしながら、生命科学のミククの現象は多くの難しそうな専門用語で説明されることから、一般には敬遠されがちである。そこで、本演習では「身近な生命科学」を主たるテーマとし、身の回りの生物や生命現象などより自分でテーマを設定し、見つけた「不思議」について調べることによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 テーマ探し (キャンパスの生物など)
- 4回 プレゼンテーションの準備
- 5回 プレゼンテーション (グループ)
- 6回～7回 学内外での調査研究
- 8回 プレゼンテーションの準備
- 9回 プレゼンテーション (グループ)
- 10回～11回 学内外での調査研究
- 12回 プレゼンテーションの準備
- 13回 プレゼンテーション1 (個人)
- 14回 プレゼンテーション2 (個人)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習:授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 期間中の土曜日 (1～2回)、学内外で調査研究活動を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」、「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいに関し、当事者の書いた文献資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習の復習。
- 第3回：教養基礎演習の復習。
- 第4回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第5回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第6回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第7回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第8回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第9回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第10回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告内容50%
- 議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

伊野担当教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かさないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社プラスアルファ文庫、1997年、950円（税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で購入する必要があります。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会1
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会2
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習AII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート(論文)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える：

本演習では、漠然と現代社会に関する問題についてインタビュー調査や参与観察などの質的な調査をすることに興味があり、漠然と卒業論文で質的調査をしてみたいと考えている学生を対象とする。

漠然と卒業論文で質的調査をとりいれてみたいと考えている学生はいると思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、受講者の関心に応じて質的調査の結果を用いた文献を購読するとともに、質的調査の方法論に興味関心にどのように生かすことができるかを学び、自身の問題関心を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関する質的調査の結果を用いたテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：磯野真穂『医療者が語る答えなき世界』、菅原和孝(編)『フィールドワークへの挑戦』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社

○箕浦康子(編) 1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

教養演習 A II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 具体的な現場から社会を理解することについて（講義）
- 第3回 インタビュー調査の方法と実践①
- 第4回 インタビュー調査の方法と実践②
- 第5回 言葉からわかることの限界
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第9回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート相互添削
- 第15回 レポートブラッシュアップ

※受講者の人数に合わせて内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、
報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。事前準備をしっかりとってください。
- ・ 学期末のレポートでは興味あるテーマについて調査準備をしてみることを求めます。そのための文献調査なども必要なので、授業外学習に積極的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 具体的にフィールドワークを行う必要は特にありませんが、授業の後半では調査設計や調査のための下準備あたる作業をしたいので、何らかの研究関心を持ってください。
- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 受講者の関心を尋ねてテキストを決めるので、履修を希望する場合、第1回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 卒業論文では、現代社会や異文化に関する具体的な問題に関心があり、質的調査を取り入れてみようかなと思う2年生以上の受講生を歓迎します。なお、この授業は質的調査の方法を教えるものではなく、どのような研究が質的調査向きなのかを考えることを目的としています。結果として、質的調査は自分の問題関心に合わないということに気付くかもしれませんが、それも重要な発見ですので、気楽に受講してください。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、質的調査

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description
ゼミ論文をかいてもらう（400字×20枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
皆さんのレジュメをコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 演習運営方針に関する話し合い。
2～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method
日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ論未提出も「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
授業開始前までに報告用レジュメを作成しておくこと。授業終了後には演習での討論を踏まえて、レジュメや報告の改善に取り組むこと。毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
小林担当の「教養演習 AI」とセットで履修することを希望します。
AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

教養演習AIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間(8月中下旬～9月上旬)に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はいかならない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみがかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 テーマ探し (キャンパスの生物など)
- 4回 プレゼンテーションの準備
- 5回 プレゼンテーション (グループ)
- 6回～7回 学内外での調査研究
- 8回 プレゼンテーションの準備
- 9回 プレゼンテーション (グループ)
- 10回～11回 学内外での調査研究
- 12回 プレゼンテーションの準備
- 13回 プレゼンテーション1 (個人)
- 14回 プレゼンテーション2 (個人)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 1～2回、昼休みを利用した調査研究活動を行う予定。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々とは協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについてあつかった映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどとりあげ、それを素材として議論しながら、また、ボランティア活動などを通じて、発達障がいについての理解を深める。

教科書 /Textbooks

随時指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養演習 A I 復習。
- 第3回：教養演習 A I 復習。
- 第4回：視聴およびディスカッション。
- 第5回：視聴およびディスカッション。
- 第6回：視聴およびディスカッション。
- 第7回：視聴およびディスカッション。
- 第8回：視聴およびディスカッション。
- 第9回：視聴およびディスカッション。
- 第10回：視聴およびディスカッション。
- 第11回：視聴およびディスカッション。
- 第12回：視聴およびディスカッション。
- 第13回：視聴およびディスカッション。
- 第14回：視聴およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションでの発言内容 50 %
ディスカッションへの参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養演習 AII (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

途中、授業に代わりボランティア活動に参加する可能性があるかもしれない。
受講者が多数の場合は、受講者調整を行う。受講者調整する場合は、伊野担当の教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) AI履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意欲がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。すでに本演習に登録済みの場合でも、第1回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消する。4年生であっても例外は認めない。
人数調整に際しては、【友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文(レポート)を書くことをめざす。それゆえ「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

BI(1学期)では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略(実証方法の道筋)の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 論文(レポート)の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査-技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習BI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える(方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する2 - CiNii, 国立国会図書館(NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第14回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ地域研究入門：

本演習では、漠然とヨーロッパの現代社会に関する問題や異文化に関する問題に興味があり、漠然と卒業論文などでそれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

本演習では、受講者の関心に応じて現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とする。専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：石川真作ほか(編)『周縁から照射するEU社会』、高橋秀寿ほか(編)『東欧の20世紀』、森明子(編)『ヨーロッパ人類学』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 新聞からわかること、文章からわかること(講義・議論)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論・議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート相互添削
- 第15回 レポートのブラッシュアップ

教養演習BI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められます。事前の学習は必須です。
- ・ 学期末のレポートを作成するプロセスも授業の一環に組み込まれています。毎週何らかの進捗を求めます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ テキストを読むだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 受講者の希望を聞いてテキストを決めるので、履修を希望する場合は第1回に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ヨーロッパの現代社会や文化に関する問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのか、何をすればいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業（現代社会と文化、異文化理解の基礎など）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、ヨーロッパ、

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジюмеを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AI・ AII」「教養演習 BII」とセットで履修することを希望します。
AI・ AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している重要な分野である。しかしながら、生命科学のミク口の現象は多くの難しそうな専門用語で説明されることから、一般には敬遠されがちである。そこで、本演習では「身近な生命科学」を主たるテーマとし、身の回りの生物や生命現象などより自分でテーマを設定し、見つけた「不思議」について調べることによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 テーマ探し (キャンパスの生物など)
- 4回 プレゼンテーションの準備
- 5回 プレゼンテーション (グループ)
- 6回～7回 学内外での調査研究
- 8回 プレゼンテーションの準備
- 9回 プレゼンテーション (グループ)
- 10回～11回 学内外での調査研究
- 12回 プレゼンテーションの準備
- 13回 プレゼンテーション 1 (個人)
- 14回 プレゼンテーション 2 (個人)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 期間中の土曜日(1～2回)、学内外で調査研究活動を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習BI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。	
			教養演習BI	GES301F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：自閉症スペクトラムの理解（自閉症スペクトラム障害とは）。
- 第3回：自閉症スペクトラムの理解（原因と障害特性）。
- 第4回：自閉症スペクトラムの理解（療育・教育・支援方法の変遷）。
- 第5回：支援法の基礎（構造化）。
- 第6回：支援法の基礎（コミュニケーション）。
- 第7回：支援法の基礎（行動問題）。
- 第8回：支援の実践およびディスカッション。
- 第9回：支援の実践およびディスカッション。
- 第10回：支援の実践およびディスカッション。
- 第11回：支援の実践およびディスカッション。
- 第12回：支援の実践およびディスカッション。
- 第13回：支援の実践およびディスカッション。
- 第14回：支援の実践およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50%
 議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養演習BI(発達障がいセミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する可能性があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)I、IIおよび教養演習(発達障がいセミナー)AI、AII履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かさないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社プラスアルファ文庫、1997年、950円（税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で購入する必要があります。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習BⅡ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(課題内容についてはMoodle上に掲示)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BII
			GES302F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

BII（2学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習BII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート・論文...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ地域研究入門：

本演習では、漠然とヨーロッパの現代社会に関する問題や異文化に関する問題に興味があり、在学中にもうちょっと勉強してみたい、または卒業論文などでそれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

本演習では、受講者の関心に応じて現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とする。専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。ただし、1学期の教養基礎演習BIの受講者がいればその学生の希望を優先する。

(候補：明石書店『○○を知るための×章』シリーズのうち、ヨーロッパ諸国に関するものから適宜選択)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 議論のしかた、コメントのしかた (講義)
- 第3回 テキスト輪読と議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 問題関心の深め方について(講義)
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 受講生による議論の提起
- 第9回 受講生による議論の提起 / レポートの書き方について確認
- 第10回 受講生による議論の提起
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート相互添削
- 第15回 レポートのブラッシュアップ

教養演習BⅡ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められます。受講生が関連する文献をさがして問題提起をする回も準備しています。事前学習は必須です。
- ・ 学期末のレポートを作成するプロセスも授業の一環に組み込まれています。計画的に授業外学習を進めましょう。

履修上の注意 /Remarks

- ・ テキストを読むだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・ 受講者の希望を聞いてテキストを決めるので、履修を希望する場合は第1回に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ヨーロッパの現代社会や文化に関する問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業（現代社会と文化、異文化理解の基礎など）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、ヨーロッパ

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×30枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

皆さんのレジユメをコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ論未提出も「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに報告用レジユメを作成しておくこと。授業終了後には演習での議論を踏まえて、レジユメや報告の改善に取り組むこと。毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BI」とセットで履修することを希望します。
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習B II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

教養演習B Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間(8月中下旬～9月上旬)に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はおかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみがかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 テーマ探し (キャンパスの生物など)
- 4回 プレゼンテーションの準備
- 5回 プレゼンテーション (グループ)
- 6回～7回 学内外での調査研究
- 8回 プレゼンテーションの準備
- 9回 プレゼンテーション (グループ)
- 10回～11回 学内外での調査研究
- 12回 プレゼンテーションの準備
- 13回 プレゼンテーション 1 (個人)
- 14回 プレゼンテーション 2 (個人)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。

事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。

<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習BⅡ【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 1～2回、昼休みを利用した調査研究活動を行う予定。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習BⅡ【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回：オリエンテーション。
- 第 2 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 3 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 4 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 5 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 6 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 7 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 8 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 9 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 10 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 11 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 12 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 13 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 14 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 15 回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50 %
報告内容 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する場合があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) A I、A II、B I履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENV002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅と自然
- 第10講 山村暮らしと故郷
- 第11講 山と森の自然観
- 第12講 竹の産業史
- 第13講 竹の文化
- 第14講 木の文化
- 第15講 第9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらそう)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることでも人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

キーワード /Keywords

動物園

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通じて地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地球の生いたち
			GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は遅くとも38億年前頃には誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや地球の成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）
丸山茂徳・磯崎行雄著「生命と地球の歴史」（岩波書店）、
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：イントロダクション -地球の歴史の表し方-【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1【地球惑星の構成としくみ】
- 3回目：生きている地球2【プレートテクトニクス】
- 4回目：生きている地球3【ウエゲナーと大陸移動説】
- 5回目：地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 6回目：地球史を記録する地層と化石【地層と化石の種類と生成のしくみ】
- 7回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史【生物圏の通史】
- 8回目：目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 9, 10回目：生物進化史上最大の事変【カンブリア爆発】
- 9回目：カンブリア爆発の特徴と原因
- 10回目：カンブリア爆発の生物進化上の意義
- 11回目：顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 12回目：顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 13回目：顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目：人類の起源と進化【人類の変遷史】
- 15回目：まとめと演習【人間圏の成立と環境問題】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（90点）およびミニレポート（10点）による。
上記の合計点100点のうち、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

地球の生いたち【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行い、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと休止を学ぶことを通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。

- 1回 ガイダンス
- 2回 植物を鍵とした生物間相互作用（真鍋） 【食物連鎖】【共生】
- 3回 アンモナイトの古生物学（御前） 【化石】【進化】【古生態】
- 4回 鳥類に関するトピック（タイトル・講師未定）
- 5回 石の音が聞こえる（森） 【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 6回 両生類の多様性と保全（江頭）
- 7回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田） 【化石の有用性】【生命史】
- 8回 博物館見学（1回目）
- 9回 骨から知る脊椎動物進化（大橋） 【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 10回 魚類に関するトピック（タイトル・講師未定）
- 11回 深海生物～その形と適応的意義（下村） 【深海】
- 12回 昆虫の多様性と進化（葦島） 【分類】【学名】
- 13回 二次的自然と哺乳類（馬場） 【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 14回 博物館見学（2回目）～課題研究
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 2回の博物館見学は原則必須とする。
- ・ 授業中の課題60%、期末レポート40%

自然史へのいざない【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前に各回のキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 8回～14回の授業は11月10（土）と11月17（土）（ともに終日）に北九州市立自然史・歴史博物館にて行う予定。
- ・ スケジュールと講義タイトルは変更となる可能性があるので初回ガイダンス時に確認すること。
- ・ 博物館までの交通費および入館料は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			くらしと化学
			CHM001F

授業の概要 /Course Description

化学物質とその物性は、自然を知り、生活を豊かにし、未来社会を展望するのに必要です。また現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象や工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。そのため、市民は、教養として基礎的な化学知識を基に、身近な問題の科学・技術情報への理解を必要としています。その学習を進めるために、学習事項と身近な現象の関連を講義の中で示します。その事により、化学への理解、興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析・理解能力を高めることがこの授業のねらいです。

物質の構造（原子・分子・化学結合）、や物性に関する基礎知識、重要な物性である物質三態（気・液・固）やその他の物性（酸塩基、酸化還元など）など、物性と分子構造が、自然現象とどう関わるかを学習します。物質の三態で説明できないコロイドという現象も学習します。さらに一般化学物質（無機物、有機物）や生命に関わる生体物質（糖、脂質、タンパク質、核酸など）が化学現象を担うと生活に関わる問題、環境問題、原子力・放射能問題の関連を解説します。

これらの学習で化学物質の系統性をつかみ、自然現象と物性や化学物質の関係を理解する。

教科書 /Textbooks

新版 教養の現代化学(第2版)

著者：多賀光彦、片岡正光、早野清治、沼田ゆかり 著

出版社：三共出版

定価2592円（本体2400円＋税8%） / 2016年4月発行

ISBN 978-4-7827-0734-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）2200円、ISBN 978-4-621-04227-4

○「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）

○「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

くらしと化学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1)、2) 原子、分子と化学結合
1章 原子の成り立ちと周期律 2章 化学結合と物質の結合
- 3)、4) 気体、液体、固体、溶液そしてコロイド
3章 物質の三態と相平衡
- 5)、6) 酸・塩基、酸化・還元
5章 酸と塩基、6章 酸化と還元
- 7)、8) 基礎有機化学と官能基
第7章 簡単な有機化合物
- 9)、10) 生化学
第8章 生体を構成する物質
- 11)、12) 生活と化学物質
第10章 生活の中の有機物質 第11章 生活の中の無機物質
北九州市の特徴である石灰岩について補足
- 13) エネルギー源と原子力問題
第13章 原子力エネルギーとクリーンエネルギー 第14章 14 - 7節 放射能汚染
- 14) 地球圏と環境問題
第14章 大気と環境 第15章 水と環境
- 15) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容の基礎的な部分を理解しているか。その理解を授業で出たり、一般に見られる化学的現象に結びつけることができるかを見る。簡単レポート・小テスト(演習、質問など) 20%、期末試験80%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に、教科書・プリントの該当部に目を通して、学習事項が定着するよう努める。教科書やプリントの要点をメモや強調(しるし)することで復習がやりやすいで行うことを勧める。テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。その注目点や、授業の疑問点は授業の理解を深めるので質問する。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。補足資料(プリント)を必ず受け取る(翌週も配る)。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくが良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

章末問題は、学習したことを整理するのに役立つので取り組んでください。新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、化学結合。気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基、酸化、還元、電池、化学反応、アミノ酸、糖、脂質、核酸、大気汚染、地球温暖化物質、原子力、放射能

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 石田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 思春期・青年期の親子関係【第2の分離・個体化、共依存】
- 第3回 思春期・青年期の友人関係【チャムシップ、ふれあい恐怖】
- 第4回 思春期・青年期における自己の問題【アイデンティティ、同一性拡散】
- 第5回 思春期・青年期を再考する【思春期危機、不適応】
- 第6回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第7回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第8回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第9回 他者の心を読む【共感、心の理論】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【進化、行動主義】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
村江 史年 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。	
	コミュニケーション力			
			環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうが、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 900円+税
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系(外部講師)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 施設見学・エコタウン
- 8回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 小テスト(日高)
- 12回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 13回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(421Lab・村江)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績(40%)、小テストおよび授業中の課題(60%)

環境都市としての北九州【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアムとエコタウン）は原則として必須とする。スケジュールに注意すること。

- ・ エコタウン（バスツアー）は11月7日（水）の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。
- ・ 環境ミュージアム見学は11月23日（木）午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
- ・ 環境首都検定は12月9日（日）または13日の予定

* 授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
* 環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、北九州市

私たちと宗教 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			私たちと宗教
			PHR006F

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教である仏教と神道を軸にして、キリスト教・イスラム教・道教などと比較しながら理解を深めてもらう。留学生にとっては宗教を通して日本文化の特質を理解することができるだろう。

教科書 /Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
- 橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）
- 末木文美士『日本宗教史』（岩波新書）
- 末木文美士『日本仏教史』（新潮社・新潮文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要説明
- 2回 日本人の宗教観
- 3回 世界の諸宗教
- 4回 宗教の諸類型
- 5回 宗教の構成要素
- 6回 仏教について1（釈迦の教え）
- 7回 仏教について2（上座部仏教と大乘仏教）
- 8回 仏教について2（日本仏教の特色一本覚思想 祖先崇拜）
- 9回 仏教について3（日本仏教の特色一山岳仏教・神仏習合）
- 10回 一神教と多神教1（一神教の起源）
- 11回 一神教と多神教2（一神教の神観念）
- 12回 神道について1（創世記の天地創造と記紀神話の天地開闢）
- 13回 神道について2（神道の世界観）
- 14回 神道について3（神道の罪と戒律）
- 15回 日本の宗教文化

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

私たちと宗教 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスで紹介した参考書を事前・事後の時間を使って読み進めておくこと。
事前に配布した資料については下読みしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード /Keywords

宗教、仏教、神道、ユダヤ教、キリスト教

思想と現代【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の拡がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
- 合田正人『入門 ユダヤ思想』、ちくま新書、2017年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点【概説】
- 3回 ユダヤ人の歴史(1)【民族の起源】
- 4回 ユダヤ人の歴史(2)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(3)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(4)【近代から現代へ】
- 7回 補足回【紛争と現代】
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 文学の思想【カフカ】
- 11回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 12回 心理療法の思想【フロイト】
- 13回 倫理の思想【ヨナス】
- 14回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 40% 期末テスト... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
		文化と表象	MCC001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【テクノミュージック】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【CM】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦【オリンピック】
- 10回 イメージとしての〈日本〉⑧【まとめ】
- 11回 【特別講義】
- 12回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 13回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 14回 映画を事例として③まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 25% 期末レポート ... 75%
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：配布物を読んでおく
事後：講義内容を復習し、事例について必要であれば調べておく

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
		言語とコミュニケーション	LIN001F

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などとよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』 松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』 古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』 田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』 東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』 永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(漆原)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(漆原)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 (予定)外部講師による特別講義
- 第11回 認知発達とコミュニケーション(松田)
- 第12回 ヒューマンエラーとアフォーダンス(松田)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(漆原)

言語とコミュニケーション【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員またはコーディネーターが指示する文献の講読
事後学習：それぞれの教員の課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Mataka / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上げさせ、また美術の歴史の中での位置を確認する。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」 美術手帖編集部 美術出版社 2009
「現代美術史日本篇 1945-2014」 著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
「20世紀末・日本の美術—それぞれの作家の視点から」 編著・中村ケンゴ アートダイバー 2015

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ポルトゥガーズ「暗闇のレッスン」で生と死を見つける
3. ジャン・デュビュッフエ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマル/マキシマル
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ人々を巻込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 60%
レポート(学期末) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科
鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 村上 義明 / 北方キャンパス 非常勤講師
畑中 佳恵 / 北方キャンパス 非常勤講師, 藤崎 祐二 / 北方キャンパス 非常勤講師
山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と文学との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文学について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			文学を読む
			LIT001F

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？ さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2017年のテーマ：「文学」への誘い

ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。今年度も「文学を読む」では、担当教員が大学1年生にぜひ読んでもらいたい作品を取り上げ、その作品の面白さやアトラクティブなメッセージについて、熱く語ります。また、本講義は日本文学を中心に講義を進めていきますが、アジアの文学（中国、インドネシア）についても紹介します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しません。取り上げる作品を事前に通知したり、適宜プリントを配布したりします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

文学を読む【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本上代文学への誘い(藤崎祐二)
- 第3回 日本上代文学のメッセージ性(藤崎祐二)
- 第4回 まとめ(藤崎祐二)
- 第5回 中国文学への誘い(鄧紅)
- 第6回 日本近世文学への誘い(村上義明)
- 第7回 日本近世文学のメッセージ性・まとめ(村上義明)
- 第8回 インドネシア文学への誘い(山口裕子)
- 第9回 文学理論の歴史概観(畑中佳恵)
- 第10回 トドロフの「幻想」と三島由紀夫「美神」(畑中佳恵)
- 第11回 イーザーの「内包された読者」と芥川龍之介「地獄変」(畑中佳恵)
- 第12回 日本現代詩への誘い(稲田大貴)
- 第13回 日本現代詩のメッセージ性・まとめ(稲田大貴)
- 第14回 日本現代文学への誘い(河内重雄)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

取り上げる作品についての予習(作品を読む、作者について調べる、など)と、講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。「文学を読む【夜】」と同じ講義内容です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等については、コーディネーターの生住に質問すること。
講義内容については、各回の講義担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、1938年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。

そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）（○）
○J・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）（○）
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）（○）
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）（○）
を挙げておきます。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
- 第1回 はじめに・・・グローバリゼーションとデモクラシー
 - 第2回 「デモス」と「クラティア」について
 - 第3回 二つの民主主義伝統について
 - 第4回 近代市民革命と自由民主主義について
 - 第5回 現代民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
 - 第6回 現代民主主義の理論の比較・・・参加民主主義論、共生の民主主義論
 - 第7回 現代民主主義の理論の比較・・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
 - 第8回 まとめのグループ討論、グループ発表
 - 第9回 民主主義の運動（組織）について・・・1989年の東欧革命、1968年の「青年の反乱」の日独比較
 - 第10回 民主主義の運動（組織）について・・・1938年の日独青少年交歓事業について
 - 第11回 民主主義の制度について・・・議院内閣制と大統領制の比較
 - 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
 - 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
 - 第14回 民主主義制度の比較のまとめ
 - 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート（任意）	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）を配布しますので、当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書き留めた穴埋め箇所を中心にして復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義が一段落すると、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらおうという、「まとめ」を行う予定ですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

社会学的思考 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方や概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

授業では、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバー、E.フロムなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。

また、現代社会における論争的なトピックを社会的に考えていく。とりあげるトピックは、社会的排除と貧困、グローバル化と排外主義等を予定している。（授業進度の関係で、取り上げるトピックは1つになることもある。）

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1 【集合意識と行為】
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2 【社会規範と自殺 - 自己本位的自殺】
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - デュルケム3 【社会規範と自殺 - アノミー的自殺】
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー1 【理解社会学】
- 第8回 社会と個人をつなぐ5 - ウェーバー2 【信仰と社会 - プロテスタンティズムと資本主義】
- 第9回 社会と個人をつなぐ6 - フロム1 【社会的性格とファシズム】
- 第10回 社会と個人をつなぐ7 - フロム2 【デモクラシーと大衆社会】
- 第11回 現代社会の解説1 - 貧困と社会的排除1 【生活困窮状況とそのメカニズム】
- 第12回 現代社会の解説2 - 貧困と社会的排除2 【支援のあり方】
- 第13回 現代社会の解説3 - グローバル化の進展と排外主義1 【排外主義の様相】
- 第14回 現代社会の解説4 - グローバル化の進展と排外主義2 【排外主義のメカニズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

社会学的思考 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、グローバル化、排外主義

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのが、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心を持ち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率が基準を満たした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆、代返などを含む不正を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンを愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor 高橋 衛 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
中村 英樹 / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 水野 陽一 / 法律学科
石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共生の作法
			LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）があることを知る事が重要である。
そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのか（法の役割）を理解したうえで、これらの共生関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 法と道徳について
- 第 3 回 民主主義の限界と立憲主義
- 第 4 回 「大学」はどこから来て、どこへ行くのか—学問と大学とそれを取りまく人々
- 第 5 回 行政活動と法治主義
- 第 6 回 国際社会と法—国際行政の観点から
- 第 7 回 犯罪とは何か
- 第 8 回 刑罰とは何か
- 第 9 回 刑事裁判とは何か
- 第10回 家族とは何か
- 第11回 財産とは何か
- 第12回 契約とは何か
- 第13回 商取引における不正競争と法
- 第14回 民事訴訟とは何か
- 第15回 外国人労働をめぐる法政策

※なお、講義計画・担当者等については一部変更があり得るので、詳細についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる（100%、ただし④に注意）。

- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群の中から、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。
- ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
- ③ レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
- ④ 出席状況や授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスを事前に確認してテーマに関わる用語を調べておく。（次の履修上の注意の項を参照のこと）
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

履修上の注意 /Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくこと、各回の理解がいつそう深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方 LAW002F

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

法律の読み方 【昼】

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'18』信山社（1,000円）をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解説、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、(1) 意味のある「問い」をたてること、(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3) 論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、(4) データを統計的に処理すること、(5) データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング(1)【質問文の作成】
- 第6回 ワーディング(2)【選択肢の作成】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方
- 第9回 サンプリングの方法
- 第10回 実査の準備
- 第11回 データファイルの作成(実習)1【入力フォームの作成】
- 第12回 データファイルの作成(実習)2【SPSSファイルの作成とデータクリーニング】
- 第13回 データファイルの作成(実習)3【度数分布表の作成】
- 第14回 分布と統計量、クロス集計、相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

社会調査【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのが、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回中間テスト
- 第9回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴の結果】
- 第10回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第11回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第12回「家」としての日本企業② 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業③ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業④ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・40% 中間テスト・・・30% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 確認テスト
- 9回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 10回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 11回 現代における差別の問題（3）【優生学】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【人口問題】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【貧困問題】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【公平主義】
- 15回 現代における公平性の意義（4）【援助義務論】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
現代社会と新聞ジャーナリズム			
SOC001F			

授業の概要 /Course Description

多様な情報メディアが錯綜する現代における「新聞」について学ぶ。インターネットが「普及した中で」、情報や言論の発信・伝達役としての新聞の存在感は低下しているという指摘も聞かれる。ただ、社会に流布している情報の出所は新聞で「あることか」「多いのも事実。さらに、ネットメディアが発する情報には真偽不明で「断片的、信頼性に欠けていることも少なくなく、近年、まとめサイトによる著作権侵害や無責任なクレーム対応などが問題化したことも記憶に新しい。

新聞社には、24時間、洪水のように情報が「飛び」交う中、内容を整理して信頼性のある情報として発信することを基本に(1)社会の出来事を客観的に伝える(2)その背景や問題点を深く掘り下げる(3)社会が「抱える課題の解決策を提供する(4)権力者など」の不正追及など健全な批判や言論を通じ民主主義を守る-ことに取り組んできた長い経験と実績があり、私たち生活者が「社会との関係を「考える」、これからの生き方を「選択する」際に役立つ身近なメディアを目指している。講義で「は、新聞社のテ「スクや記者など「か」、取材や報道体験を通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法を話す。

なお、この講義は西日本新聞社の提供講座である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出すこともあるので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務める。ただし、講師の都合により変更することがある。

- 【第1回】新聞の読み方(編集企画委員長、編集センターデスク)
- 【第2回】事件記者最前線(社会部デスク)
- 【第3回】地方の視線で「政治と向き合う(都市圏総局デスク)
- 【第4回】調査報道・キャンペーン報道(社会部記者)
- 【第5回】アジアと九州を読み解く/国際報道最前線(国際部デスク)
- 【第6回】スポーツ報道の世界/運動記者は何を伝えるか(運動部デスク)
- 【第7回】地域文化をみつめて/文化記者の仕事(文化部デスク)
- 【第8回】報道写真の力/カメラマンの心得とは(写真部記者)
- 【第9回】災害被災者に寄り添う(社会部記者)
- 【第10回】九州経済をと「う見るか(経済部長)
- 【第11回】分かりやすさの追求/こ「も向け紙面(もの知りタイムス編集長)
- 【第12回】新聞テ「サ「インの展開/ヒ「シ「ユアル発信を目指す(テ「サ「イン部デスク)
- 【第13回】企業体としての新聞/営業部門の現状と課題(お客さまセンター)
- 【第14回】テ「シ「タル時代の発信/電子メディアへの挑戦(メディアラボ部員)
- 【第15回】北九州の現場から / どんな課題と向き合っているか(北九州本社記者)

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)・・・100%
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とする。
詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日々の新聞を通して、現代社会や地域が直面する課題を発見し、自分なりの考察によって課題解決のために努力する姿勢を持つこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞の読み方や活用法を学ぶ「講義を通して」、現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」(メディアの特性を理解した上で情報を選別して読み解く力)を身につけてほしい

キーワード /Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科, フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 アーノルド The Role of Public Spaces in New York
- 第3回 ウィリアムソン Stereotypes and the Opening of Japan
- 第4回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国ファクター
- 第5回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 日本の安全保障戦略
- 第6回 クリーサー Women's Empowerment: Global Trends
- 第7回 下野 中国と台湾 - 歴史
- 第8回 下野 中国と台湾 - 政治
- 第9回 白石 中国の持続的発展の可能性: 経済成長・SNA・投資
- 第10回 久木 2010年代のイギリス(1) 2010年総選挙から2014年住民投票まで
- 第11回 久木 2010年代のイギリス(2) 2015年総選挙から2017年総選挙まで
- 第12回 尹 東アジアの経済事情(1) 【地域的特徴】 【経済関係】
- 第13回 尹 東アジアの経済事情(2) 【経済統合】 【地方間交流】
- 第14回 山本 ヨーロッパの危機(1) 【地域主義】 【民主主義】
- 第15回 山本 ヨーロッパの危機(2) 【ユーロ】 【4つの自由】

※都合により変更もあり得る。変更がある場合は授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(9回) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

授業の最後に小テストを受けます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治

IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。
- * 大原悦子『フードバンクという挑戦～貧困と飽食のあいだで』現代岩波文庫、2016年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめるとして		担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめくって	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第6回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあてて	【米国】	担当：申
第7回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第8回 世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
ク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第10回 子ども食堂「もがるか」の運営と人々	【子ども食堂】	担当：原田・三宅
第11回 フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論	【大学生】	担当：原田・三宅
第12回 グループワーク(アクティビティ作り)を通じたガバナンス概念の把握	【グループワーク】	担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念提示を考える		担当三宅・伊野・申
第15回 まとめ(グループ・ディスカッション)		

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

開発と統治【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。できるだけ、海外に出かけ、また、本をどんどん読んでください。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー フードバンク 貧困 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。
	コミュニケーション力		
			グローバル化する経済
			ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【産業・物流政策の事例】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【上下水道・環境分野の事例】
- 10回 比較文化心理学(1)【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学(2)【文化と感情】
- 12回 バブルと国際金融危機(1)【資産価格】【バブル】【不良債権】
- 13回 バブルと国際金融危機(2)【リーマンショック】【不況の伝播】
- 14回 国際金融危機の伝染(1)【欧州金融危機】【資産担保証券】
- 15回 国際金融危機の伝染(2)【銀行同盟】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

グローバル化する経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本 IRL004F

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。(1) 戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。(2) アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書 /Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口悠紀雄著『戦後日本経済史』(新潮社、2008年)
- 橋本寿朗 編『現代日本経済 第3版』(有斐閣アルマ、2011年)
- 三和 良一 編『近現代日本経済史要覧』(東京大学出版会、2010年)
- 五百旗頭真 編『戦後日本外交史 第3版補訂版』(有斐閣アルマ、2014)
- その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3. 占領下日本の「外交」【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4. サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立【講和条約】【戦後秩序】
5. 日本の戦後処理(賠償)【賠償】【請求権】【経済協力】
6. 日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7. 日韓国交への道程 / 日中国交への道程【脱植民地化】【テタント】【台湾問題】
8. 冷戦後の日本外交【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9. 世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバリゼーション】【数字で見る日本経済】
10. 戦後復興と冷戦構造【封じ込め戦略】【ブレトン・ウッズ体制】【日本の経済復興】【ドッジ・ライン】
11. 日本型雇用慣行の形成と高度経済成長のメカニズム【日本型経営】【高度経済成長】【資本の自由化】
12. 戦後秩序の変容と石油危機【ニクソン・ショック】【経済の政治化】【石油危機】
13. 日本企業の多国籍化の変遷と特徴【海外直接投資】【日米経済摩擦】【生産ネットワーク】
14. グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
15. 地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% (担当者ごと、計2回) テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書をもとに、事前学習として予習をすること。
事後学習として、復習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

東アジア 安全保障政策 冷戦 戦後復興 グローバリゼーション

エスニシティと多文化社会【昼】

担当者名
/Instructor

篠崎 香織 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

エスニシティと多文化社会	IRL001F
--------------	---------

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 東南アジアの多文化社会とエスニシティ
- 3回 「本物・本質」探し：「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 4回 「独立か否か」：インドネシア・アチエの事例
- 5回 文明の「本場」と「周縁」：東南アジアの華人
- 6回 「想像の共同体」の読み方
- 7回 共存のための区切り：マレーシアの民族概念
- 8回 前半のまとめ
- 9回 アメリカ合衆国におけるエスニシティと社会
- 10回 同化・統合の諸概念【るつぽ】【サラダ・ポウル】
- 11回 黒人史と公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 12回 マイノリティをめぐる政策【アフターマティブ・アクション】【バッキ判決】
- 13回 自らを知る：日系アメリカ人 【強制収容】【第二次世界大戦】
- 14回 今日のエスニシティ状況【ヒスパニック】【不法移民】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 (中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

エスニシティと多文化社会 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		歴史の読み方 I HIS004F	

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがち些細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

- この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
- この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
- この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』（NTT出版）
- 小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社）
- 池内敏『日本人の朝鮮観はいかにして形成されたか』（講談社2017）
- 新渡戸稲造『武士道』（岩波文庫）
- ルース・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
- 野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
- 佐伯真一『戦場の精神史』（NHKブックス）
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』（講談社）
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』（岩波書店）
- 網野善彦『日本社会の歴史（上）～（下）』（岩波新書）

歴史の読み方I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 「東アジア」という視点
- 3回 日本の近代と国民国家の歴史観
- 4回 中国・韓国から見たアジアの近代
- 5回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 6回 新渡戸稲造の『武士道』
- 7回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 8回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 9回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 10回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 11回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 12回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 13回 「国語」とは何か
- 14回 網野善彦と日本史の多様性
- 15回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。
皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II
			HIS005 F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された見玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『見玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 見玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 「立憲主義」と軍事の間
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の該当箇所を目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

歴史の読み方II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は
			HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、日本とミャンマーの状況を対比させながら考えていく。対象となるのは、1930年代から現代。日本の状況に関しては、小林先生に担当していただき、内容を充実させる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：ミャンマー概説1（風土、文化）。
- 第3回：ミャンマー概説2（社会）。
- 第4回：1930年代の日本（小林先生担当）。
- 第5回：1930年代のミャンマー。
- 第6回：1930年農民大反乱。
- 第7回：第2次世界大戦と日本（小林先生担当）。
- 第8回：第2次世界大戦とミャンマー。
- 第9回：1980年代の日本（小林先生担当）
- 第10回：1980年代のミャンマー
- 第11回：民主化運動。
- 第12回：現代の日本（小林先生担当）
- 第13回：現代のミャンマー。
- 第14回：民主化のゆくえ。
- 第15回：まとめ。
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、毎回のテーマに関し、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

そのとき世界は【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本についても随時取り上げるが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「祖父母の生きた時代」「日本とミャンマーの比較」

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。	
	コミュニケーション力			
			戦後の日本経済	ECN002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんは、“Japan as No 1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。

しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。

したがって、“Japan as No 1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。

このことをふまえ本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

戦後の日本経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「団塊の世代」
- 第5回 2. 戦後文化と家族モデル
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程
 - 1. 戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 IV. 戦後家族モデルの成立
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第10回 2. 「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
- 第11回 3. 日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」
- 第12回 4. 日本人の理想とモデル - ブラウン管を通じて見たアメリカ -
- 第13回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「幸せモデル」の確立
- 第14回 2. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第15回 2. モデルの喪失と新たな文化形成

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	もの与人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	もの与人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	もの与人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			もの与人間の歴史 HIS003 F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。
今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。
なお、本年度は外部講師を数回、招くので、それによって各回の内容が変わる場合がある。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 力と近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーティズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 現代社会 - 「光の巨大」
- 第12回 環境問題の外部化・不可視化と社会的費用 - 「闇の巨大」
- 第13回 原子力政策と地域社会
- 第14回 情報化と外部問題 - 方法としての情報化
- 第15回 どのような社会を選択するのか - 情報化 / 消費化社会の転回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

もの与人間の歴史【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。

21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。

イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。

こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くかと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

人物と時代の歴史【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)
- 『歴代アメリカ大統領』(プティック社)

毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】

第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】

第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】

第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について

第9回 イギリスとEUの関係について

第10回 キャメロン首相と国民投票

第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか

第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か

第13回 トランプ候補が勝利した理由

第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		日本史	HIS110F

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記するだけのことで、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。
この授業では、日本史に係る重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —史料と歴史家—
- 第2回：さまざまな「歴史」のとらえ方
- 第3回：「日本」のはじまり
- 第4回：古代国家と天皇
- 第5回：中世日本 —分権化する国家と社会—
- 第6回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第7回：世界史のなかの「近世」
- 第8回：歴史人口学の世界
- 第9回：結婚と離婚 —歴史のなかの男と女—
- 第10回：貨幣からみる近世社会
- 第11回：日本の近代 —近世の「遺産」と明治国家—
- 第12回：「日本人」と戦争（1） —帝国主義の時代—
- 第13回：「日本人」と戦争（2） —総力戦のなかの人々—
- 第14回：戦後日本とわたしたちの時代
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（50%、小レポートなどを含む）、期末試験（50%）によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。
本講義では、西暦1～3世紀の中国、すなわち新・後漢時代から三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -秦漢帝国と「漢委奴国王」金印-
 - 3回 秦漢史概説(1)
 - 4回 秦漢史概説(2)
 - 5回 新の王莽
 - 6回 後漢前期(1) -光武帝-
 - 7回 後漢前期(2) -明帝-
 - 8回 後漢前期(3) -章帝・和帝-
 - 9回 後漢後期(1) -安帝・順帝-
 - 10回 後漢後期(2) -桓帝・靈帝-
 - 11回 後漢分裂と「三世紀の危機」 -『三国志』の虚実-
 - 12回 魏の曹操
 - 13回 蜀の劉備と呉の孫権
 - 14回 三国鼎立と邪馬台国の外交
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習が必要な場合は、授業中に参考文献を指定するので、事前に読んでおくこと。復習は適宜ノートを見直し、配布したプリントを参照すること。

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 嶋谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を6つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「商業立地と流通システム」「製造業の立地と集積」について講義を行う。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の体系
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地域の類型と重力モデル
- 第3回 人文地理学の基礎(3) 環境決定論と環境可能論
- 第4回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第5回 社会・文化と地域(2) 民俗文化と地域
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 都市の内部構造
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市と郊外
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市システム
- 第11回 商業立地と流通システム(1) チェーンストアの配送
- 第12回 商業立地と流通システム(2) 大型店と商店街
- 第13回 製造業の立地と集積(1) 産業集積の実態
- 第14回 製造業の立地と集積(2) 産業集積の実態
- 第15回 製造業の立地と集積(3) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必ず必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」(大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事事項を扱う。

教科書 /Textbooks

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1): ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2): ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容: 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容: 山口県防府市、県庁所在地の変容: 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容: 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容: 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容: 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容: 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室 第3版』（日本評論社、2016年）
- 芦部信喜『憲法 第6版』（岩波書店、2015年）
- 長谷部恭男『憲法 第6版』（新世社、2014年）
- 野中俊彦ほか『憲法I 第5版』『憲法II 第5版』（有斐閣、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定？
- 第9回 自己決定権とは何か③-安楽死・尊厳死法制化の是非
- 第10回 議院内閣制①-国会と内閣の関係
- 第11回 議院内閣制②-国会の制度と運営
- 第12回 議院内閣制③-国会と選挙制度
- 第13回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第14回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸課題
- 第15回 全体まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とそれの対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理……青年期のこころの病
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 こころの健康の展望……自己受容・自己開示・あるがままの心理学
- 第12回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第13回 老年期の心の健康……機能の低下・高齢者の心理学
- 第14回 病と死の心理学……自殺を打ち明けられたら。死の教育(デスエデュケーション)
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

メンタル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人のことである。よって本来、メンタルヘルスとは「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。

本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらに健康科学やポジティブ心理学の領域から心の健康増進にも役立つような要件を学ぶ。人は人の中にあつて人となる。人生の方向性を正しく導く「逞しき知恵」と「強き生命力」をどうすれば体得できるかを受講生と共に考えたい。食事、睡眠、運動による健康な身体作りも心の基盤として重要である。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。アドラー心理学などの欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法などの心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力が高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経症の時代」 渡辺利夫 著 学陽書房 1999

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 オリエンテーション……受講上の注意・評価・人間の発達と自己形成
- 第2回 人間関係の心理学 1……自己開示について
- 第3回 人間関係の心理学 2……聞く力と話す力
- 第4回 自己愛の心理学と心の健康 1……コフォート理論・自己対象理論
- 第5回 自己愛の心理学と心の健康 2……生涯発達の視点から
- 第6回 アドラー心理学から観た心の健康 1……共同体感覚と感情道具論
- 第7回 アドラー心理学から観た心の健康 2……健康な集団づくり
- 第8回 心のリフレッシュ 1……内観法・森田療法
- 第9回 心のリフレッシュ 2……脳と心について・認知行動療法
- 第10回 発達障害についての理解…自分の場合・他者の場合
- 第11回 平和と暴力 1……対話の文化を
- 第12回 平和と暴力 2……人権の文化を
- 第13回 心の健康と感情……感情の理論
- 第14回 心の健康と芸術……映画の力
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人間社会に関する興味や心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業の感想や質問などを積極的に自己開示してもらいたい。授業後の個別の質問などは大歓迎である。

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなどを考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフトバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、バドミントン・ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、バドミントン・ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなどを考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフトバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、バドミントン・ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、バドミントン・ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 / Credits 2単位 / Semester 2学期 / Class Format 授業形態 講義 / Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
3. 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
4. 体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
5. ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
6. 地域スポーツ【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
7. 防災について【関係専門職】：身近に起こりうる災害に対する防災の仕方について学ぶ
8. 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
9. 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
10. 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
11. 喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒、薬物の正しい知識を学ぶ
12. 思春期と健康【関係専門職】：思春期の健康について学び、今後の人生設計を描いていく
13. 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
14. 自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
15. 小試験（選択，記述）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・70% 小試験・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講義内容、講師が異なります。講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。1回目から出席をとります。
 - ②外部講師による講義のため、授業開始後15分には入室を禁止する。私語厳禁。
 - ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
 - ④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。
 - ⑤4分の3以上の出席を必要とする。
- 授業前に予めどのような専門職の方が話をするのか把握し、授業終了後には配布された資料をもとに復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合により、授業計画の順番が変更することがあります。また、「履修上の注意」にも記載していますが、外部講師による講義が主となるため、通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては、第一回のオリエンテーションでプリントを配布し、説明しますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
 - 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
 - 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
 - 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
 - 6回 サーブカット練習
 - 7回 アタック練習(1) <サイド>
 - 8回 アタック練習(2) <センター>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 チーム練習
 - 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
 - 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
 - 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
 - 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
 - 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
 - 3回 スキル獲得テスト①
 - 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
 - 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
 - 6回 サービスの練習
 - 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
 - 8回 ダブルスのゲーム法の解説
 - 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
 - 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、生涯の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 ストローク練習(1) <スマッシュ>
- 4回 ストローク練習(2) <ドロップ、ハイクリアー>
- 5回 ストローク練習(3) <ドライブ、ヘアピン>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生活を実りあるものにするための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

木曜3限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
- 3回 大学の「使い方」
- 4回 「理想」の大学生活・なんてあるの？
- 5回 ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
- 6回 大学での勉強、どうする？
- 7回 健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
- 8回 自分の可能性を広げるために
- 9回 「自分」はだれか？
- 10回 かわいい子には「旅」をさせるべき？
- 11回 ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
- 12回 変わりつつある世界の中でどう生きるか
- 13回 ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
- 14回 ようこそ先輩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業内レポート50% 課題レポート50%

キャリア・デザイン 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

<目的> 本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2016年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が13年連続で第1位、「主体性」が7年連続で第2位となり、以下、第3位「協調性」、第4位「チャレンジ精神」と続き、コミュニケーション能力は当然として、主体性・協調性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？ それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な行動とは、以下の3つです。

1. コミュニケーション能力
2. 幅広い視野・柔軟性
3. 失敗を恐れない志向性

<進め方と目標>

3つの力を身に付けるために、まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを实践し、最終回までに身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（プロジェクトや海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』 草思社
○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP研究所
大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』 日本経済新聞社
○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』 ナカニシヤ出版
○モーガン・ マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』 プレジデント社
○エドガー・H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』 白桃書房
○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』 金子書房
○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』 ダイヤモンド社
○香取一昭・大川 恒 『ワールド・カフェをやろう!』 日本経済新聞出版社
○金井寿宏 『リーダーシップ入門』 日本経済新聞社
○J.D.克蘭ボルツ、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』 ダイヤモンド社
スプツニ子! 『はみだすカ』 宝島社
アンジェラ・ダックワース 『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』 ダイヤモンド社
○リンダ グラットン 『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』 プレジデント社
リンダ グラットン、アンドリュー スコット 『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』 東洋経済新報社
○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』 プレジデント社
中原淳、見館好隆ほか 『人材開発研究大全』 東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の3つの力：【1】コミュニケーション能力、【2】幅広い視野・柔軟性、【3】失敗を恐れない志向性

- 1 回 全体ガイダンス【1】【2】【3】
- 2 回 社会で求められる力【1】【2】【3】
- 3 回 インターンシップや地域活動(先輩登壇)【1】【2】【3】
- 4 回 傾聴【1】
- 5 回 アサーション・トレーニング【1】
- 6 回 アイデンティティ【1】【2】【3】
- 7 回 働くということ(社会人登壇)【1】【2】【3】
- 8 回 新しい仕事を創る【1】【2】【3】
- 9 回 ダイアログ【1】【2】
- 10 回 就職活動を知る(内定者登壇)【1】【2】【3】
- 11 回 企業団体研究【1】【2】
- 12 回 計画された偶発性【1】【2】【3】
- 13 回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)【1】【2】【3】
- 14 回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)【1】【2】【3】
- 15 回 本授業の統括【1】【2】【3】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および小テスト：73%
課題レポート(2回)：12%
最終レポート(相互評価)：15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に予め学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートを印刷し、事前学習をしておくこと。授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを行うこと。2つのインタビュー課題をレポートにまとめて期日までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※眞鍋和博先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)もほとんど同じ内容です。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違えて履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

キャリア・デザイン 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます(グループを固定する回もあり)。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、インターンシップや地域活動など、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。	
			コミュニケーション実践	CAR111F

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。

コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。

講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常生活で活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

プロフェッショナルの仕事【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

<2017年度> 株式会社サニーサイドアップ / 株式会社ジンス (JINS) / JR九州エージェンシー株式会社 / 全日本空輸株式会社 (ANA) / 日本放送協会 (NHK) / 株式会社キャメル珈琲 (カルデイ・コーヒーファーム) / ヒルトン福岡シーホーク / 株式会社モスフードサービス (モスバーガー) / 日本たばこ産業株式会社 (JT) / 株式会社スタートトゥデイ (ZOZOTOWN) / 京セラ株式会社 / 北九州市役所 / 株式会社西日本新聞社 / 株式会社近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 株式会社電通九州 / 株式会社studio-L / 株式会社フジドリームエアラインズ / アイリスオーヤマ株式会社 / 福岡県庁 / 株式会社力の源ホールディングス (一風堂) / 株式会社ジャパネットホールディングス / 株式会社ワークスアプリケーションズ / 福岡地方検察庁 / 株式会社エイチ・アイ・エス / 株式会社西日本シティ銀行 / 株式会社星野リゾート・マネジメント / 株式会社ウエザーニューズ / 旭酒造株式会社 (瀬祭)

<2015年度> 株式会社ムーンスター / 社団法人日本放送協会 (NHK) / 株式会社ホテルオークラ福岡 / 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) / 九州旅客鉄道株式会社 (JR九州) / 旭化成ホームズ株式会社 / 株式会社福岡銀行 / 株式会社タカギ / ソニーリージョナルセールス株式会社 / 株式会社阪急交通社 / 株式会社博報堂プロダクツ / 日本航空株式会社 (JAL) / 株式会社ニトリ / 北九州市

<2014年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠エネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ (山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行) / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート...91% 最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に指定するフォームを用いて、期日までに登壇企業団体の事前学習を提出すること。また、学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。

授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができないばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート+講義中の課題」(60点) + 「実践報告レポート」(40点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、受講者の「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。

このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため第一回目の授業の際に、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどについて「事前レポート」(1500字程度)を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらっています。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義では、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めます。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習 I	CAR280F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2018年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。オープンキャンパスプロジェクトの場合は昨年度の報告書を精読してください。

プロジェクト演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習II	CAR281F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2018年1月現在の対象プロジェクト：JOB×Project、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。JOB×Projectの場合は昨年度の報告書を精読してください。

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月 正、永末 康介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講 I
			SPL001 F

授業の概要 /Course Description

社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す（伝える）力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力や、チームで働く力なども身につけられるようアシストします。様々な学部等の学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。読売新聞朝刊（講義開催週の3日分、全15回分で税込み計1800円）を授業資料として活用する予定です。1回目の授業で、新聞の受け取り方法等について説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞も活用します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～2回 オリエンテーション
第3～10回【個々の力を伸ばす】新聞活用術や時事問題に対する考え方、文章の書き方、取材・調査方法などを学ぶ
第11～15回【共に働く力を伸ばす】グループワークや発表

「時事問題や正しい日本語の使い方に関するクイズ」「新聞への投稿」「まわし読み新聞」など、新聞を活用した演習を実施します。文章添削も行う予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題やグループワークへの取り組みの度合いで総合的に判断します。
詳しくは1回目の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を毎回活用します。
就職活動に役立つような簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「ペットボトルと水道水」「100円ショップ」を具体的事例として取り上げ、倫理的消費について学生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけない生活を考えるとともに、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

- 子島進他『館林発フェアトレード-地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
- アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
- 末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」について
- 第2回 アジア太平洋資料センター(PARC)編『もっと!フェアトレード』(DVD)の上映とディスカッション
- 第3回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第4回 宮下緑氏の講演:「お買物で世界は変わる-人と環境にやさしいライフスタイルの提案」
- 第5回 ファスト・ファッションとエシカル・ファッション『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半
- 第6回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の上映とディスカッション
- 第7回 紛争問題と私たちの暮らしの関係
- 第8回 アジア太平洋資料センター(PARC)編『スマホの真実』(DVD)の上映とディスカッション
- 第9回 山田麻樹氏による講演:「等身大の自分でチャレンジするフェアトレードビジネス」
- 第10回 ペットボトルが生み出す環境破壊
- 第11回 「100円ショップ」の舞台裏
- 第12回 アジア太平洋資料センター(PARC)編『徹底解剖!100円ショップ』の上映とディスカッション
- 第13回 牛嶋麻里子氏による講演:「チョコレートから考えるフェアトレード」(仮)
- 第14回 受講生によるプレゼンテーション大会1
- 第15回 受講生によるプレゼンテーション大会2

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出 (5回×20%) ・ ・ ・ 100%
テーマが終了する度に、そこで学んだことについてレポートを課します (A4一枚程度) 。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、実生活を通して学んだことの確認を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

DVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。また、第14回と第15回では、関心を持った事柄について、個人ないしはグループでのプレゼンテーションを予定しています。それを念頭に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、各方面で活躍されている外部講師の方を3名お招きし、実際の現場の話を交えてご講義いただきます。

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

教養特講Ⅲ (まなびとESD講座Ⅰ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		教養特講Ⅲ	
		SPL003 F	

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための知識や能力を育成することを目的とする。特に、公害を克服し、環境都市として変貌を遂げたプロセスに関わった方々のお話をお聞きすることで、地域の持続可能性について考えていただきます。
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で6大学の単位互換講座として開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1日目（第1回～第3回）
 - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
- 2日目（第4回～第6回）
 - ・ ESDとテーマ①
- 3日目（第7回～第9回）
 - ・ ESDとテーマ②
- 4日目（第10回～第12回）
 - ・ ESDとテーマ③
- 5日目（第13回～第15回）
 - ・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常で活用できるように努めてください。

教養特講III (まなびとESD講座I) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「北九州まなびとESDステーション(小倉北区の魚町商店街内)」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30~16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動およびフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育(子供)・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。詳細は別途告知します。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

教養特講Ⅳ (まなびとESD講座Ⅱ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講Ⅳ
			SPL004F

授業の概要 /Course Description

本授業では、2016年に国連で採択された『SDGs』をテーマとして学びます。具体的には、SDGsとは何かを学んだ後に、北九州市内の各企業と連携し、企業にSDGsを取り入れるための対策について、学生の皆さんが調べ、プランニング、実践します。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で6大学の単位互換講座として開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当します。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1日目 (第1回～第3回)
 ・ SDGsとは何か? (オリエンテーション)、学びに対する目標設定等
 - 2日目 (第4回～第6回)
 ・ SDGsテーマ①
 - 3日目 (第7回～第9回)
 ・ SDGsテーマ②
 - 4日目 (第10回～第12回)
 ・ SDGsテーマ③
 - 5日目 (第13回～第15回)
 ・ 学びの成果共有ワークショップ
- ※講義の詳細が決定次第お知らせします。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常で活用できるように努めてください。

教養特講Ⅳ (まなびとESD講座Ⅱ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「北九州まなびとESDステーション (小倉北区の魚町商店街内) 」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動およびフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育 (子供) ・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

教養特講Ⅳ (現代の日本の食と若者を考える) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養特講

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 集中 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			教養特講Ⅳ	SPL004F

授業の概要 /Course Description

近年、家でじっくり調理を行い、家族全員で談笑しながら食事を楽しむといった昭和半ばのサザエさんのような家族の光景はなくなってきた。時代の変化は早い。現在、人々が多忙になる中、中食、外食産業が発達し、大半の家族がそれらに頼っている。現在の若者たちは、なおさらである。同時に、中食や外食でもきちんと食べていればよいが、食べていない学生が多い。本学の学生の健康診断の結果を見れば、女子大学生の4分の1がやせすぎに入っている。今からきちんとした健康な身体づくりをしておいてください。そのために本演習があります。時間が合えば、保健師さんや管理栄養士さんに指導をお願いしています。

教科書 /Textbooks

- * 秋山龍三・草野かおる (2015) 『「食事」をただせば、病気、不調知らずのからだになれる』 Discover、1500円
- * 三浦理代・永山久夫 (2010) 『からだによく効く 食材&食べ合わせ手帖』 池田書店、1200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 上岡美保 (2010) 『食生活と食育～農と環境へのアプローチ』 農林統計出版、1500円
- * 外山紀子・長谷川智子・佐藤浩一郎編 (2017) 『若者たちの食卓～自己、家族、格差、そして社会』 ナカニシヤ出版、3500円
- * 岩村暢子 (2014) 『変わる家族、変わる食卓』 中公文庫、895円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

集中講義形式なので、1日目：4限、2日目：4限、3日目：4限 4日目：3限

第1回 本授業の簡単な説明 (グループ分けアクティビティ)

第2回 食育とは、グループディスカッション高校での家庭科教科書を参考にもしくは映画を教材に

第3回 簡単な調理：フルーツを皮をむいて切って、食べよう。直に包丁で切ってみよう。

第4回 栄養を学ぼう。。葉酸の働きとは？

第5回 台所用品とは何か？ 包丁の使い方講習と実践

第6回 調理をやってみよう (レシピはなんだ？)

第7回 調理をやってみよう

第8回 今日の振り返り

第9回 出汁を比べてみよう (出汁の差によってこれくらいが) お茶を比べてみよう

第10回 調理をやってみよう (レシピは何か？)

第11回 調理をやってみよう

第12回 今日の振り返り

第13回 食べ合わせと栄養・調理法・保存法

第14回 食の社会学～若者たちの食をめぐる。。。簡単な読みものとディスカッション

第15回 レポートを書く

成績評価の方法 /Assessment Method

30% : 参加態度 40% : 調理方法の上達 30% : 筆記試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献を読み、家でもよく調理をこころがけること。事後は、一日学んだことを振り返り、ノートにまとめる。

履修上の注意 /Remarks

食材を購入するのに、お金が必要です。厨房が設置されてあるところへの移動は大変かと思いますが、動きやすい格好で来てください。三角巾、手をふくタオル、マスクを持参ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

とにかく、楽しくしましょう。食を通しての家族の団欒を知りましょう。

キーワード /Keywords

食育、食べ合わせ、厨房、家庭、調理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 宮浦 崇 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済1 - 1 . 再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済1 - 2 . 再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 宮浦 崇 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - 3 . 再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			データ処理
			INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / Credits 2単位 / Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / Class クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
			情報表現
			INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

英語I (済 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な箇所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂 ¥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 3回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 4回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 10回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 11回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 12回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 13回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

英語I (済 1-D) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
- ・ 学期中にTOEICテストを必ず受験し、スコアを提出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (済 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

英語を読んだり、聞いたりしたときの理解度・読解度を高めることが目的です。その到達度をみるためにTOEIC(R) Listening and Reading Testで300点を獲得することを目標とします。特に、初歩的な英文法の確認と語彙を増やす訓練をしていきます。

教科書 /Textbooks

Koji Hayakawa, Naoyuki Bamba, Nobuko Nakamura, Ken Suzuki
"The High Road to the TOEIC(R) Listening and Reading Test"
ISBN978-4-7647-4045-7 (1900円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 TOEIC(R) Listening and Reading Testの紹介、英語の構造【品詞】
- 2 回 英語の構造【5文型】
- 3 回 主語と述語(1)【平叙文】
- 4 回 主語と述語(2)【否定文】
- 5 回 主語と述語(3)【疑問文】
- 6 回 主語と述語(4)【命令文】
- 7 回 動詞(1)【be動詞】
- 8 回 動詞(2)【一般動詞】
- 9 回 主語と述語と時間の副詞(1)【現在形】
- 10 回 主語と述語と時間の副詞(2)【過去形】
- 11 回 主語と述語と時間の副詞(3)【未来形】
- 12 回 主語と述語と時間の副詞(4)【進行形】
- 13 回 主語と述語と時間の副詞(5)【完了形】
- 14 回 主語と述語と目的語【受動態】
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、課題 20%、期末試験 60%に出席状況・学習態度を加味して総合的に評価します。
(正当な理由なく、4 回欠席した場合は、期末試験受験を認めません。)
尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定箇所を予習する。疑問箇所を明確にする。(60分程度)
事後学習：授業中の疑問が解消できたかを振り返る。それに関しては、類似問題で反復練習をする。(60分程度)

履修上の注意 /Remarks

毎回実施される小テストには、主に文法内容を問う問題が出題されます。テスト前の学習用にはもちろん、テスト後にも問題の意図を考え、不明点をはっきりさせるために、高校入試レベルでよいので、文法書を準備しておくに役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC listening reading

英語II (済 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

TOEIC Test の問題に慣れ、スコアアップのためのコツを身に付けることを目的とした総合的な対策を行う。必要に応じ、英語コミュニケーション能力の基礎となる、英単語や英文法の基礎的な知識を確認する。

TOEIC Listening and Reading Test のスコアアップのために知っておくべきことを講師が説明します。各回の授業内容に沿って、学習者は、必ず予習をし、クラス内で解答の根拠を話し合います。学習者の問題解答後、講師が解説を行います。2回の講義を済ませた後に、授業内容について的小テストを実施するので、必ず復習して授業に臨むこと。語彙テストに際しては、計画的に学習すること。受講に際しては、教科書と辞書を必ず持参してください。

教科書 /Textbooks

Takayuki Ishii et al., “PERFECT PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST — Revised Edition” (Seibido, 2018)
Yuko Koishi 『TOEIC TEST 英単語出るとこだけ!』(アルク、2016)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

進度は学習者のベースによって変更される可能性があります。

- 第1回講義概要・ TOEICテストについて
- 第2回UNIT 1Studying Abroad
- 第3回UNIT 2International Conference, 語彙テスト UNIT 1 (pp. 16-49)
- 第4回UNIT 3Holidays (小テスト 1)
- 第5回UNIT 4Leisure, 語彙テスト UNIT 2 (pp. 52-85)
- 第6回UNIT 5Restaurant (小テスト 2)
- 第7回ふりかえり
- 第8回UNIT 6Online Shopping, 語彙テスト UNIT 3 (pp. 88-125)
- 第9回UNIT 7Global Warming (小テスト 3)
- 第10回UNIT 8Websites, 語彙テスト UNIT 4 (pp. 128-166)
- 第11回UNIT 9Workplace (小テスト 4)
- 第12回UNIT 10Nursing Care, 語彙テスト UNIT 5 (pp. 168-202)
- 第13回UNIT 11Global Trading (小テスト 5)
- 第14回UNIT 12Eco-Friendly Economy, 語彙テスト UNIT 6 (pp. 204-237)
- 第15回UNIT 13Business Trips (小テスト 6)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% 定期試験・・・50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、授業前に必ず解答してくる。この予習を行うことを前提として授業を進めることについて了解したうえで、授業に臨むこと。教科書の音声は無料でダウンロード・ストリーミングすることができますので、必ず予習・復習に活用してください。LINGAPORTA (Web学習システム) を使って、必ず予習・復習を行い授業に臨むこと。2回の講義を済ませた後に、授業内容についての小テストを実施するので、必ず復習して授業に臨むこと。語彙テストに際しては、計画的に学習すること。

履修上の注意 /Remarks

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書（病院の領収書など）を見せてください。遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (済 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

英語を読んだり、聞いたりしたときの理解度・読解度を高めることが目的です。その到達度をみるためにTOEIC(R) Listening and Reading Testで350点を獲得することを目標とします。特に、初歩的な英文法の確認と語彙を増やす訓練をしていきます。また、TOEIC(R) Listening and Reading Testで高得点を目指すため、その練習に重点を置きます。

教科書 /Textbooks

Koji Hayakawa, Naoyuki Bamba, Nobuko Nakamura, Ken Suzuki
"The High Road to the TOEIC(R) Listening and Reading Test"
ISBN978-4-7647-4045-7 (1900円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 講義概要・ガイダンス
- 2 回 主語と述語と目的語と補語【文型】
- 3 回 品詞の働き【名詞】【動詞】【形容詞】【副詞】
- 4 回 述語に意味を加える表現【助動詞】
- 5 回 さまざまな名詞(1)【冠詞】
- 6 回 さまざまな名詞(2)【代名詞】
- 7 回 名詞を修飾するもの【形容詞】
- 8 回 動詞・形容詞・文全体を修飾するもの【副詞】
- 9 回 形容詞と副詞【比較】
- 10 回 名詞・形容詞・副詞の働きをする動詞【不定詞】
- 11 回 分詞の形容詞的用法【現在分詞】【過去分詞】
- 12 回 分詞の副詞的用法【現在分詞】【過去分詞】
- 13 回 名詞の前に置くことば【前置詞】
- 14 回 節をつなぐもの【接続詞】
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、課題20%、期末試験60%に出席状況・学習態度を加味して総合的に評価します。
(正当な理由なく、4回欠席した場合は、期末試験受験を認めません。)
尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語II (済 1-E) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定個所を予習する。疑問個所を明確にする。(60分程度)

事後学習：授業中の疑問が解消できたかを振り返る。それに関しては、類似問題で反復練習をする。(60分程度)

履修上の注意 /Remarks

毎回実施される小テストには、主に文法内容を問う問題が出題されます。テスト前の学習用にはもちろん、テスト後にも問題の意図を考え、不明点をはっきりさせるために、高校入試レベルでよいので、文法書を準備しておくと同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC listening reading

英語III (済 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction and course objectives
- 第2回 Social issues in the world
- 第3回 Research
- 第4回 Expansion
- 第5回 Consolidation
- 第6回 Presentation and Discussion
- 第7回 Presentation and Discussion
- 第8回 Analysis and Advice
- 第9回 Political issues in the world
- 第10回 Research
- 第11回 Expansion
- 第12回 Consolidation
- 第13回 Presentation and Discussion
- 第14回 Presentation and Discussion
- 第15回 Summary and exam guidance

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 30%, Participation 30%, Homework 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

none

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (済 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語III (済 1-E) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (済 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅳ
			ENG112F

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniquesn (Level1)
- Week 8 Control Techniques (Level2)
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Chartingn (Level1)
- Week 11 Charting (Level2)
- Week 12 Group Conversation (Level1)
- Week 13 Group Conversation (Level2)
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Attitude=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語IV (済 1-D) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis. All class content is subject to change.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (済 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills.
The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten. They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、総合的な教科書を用いて受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。
この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Kimura, Y. et al. 2017. Building English Essentials (伝えるための英語力). Tokyo: Nan'un-do.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced during the class. 授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Unit 1
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Unit 13
15. Unit 14

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 10%
Mini quizzes 小テスト 30%
Final examination 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook that you do not know or have forgotten.
教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the text and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。
No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

English is a tool for international communication. Let us improve our communicative skills and get a deeper deeper understanding about economy at the same time through working on the textbook.
英語は国際的コミュニケーションの道具です。教科書で学ぶことによって、コミュニケーションのスキルを向上させると共に経済に関する理解を深めましょう。

キーワード /Keywords

English, communication, economy
英語、コミュニケーション、経済

英語V (済 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

"The Toeic L&R Test ヴォキャブラリー徹底演習" by Satoru Furukawa/ Mikako Fujioka/ Geoffrey Tozer Sansyusya
Wicked and Shuddering Tales with Love by Yuko Hosokawa 開文社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listening の答え合わせ。
3. Listeningの訳。本文の読みを流暢になるまで練習する。
4. エッセイを深く味わう

1回 オリエンテーション

2回 Lesson 1 Part 1~4

3回 Lesson 1 Part 5~7

4回 Lesson 2 Part1~4

5回 Lesson 2 Part 5~7

6回 Lesson 3 Part 1~4

7回 Lesson 3 Part 5~7

8回 Lesson 4 Part 1~4

9回 Lesson 4 Part 5~7

10回 Chapter 1 Sredni Vashtar

11回 Chapter 2 Shredni Vastar

12回 復習

13回 Chapter 3

14回 Chapter 4

15回 総復習

英語V (済 2 - D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 25点 予習 10点 試験 ... 65点

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週、予習を調べます。翌週の最初に、前の週の復習内容を口頭で質問します。

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備 CDを聞いてディクテーションをしてくる。長文を訳してくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初回の授業で、指定席を決めます。授業の説明もするので、必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語V (済 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

新形式TOEIC® L&Rテスト問題対策の教科書を使用して、前半では各パートの問題を解く際に必要な基礎を身につけ、後半では実践問題を解くことにより、試験本番への対応力をつけることを目指します。
具体的には「重要フレーズ」、「重要センテンス」、「基本文法」などを、繰り返し学習することを通してマスターし、「実践問題」へと進むようにします。
Lesson 1～6 の総まとめをLesson 7 で、Lesson 8～13 の総まとめをLesson 14 で行い、それまで学んできた知識が身についているかを確認します。解けない問題や間違えた問題がある場合は、必ず復習をすることで単語力、英文読解力、リスニング力を高めていきます。

教科書 /Textbooks

Extreme Strategies for the TOEIC® Listening and Reading Test
濱崎 潤之輔 著、松柏社、2018年1月、
ISBN 978-4-88198-735-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEIC®テスト新公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
Lesson 01 Part 1 ① Part 5 ①
- 2回 Lesson 02 Part 2 ① Part 6 ①
- 3回 Lesson 03 Part 3 ① Part 7 一つの文書 ①
- 4回 Lesson 04 Part 4 ① Part 7複数の文書 ①
- 5回 Lesson 05 Part 1 ② Part 5 ②
- 6回 Lesson 06 Part 2 ② Part 6 ②
- 7回 Lesson 07 復習Lesson 01-06
- 8回 Lesson 08 Part 1 ③ Part 5 ③ Part 2 ③ Part 7 ②
- 9回 Lesson 09 Part 3 ② Part 5 ④ Part 4 ②
- 10回 Lesson 10 Part 1 ④ Part 6 ③ Part 2 ④ Part 7 複数の文書 ②
- 11回 Lesson 11 Part 3 ③ Part 7 複数の文書 ③ Part 4 ③
- 12回 Lesson 12 Part 2 ⑤ Part 5 ⑤ Part 3 ④ Part 7 一つの文書 ③
- 13回 Lesson 13 Part 4 ④ Part 7 一つの文書 ④
- 14回 Lesson 14 復習Lesson 08-13
- 15回 Lesson 15 実力テスト (Part 2-Part 4, Part 5 & Part 7)

英語V (済 2 - E) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・35% 期末試験・・・65%

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各Lessonで間違えた箇所がある場合は、必ず復習をしましょう。
ダウンロードした音声を活用すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (済 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。さらに文学作品を読んで、読解力を養い、文学について深く理解できるようにする。

教科書 /Textbooks

"The Toeic L&R Test ヴォキャブラリー徹底演習" by Satoru Furukawa/ Mikako Fujioka/ Geoffrey Tozer Sansyusya
Wicked and Shuddering Tales with Love by Yuko Hosokawa 開文社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト 2. Listening の答え合わせ。
3. Listeningの訳。本文の読みを流暢になるまで練習する。
4. 文学作品を深く味わう

- 1回 オリエンテーション 授業の進め方と席割りの説明
- 2回 Lesson 5
- 3回 Lesson 5
- 4回 Lesson 6
- 5回 Lesson 6
- 6回 Lesson 7
- 7回 Lesson 7
- 8回 Lesson 8
- 9回 Lesson 8
- 10回 Chapter 5 Canterville Ghost
- 11回 Chapter 5 Canterville Ghost
- 12回 総復習
- 13回 A Pair of Hands
- 14回 A Pair of Hands
- 15回 A pair of Hands

英語VI (済 2 - D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 25 点 予習 10 点 試験 ... 65 点
4 回以上の欠席は、受験資格を失う。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週、予習を調べます。翌週の最初に、前の週の復習内容を口頭で質問します。

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備 CD を聞いてディクテーションをしてくる。長文を訳してくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初回の授業で、指定席を決めます。授業の説明もするので、必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語VI (済 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester
 授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
 クラス /Class 済 2 - E / Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理能力		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

ジャパンタイムズ社が発刊している英字新聞Student Times から環境、自然、科学、スポーツ、社会、文化等をテーマにした様々な内容の英文記事を読み、英語の運用能力を高めると同時に、「自分の社会的な視野を広げる」ことを目的とします。
 英文記事を読むことに加えて「ライティング」や「リスニング」の演習を通し「英語で伝える」力へとつなげて行きます。音声データを活用して「読める英語は聞こえてくる」ことを実感してもらいたと思います。

教科書 /Textbooks

Intro to Reading The Japan Times ST / 『週刊ST』からはじめる時事英語
 (編著) 富永美喜
 松柏社 2018年1月
 ISBN 978-4-88198-740-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明
 Unit 1 Secondhand Mamachari Popular in London
- 2回 Unit 2 Djokovic Joins Greats with First French Open Title
- 3回 Unit 3 24,000 People Taken to Hospitals for Heatstroke, Record for July0
- 4回 Unit 4 Aomori Is Japan's Top Festival Destination: JTB Survey
- 5回 Unit 5 Cassiopeia Sleeper Train Makes Final Regular Service Run
- 6回 Unit 6 Food Shortages in Quake- Hit Area as Search for Survivors Continues
- 7回 Unit 7 Quakes Prompt Calls to Switch off Nuclear Reactors
- 8回 Unit 8 Hokuriku Shinkansen Links Tokyo, Kanazawa
- 9回 Unit 9 Obama Calls for Nuclear- Free World in Historic Hiroshima Visit
- 10回 Unit 10 Still the Greatest: Boxing Legend Muhammad Ali Dies, Age 74
- 11回 Unit 11 Hanyu Wins Grand Prix Final with Another Record Total
- 12回 Unit 12 Shakespeare's London
- 13回 Unit 13 Trump Beats the Odds, Becomes U.S. President in Huge Upset
- 14回 Unit 14 Pope Urges World Leaders to Act Without Delay on Climate Change
- 15回 Unit 15 Solar-Powered Flight、まとめ

英語VI (済2-E) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・35% 期末試験・・・65%

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ①各Unitの演習問題はTOEIC対策問題として活用しますので、必ず取り組みましょう。
- ②巻末付録の「語彙リスト」を復習に活用しましょう。
- ③授業以外でも英字新聞や英語ニュースを通して時事英語にふれるようにしましょう。
- ④各unitで取り上げられたテーマの内容を理解するため日本語の新聞にも目を通しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①ダウンロードした音声を活用し、必ず予習をして授業に臨むこと。
- ②辞書を持参すること。

キーワード /Keywords

英語VII (済 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 済 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 “Weekends”
- 3 回 Text Unit 2 “Excuses”
- 4 回 Text Unit 3 “Life Events”
- 5 回 Text Unit 4 “Travel”
- 6 回 Text Unit 5 “Culture Shock”
- 7 回 Text Unit 6 “Party Time”
- 8 回 Text Unit 7 “Describing People”
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 “Movies”
- 1 1 回 Text Unit 10 “Big Issues”
- 1 2 回 Text Unit 13 “Keepsakes”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Speaking Test...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review the text each week.

履修上の注意 /Remarks

Listening homework is recommended.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded in every class on how much you speak and how active you are.

キーワード /Keywords

英語VII (済 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

このコースではVOA (Voice of America)の放送内容で構成されたテキストを用いて世界規模の環境や健康にまつわるニュースレポートを学習します。VOAはアメリカの国営放送機関で世界に向けてさまざまなトピックのニュースや特集を配信しています。その中のLearning Englishというセクションでは、非英語話者対象に基本語彙と3分の2程度のスピードで読まれた英語を使ってニュースや特集レポートを配信しています。VOA Learning Englishは平易な英語で高度な内容を理解、伝達するためにはもっとも効果的な教材のひとつなのです。

このコースではVOAの教材を使って、医療・環境分野の的を絞ったインプットを繰り返し語彙、フレーズの定着を図り、それらを使って医療・環境分野の内容を英語でアウトプットすることができるように練習をたくさんします。

教科書 /Textbooks

Seisuke Yasunami / Richard S. Lavin 『Health & Environment Reports from VOA Volume 1』松柏社 ¥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『一億人の英文法―すべての日本人に贈る「話すため」の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ著、東進ブックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . インTRODクシヨN : 授業の進め方、成績評価の方法、グループ編成。必ず出席すること。chapter 1
- 2 . chapter 2
- 3 . chapter 3
- 4 . chapter 4
- 5 . chapter 5
- 6 . chapter 6
- 7 . chapter 7
- 8 . chapter 8
- 9 . chapter 9
- 1 0 . chapter 10
- 1 1 . chapter 11
- 1 2 . chapter 12
- 1 3 . chapter 13
- 1 4 . chapter 14
- 1 5 . chapter 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (提出物、発表回数、自主学習状況など) : 20%
毎回の単語テスト : 30%
定期試験 : 50%

英語VII (済 2 - E) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業日で扱う範囲の問題を解答する
事後学習：単語テストに備えて、学習した範囲の単語学習をする

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分野を絞った大量のインプットとアウトプットのための練習。訳して終わり、の授業ではありません。積極的にかつ楽しんで参加することを期待しています。英語学習に役立つアプリなどもたくさん紹介しますのでご期待を。

キーワード /Keywords

VOA

英語VIII (済 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Classroom Work...33.33% Speaking Test...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review the text each week. Listening homework is recommended.

履修上の注意 /Remarks

Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (済 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 済 2 - E / 済 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in one on one debate. Students will practice critical thinking and language skills which will allow them to express their opinions and influence others through logical, reasoned discussion.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 SYLLABUS / ESSENTIAL CLASSROOM ENGLISH
- 2 回 CRITICAL THINKING – LISTENING FOR KEY WORDS AND ANALYZING IDEAS
- 3 回 CRITICAL THINKING – AGREEING, DISAGREEING AND PROVIDING REASONS
- 4 回 CRITICAL THINKING – STARTING & ENDING A DEBATE
- 5 回 IDEA MATCHING PRACTICE
- 6 回 DEBATE TOPIC 1 – “THE PRO / PRO DEBATE”: STAYING POSITIVE
- 7 回 DEBATE TOPIC 1 PRESENTATION
- 8 回 PRO / CON MATCHING PRACTICE
- 9 回 DEBATE TOPIC 2 – “THE PRO / CON DEBATE”: PERSUADING
- 10 回 DEBATE TOPIC 2 PRESENTATION
- 11 回 INCLUDING RESEARCH IN DEBATE
- 12 回 DEBATE TOPIC 3 – “THE WELL INFORMED DEBATE”: BEING FACTUAL
- 13 回 DEBATE TOPIC 3 PRESENTATION
- 14 回 FINAL TEST: ORIGINAL DEBATE PREPARATION I
- 15 回 FINAL TEST: ORIGINAL DEBATE PREPARATION II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework will be assigned.

履修上の注意 /Remarks

Japanese/English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is a class which involves full participation on the part of every student. Idea sharing and practice will heavily depend on pair and group work. Weekly class attendance is expected.

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 済営律政 3年 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 2 (4th Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Reading Sectionの英文の意味を確認しておくこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力のさらなる伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行うこと。

英語X (済営律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 3年次 / 3rd Year
 単位 /Credits: 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester: 1学期 / 1st Semester
 授業形態 /Class Format: 講義 / Lecture
 クラス /Class: 済営律政 3年 / 3rd Year of School Entrance

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X I	ENG302F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class, 3rd edition』 (2015) Talandis, G. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Golden rules
- 3回 Exchanging basic information
- 4回 Majors, school years, and clubs
- 5回 Part-time jobs
- 6回 Daily routines
- 7回 Hardest/easiest days of the week
- 8回 Spending time
- 9回 Hometown attractions
- 10回 Hometown likes and dislikes
- 11回 Where to live in the future
- 12回 Travel experiences
- 13回 Future travel ideas and plans
- 14回 Planning a trip
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare (about 60 min.) and review (about 60 min.) for each class.

英語XI (済営律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII (済営律政 3 年) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 周 艶陽 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 周 艶陽 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語 I	CHN301 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひとつおりの終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 授業説明、基礎復習
 - 第2回 第1課文法、聴解練習
 - 第3回 第1課読む、会話、作文練習
 - 第4回 第2課文法、聴解練習
 - 第5回 第2課読む、会話、作文練習
 - 第6回 第3課文法、聴解練習
 - 第7回 第3課読む、会話、作文練習
 - 第8回 場面の体験1
 - 第9回 第4課文法、聴解練習
 - 第10回 第4課読む、会話、作文練習
 - 第11回 第5課文法、聴解練習
 - 第12回 第5課読む、会話、作文練習
 - 第13回 第6課文法、聴解練習
 - 第14回 第6課読む、会話、作文練習
 - 第15回 場面の体験2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BC T初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　翻訳力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語II	CHN311 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。
中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

教科書 /Textbooks

前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期

- 第1回 第7課文法、聴解練習
- 第2回 第7課読む、会話、作文練習
- 第3回 第8課文法、聴解練習
- 第4回 第8課読む、会話、作文練習
- 第5回 場面の体験1
- 第6回 第9課文法、聴解練習
- 第7回 第9課読む、会話、作文練習
- 第8回 第10課文法、聴解練習
- 第9回 第10課読む、会話、作文練習
- 第10回 場面の体験2
- 第11回 第11課文法、聴解練習
- 第12回 第11課読む、会話、作文練習
- 第13回 第12課文法、聴解練習
- 第14回 第12課読む、会話、作文練習
- 第15回 場面の体験3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅲ	CHN302 F

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著 北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版) 中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 第1課 「认识一下」新出単語 本文会話1 2
- 2回目 第2課 「吃点儿什么」新出単語 本文会話1 2
- 3回目 第1課、第2課会話練習
- 4回目 第3課「在校园里」新出単語 注釈 本文会話1
- 5回目 第3課「在校园里」注釈 本文会話2
- 6回目 第4課「住的麻烦」新出単語 注釈 本文会話1
- 7回目 第4課「住的麻烦」注釈 本文会話2
- 8回目 中間復習
- 9回目 第5課「做客」新出単語 注釈 本文会話1
- 10回目 第5課「做客」注釈 本文会話2
- 11回目 第6課「旅行计划」新出単語 注釈 本文会話1
- 12回目 第6課「旅行计划」注釈 本文会話2
- 13回目 第7課「生活服务」新出単語 注釈 本文会話1
- 14回目 第7課「生活服务」注釈 本文会話2
- 15回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価

平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)

定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語Ⅳ	CHN312F

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話力を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版)中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 一回目 第11課「购物」新出単語 注釈 本文会話1
- 二回目 第11課「购物」注釈 本文会話2
- 三回目 第12課「谈论朋友」新出単語 注釈 本文会話1
- 四回目 第12課「谈论朋友」注釈 本文会話2
- 五回目 第14課「体育健身」新出単語 注釈 本文会話1
- 六回目 第14課「体育健身」注釈 本文会話2
- 七回目 中間復習
- 八回目 第15課「各有所爱」新出単語 注釈 本文会話1
- 九回目 第15課「各有所爱」注釈 本文会話2
- 十回目 第16課「理想的职业」新出単語 注釈 本文会話1
- 十一回目 第16課「理想的职业」注釈 本文会話2
- 十二回目 第17課「业余爱好」新出単語 注釈 本文会話1
- 十三回目 第17課「业余爱好」注釈 本文会話2
- 十四回目 第18課「中国家庭」新出単語 注釈 本文会話1
- 十五回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2017年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社（2017年3月）、2,200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか【願望・勧誘形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。期末試験前に会話テストがあるので、履修者は全員受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語 2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語Ⅶと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営人律政群 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかり学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事などを報告してもらい、自然な日常会話に慣れるよう心がける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語 改訂版』、白水社 (2017年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 7回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 8回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 14回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅷ	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事を報告してもらい、自然な会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語 改訂版』、白水社 (2017年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
- 3回 ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
- 4回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 5回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 6回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 7回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 8回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 9回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 10回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 11回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 12回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 13回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 14回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのが復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	KRN311F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜淑 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

金京子『読んでみよう韓国語—中級読解コース—』（白水社、2018年3月、2300円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V/VI』の復習
- 第3回目 第1課 学校生活【スキットを讀んでみよう】
- 第4回目 第1課 学校生活【文法、練習問題】
- 第5回目 第2課 アルバイト【スキットを讀んでみよう】
- 第6回目 第2課 アルバイト【文法、練習問題】
- 第7回目 第3課 私の一日【スキットを讀んでみよう】
- 第8回目 第3課 私の一日【文法、練習問題】
- 第9回目 第4課 プレゼント【スキットを讀んでみよう】
- 第10回目 第4課 プレゼント【文法、練習問題】
- 第11回目 第5課 風邪【スキットを讀んでみよう】
- 第12回目 第5課 風邪【文法、練習問題】
- 第13回目 第6課 休日【スキットを讀んでみよう】
- 第14回目 第6課 休日約束【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

金京子『読んでみよう韓国語—中級読解コース—』（白水社、2018年3月、2300円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 前期の復習
- 第3回目 第7課 夏休み【スキットを読んでみよう】
- 第4回目 第7課 夏休み【文法、練習問題】
- 第5回目 第8課 趣味【スキットを読んでみよう】
- 第6回目 第8課 趣味【文法、練習問題】
- 第7回目 第9課 大学祭【スキットを読んでみよう】
- 第8回目 第9課 大学祭【文法、練習問題】
- 第9回目 第10課 仕事【スキットを読んでみよう】
- 第10回目 第10課 仕事【文法、練習問題】
- 第11回目 第11課 日記【スキットを読んでみよう】
- 第12回目 第11課 日記【文法、練習問題】
- 第13回目 第12課 外国語の勉強【スキットを読んでみよう】
- 第14回目 第12課 外国語の勉強【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 学習状況...20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

ロシア語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 学習状況 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

ロシア語II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅲ	RUS102 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題 ... 10% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習 60分、復習 60分です。)

ロシア語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英中国済営比人律
/Class 政1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしてしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

ロシア語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の用法・派生、運動の動詞など、より複雑な文法の学習を行う。到達目標は、文章語の読解力を養うこと。

教科書 /Textbooks

古賀・鴻野著『ロシア語の教科書』（第2版）、ナウカ出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○ブリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 定動詞・不定動詞(1)、完了体・不完了体
- 2回 関係代名詞(1)、形容詞・副詞の比較級と最上級
- 3回 個数詞と名詞句の結合、年齢表現、値段表現
- 4回 時間表現、不定使用法、不規則変化動詞
- 5回 不定人称文、仮定法(1)、複文(1)
- 6回 移動動詞の派生、曜日表現
- 7回 関係副詞、関係代名詞(2)、勧誘法表現、年月日表現
- 8回 相互代名詞、述語生格、仮定法(2)、普遍人称文
- 9回 無人称動詞、定動詞・不定動詞(2)、再帰所有代名詞、「春の祝日について」
- 10回 副動詞、形動詞現在
- 11回 完了動詞・不完了動詞の派生、祝辞表現
- 12回 時刻表現、概数、姓の格変化
- 13回 複文(2)、存在状態を表す動詞と動作動詞(「横たわっている」と「横になる・横たわせる」)
- 14回 形動詞過去、間接命令法
- 15回 定代名詞、特殊変化動詞、「呼格について」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・課題・学習状況 ... 40%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には、テキストの読み、練習問題の課題を課すので準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語V 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数（数十冊以上）ありますので利用してください。

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211F

授業の概要 /Course Description

テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。さらに、マスコミ記事などの読解を通じて、ロシア社会、ロシア文化についての理解を深める。
到達目標は、ノーマルスピードのやさしい会話が理解できるようになること、読解力を養うこと。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので準備が必要。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数(数十冊以上)ありますので利用してください。

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜、アンナ・パーニナ校閲、ナウカ出版、2016年改訂版
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第9 課① 【動詞の未来形】、【無人称文】
- 2回 第9 課② 【夏休みの計画】、【特殊変化】
- 3回 第9 課③ 会話練習
- 4回 第10 課① 【命令形】、【否定性格】
- 5回 第10 課② 【全否定の表現】、【不規則動詞】
- 6回 第10 課③ 【様々は...が痛い】、【私は気分がいい】
- 7回 第10 課④ 会話練習
- 8回 第11 課① 【造格】
- 9回 第11 課② 【移動動詞 ①】
- 10回 第11 課③ 【先生の語り】
- 11回 第12 課① 【移動動詞 ②】、【不完了体と完了体】
- 12回 第12 課② 【体のペア】、【体の用法】
- 13回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 14回 ビデオ学習② 会話練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」、「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語III」、「ロシア語IV」、「ロシア語VII」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101F

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。
学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻/あいさつ(2)/時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う/アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物/メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie/命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語/建物など 文法：名詞の性/定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持つてる? 持つてない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物/値段 文法：名詞と冠詞の3格/複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

ドイツ語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
前回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「テレビでドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。
ただし、毎時間必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。
授業の中でもドイツ語圏の社会や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語II	GRM111F

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識およびコミュニケーション力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
前回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提にして行われます。受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。

ドイツ語II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。ドイツ語IIの時間でも、必要に応じてドイツ語圏の生活や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営人律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 2 場面学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫言いで話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞かるとき
- 8回 綴りを聞かるとき、英語の分る人を探さるとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞かるとき、道順・方向を聞かるとき、距離を聞かるとき
- 11回 時刻を聞かるとき、時間を聞かるとき、曜日を聞かるとき、日付を聞かるとき
- 12回 値段を聞かるとき、数量を聞かるとき、方法を聞かるとき、理由を聞かるとき
- 13回 目的を聞かるとき、住所を聞かるとき、出身地を聞かるとき、生年月日を聞かるとき
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞かるとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞かるとき、相手の感想を聞かるとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞かるとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞かるとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞かるとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 être の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつけて聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語II	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDをつけて聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてなによりもフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音展・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

アミカルマン<ブリュス> フランス語・フランス文化への誘いー リリアヌ・ラタンジオ 他著、駿河台出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の子音と母音
- 2回 あいさつ
- 3回 自己紹介
- 4回 年齢、趣味
- 5回 質問する(1)
- 6回 質問する(2)
- 7回 ものや人物の説明(1)
- 8回 ものや人物の説明(2)
- 9回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)
- 10回 予定
- 11回 過去のことを言う(1)
- 12回 過去のことを言う(2)
- 13回 時間と天候
- 14回 依頼する
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)、学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習内容は講義中に指示します。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同じく基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

アミカルマン<ブリュス>-フランス語・フランス文化への誘い リリアンヌ・ラタンジオ他 著、駿河台出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 贈り物をする(1)
- 2回 贈り物をする(2)
- 3回 日常の行動(1)
- 4回 日常の行動(2)
- 5回 旅行する
- 6回 過去のことを言う(3)
- 7回 過去のことを言う(4)
- 8回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)
- 9回 未来の計画(1)
- 10回 未来の計画(2)
- 11回 未来の計画(3)
- 12回 街を歩く
- 13回 夢を語る
- 14回 感情を表現する
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習内容は講義中に指示します。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

会話文と日記文を通して初級で学んだ文法を復習し、より複雑な表現を口頭練習や作文練習を通して定着させます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ フランスの世界遺産と食文化を巡る旅2』藤田裕二著（朝日出版 2017年 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 受動態
- 2回目 なぜ?—なぜなら、の表現 (1課終了)
- 3回目 形容詞の最上級
- 4回目 関係代名詞1 (2課終了)
- 5回目 関係代名詞2
- 6回目 勧誘と応答の表現 (3課終了)
- 7回目 疑問代名詞
- 8回目 不定代名詞 on (4課終了)
- 9回目 条件法現在
- 10回目 条件法過去 (5課終了)
- 11回目 代名動詞の複合過去
- 12回目 複合過去復習 過去分詞の性数一致 (6課終了)
- 13回目 半過去
- 14回目 指示代名詞 ce (7課終了)
- 15回目 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：20% 小テスト：20% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキスト準拠ホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後学習として、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳、例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

辞書（紙でも電子でもよい）を必携すること。1年次で使用したテキストを復習用として活用すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、中級レベルの会話文や日記文を参考にして、より正確にまたニュアンスのある表現力を身に着けます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ フランスの世界遺産と食を巡る旅2』藤田裕二著（朝日出版社 2017年 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 接続法現在
- 2回目 「~のように見える」の表現（8課終了）
- 3回目 位置を表す前置詞
- 4回目 勧誘・提案の表現3（9課終了）
- 5回目 現在分詞
- 6回目 ジェロンディフ（10課終了）
- 7回目 副詞について
- 8回目 時と場所の副詞（11課終了）
- 9回目 所有代名詞
- 10回目 お礼の表現（12課終了）
- 11回目 間接話法
- 12回目 時制の一致（13課終了）
- 13回目 強調構文
- 14回目 時を表す前置詞句（14課終了）
- 15回目 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：20% 小テスト：20% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト準拠のホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後には文法を項目ごとにまとめ、単語帳と例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を必携すること。1年次に使用したテキストを復習用として活用すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的にプリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1 : 自己紹介 (復習)
- 4) unité 2 : 質問する (前半)
- 5) unité 2 : 質問する (後半)
- 6) unité 2 : 質問する (復習)、小テスト
- 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
- 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
- 9) unité 3 : 買い物をする (復習)
- 10) unité 4 : いつ (前半)
- 11) unité 4 : いつ (後半)
- 12) unité 4 : いつ (復習)、小テスト
- 13) unité 5 : どこ (前半)
- 14) unité 5 : どこ (後半)
- 15) 前期の復習、小テスト

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト(3回)・・・ 60%
期末テスト・・・ 20%
授業中の「取り組み」は20%ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的にプリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6 : 誰 (前半)
 - 2) unité 6 : 誰 (後半)
 - 3) unité 6 : 誰 (復習)、リスニング
 - 4) unité 7 : 何 (前半)
 - 5) unité 7 : 何 (後半)
 - 6) unité 7 : 何 (復習)、小テスト
 - 7) unité 8 : どのように (前半)
 - 8) unité 8 : どのように (後半)
 - 9) unité 8 : どのように (復習)、読解
 - 10) unité 9 : 過去について (前半)
 - 11) unité 9 : 過去について (後半)
 - 12) unité 9 : 過去について (復習)、小テスト
 - 13) unité 10 : 仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10 : 仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト(2回)・・・ 40%
プレゼンテーション・・・ 20%
レポート・・・ 20%
授業中の「取り組み」は20%ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは5つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせなので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。
またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書 /Textbooks

『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

口ボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
- 2回 5つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
- 3回 名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
- 4回 人称代名詞、一般動詞の活用（3つのタイプ）：直説法現在
- 5回 一般動詞の活用（1）と基本文例、肯定文、否定文
- 6回 一般動詞の活用（2）と基本文例、否定文、疑問文
- 7回 一般動詞の活用（3）と基本文例、目的語と前置詞
- 8回 一般動詞の復習、形容詞
- 9回 ser動詞とestar動詞（1）
- 10回 ser動詞とestar動詞（2）およびhayについて
- 11回 疑問詞を使った疑問文（1）
- 12回 疑問詞を使った疑問文（2）
- 13回 不規則動詞の活用、指示詞
- 14回 短文を読む（プリント）
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

外国語の学習には辞書が必須です。毎回の授業前には単語の意味を調べておきましょう。また、テキストの各課には「練習問題」がありますが、回答を正しく表記できるか問題文（スペイン語）を含めて、自分で書いてください。強制ではありませんが、毎回提出すれば、教員が「赤」を入れて返却します。

スペイン語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制です。一般動詞（規則動詞）に加えて、重要な不規則動詞の活用とその基本的文例を幅広く学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版）
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅰの復習
- 2回 直説法現在一不規則動詞の活用（1）
- 3回 指示代名詞と基本文例
- 4回 指示形容詞と基本文例
- 5回 不規則動詞の活用（2）
- 6回 所有形容詞と文例、人称代名詞目的格
- 7回 不規則動詞の活用（3）直接目的格
- 8回 不規則動詞の活用（4）間接目的格
- 9回 前置詞と基本文例
- 10回 前置詞と人称代名詞
- 11回 gustar型の動詞（1）
- 12回 gustar型の動詞（2）
- 13回 再帰動詞と基本表現
- 14回 無人称表現、曜日・日付の表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず授業の前に、辞書で単語の意味を調べてください。毎回授業には辞書を持参しましょう。また、教科書の各課には練習問題があります。授業で終わった段階で、練習問題文（スペイン語）を含めて、回答を正確に表記できるか確かめましょう。できれば、毎回提出すれば、「赤」を入れて返却します。

スペイン語II【昼】

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペインもイバナアメリカも「情熱の国です!」。熱意でスペイン語に挑戦!

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声を出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://los40.com/> (スペイン語圏に広がるFMラジオ放送のサイト。音楽が中心。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、会話表現の文法事項を学びながら、モデル会話を覚え、語彙を増やして行きましょう。会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。口に出して発音をすることでフレーズを覚えましょう。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：<http://www.rtve.es/>

<http://los40.com/>

<http://www.cadena100.es/>

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。改訂版なので昨年の2年生で使ったものとは違いますので、注意して下さい（現在生協で売っているものです）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIVEスペイン語辞典（小学館）
 パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1年の復習(代名詞を中心に)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)
- 3 再帰動詞、無人称文など
- 4 再帰動詞、無人称文など
- 5 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)
- 6 同上
- 7 ここまでの復習
- 8 点過去、現在完了の用法
- 9 同上
- 10 同上
- 11 線過去の用法
- 12 同上
- 13 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習
- 14 視聴覚教材を使って
- 15 同上

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材(プリント配布)を視聴覚教材として随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストに対するプリントなどの補助教材はポータルから送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントも文書管理に残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 未来形とその関連時制の用法
 - 2 同上
 - 3 前期を含め、様々な構文のまとめ（受け身、使役、放任、比較など）
 - 4 同上
 - 5 過去完了と時制の一致
 - 6 受け身文、無人称文
 - 7 同上
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法
 - 10 接続法の用法
 - 11 スペイン語版トトロを理解する
 - 12 スペイン語版トトロを理解する
 - 13 スペイン語版トトロを理解する
 - 14 スペイン語版トトロを理解する
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

上記テキスト以外のプリントなどの補助教材はポータルから送ります。授業時に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布（テキスト購入不要）
始めの方は前年度の教科書を持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、自己紹介
- 2回 他人の紹介、人についての表現
- 3回 一日のスケジュール
- 4回 日常の紹介(1)
- 5回 日常の紹介(2)
- 6回 買い物(1)
- 7回 買い物(2)
- 8回 好きなこと
- 9回 食事について(1) パエージャの作り方
- 10回 食事について(2)
- 11回 旅行
- 12回 休暇の過ごし方 どこへ?
- 13回 スペイン語圏について
- 14回 町の紹介
- 15回 まとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

スペイン語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上の字幕付きビデオを見て、内容把握をしてもらうこと。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはず。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/>（スペイン国営放送 TVE）

<http://los40.com/>（スペイン語圏に広がる音楽FM放送）

<http://www.cadena100.es/>（スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

前期のスペイン語Ⅶをさらに発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(テキスト購入不要)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期表現の復習、休暇中のこと
- 2回 さあ食べよう！今日の定食
- 3回 趣味の事(1)
- 4回 趣味のこと(2)
- 5回 仕事の紹介
- 6回 企業について
- 7回 旅行(1)
- 8回 旅行(2)
- 9回 過去の出来事(1)
- 10回 小さかった時
- 11回 過去の出来事(2)
- 12回 現在の推測
- 13回 スペイン語のDVDを理解する(1)
- 14回 スペイン語のDVDを理解する(2)
- 15回 まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上のビデオを見て、字幕を読み予習しておく。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努める。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。疑問に思ったことはどんどん辞書を引いてください。

スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の2年目前期を終え、会話実例がどんどん出てくることに慣れてきたと思います。後期では過去形もふんだんに使用するビデオを見いきます。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも訓練の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができます。また、オンラインで見られる映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> など

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

数学【昼】

担当者名 /Instructor 熊谷 啓希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済1年IIグループ /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済の諸問題を数理的に理解するための基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

数学

MTH100M

授業の概要 /Course Description

経済学の本質を学ぶ上で、数学を避けて通ることはできない。その上で本授業での目的は3つある。1つ目は、経済学でよく出てくる基本的な数学の知識を、「転ばぬ先の杖」として身につけておくことである。今後、当たり前のように数学の知識が使われたときに困らないように学習しておく。関数の使い方、微分の方法と意味などについて学習を深める。2つ目は、数学への「苦手意識」をなくすことである。数学にアレルギー反応を起こしている、この先スムーズに学びを進めることはできない。苦手な人はここでしっかりと数学と向き合っ、数学を退治してほしい。3つ目は、経済学と数学がどうつながっているのかを理解することである。そのために、「経済学的な例」を用いて数学を学んでいく。特に、売り上げや利潤の最大化問題を初め、日常の問題を経済学的に考える。本講義内容を修得することは、多岐にわたる専門経済学を修める際に本質的な理解を深め、物事をシンプルに、論理的に考える力を養い、問題解決の能力を高めることにつながる。

教科書 /Textbooks

経済数学入門一初歩から一歩ずつ、丹野忠晋、日本評論社、2017年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・改訂版 経済学で出る数学一高校数学からきちんと攻める、尾山大輔・安田洋祐、日本評論社、2016年
- ・経済学で出る数学一ワークブックでじっくり攻める、白石俊輔、日本評論社、2014年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション+リハビリ【因数分解、平方完成、一次方程式、二次方程式】
- 第2回関数と経済学(1):関数とは何か【一次関数で市場均衡を解く、二次関数の描き方と形状】
- 第3回関数と経済学(2):関数の最大化【二次関数で利潤最大化問題が解ける】
- 第4回いろいろな関数(1):分数関数【基本的な分数関数、分数関数の平行移動、需要の価格弾力性】
- 第5回いろいろな関数(2):無理関数と逆関数【基本的な無理関数、生産関数、基本的な逆関数、求め方と性質】
- 第6回数列とその極限(1):【等差数列と単利法、等比数列と複利法、割引現在価値】
- 第7回数列とその極限(2):【Σ、数列の極限、収束と発散、無限等比数列の極限、無限等比数列の和の極限】
- 第8回中間テストおよび、微分とは何か(1)【これまでの範囲の中間テスト、微分の定義】
- 第9回微分とは何か(2)【導関数、べき乗法則の導出】
- 第10回微分の応用(1)【微分の公式(積・商・逆数・合成関数・逆関数)、接線】
- 第11回微分の応用(2)【微分と関数の増減、一階条件、一階条件の使い方】
- 第12回微分の応用(3)【利潤最大化問題と効用最大化問題を微分で解く、限界費用と限界効用】
- 第13回2階導関数【2階微分の意味、2階微分とグラフの凹凸、限界効用逓減の法則】
- 第14回2変数関数と偏微分【偏微分とは、偏微分のやり方、2変数効用関数】
- 第15回2変数関数と偏微分【2変数効用関数を偏微分する意味、まとめ】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト・・・40%
期末試験・・・60%

数学【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

内容が多岐にわたるだけでなく、初めて聞く考え方もたくさん出てきます。試験前に慌てて勉強しても間に合いません。頭を整理するためにも、特に毎回の復習を必ず行うようにしてください。具体的には、以下のように取り組むことをおすすめします。

1日後に、教科書と照らし合わせながらノートを見返し、授業中で解いた問題をじぶんで解きなおす⇒60分

6日後に、再度ノートを見返し、内容は覚えているか、分からないところはないか確認する⇒30分

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「なんで経済学部に入ったのに数学があるの...」「大学の数学ってむずかしそう」と不安を感じている方に対し、なるべく詳しく説明していきたいと思っています。とはいえ、決して簡単な内容ではありません。数学はめんどくさがらなければ、必ずわかるようになります。毎回の復習をちゃんと行き、授業後に質問するなどして、しっかりついてきてほしいと思います。がんばりましょう！

キーワード /Keywords

関数、数列、極限、微分、偏微分

入門演習【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. ガイダンス【研究倫理】
2. 研究テーマの設定と検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力を養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. ガイダンス【研究倫理】
2. 研究テーマの設定と検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. ガイダンス【研究倫理】
2. 研究テーマの設定と検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. ガイダンス【研究倫理】
2. 研究テーマの設定と検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. ガイダンス【研究倫理】
2. 研究テーマの設定と検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. ガイダンス【研究倫理】
2. 研究テーマの設定と検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. ガイダンス【研究倫理】
2. 研究テーマの設定と検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. ガイダンス【研究倫理】
2. 研究テーマの設定と検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：ガイダンス【研究倫理】
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：ガイダンス【研究倫理】
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：ガイダンス【研究倫理】
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：ガイダンス【研究倫理】
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：ガイダンス【研究倫理】
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：ガイダンス【研究倫理】
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：ガイダンス【研究倫理】
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：ガイダンス【研究倫理】
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：ガイダンス【研究倫理】
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

演習Iでは、2年次までに習得した経済学に関する知識を改めて修得してもらい、ゼミ論文、卒業論文作成における土台を築いていきます。演習では、講義のように教員の話をお聴きだけでなく、自分の意見を発言できる機会があり、間違っただけを発言したからといって、責められることはなく、失敗したことから多くのことを学べる機会があると思います。そのため受講生には積極的・主体的な参加が求められます。

教科書 /Textbooks

酒井 聡樹、『これから研究を始める高校生と指導教員のために-研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター発表の仕方-』、共立出版、2013年（2,808円）
山本 勲、『実証分析のための計量経済学』、中央経済社、2015年（2,808円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～3回 文献精読について
- 4～5回 伝える技術の習得
- 6～9回 文献輪読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 10～11回 文献輪読と論文の書き方
- 12～15回 文献輪読と調査・研究の方法

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度および発表内容...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭での確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

地域の現場に足を運んで様々な方々に取材を試みながら、「新しい地域づくりのアイデア」の創出を目指します。よって、取材のための知識・ノウハウを習得しながら、アイデア創出のためのフレームワークを学びます。また同時に、激変する環境変化の中で、的確に時代潮流を見極めるための文献を購読します。最終的には対象とした地域の関係者に対して、「新しい地域づくりのアイデア」についてプレゼンテーションを実施します。

教科書 /Textbooks

藤井誠二『ネット時代の「取材学」』IBCパブリッシング（2017年10月）
遠藤功『経営戦略の教科書』光文社新書（2011年7月）
河合雅司『未来の年表』講談社現代新書（2017年6月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○リンダ・グラットン『ワーク・シフト』プレジデント社（2012年8月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究倫理】
- 第2回 レジユメの作成・報告の仕方（レクチャー）
- 第3回 取材の基本と実際（レクチャー）
- 第4回 取材に係る文献のレジユメ報告
- 第5回 フィールドワーク（取材の実践）
- 第6回 各自による取材報告
- 第7回 フレームワークを活用した地域の分析方法（レクチャー）
- 第8回 フレームワークに係る文献のレジユメ報告
- 第9回 これからの世界・日本・地方（レクチャー）
- 第10回 時代潮流に係る文献のレジユメ報告
- 第11回 対象地域に対する情報収集
- 第12回 対象地域のフィールドワーク
- 第13回 新しい地域づくりのアイデア創出のためのディスカッション
- 第14回 新しい地域づくりのアイデア創出のための作業・調整
- 第15回 新しい地域づくりのアイデアについての報告

成績評価の方法 /Assessment Method

レジユメ作成45%、ディスカッションにおける貢献度25%、チームによる共同研究30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィールドワークの前はネット等を活用して事前に個人で情報収集をしてください。フィールドワークの後にはきちんと個人でその成果をまとめてください。

履修上の注意 /Remarks

フィールドワークを行なう授業がありますので、各種のスケジュール調整を適切に行なってください。

専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

ファイナンスについて学ぶ。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス【研究倫理】
2～15回 テキストを輪番で発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の内容について予習・復習に努めること。

履修上の注意 /Remarks

日本経済新聞を購読することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

自分の問題意識をデータを通じて調べる。
データ解析の考え方と方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩 『数学ガールの秘密のノート：やさしい統計』 SB Creative 2016.
田中隆一 『計量経済学の第一歩』 有斐閣 2015.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストを輪読する。
1回から15回：各章担当を決めて、レジユメを作成して、報告するという形式でゼミを進める

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を事前に読み、指定された教科書で復習する。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学を既に受講していることが望ましい。
前回の復習をして演習に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

金融理論の基礎を学びながら、経済現象をとらえる知識を身につける

教科書 /Textbooks

特になし。プリント・資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス【研究倫理】
第2回～第14回 輪読・報告
第15回 まとめ 専門演習IIへの準備

ゼミ合宿に行く予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み・・・50%、報告内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の報告内容の改善と報告の準備をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

前回の報告内容の改善と報告の準備をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本専門演習は、ミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総体的に把握することはますます困難なことになっている。ここではさらに、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

未定。演習生のミクロ経済学に対する理解の程度を確認し、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 西村和雄『ミクロ経済学入門（第2版）』岩波書店（○）
- ・ 武隈慎一『ミクロ経済学（増補版）』新世社（○）
- ・ 岩田規久男『ゼミナールミクロ経済学入門』日本経済新聞社（○）
- ・ 友野典男『行動経済学』光文社新書（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* 現実の経済との関係についての理解を高めるために、適時課題を出す。1学期の専門演習の結果として、2学期の専門演習において興味をもって研究できるテーマの大きなアウトラインを固める。

- 1回 イントロダクション：【研究倫理】【演習目標・方法・計画】
- 2回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（1）
- 3回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（2）
- 4回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（3）
- 5回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（4）
- 6回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（5）
- 7回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（6）
- 8回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（7）
- 9回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（8）
- 10回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（9）
- 11回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（10）
- 12回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（11）
- 13回 特殊な経済行動研究入門（1）
- 14回 特殊な経済行動研究入門（2）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 研究報告・演習への参加態度 ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておくこと、本演習の成果をより大きなものにする。
- ・ ゼミ合宿や旅行などを実施する場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 常に現実のミクロ経済に関心を持つこと

キーワード /Keywords

- ・ 特殊なミクロ経済行動

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。
<small>※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>			専門演習 I SEM311M

授業の概要 /Course Description

官公庁が出版している様々な白書の中から、各学生が興味のあるテーマの白書を選択して丁寧に読み、その内容を整理したレジュメやレポートを作成する。論理的に思考力する能力、文献を簡潔に要約する能力、プレゼンテーション能力、文章を執筆する能力などを総合的に鍛えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 報告
- 3回 報告
- 4回 報告
- 5回 報告
- 6回 報告
- 7回 報告
- 8回 報告
- 9回 報告
- 10回 報告
- 11回 報告
- 12回 報告
- 13回 報告
- 14回 報告
- 15回 報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来：80%， 平常点：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

社会・経済事象を自らと関わりのあるものであるという認識を持ってもらう。購読を通して、他人の意見を参考として自身の意見を持ち、それを説得力を持って表明することを目指す。まずは、平易な時事問題に関する文献から始める。具体的にはゼミ3、4回で新書1冊というのが目安となる。

教科書 /Textbooks

未定（新刊の新書など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 顔合わせ
第2回～第14回 学生の報告を中心として購読を進める。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容及びゼミ参加の姿勢・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会・経済の出来事に関心を持つこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

参加者の知的好奇心が広がればと思います。

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

4年次で卒業論文を書くための準備を行う。統計学・計量経済学の様々なテクニックの修得を目指す。経済データベースとして日経ニーズ、コンピュータソフトウェアとしてSAS（統計処理パッケージ言語）を利用する。

教科書 /Textbooks

大屋幸輔『コア・テキスト統計学』新世社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

松浦克己、コリン・マッケンジー『Eviewsによる計量経済学入門』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究倫理】
- 第2回 データの整理・測定
- 第3回 確率
- 第4回 離散確率変数とその分布
- 第5回 連続確率変数とその分布
- 第6回 標本調査・標本分布
- 第7回 推定
- 第8回 仮説検定
- 第9回 回帰分析（イントロダクション）
- 第10回 回帰分析（標本相関係数他）
- 第11回 回帰分析（最小自乗法）
- 第12回 回帰分析（決定係数）
- 第13回 回帰分析（ σ 自乗の推定、t変量）
- 第14回 回帰分析（検定）
- 第15回 最尤推定法と統計モデル

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の評価による（100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を読んでくること。また、卒業研究のテーマを決めるためのリーディングを行い、A4一枚にまとめて報告すること。
事後学習：教科書の復習をすること。また、演習での議論を踏まえて、卒業研究のテーマが妥当か否か判断すること。

履修上の注意 /Remarks

予習として、教科書を事前に熟読すること。復習としては、SASを使って、データ解析を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンに統計ソフトをインストールするので持参すること。

キーワード /Keywords

統計的推定、統計的検定、回帰分析、最尤法

専門演習I【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

仮のテーマから出発して、専門演習IIで取り組むテーマを見つけ出すことが目的です。
調べて、まとめて、他人に説明して、他人の意見を聞き、別の視点を得て、次の作業を定める。これの繰り返しです。
その過程で、当たり前を疑うこと、ものごとを説明することに慣れること、他人からの説明を上手に理解してあげること、自分とは違う考え方に出会うこと、自分より詳しい人を探してアポイントメントをとって質問してくることを経験してください。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス【研究倫理】
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

下記の提出先と提出方法、提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。

【予習】

発表者は発表資料を事前提出してください。

【復習】

発表者はご自分の発表に関してクラスで出た議論のメモを提出してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭での確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

卒業研究のテーマを決めて、参考文献表の作成、参考文献の講読・発表、引用の仕方などを学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 最近の国際金融問題 - トピックスの紹介による授業内容・進め方の説明
- 2回 卒業研究のテーマの決定(複数の候補について、内容などを説明する)
- 3回 卒業研究のテーマと担当の決定(役割分担などを決める)
- 4回 参考文献表の作成(参考文献リストの表記の仕方などを学ぶ)
- 5回 参考文献表の作成と発表の分担の決定
- 6回～15回 参考文献の内容の発表と引用の仕方の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(議論への参加など)...100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、レジュメを必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

テーマ:ソーシャルビジネス

ソーシャルビジネスについて学習します。社会問題を解決するためのしくみや、社会的課題をビジネスに結びつける試みについて学びます。また、ソーシャルビジネスに関わる企業、NPO、行政の調査や、それらとの協働作業も行う予定です。こうした作業に関連して、合宿や教室以外での実習なども実施します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、開講後に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 基礎力を養う（コミュニケーション力を身につける）
- 3回 基礎力を養う（分析力を身につける）
- 4回 基礎力を養う（企画力を身につける）
- 5回 ワークショップ(社会課題を探る)
- 6回 ワークショップ(未来の社会を考える)
- 7回 ワークショップ(ソーシャルビジネス事例から学ぶ)
- 8回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの手法を学ぶ)
- 9回 ワークショップ(マネジメントの手法を学ぶ)
- 10回 ワークショップ(マネジメントの手法を活用する)
- 11回 グループによる調査・研究(テーマ設定と事前準備)
- 12回 グループによる調査・研究(実施)
- 13回 グループによる調査・研究(報告およびディスカッション)
- 14回 グループによる調査・研究(ディスカッション)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、社会的課題

専門演習I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

国際経済学の基礎理論を習得し、貿易保護、海外直接投資、為替レートの変動など国際経済に関わる諸現象を経済学の観点から理解する。各自関心のあるテーマを見つけ、卒業論文を書くための論理的思考能力、基礎分析能力を身につける。

教科書 /Textbooks

未定。参加者の関心分野、履修した科目を考慮して、指定する。
候補：クルーグマン・オブストフェルド著『国際経済学 理論と政策』（原著第10版）（丸善）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣）
中西訓嗣著『国際経済学 国際貿易編』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定・配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス、テキストと報告の担当を決める。
2回-15回 学生による輪読・報告するという形式で進める。報告担当者はレジュメを作成し、設問を用意する。全員で質疑応答、ディスカッションを行い、理解を深める。授業中その都度理解度を確認するため、小テストを行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 40 % 報告・課題提出 40 % ディスカッションへの貢献度 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題報告を事前に十分に準備すること。

履修上の注意 /Remarks

報告が割り当てられなくても、毎回必ず予習・復習し、自分の納得するまで読み込んでおくこと。授業中、参加者の積極的な発言を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

専門演習Iでは、日本の産業・経済・社会の歴史について学問していただきます。そのうえで、皆さんには身近な地域の歴史について調査・研究していただきます。

「なぜ北九大は北方にあるのか?」「なぜ小倉の中心地に大きな公園（勝山公園）があるのか?」「なぜ北九州にはこんなにたくさんの工場があるのか?」

ごく日常の風景だけに、気にとめることもないかもしれませんが、しかしそこに上記のような問いをはさみ、その答えを探してみると、それまでただ漠然と眺めていただけの日常世界を、私たちは主体的に解釈できるようになります。この「問い・解釈し・認識を新たにする」試みこそが学問なのです。

その中でも歴史学は「過去」を活用します。

私たちが自明と思っている日常世界にも、それがそこに存在することとなった理由や経緯があります。

「今」ある現実とは必然ではなく、また偶然でもありません。「過去」のいかなる条件や選択が「今」を生むこととなったのか知ることができれば、私たちは周囲の現実を客観的に認識できるようになります。

そして「なぜこうなったのか?」がわかれば、「それを変えるには何が必要なのか?」が見えてきます。

この演習では、こうした歴史学的な思考を実践してもらい、皆さんに日本の産業・経済・社会について客観的かつ主体的に考察できる能力を養っていただきます。

そのうえでここでは、グループごとに課題を決め、地域の歴史に関する調査・研究を行ってもらいます。また、北九州の産業・経済史に関する文献の「輪読」を行い、地域の歴史を探索するフィールド・ワークにも出かけます。

このプロセスで、先に述べたような問いを、皆さん自身が抱き探究できるようになることが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks

北九州市史編さん委員会編『北九州市史 近代・現代 産業経済I・II』（1991年・1992年、北九州市）他、北九州の産業・経済史に関する論文・著書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 フィールドワーク(北方地区)
- 第3回 地域史関連テキストの輪読、ディスカッション
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 フィールドワーク(北方地区)
- 第7回 地域史関連テキストの輪読、ディスカッション
- 第8回 同上
- 第9回 フィールドワーク(小倉北区)
- 第10回 フィールドワーク型グループワーク
- 第11回 同上
- 第12回 グループワーク報告会
- 第13回 地域史関連テキストの輪読、ディスカッション
- 第14回 フィールドワーク(工場見学)
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークにおける貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションにおける積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調査・研究は授業時間のみならず授業外の時間も使い行ってもらいます。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、報告に向けた周到な準備を行っていただく必要があります。

また輪読の際には、指定された箇所を演習前に必ず読み込んでおき、当日、内容に即してディスカッションが出来るレベルまで理解を深めておいていただきます。また演習後、あらためてテキストを読み返すことで、ゼミを通じて学んだことをしっかり知識として身につけていただきます。

フィールドワークを行う際も、その前後に行き先に関連した文献に目を通し、その場所について別途学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習では、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行ってもらいます。したがって皆さんには、積極的に学ぼうという姿勢でゼミに臨んでいただく必要があります。ぜひ主体性を持って参加してください。

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

専門演習I【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学の分野を中心に経済の仕組みと分析ツールを身に付け、財政の議論に応用することを目標とします。主に教科書の内容を報告してもらい、それについて議論に参加してもらい理解を深めます。
また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

教科書 /Textbooks

明解 日本の財政入門（金融財政事情研究会 刊）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『マクロ経済学』
二神孝一・堀敬一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス【研究倫理】
- 2 報告内容に関してディスカッション
- 3 報告内容に関してディスカッション
- 4 報告内容に関してディスカッション
- 5 報告内容に関してディスカッション
- 6 報告内容に関してディスカッション
- 7 報告内容に関してディスカッション
- 8 報告内容に関してディスカッション
- 9 報告内容に関してディスカッション
- 10 報告内容に関してディスカッション
- 11 報告内容に関してディスカッション
- 12 報告内容に関してディスカッション
- 13 報告内容に関してディスカッション
- 14 報告内容に関してディスカッション
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容50% 議論の参加度・発言内容および質問に対する受け答え50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキストを一読しておいてください。(予習箇所は講義中にお知らせします。)目安時間60分
事後学習としてゼミで学習した内容をレポートにまとめ報告してもらいます。 目安時間60分

履修上の注意 /Remarks

テキスト、および配布資料、板書事項の復習をして講義に臨むこと。 毎回、前回の内容を質問しますので、自分の言葉で答えられるように十分に復習しておくこと。

専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基本的なことは繰り返しテーマをまたいで登場します。
既に学習したことについて理解が出来ているか質問することになりますので
緊張感を持って理解する努力をしてください。

キーワード /Keywords

財政

専門演習I【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I SEM311M

授業の概要 /Course Description

日本の地域や都市の成り立ちを、経済学の基礎的な考え方や立地理論をもとに深く思考する力を身に付け、都市問題や地域問題への関心を持つことが出来るようになる。テキストに基づき、輪読形式とディスカッションを中心として授業を進める。ゼミの進行とともに、課題発見力、プレゼン力、ディスカッションコミュニケーション、論文作成などの基本スキルについても学習する。

教科書 /Textbooks

テキストについては初回に、数冊のテキストを詳しく紹介し、最も好ましいものを選択することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 基礎的立地理論の習得
- 3回 基礎的立地理論の習得
- 4回 基礎的立地理論の習得
- 5回 基礎的立地理論の習得
- 6回 基礎的立地理論の習得
- 7回 基礎的立地理論の習得
- 8回 基礎的立地理論の習得
- 9回 基礎的立地理論の習得
- 10回 基礎的立地理論の応用
- 11回 基礎的立地理論の応用
- 12回 基礎的立地理論の応用
- 13回 基礎的立地理論の応用
- 14回 基礎的立地理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習しておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の基礎を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

専門演習I【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭での確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では労働者の働き方、企業の雇用政策、労働に関する諸問題、労働政策などを中心に考察し、経済学的思考の習得を目標とする。またレポート執筆・発表・ディスカッションを通じての基礎スキルの向上も目標とする。

教科書 /Textbooks

初回の演習までにアナウンスします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各自の関心によるが、労働経済学の基礎文献として以下を挙げる。
- 『人事と組織の経済学』、エドワード・ラジャー著（樋口美雄・清家篤訳）、日本経済新聞社。
 - 『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』、大橋勇雄、中村二郎著、有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究倫理】
第2回～第15回 学生による輪読・発表
* 初回の演習前に本演習のガイダンスを行うので必ず出席すること。
* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%
原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

1回目の演習までに自分が何に関心があるのかを説明できるようにしておくこと。
労働経済学の基本を学ぶため、労働経済学I(担当：畔津)を同時に受講すること。
毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

演習IIでは、ゼミ論文、卒業論文のテーマを決め、その準備を行います。各自が関心のあるテーマを取り上げ、それらを調査、検討した成果を報告してもらうことになります。

教科書 /Textbooks

酒井 聡樹、『これから研究を始める高校生と指導教員のために-研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター発表の仕方-』、共立出版、2013年（2,808円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～3回 テーマ設定と文献・資料収集
- 4～5回 文献・資料の整理
- 6～8回 研究テーマ設定作業
- 9～12回 研究テーマの中間報告
- 13～15回 研究テーマの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に対する取組み姿勢および発表内容...50% 課題...50%
報告にあたって十分な準備をしたか、演習において積極的に発言したかが基準になります。毎回出席したからといって、よい評価がもらえるとは限りません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いながら、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅱに引き続き、「新しい地域づくりのアイデア」の創出を目指し、その成果を外部の人々にも伝えるために様々なプレゼンテーションを実施します。また同時に、卒業研究に向けた意識を高めるために、基礎的知識となる文献のサーベイ、先輩の卒業研究をテーマにしたディスカッション、新聞をはじめとした情報収集の手法や考察、さらには地域のフィールドワークなどを実施します。

教科書 /Textbooks

野口悠紀雄『戦後経済史』東洋経済新報社（2015年6月）
小宮一慶『小宮一慶の「日経新聞」深読み講座 2018年版』（2017年10月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川端基夫『(改訂版)立地ウォーズ』新評論（2013年3月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1～4回 新しい地域づくりのアイデアに係る報告書の作成・修正
- 第5～6回 新しい地域づくりのアイデアに係るパワーポイントの作成・修正
- 第7回 新しい地域づくりのアイデアに係るプレゼンテーション（外部向け）
- 第8回 戦後経済史に係るレクチャー
- 第9回 新聞の読み方に係る文献のレジュメ報告
- 第10回 フィールドワークに係る情報収集
- 第11回 フィールドワークに係る情報の編集
- 第12回 フィールドワークの実施
- 第13回 卒業研究をテーマにしたディスカッションⅠ
- 第14回 卒業研究をテーマにしたディスカッションⅡ
- 第15回 各自の卒業研究をテーマ案の報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告書の作成30% パワーポイントの作成・プレゼンテーション15% レジュメ作成30% 卒業研究のテーマの新規性・現実性15% ディスカッションにおける貢献10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の実施にあたっては、各種の資料収集やレジュメの作成、報告書の作成など事前の学習を指示します。きちんと対応してください。

履修上の注意 /Remarks

フィールドワークを行なう授業があるので、各種のスケジュール調整を適切に行なってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

ファイナンスについて学ぶ。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス【研究倫理】
2回～15回 テキストを輪番で発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の内容について予習・復習に努めること。

履修上の注意 /Remarks

日本経済新聞を購読することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成の準備として、統計解析の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Wooldridge, J. 2016. Introductory Econometrics, 6th ed. South-Western College Pub.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：講義と演習と発表

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を事前に読み、指定された教科書で復習する。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。
前回の復習をして演習に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習で得た知識を利用し、データを用いて日本の金融について分析する。

教科書 /Textbooks

特になし。プリント・資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】
第2回～第14回 輪読・報告
第15回 まとめ 卒業論文の準備

ゼミ合宿に行く予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み・・・50%、報告内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の報告内容の改善と報告の準備を十分にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

前回の報告内容の改善と報告の準備を十分にしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本専門演習は、ミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総体的に把握することはますます困難なことになっている。ここでは、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 熊坂有三・峰滝和典『ITエコノミー』日本評論社。
- ・ 林 紘一郎『ネットワーク情報社会の経済学』NTT出版。
- ・ 松石勝彦(編)『情報ネットワーク論』青木書店。
- ・ 友野典男『行動経済学』光文社新書(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* ミクロ経済分析の知識を用いて、現実の経済の動きについての理解を高めて、「卒業研究A・B」において興味をもって研究できるテーマの大きなアウトラインを固める。

- 1回 イントロダクション：【研究倫理】【演習の目的・計画】など
- 2回 調査研究結果の報告、議論(1)
- 3回 調査研究結果の報告、議論(2)
- 4回 調査研究結果の報告、議論(3)
- 5回 調査研究結果の報告、議論(4)
- 6回 調査研究結果の報告、議論(5)
- 7回 調査研究結果の報告、議論(6)
- 8回 調査研究結果の報告、議論(7)
- 9回 調査研究結果の報告、議論(8)
- 10回 調査研究結果の報告、議論(9)
- 11回 調査研究結果の報告、議論(10)
- 12回 調査研究結果の報告、議論(11)
- 13回 調査研究結果の報告、議論(12)
- 14回 演習Ⅲ、Ⅳ案内
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 研究報告・演習への参加態度 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておくこと
- ・ 常に現実のミクロ経済に興味をもつこと
- ・ ゼミ合宿や旅行などを実施する場合もある

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

- ・ 特殊なミクロ経済行動

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

官公庁が出版している様々な白書の中から、各学生が興味のあるテーマの白書を選択して丁寧に読み、その内容を整理したレジュメやレポートを作成する。論理的に思考する能力、文献を簡潔に要約する能力、プレゼンテーション能力、文章を執筆する能力などを総合的に鍛えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 報告
- 3回 報告
- 4回 報告
- 5回 報告
- 6回 報告
- 7回 報告
- 8回 報告
- 9回 報告
- 10回 報告
- 11回 報告
- 12回 報告
- 13回 報告
- 14回 報告
- 15回 報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来：80% 平常点：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の推敲に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

「演習I」に比べやや「堅い」文章を購読する。知識にも広狭深淺があることを学び、そのうえで社会についてのより深い理解を目指す。
また、卒業論文の構想を固めることを併せて行う。

教科書 /Textbooks

参加者と相談して適宜定める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 購読文献の選定
第2回~第14回 学生の報告を中心として購読を進める
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容及びゼミ参加の姿勢 ... 85% 卒論構想の内容 ... 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

予習はもとより、積極的なゼミ参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

4年次で卒業論文を書くための準備を行う。主に、CiNiiに掲載されている和文論文のリーディングを行う。必要に応じて、統計学・計量経済学の様々なテクニックの修得を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

松浦克己、コリン・マッケンジー『Eviewsによる計量経済学入門』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】

2回～15回：ゼミ生は、毎週、事前に読み込んだ論文をA4一枚に要約したものを提出する。その要約を教員が添削する。それとともに、論文に関連する統計的手法の理解に努める。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の評価による（100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：卒業研究のテーマを決めるためのリーディングを行い、A4一枚にまとめて報告すること。

事後学習：演習での議論を踏まえて、卒業研究のテーマが妥当か否か判断すること。

履修上の注意 /Remarks

予習として、論文の要約を作成する。また、他のゼミ生の要約にも目を通しておく。復習としては、自分の作成した要約のどこをどのように修正されたか、よく吟味すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅰの成果から出発して、自分で不思議に思ったことを自分で調べ、その結果と過程を他人にもわかる形式で伝えることをします。4年次で取り組むテーマ(卒論の仮テーマ)を見つけ出すことが目的です。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス【研究倫理】
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
研究計画書(卒業論文研究題目)の提出。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

下記の提出先と提出方法，提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。

【予習】

発表者は発表資料を事前提出してください。
それ以外の人は，発表資料を事前に見てからご参加ください。

【復習】

発表者はご自分の発表に関してクラスで出た議論のメモを提出してください。
それ以外の人は，発表への疑問点と自身の研究との関連を整理しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

卒業研究の参考文献の講読・発表と卒業研究の草稿の作成を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～7回 卒業研究の参考文献の発表
8回～15回 卒業研究の各担当部分の発表(引用の仕方、図表の作り方も学ぶ)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、レジюмеを必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

テーマ：ソーシャルビジネス
ソーシャルビジネスについて学習します。社会問題を解決するためのしくみや、社会問題をビジネスに結びつける試みについて学びます。また、社会活動や地域活動に関わる行政、企業、NPOなどの調査や、それらとの共同作業も行う予定です。こうした作業に関連して、合宿や教室以外での実習なども実施します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 実習(NPOとの協働事業)
- 3回 実習(NPOとの協働事業)
- 4回 実習の振り返り
- 5回 実習を踏まえた研究テーマの設定
- 6回 企業 / NPO 事例研究
- 7回 企業 / NPO 事例研究
- 8回 企業 / NPO 事例研究
- 9回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (各自のプラン模索)
- 10回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン模索)
- 11回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン策定)
- 12回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン発表)
- 13回 卒業研究に向けたテーマの検討
- 14回 卒業研究に向けたテーマの検討
- 15回 卒業研究に向けたテーマの発表とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、地域課題

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅰに続き、国際経済学の基礎理論を習得し、貿易保護、海外直接投資、為替レートの変動など国際経済に関わる諸現象を経済学の観点から理解する。各自関心のあるテーマを見つけ、卒業論文を書くための論理的思考能力、基礎分析能力を身につける。

教科書 /Textbooks

未定。参加者の関心分野、履修した科目を考慮して、指定する。
候補：クルーグマン・オブストフェルド著『国際経済学 理論と政策』（原著第10版）（丸善）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣）
中西訓嗣著『国際経済学 国際貿易編』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定・配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2回-14回 前期に続き、学生による輪読・報告する形式で進める。報告担当者はレジュメを作成し、設問を用意する。全員で質疑応答、ディスカッションを行い、理解を深める。授業中学習の理解度を確認するため、その都度小テストを行うことがある。輪読と同時に、ニュース解説、自由研究の発表も予定している。
15回 卒業研究テーマの検討・発表

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 40 % 報告・課題提出 40 % ディスカッションへの貢献 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題報告を事前に十分に準備すること。
グループで研究調査を行い、学部でのポスターセッションに参加することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

報告が割り当てられなくても、毎回必ず予習・復習し、自分の納得するまで読み込んでほしい。授業中、参加者の積極的な発言を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅱの内容は、専門演習Ⅰに引き続き、身近な地域の歴史を対象にした調査・研究がメインとなります。ただし、ここでは学術的裏づけを行った、より本格的な調査・研究をしていただきます。

歴史学での調査・研究は、難事件の捜査に似ています。

何十年も前（もしくは100年以上前！）の出来事ですから関係者はすでにいません。ですから彼らから聞き取りを行うことはできませんし、現場を再調査しても確たる証拠は出てきません。

利用できるのは、断片的に残された当時の記録（史料）のみ。これらを探し集め、ひとつひとつの事実を確認し、相互の関係を推理し客観的に裏付けることで、出来事の全体像を明らかにする、それが歴史学です。

この作業を皆さんには、身近な地域で起こった過去の出来事を対象に行っていただきます。

ただ、やみくもに捜査をしても事件の真相はつかめません。ベテラン刑事の「嗅覚」は、経験とそれに基づく知識に裏付けられています。

歴史学も同じで、「どんな史料があるのか」「それはどこにあるのか」「それをどう使えばいいのか」、知っておくことが真相解明の近道となります。

このことをふまえ、専門演習Ⅱでは、まず地域の歴史について歴史的に分析した著書や論文の輪読を行い、歴史に関する知識を身につけるのみならず、そこで用いられている手法を学んでいただきます。

また地域の「文書館」（史料を収集・保管・公開している施設）の史料庫を見学したり、インターネットを用いた史料の探索を行い、自分の知りたいことを調べるための実践的なノウハウを身につけていただきます。

そのうえでグループごとに課題を決め、自分たちで難事件の捜査を行っていただきます。

そして調査結果を、経済学部が主催する「ポスターセッション」でプレゼンし、そこに集まった学生、そして教員を納得させてください。

教科書 /Textbooks

北九州市史編さん委員会編『北九州市史 近代・現代 産業経済Ⅰ・Ⅱ』（1991年・1992年、北九州市）他、北九州の産業・経済史に関する論文・著書。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

専門演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 北九州の経済史関連文献の輪読、ディスカッション
- 第3回 同上
- 第4回 フィールドワーク(戸畑・若松区)
- 第5回 北九州の経済史関連文献の輪読、ディスカッション
- 第6回 フィールドワーク(工場見学)
- 第7回 文献調査に関するレクチャー
- 第8回 インターネットを用いた史料の探索
- 第9回 フィールドワーク(文書館)
- 第10回 ポスターセッションに向けたグループワーク
- 第11回 同上
- 第12回 成果報告会(ポスターセッション予行練習)
- 第13回 ポスターセッション
- 第14回 ポスターセッション総括
- 第15回 卒論のテーマ設定に関するレクチャー

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークへの貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションに対する積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調査・研究は授業時間のみならず授業外の時間も使い行ってもらいます。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、報告に向けた周知な準備を行っていただく必要があります。

また輪読の際には、指定された箇所を演習前に必ず読み込んでおき、当日、内容に即してディスカッションが出来るレベルまで理解を深めておいていただきます。また演習後、あらためてテキストを読み返すことで、ゼミを通じて学んだことをしっかり知識として身につけていただきます。

フィールドワークを行う際も、その前後に行き先に関連した文献に目を通し、その場所について別途学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習ではグループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行っていただきます。したがって学生には、積極的に学ぼうという姿勢でゼミに臨んでいただく必要があります。ぜひ主体性を持って参加してください。

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅱに引き続き、マクロ経済学分野を中心に財政や経済政策について分析するツールを身に付け、そこで学んだ議論や分析手法を自分の卒業研究に繋げることを目標とします。
また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

教科書 /Textbooks

明解 日本の財政入門（金融財政事情研究会 刊）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『マクロ経済学』
二神孝一・堀敬一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス【研究倫理】
- 2 報告内容に関してディスカッション
- 3 報告内容に関してディスカッション
- 4 報告内容に関してディスカッション
- 5 報告内容に関してディスカッション
- 6 報告内容に関してディスカッション
- 7 報告内容に関してディスカッション
- 8 報告内容に関してディスカッション
- 9 報告内容に関してディスカッション
- 10 報告内容に関してディスカッション
- 11 報告内容に関してディスカッション
- 12 報告内容に関してディスカッション
- 13 報告内容に関してディスカッション
- 14 報告内容に関してディスカッション
- 15 まとめ

経済主体の最適化など理論分析に必要な技術、論文を書く準備の仕方を並行して行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50% 議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキストを一読しておいてください。（予習箇所は講義中にお知らせします。）目安時間60分
事後学習としてゼミで学習した内容をレポートにまとめ報告してもらいます。目安時間60分

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

復習をして講義に臨むこと。 前回の内容を質問しますので自分の言葉で人に分かるように説明できるぐらい十分に復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基本的なことは繰り返しテーマをまたいで登場します。
既に学習したことについて理解が出来ているか質問することになりますので
緊張感を持って理解する努力をしてください。

キーワード /Keywords

財政

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

演習Iを受けて、引き続き日本の地域や都市の成り立ちを、経済学の基礎的な考え方や立地理論をもとに深く考察する。テキストに基づき、輪読形式とディスカッションを中心として授業を進める。ゼミの進行とともに、課題発見力、プレゼン力、ディスカッションコミュニケーション、論文作成などのスキルを身に付けていく。論文については、卒業論文のための予備論文を提出していただく。なお2学期後半に工場見学を行い、そのための事前学習、事後学習の時間をとる。

教科書 /Textbooks

授業の中で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 現代的立地理論の習得
- 3回 現代的立地理論の習得
- 4回 現代的立地理論の習得
- 5回 現代的立地理論の習得
- 6回 現代的立地理論の習得
- 7回 現代的立地理論の習得
- 8回 現代的立地理論の習得
- 9回 現代的立地理論の習得
- 10回 工場見学の事前準備
- 11回 工場見学
- 12回 工場見学の事後学習
- 13回 現代的立地理論の応用
- 14回 現代的立地理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50%

課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習しておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。
工場見学と事前調査・事後整理の課題提出は必須の要件として参加、実施すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

専門演習II【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Iと同様に、労働者の働き方、企業の雇用政策、労働に関する諸問題、労働政策などを中心に考察する。各自の関心にもとづき研究テーマを設定し、卒業研究に向けて必要な知識・技術を身につける。

教科書 /Textbooks

初回の演習までにアナウンスします。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心によるため、特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究倫理】
- 第2回～第15回 学生による輪読・発表
- * 経済学部主催ポスターセッション大会に出場する。
- * 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%
原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

関心のあるトピックについての書籍を読んでおくこと。
労働経済学の基本を学ぶため、労働経済学IIを同時に受講すること。
毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業研究Aでは、専門演習IIで各自が選択した研究テーマをもとに卒業論文を作成します。

教科書 /Textbooks

酒井 聡樹、『これから研究を始める高校生と指導教員のために-研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター発表の仕方-』、共立出版、2013年（2,808円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、卒業論文の途中経過を報告します。また、卒業後の進路についても、ゼミを通じてしっかり考えてもらうために、自己分析、希望する進路について検討します。

- 1回 オリエンテーション
- 2～12回 研究テーマの設定作業と経過報告
- 13～15回 研究中間報告

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に対する取り組み姿勢および発表内容...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告するためにしっかり時間をかけて準備をして下さい。そのためには、文献、資料を集め、しっかりと読み、論点を整理して下さい。演習終了後は、演習時のコメントに対する対応をするようにして、報告内容、卒業論文の内容をより良いものにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自が興味のあるテーマの調査、分析を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：各週報告者を決めて、そのレポートに対する討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指摘された内容を理解し考えること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学・産業組織論を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業研究（卒業論文）作成のために、論文・専門書の購読、および必要なデータの収集を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】
第2回～14回 研究報告
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み・・・50%
報告内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の報告内容の改善と報告の準備を十分にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

前回の報告内容の改善と報告準備を十分にしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	
※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。				卒業研究A SEM411M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある卒業研究テーマについて論文を作成・報告し、卒業研究論文提出に向けての準備を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：【研究倫理】【研究計画】
- 第2回 ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開
- 第3回～第8回 特殊なミクロ経済行動もしくは現象などについて調査・報告
- 第9回～第14回 関心のある特殊なミクロ経済行動もしくは現象に関する研究について調査・報告
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 50% レポートもしくは論文 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・現象

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来：80% 平常点：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

インプットからアウトプットを得るトレーニングを行う。課題の文献を読み、自分の考えを文章にして表現することによって自らの考えを整理してもらいたい。
また、あわせて卒業論文のテーマを確定してもらおう。

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 購読文献の選定
- 2回～14回 学生のレポートを中心として購読を進める
必要に応じて卒業論文のテーマについて話し合う
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。
提出課題に真剣に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

他人の意見を参考にして、自らの考えを作り上げてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自で定めた研究テーマについて卒論をまとめる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】

2回～15回：毎週一人ずつ卒業論文の中間報告を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回、報告用レジュメを作成し、報告すること。

事後学習：ゼミ内の議論を踏まえて、論文の構想について熟慮すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

3年次で決めたテーマ(卒論の仮テーマ)について調査・研究します。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス【研究倫理】
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【予習】
発表者は発表資料を事前提出してください。
- 【復習】
発表者はご自分の発表に関してクラスで出た議論のメモを提出してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業研究の内容を順次、発表し、内容を発展させる。論理的な議論の展開とともに、図表の作成の仕方、引用の仕方、参考文献リストの作り方などを学習し徹底する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業研究の発表、修正、執筆。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、レジュメを必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。また、参考文献に対して盗作とならぬように、日頃の発表と卒論の作成では細心の注意を払うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

3年次に続き、ソーシャルビジネスについて学びます。とりわけ、新たなソーシャルビジネスの創出や、地域における社会活動とビジネスのつながりについて、具体的に北九州を舞台に考えていきます。教室以外での実習やフィールドワークなども実施する予定です。また、各自の卒業研究について報告およびディスカッションを行います。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 卒業研究の方法と課題
- 3回 卒業研究テーマ報告会
- 4回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの経営分析)
- 5回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの経営分析)
- 6回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの経営分析)
- 7回 ケーススタディから学ぶ(調査)
- 8回 ケーススタディから学ぶ(ディスカッション)
- 9回 ケーススタディから学ぶ(ディスカッション)
- 10回 ケーススタディから学ぶ(ビジネスモデルの抽出)
- 11回 卒業研究中間報告
- 12回 卒業研究中間報告
- 13回 卒業研究中間報告
- 14回 卒業研究中間報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容... 30% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、地域課題

卒業研究A 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業研究テーマについて段取りで課題を出し、研究・調査報告を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回－3回 卒業論文の書き方
- 4回－15回 文献調査・報告、課題提出・報告

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50 % 報告・課題提出 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

十分な時間をかけて取り組んでください。参考文献・研究テーマの調査などの下地準備を早めに着手してください。
予習・復習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

「卒業研究」は、「専門演習I・II」で身につけた知識や能力をもとに、自ら研究テーマを定め、独自に調査・研究を行い、その成果を論文にまとめることを目的としています。

論文は他人の研究成果や主張を要約的にまとめるレポートとは違います。

論文は自らの問い（課題）をもとに、関連する資料を集め、またその資料をもとに分析することで、自ら定めた問いに対して自分なりの回答を与えるものとしてあります。つまり自分の関心に基づき、自分の力で調べ、自分自身で答えを導く作業こそが卒業研究です。

この作業を行うためには、まず自分が「知りたい」「（知ることが）面白そう」と思える課題を見つけられなければいけません。このゼミは経済史の演習ですから、経済・産業・社会の「今」をふまえ、「なぜこうなったのか?」と「過去」にさかのぼって探究したいと思う対象を見つける必要があります。

もし経済・産業・社会について無知で、特に知りたいと思う気持ちも無ければ、課題を設定することなどできません。

研究を行うためには、それに先立って、自身の知的好奇心を喚起し、幅広い知識を身につけ、その中から特に関心を抱ける対象を探し出す作業が必要なのです。

そこで、「卒業研究A」では、まず課題（テーマ）設定の方法や、ここでの留意点などについてレクチャーします。そして興味関心の焦点を絞ってもらうために、候補とするいくつかの課題について各自が調べ、ゼミで発表してもらいます。

また、地域の経済・産業史に関する、専門的なフィールドワーク（グループワーク）を実践する中、自分が特にどんなことを「面白い」「面白そう」と感じるのか、自身の興味関心を「発見」してもらいます。

そしてテーマが定まり次第、そのテーマに関連する文献や史料を集め、夏明けから本格的に始まる卒業論文の執筆に向けた下準備を進めていただきます。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

卒業研究A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業研究に関するレクチャー
- 第3回 同上
- 第4回～6回 卒業研究テーマ報告
- 第7回 フィールドワーク(工場見学)
- 第8回 フィールドワーク型グループワーク
- 第9回 同上
- 第10回 グループワーク報告会
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 フィールドワーク(工場見学)
- 第14回 卒業研究計画書作成
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークへの貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションに対する積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調査: 研究は授業時間のみならず授業外の時間も使い行ってもらいます。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、報告に向けた周知な準備を行っていただく必要があります。

また輪読の際には、指定された箇所を演習前に必ず読み込んでおき、当日、内容に即してディスカッションが出来るレベルまで理解を深めておいていただきます。また演習後、あらためてテキストを読み返すことで、ゼミを通じて学んだことをしっかり知識として身につけていただきます。

フィールドワークを行う際も、その前後に行き先に関連した文献に目を通し、その場所について別途学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

卒業研究A 【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらおう。
また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

教科書 /Textbooks

明解 日本の財政入門（金融財政事情研究会 刊）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『マクロ経済学』
二神孝一・堀敬一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来具合 50% 研究への積極性 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表前に 1) 文献資料、論文の取り寄せ 2) 発表資料の十分な準備、および予習を必ずしてください。目安時間60分以上
発表後に教員が指摘したポイントやゼミ生からの質問・意見等を整理し次の準備に備えてください。目安時間60分以上

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究はなかなか大変ですが
頑張った分だけ仕上げた時の達成感と喜びは大きいので頑張りましょう。

キーワード /Keywords

マクロ経済・ 財政

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に力をいれていく。経済地理学の基礎的な考え方や産業論をもとに、各自のテーマを追究し、論文を仕上げる。同時にテキストも輪読し、課題発見力、プレゼン力、ディスカッションコミュニケーションの能力も深めていく。

教科書 /Textbooks

テキストについては各人の研究テーマに応じた文献を、そのつど紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 3回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 4回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 5回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 6回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 7回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 8回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 9回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 10回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 11回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 12回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 13回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 14回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習しておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

卒業研究A 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、専門演習I・IIで学んだ事をもとにして、卒業研究に着手する。自らの関心に基づき、自らのやるべき研究を設定し、研究のための下調べ、綿密な研究計画が完了することを目標とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに合わせて、適宜、紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】
第2回～第15回 各自の研究発表、及びディスカッション
* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%
原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究テーマについて十分考えておくこと。
毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自の問題意識に沿ったテーマで、大学生としての集大成のひとつである卒業研究の準備を行なうことにより、ゼロから自分の考えをまとめ、人に伝えていく技術・技能を身につけることを目標とします。また、適宜、ケーススタディを通じて論理的思考法や議論の組立を学習します。

教科書 /Textbooks

伊丹敬之『経営戦略の論理 - 第4版 - 』日本経済新聞出版社（2012年9月）
伊丹敬之『ケースブック 経営戦略の論理』日本経済新聞出版社（2012年9月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の問題意識に合わせて適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～3回 卒業研究のテーマの検討
- 4回 卒業研究の企画について（プレゼンテーション）
- 5回～10回 ケース・スタディ
- 11回～14回 卒業研究に係る参考文献についての報告
- 15回 卒業研究の構想案と今後の計画について（プレゼンテーション）

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメ作成 50% 卒業研究の構想案 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、自らの問題意識に従って参考文献の探索や新聞・雑誌・インターネットからの情報収集を日常的に実施すること。
事後学習については、卒業研究Aの各回で得られた知見を確実に卒業研究に生かせるように整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業時には、予習の成果としてポイントを整理したレジュメを持参すること。
なお、ケース・スタディの場合は、事前にケースを配布するので、予習をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業研究Bでは、卒業研究Aにつづき、各自が定めたテーマを卒業論文としてまとめます。

教科書 /Textbooks

酒井 聡樹、『これから研究を始める高校生と指導教員のために-研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター発表の仕方-』、共立出版、2013年（2,808円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、卒業論文の途中経過を報告します。
1回 オリエンテーション
2～13回 卒論の中間報告
14～15回 卒論の発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

演習、卒業論文に対する取り組み状況および発表内容...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業論文完成に向け、多くの文献、資料を集め、しっかり読んで、問題点、論点を明確にしてください。
演習終了後は、演習時のコメントに対する対応をできるようにして、報告内容、卒業論文の内容をより良いものにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
各メンバーの卒論に対して検討し、精緻化と完成を目指す。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指摘された内容を理解し考えること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業研究（卒業論文）を完成させる。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（卒業論文完成までの予定・計画について）【研究倫理】
- 第2回～第14回 研究報告
- 第15回 完成させた卒業論文の報告・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の取り組み・・・50%
- 卒業論文の内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の報告内容の改善と報告の準備を十分にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

毎回、前回の報告内容の改善と報告準備を十分にしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある卒業研究テーマについて論文を作成・報告し、卒業研究の論文をまとめる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：【研究倫理】【研究計画】
- 第2回 ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開
- 第3回～第7回 卒業研究テーマについて調査・研究報告
- 第8回～第14回 卒業研究論文内容研究報告、および提出
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 50% 論文 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・現象

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の出来：90% 平常点：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

半分は、学生時代の総決算として比較的「堅い」文献の輪読という伝統的なゼミを行う。「じっくり深く読み込む」ために、これまでの学習成果を総動員してもらいたい。
残りの半分は、卒業論文の作成に関わる内容を行う。「自らの考えを文章にして表現することが、自分自身を知ることを含め最も効果的な学修方法である」ということを確認してもらいたい。

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 購読文献の選定、卒業論文のテーマと進捗状況の確認
- 2回～14回 学生のレポートを中心として購読を進める
卒業論文の中間報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。
各自卒論の完成に向け必要な作業を着実に進めること。

履修上の注意 /Remarks

ある意味、大学生生活の総括であることを自覚してもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自で定めた研究テーマについて卒論をまとめる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】
2回～15回：毎週一人ずつ卒業論文の中間報告を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：卒業研究を書けるところから執筆し、報告すること。
事後学習：ゼミ内の議論を踏まえて、卒業研究を修正していくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒論を作成します。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス【研究倫理】
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回卒論内容の最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
卒業論文の提出。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【予習】
発表者は発表資料を事前提出してください。
- 【復習】
発表者はご自分の発表に関してクラスで出た議論のメモを提出してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業研究の内容を順次、発表し、内容を発展させる。論理的な議論の展開とともに、図表の作成の仕方、引用の仕方、参考文献リストの作り方などを学習し徹底する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業研究の発表、修正、発展。パワーポイントによる発表会を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、レジュメを必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。また、参考文献に対して盗作とならぬように、日頃の発表と卒論の作成では細心の注意を払うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自の問題関心に沿って、卒業研究を作成します。中間報告とディスカッションを重ねながら、各人の研究をベースにした相互学習を図ります。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 卒業論文中間報告
- 3回 卒業論文中間報告
- 4回 卒業論文中間報告
- 5回 卒業論文中間報告
- 6回 ケーススタディの研究と報告
- 7回 ケーススタディの研究と報告
- 8回 ケーススタディの研究と報告
- 9回 ケーススタディの研究と報告
- 10回 卒業論文中間報告
- 11回 卒業論文中間報告
- 12回 卒業論文中間報告
- 13回 卒業論文中間報告
- 14回 報告会準備および予備作業
- 15回 卒業論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業研究テーマについて、研究報告を行い、論文執筆を完成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、卒業研究の進捗状況を確認する
- 2回－14回 卒業研究進捗報告と論文指導
- 15回 卒業研究発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50 % 報告・課題提出 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

十分な時間をかけて取り組んでください。参考文献、調査方法などの下地準備を早めに着手してください。
予習・復習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

「卒業研究B」では、「卒業研究A」で定めたテーマ（課題）に基づく調査・研究を進め、成果を論文にまとめていただきます。したがって演習の主な内容は、学生による研究報告となります。

研究報告は「やらされるもの」と考えている方が多いかと思います。

しかし研究報告は担当教官に対して進捗状況を報告するためだけにするものではありません。また、他の学生に自分の研究を紹介するためにやるわけでもありません。

研究報告は、報告できる水準に自身の研究を高め、研究内容を整理し直し、そのうえで担当教官および学生から客観的な意見を聞くことで、自分では気付いていなかった問題点や改善点を発見するためにするものです。

研究を進めた結果を報告するというよりも、むしろ研究を進めるために報告を行うのです。ですから自分が論文をまとめるために、この演習を利用するつもりでゼミに臨んでください。

この研究報告と並行して、論文を書くにあたっての具体的な指導も行います。

自ら問いを立て、資料に基づき検証し、自分なりの結論を導く論文は、他人の研究成果を要約的にまとめればよいレポートとは違います。

皆さんはレポートは書いたことはあっても、論文を書くのはこれがはじめての経験となるものと思います。ですから、いざ論文を書こうにも、どうやって書けばいいのかわからないでしょうし、論文には論文特有の書き方や決まり事などがあります。

このことをふまえ、中盤以降は演習内で論文の書き方について指導します。

そして実際に執筆作業を進めてもらい、その過程で生じた疑問や問題に対して解決法をアドバイスします。また演習時間外にも個別に論文指導を行いたいと思います。

2年間で身につけた「問い・解釈し・新たな認識を得る」スキルを学術的成果として形にする（そして晴れて卒業を迎える）、それが「卒業研究B」の最終的な目標です。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

卒業研究B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業研究中間発表
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 フィールドワーク(工場見学)
- 第7回 論文執筆に関するレクチャー
- 第8回 同上
- 第9回 作業工程表作成
- 第10回～14回 論文指導
- 第15回 論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークへの貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションに対する積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業研究Bは卒業研究をまとめることを主目的としていますが、実際の研究は授業時間外に学生自らが行う必要があります。卒業研究に関する指導を受けるに当たっては、事前に十分研究活動を行い、その成果をもって指導を受けるようにしてください。また、授業後は、教員による指導内容に基づき修正作業を行い、その成果をもって次回の授業に臨めるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

卒業研究B 【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらおう。
また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

教科書 /Textbooks

明解 日本の財政入門（金融財政事情研究会 刊）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『マクロ経済学』
二神孝一・堀敬一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来具合 50% 研究の完成度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表前に1)文献資料、論文の取り寄せ 2)発表資料の十分な準備、および予習を必ずしてください。目安時間60分以上
発表後に教員が指摘したポイントやゼミ生からの質問・意見等を整理し次の準備に備えてください。目安時間60分以上

履修上の注意 /Remarks

卒業研究B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究はなかなか大変ですが
頑張った分だけ仕上げた時の達成感と喜びは大きいので頑張りましょう。

キーワード /Keywords

マクロ経済学・財政

卒業研究B 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に力をいれていく。経済地理学の基礎的な考え方や産業論をもとに、各自のテーマを追究し、論文を仕上げる。同時にテキストも輪読し、課題発見力、プレゼン力、ディスカッションコミュニケーションの能力も深めていく。なお2学期後半に工場見学を行い、そのための事前学習、事後学習の時間をとる。

教科書 /Textbooks

テキストについては各人の研究テーマに応じた文献を、そのつど紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 3回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 4回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 5回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 6回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 7回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 8回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 9回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 10回 工場見学の事前学習
- 11回 工場見学
- 12回 工場見学の事後学習
- 13回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 14回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% 課題・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習しておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。
工場見学と事前調査・事後整理の課題提出は必須の要件として参加、実施すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

卒業研究B 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、卒業研究を完成させることである。卒業研究Aにおける下調べ、研究計画に基づき、調査、分析、論文執筆作業を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに合わせて、適宜、紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】
第2回～第15回 各自の研究発表、及びディスカッション
* 卒業研究発表会を開催する。
* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組みおよび発表 100%
原則として無断欠席をした学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究Aに引き続き、卒業研究を進めておくこと。
毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自の問題意識に沿ったテーマで、大学生としての集大成のひとつである卒業研究を完成させます。

教科書 /Textbooks

各自の問題意識が異なりますので、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の問題意識が異なりますので、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 卒業研究の中間報告（プレゼンテーション）
- 4回～12回 卒業研究に係る参考文献やヒアリング調査等についての報告
- 13回～15回 卒業研究の修正・完成

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 20% 各種報告 20% 卒業研究 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、卒業論文の中間報告の資料や卒業研究に係る文献のレジュメ作成を求めます。事後学習については、卒業研究Bの各回で得られた知見を確実に卒業論文に生かせるように執筆を進めてください。

履修上の注意 /Remarks

本ゼミでは、卒業研究として2万時程度の卒業論文の完成を目指します。よって、日頃から文章力の向上や図表を使った表現力の向上に努めることを期待します。
なお、通常に授業では、

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究提出後に、ゼミOB等を招いて報告会を実施します。卒業まで気を抜かないようにしてください。

キーワード /Keywords

経済学入門A 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第3版）東洋経済新報社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について (2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について (3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

経済学入門 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第3版）東洋経済新報社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について (2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について (3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

経済学入門 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 インTRODクシヨN (マクロ経済学とは何か? 講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Bケル-7
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 インTRODクシヨN (マクロ経済学とは何か? 講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 河瀬 宏則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基礎的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基礎的諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論I

ACC110M

授業の概要 /Course Description

ビジネスにはヒト・モノ・カネが重要です。本講義はこのうち、カネについて勉強します。企業は、企業自身の状態やビジネスの成果を把握するために「決算書」を作成します。企業の経営者や、投資家、銀行、国などの「利害関係者」は決算書を各々の目的達成のために利用しています。こうした決算書は世界中で作成されており、その作成のために簿記が使われています。本講義では決算書作成の手法である「簿記」の理解を深めることを目的としています。学習範囲のうちでは日商簿記検定3級レベルについて学び、日商簿記3級取得を目標とします。ただし、後期に開講される簿記論IIをあわせて受講して下さい。

講義においては学習内容の解説後に指定する問題を受講者各自で取り組みます。簿記の上達には問題を繰り返し解くことが不可欠です。分からないところがあれば、すぐに担当者に質問して下さい。本講義では質問の有無を重要視しています。

教科書 /Textbooks

滝澤ななみ『スッキリわかる 日商簿記3級 第9版』TAC出版、2018年、1,080円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『スッキリわかる 日商簿記3級 第9版対応講義DVD』TAC出版、2018年、2,700円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 簿記の目的
- 第2回 簿記の基礎
- 第3回 商品売買の仕訳(1)：商品売買の取引について説明
- 第4回 商品売買の仕訳(2)：仕入諸掛と販売諸掛について説明
- 第5回 現金の仕訳
- 第6回 当座預金の仕訳
- 第7回 小口現金の仕訳
- 第8回 手形の仕訳
- 第9回 貸付金・借入金の仕訳
- 第10回 有価証券の仕訳
- 第11回 その他の債権債務の仕訳(1)：その他の債権債務について説明
- 第12回 その他の債権債務の仕訳(2)：その他の収益・費用について説明
- 第13回 その他の債権債務の仕訳(3)：商品券などについて説明
- 第14回 消耗品の処理・貸倒れの仕訳
- 第15回 固定資産と減価償却の仕訳

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、質問に対する加点30%、ただし別途調整係数を設けて成績評価を行います。詳細は授業初回到説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必ずしも行わなくても良いですが、復習として問題を繰り返し解くことが必要です。

履修上の注意 /Remarks

後期に開講される簿記論IIを履修して下さい。

簿記論I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日商簿記3級は最も受験者の多い資格の1つです。企業の経理職のみならず、営業職、経営者、銀行員などを目指す方に必要不可欠な資格です。どんな将来を進むとしても、必ずプラスになります。

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 河瀬 宏則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 簿記の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 簿記に関する基本的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 簿記に関わる基本的諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 簿記に関わる基本的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論II

ACC111M

授業の概要 /Course Description

ビジネスにはヒト・モノ・カネが重要です。本講義はこのうち、カネについて勉強します。企業は、企業自身の状態やビジネスの成果を把握するために「決算書」を作成します。企業の経営者や、投資家、銀行、国などの「利害関係者」は決算書を各々の目的達成のために利用しています。こうした決算書は世界中で作成されており、その作成のために簿記が使われています。本講義では決算書作成の手法である「簿記」の理解を深めることを目的としています。学習範囲については日商簿記検定3級レベルについて学び、日商簿記3級取得を目標とします。ただし、前期に開講される簿記論Iをあわせて受講して下さい。

講義においては学習内容の解説後に指定する問題を受講者各自で取り組みます。簿記の上達には問題を繰り返し解くことが不可欠です。分からないところがあれば、すぐに担当者に質問して下さい。本講義では質問の有無を重要視しています。

教科書 /Textbooks

滝澤ななみ『スッキリわかる 日商簿記3級 第9版』TAC出版、2018年、1,080円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『スッキリわかる 日商簿記3級 第9版対応講義DVD』TAC出版、2018年、2,700円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 租税公課と資本金の仕訳
- 第2回 費用収益の繰り延べと見越しの仕訳
- 第3回 訂正仕訳
- 第4回 帳簿への記入
- 第5回 商品有高帳と手形記入帳の作成
- 第6回 試算表の作成
- 第7回 試算表の問題演習
- 第8回 伝票と仕訳日計表の作成
- 第9回 精算表の決算整理仕訳(1)：現金過不足・消耗品・貸倒引当金
- 第10回 精算表の決算整理仕訳(2)：固定資産の減価償却・繰延見越・売上原価
- 第11回 精算表の作成
- 第12回 財務諸表の作成
- 第13回 帳簿の締切
- 第14回 損益勘定と繰越資産表の作成
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、質問に対する加点30%、ただし別途調整係数を設けて成績評価を行います。詳細は授業初回到説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必ずしも行わなくても良いですが、復習として問題を繰り返し解くことが必要です。

履修上の注意 /Remarks

前期に開講される簿記論Iを履修して下さい。

簿記論II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日商簿記3級は最も受験者の多い資格の1つです。企業の経理職のみならず、営業職、経営者、銀行員などを目指す方に必要不可欠な資格です。どんな将来を進むとしても、必ずプラスになります。

キーワード /Keywords

現代日本経済入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 現代日本経済を時系列的に理解するために必要な初歩的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 現代日本経済の諸問題を時系列的に把握する手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 身の回りの現代日本経済に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代日本経済入門A

ECN150M

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、産業活動を中心として、時系列的に、平易に解説していく。主な学習項目としては、近年の日本経済のトレンド、日本企業（とくに製造業）の国際競争力、規制緩和と制度改革、新規事業展開などを中心にすえ、現代日本経済にかかわる専門分野の知識やスキルを得ることができるようになる。

学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を、企業のレベルまで深く掘り下げながら理解できるようになり、卒業後にも役に立つ生涯学習力が身につく。講義では新しい資料も交えて、昨今の経済事情についても解説を加えることとする。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○橋本寿朗他著『現代日本経済 第三版』有斐閣、2011年、¥2,625（新版はデータが古いので、使用しないこととする。）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 日本経済のトレンド(1) 戦後復興 【経済改革】 【労働改革】 【傾斜生産方式】
- 3回 日本経済のトレンド(2) 高度成長 【重厚長大産業】 【エネルギー革命】
- 4回 日本経済のトレンド(3) 高度成長から安定成長へ 【ニクソンショック】 【オイルショック】
【バブル経済】
- 5回 日本経済のトレンド(4) バブル経済の発生と崩壊 【構造改革】 【IT革命】 【グローバル化】
- 6回 まとめと課題
- 7回 日本経済のトレンド(5) 構造改革とリーマンショック 【アジア展開】 【リーマンショック】
【中国市場】
- 8回 日本産業の国際展開 【東アジア市場】 【電機産業】 【産業空洞化】
- 9回 日本企業の国際競争力(1) 鉄鋼産業 【寡占競争】 【合併】 【高炉メーカー】
- 10回 日本企業の国際競争力(2) 自動車産業 【クラスター】 【トヨタイズム】 【ジャストインタイム】
- 11回 流通革命と情報化のインパクト 【IT革命】 【サプライチェーン】 【大規模小売店】
- 12回 まとめと課題
- 13回 規制緩和と企業制度改革 【日本型企業システム】 【構造改革】 【持ち株会社】
- 14回 日本企業の組織改革と日本経済のシステム転換 【世界最適調達】 【カンパニー制】 【ICT】
【フラット化】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題と期末試験を重視して評価する。

課題 ... 10% 学期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、参考図書、新聞や経済雑誌等で授業計画・内容に記載されているキーワードに関わる箇所をよく読んでおくこと。事後学習については、学習したテーマに関連する事柄について参考図書や他の経済関連図書などで知識の補足をし、次の講義に臨むこと。

現代日本経済入門 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

現代日本経済入門Bにおいて、金融、財政的側面を学習すれば、理解がより深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本経済の動向を、時系列的に整理するよう努めてください。

キーワード /Keywords

国際競争力、IT革命、グローバル化、流通革命、情報化、クラスター、規制緩和、企業制度改革

現代日本経済入門B 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 現代日本経済を横断的に理解するために必要な初歩的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 現代日本経済の諸問題を横断的に把握する手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 身の回りの現代日本経済に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代日本経済入門B

ECN151M

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、平易に解説していく。関連するニュース報道や解説書を理解できるようになることが、目標である。また、日本経済と日本産業が、これまでどのような展開と変遷を辿ったかを説明し、今後の日本経済を見通すうえで必要な専門知識を教える。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえる。

1回	日本経済の概要	【高度成長期からの変遷】
2回	日本経済の概要	【少子高齢化・人口減少と財政赤字】
3回	日本的システムの形成と崩壊・変容	【メインバンク・システム】【系列】
4回	日本的システムの形成と崩壊・変容	【安定株主】
5回	少子高齢化に立ち向かう日本	【平均寿命】
6回	少子高齢化に立ち向かう日本	【年金・医療制度】
7回	財政赤字と政府債務	【基礎的財政収支】
8回	財政赤字と政府債務	【デフォルト】【マネタイゼーション】
9回	新たなグローバル化の波	【WTO】【FTA】
10回	新たなグローバル化の波	【直接投資】【TPP】
11回	エネルギーの経済学	【固定価格買い取り制度】
12回	エネルギーの経済学	【発送電分離】
13回	量的・質的緩和とデフレ克服	【インフレーション・ターゲティング】
14回	量的・質的緩和とデフレ克服	【出口戦略】
15回	農業の改革と総復習	

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業内容にかかわる事前学習を毎回指示する。とくに、「授業計画・内容」のキーワードを調べてくるよう、指示する。授業の後では、自分が事前に調べてきた内容と授業で学んだ内容を比較してノートを加筆修正すること。

履修上の注意 /Remarks

図書館で折に触れて『日本経済新聞』を読み、今日の日本経済について知識を蓄えておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実証経済分析 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済の実証分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済の諸問題を発見するのに必要な実証分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 実証分析に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの実証分析に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

実証経済分析

ECN231M

授業の概要 /Course Description

「社会現象に法則はあるか」

この問いかけに対して経済学が行ってきたことの一部を、例を挙げてお話しします。「経済学がまだうまくできていないこと」も皆さんと一緒に考えたいです。

また、これらを真似して、表計算ソフトを使った分析や結果の視覚化をなるべく多く経験していただきます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記は一例です。受講者数および受講者の関心に合わせて変更する場合があります。

- 1回 講義概要
- 2回 実証経済分析の目的、背景、手法、結論
- 3回 因果関係で考える
- 4回 回帰式の作られかた
- 5回 実証したい仮説を、実証できる仮説に翻訳する
- 6回 統計学を応用した因果関係のチェック
- 7回 実証経済分析の結果を役立てる
- 8回 回帰分析のまとめ
- 9回 演習：分析の背景を読み解く
- 10回 演習：分析の結果を読み解く
- 11回 データを集める
- 12回 データの特徴を把握する 1：移動平均
- 13回 データの特徴を把握する 2：分布
- 14回 演習：分布の視覚化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...50%、授業への参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】クラスで指定する文献・資料を事前に読んできてください。

【事後】宿題やクイズを使って復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

計量経済学【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 計量経済学の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済の諸問題を発見するのに必要な計量経済学的分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 計量経済学的分析に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの計量経済学に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

計量経済学

ECN232M

授業の概要 /Course Description

経済学が「社会現象の法則」を見つけようとするとき、いろんな工夫をします。それを一緒に勉強して、「なぜそういう工夫をするのか」を考えます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布するか、論文を指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で扱う論文・教材に即して別途指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下は現段階での予定です。受講生の関心や担当教員の日々の情報収集によって変更することがあります。

- 1回 講義概要
- 2回 簡単な回帰分析の復習
- 3回 質的変数を分析に取り込む(ダミー変数)
- 4回 正しい回帰分析を行う工夫
- 5回 社会現象と実験
- 6回 情報の構造を利用する(パネルデータ)
- 7回 複雑な因果関係(操作変数)
- 8回 確率分布の特徴(最尤原理)
- 9回 質的応答モデル
- 10回 多肢選択
- 11回 無作為でない標本の例(標本選別)
- 12回 時系列分析
- 13回 効率性分析
- 14回 データの縮約
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...50%、授業への参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】 クラスで指定する文献・資料を事前に読んできてください。

【事後】 宿題やクイズを使って復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング【昼】

担当者名 /Instructor 中山 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

プログラミング

INF211M

授業の概要 /Course Description

コンピュータをより高度に利用するためには、コンピュータが処理すべき問題を分析して適切に手順化しコンピュータに与える、プログラミングという作業が必要となる。授業ではJavaScriptというプログラミング言語の基礎を学び、実際に動作するプログラムを作りながら、プログラミングの基本的な考え方と技術を学んでいく。さらに、より具体的な課題を設定し、それらを解決するために必要なプログラミングの知識について、演習を通じて習得する。

教科書 /Textbooks

古金谷 博、藤尾 聡子：HTML+JavaScriptによるプログラミング入門、日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて随時指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コンピュータとプログラミングの基礎
2. HTMLとJavaScriptの基礎
3. 定数と変数、配列
4. 基本的な処理、演算
5. 関数の定義と利用
6. 条件判断と分岐処理(1)【二分岐】
7. 分岐処理(2)【多分岐】
8. 繰り返し処理(1)【回数指定の繰り返し】
9. 繰り返し処理(2)【一般的な繰り返し】
10. プログラムの設計
11. 処理手順の具体化
12. プログラムのテストとデバッグ
13. オブジェクトの定義と利用
14. プログラミング応用
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テストの成績を70%、演習、提出課題など平常の学習状況を30%として評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を中心に、教科書の例題プログラムを入力し、その動作を確認すること。また、例題プログラムにわざと誤りなどの改変を加え、プログラムの動作がどのように変化するか観察しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

大学のパソコン (Windows) の基本操作に習熟しておくこと。
プログラムファイルの保存用として、USBメモリを準備すること。すでに所有するものがあれば、その容量の一部を使用してもよい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史I【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本経済史についての基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済史を踏まえて、経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができてい
	プレゼンテーション力		る。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	日本経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	日本経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本経済史 I

ECN220M

授業の概要 /Course Description

近代の経済史は、一面において国際関係史であり、19世紀以降、急速にグローバル化した国際市場に、日本が包摂され統合化していくプロセスでした。また市場のグローバル化は列強間における新たな市場と資源の獲得競争を惹起し、そのことが既存の国際関係の再編も促していくこととなります。

本講義は、このような国際的な力学に注目して近代の経済史を考察することで、国際的な視座から自国の経済について理解を深められる授業としたいと考えています。特にここでは、「産業革命」以降に見られた経済のグローバル化に対し、日本・日本人がいかに対応したのかという点に焦点を当て、主に18世紀末から19世紀の歴史を論じます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODakシヨN
- 第2回 「大いなる分岐」 - 「産業革命」の「革命」たるゆえん -
- 第3回 「マルサスの畏」 - 前近代社会の経済状態 -
- 第4回 戦(いくさ)と掠奪(りやくだつ)の経済史
- 第5回 富める国と貧しい国 - 経済格差の構造化 -
- 第6回 東アジアを巡る攻防 - ペリー来航の歴史的意義 -
- 第7回 ペリーが出会った日本人 - 「近代合理主義」と日本人 -
- 第8回 日本人の合理性とそのルーツ - 圧政・貧困の歴史像を超えて -
- 第9回 もうひとつの「革命」 - 「勤勉革命」 -
- 第10回 「開国」に伴う危機 - 何が日本を救ったのか -
- 第11回 「開国」に伴う危機 - 日本を救った侍たち -
- 第12回 日本における工業化の端緒
- 第13回 「倒幕」と「明治維新」の経済史的意義
- 第14回 自由と経済 - 筑豊の炭鉱を事例として -
- 第15回 日本版「産業革命」の始動

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。このレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業とともに「日本経済史II」を履修すれば、本講義に対する理解がより深いものとなります。

日本経済史I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに“考える”意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 歴史学 産業革命 明治維新

日本経済史Ⅱ【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本経済史についての専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	日本経済史を踏まえて、経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	日本経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	日本経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本経済史Ⅱ

ECN221M

授業の概要 /Course Description

18世紀から20世紀にかけて起こった経済のグローバル化は、列強間における新たな市場と資源の獲得競争を引き起こし、そのことが国際関係の再編も促していくこととなります。明治維新を経てアジア唯一の近代国家に脱皮した日本もまた、こうした潮流に翻弄されながら、その主体として世界の表舞台に乗り出していくこととなります。

本講義はこうした日本経済を取り巻く国際的な環境の変化に注目し、近代の日本経済史を、国内的な視点のみからではなく、国際的な視点から客観的に理解することを目標としています。

なお本講義は、明治維新を実現し西欧列強による植民地化の危機を脱した日本が、20世紀以降、海外市場へ進出していくプロセスを論じる予定で、それ以前の時期を対象とする「日本経済史Ⅰ」に時代的にも内容的にも接続する関係にあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 Ⅰ. 「産業革命」と経済のグローバル化
 - 1. 「産業革命」と西欧の台頭
- 第3回 2. 経済のグローバル化とアジア
- 第4回 Ⅱ. “文明の衝突”
 - 1. 東アジアにおけるパラダイムの転換
- 第5回 2. 「文明の中心」にならう二つの国 - 東アジアに生じた亀裂 -
- 第6回 3. インセンティブを失った国 - 「小中華」の実態 -
- 第7回 Ⅲ. 日本の大陸進出とその背景
 - 1. 北の大国ロシアの脅威
- 第8回 2. 牙をむくロシア - 「南下政策」の本格化 -
- 第9回 3. 日本はいかに大国ロシアと戦ったのか - 戦争と戦費調達 -
- 第10回 4. 日露戦争と国際金融
- 第11回 Ⅳ. 大陸進出がもたらしたもの
 - 1. 財政危機の打開策 - 大陸進出の本格化 -
- 第12回 2. 戦争と経済 - 重工業の発展と八幡製鉄所 -
- 第13回 3. 戦争と経済 - 「軍都」小倉の発展 -
- 第14回 4. 新たな戦争の種 - アメリカの経済戦略と日露戦争 -
- 第15回 Ⅴ. 総括 - 双頭の「帝国」 -

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

日本経済史II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

「日本経済史II」はあくまで独立した講義ですが、講義の趣旨をより深く理解し、日本経済史に対する国際的視野を養うために、「日本経済史I」もあらかじめ受講しておくことを推奨します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに“考える”意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 歴史学 産業革命 帝国主義 戦争と経済

西洋経済史【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	西洋経済史についての基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋経済史を踏まえて、経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができてい
	プレゼンテーション力		る。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	西洋経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	西洋経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋経済史

ECN223M

授業の概要 /Course Description

難民排除を主張するアメリカのトランプ大統領、イギリスのメイ首相、フランスのルペン氏をはじめ右翼政党の伸長、難民保護のドイツのメルケル首相の窮地。こうしたグローバル経済を排除する傾向はなぜ起こったのか。この問題を明らかにしたい。

そのためには、第1次世界大戦と第2次世界大戦の間＝両大戦間期の世界経済を検討しなければならない。

そこで第1になぜアメリカは永遠の繁栄を謳歌できたのか。アメリカの対極としてドイツはなぜ国家倒産に追い込まれていったのかを、巨額な賠償金支払から検討していく。

1929年のニューヨークの株式の暴落と世界恐慌の関連を明らかにする。

その後、各国の世界恐慌対策の結果、なぜ第2次世界大戦が起こったのかを検討する。

第2次世界大戦後のアメリカの世界支配構造をGATTから学ぶ。また、あれだけ絶大であったアメリカ経済がなぜ1971年のニクソンショックとなって終焉したのかを学ぶ。

アメリカの世界的地位の衰退過程を、グローバル化のレーガノミクスからオアバマを経てトランプまでを通じて見る。

欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）からEU形成過程を学びながら、なぜ難民問題を排除するようになったのかを、イギリスとフランス、それにドイツから明らかにする。

最後に、自己中心主義に走る各国をみて、今後いったいどのような世界は全体としてどのような方向目指すのかを一緒に考えたい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グローバル化から自国第一主義へと転換しつつある世界経済を歴史的な視点から明らかにする。
- 2回 アメリカとドイツ経済とを中心に両大戦間期の世界経済の特徴をみる
- 3回 永遠の繁栄のアメリカ（経自動車産業と住宅産業を中心に）
- 4回 国家存亡の危機のドイツ経済の特徴{巨額な賠償金支払いとフランスのルール地方占領、天文学的なインフレ}
- 5回 ドーズ案と相対的安定期の世界経済
- 6回 世界恐慌と各国の対策（ニューディール、ナチス経済、オタワ会議、大東亜共栄圏）
- 7回 ブロック経済と為替ダンピングによる第2次世界大戦
- 8回 第2次大戦後のアメリカの世界支配（IMFとGATT）体制のアメリカとドル散布による西欧諸国の復活
- 9回 ドル危機と1971年のニクソン宣言の意味
- 10回 衰退していくアメリカ経済レーガノミクス
- 11回 1971年ドル危機とニクソン宣言ークリントンー小浜ケアートランプノミクスまで
- 12回 西欧6ヶ国によるEC形成過程（ECSC - S ¥ EEC - EC - マーストリヒト条約ーEU）
- 13回 イギリスのEU加盟騒動から離脱まで
- 14回 なぜ移民を排斥するのか（トランプ、メイ首相、弱体化したメルケル首相、など）
- 15回 グローバル化から自国第一主義までから見えてくるものー縮小する世界経済連携と今後の世界経済ー

西洋経済史 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・ 講義でその都度あげる参考文献を読むようにしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アジア経済史 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア経済史についての基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アジア経済史を踏まえて、経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができて
	プレゼンテーション力		いる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	アジア経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	アジア経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジア経済史

ECN224M

授業の概要 /Course Description

インドや中国がイギリスの植民地となったのに、なぜ日本だけは植民地にならなかったのだろうか。この問題を明らかにするために17世紀からの紅茶帝国主義を見ていきたい。

16世紀に北国で寒いイギリスは中国の茶とインドのキャラコ（更紗）に魅了された。それを前提に、第1に、なぜ中国がイギリスの植民地となっていったのか。

当時、水しか飲んでいなかったイギリスにおいて中国の緑茶がイギリス東インド会社を通じて輸入された。皇室⇒貴族⇒庶民と茶が普及するにつれて、イギリスの貿易赤字問題が発生し、ついにはインドのアヘンをインドから中国に輸出して、貿易のバランス取ろうとした。その結果としてイギリスと中国の間で何が起きたのかを見たい。

第2に、緑茶に砂糖を入れて飲む習慣を覚えたイギリスは、西インド三角貿易を確立した。それはいったいどんなもので、どのような結末となったのかを明らかにしたい。

全体として紅茶帝国主義としてイギリスが中国、インド、アフリカ、西インド諸島を支配したプロセスを明らかにしたい。

第2に、イギリス産業革命はなぜ起こったのか、インド綿であるキャラコ生産をめぐって西インド三角貿易からインドの植民地イギリス産業革命は、キャラコ論争⇒キャラコ輸入禁止⇒ハーグリーブズ、アークライト、クロンプトンによる模倣⇒機械による綿糸生産といった流れからインドのイギリス植民地化を見ていきたい。

第3に日本がなぜアジアで唯一植民地にならず、工業国となったのかをイギリス、なかんずくスコットランド出身のトーマスグラバーの活動を通じて明らかにしたい。

第4に倒幕に成功した明治維新政府がイギリスの支援を受けていかにして産業国家を育成したのかを、使節団派遣⇒殖産興業⇒地租改正⇒官営工場⇒払下げ⇒財閥の形成から見ていく。

第5になぜ日清戦争が起こったのか。この問題を日本産業革命と財閥の市場としての朝鮮半島の観点から明らかにする。

第6に、世界恐慌と満州事変⇒日中戦争⇒太平洋戦争⇒敗戦の過程を見ていく。

脱亜入欧からはじまって、ついには今日のアジアの一員になっていく日本資本主義の姿を見た後は、アジア地域に位置する日本はいったいどのようにアジア諸国と付き合うのかを、受講生と一緒に考える。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、指示する。

アジア経済史 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【第1回】アジア経済史の目的
- 【第2回】なぜ中国はイギリスの植民地となったのかー豊かさゆえにイギリスに狙われたー
- 【第3回】緑茶輸入とイギリスの貿易赤字対策としてのインドでのケシの花栽培とアヘン戦争
- 【第4回】豊かなインドの特徴ーキャラコと毛織物の比較
- 【第5回】キャラコ論争と毛織物保護とハーグリーブズ、アークライト、クロンプトンによる機械制キャラコ生産
- 【第6回】インドに職人を手首切断とイギリスのインド支配
- 【第7回】薩長連合の後ろのトーマス・グラバー
- 【第8回】イギリス製の大型砲で徳川幕府を倒した明治維新
- 【第9回】欧米使節団が学んだものー殖産興業⇒地改改正⇒官営工場⇒払下げ⇒財閥の形成（脱亜入欧）
- 【第10回】財閥による産業革命の成功と日清戦争の必然性
- 【第11回】日露戦争でイギリスのカーティフ炭が果たした役割
- 【第12回】第1次世界大戦によって工業国化（軽工業と重工業の確立）となった日本資本主義主義
- 【第13回】世界恐慌とその打開策として日本の満州進出
- 【第14回】父親の軍隊手帳と日中戦争
- 【第15回】世界第2位となった中国とや韓国などアジア諸国とどのように付き合うべきかー結びに代えてー

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業以外の学習方法：受講生へのメッセージ

- ・新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学史【昼】

担当者名 /Instructor 村田 和博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経済学思想や理論が展開された歴史及びその背景を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済の諸問題に対する解決策を歴史的な議論の経緯を踏まえて検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの経済の諸問題に対する解決策を歴史的な議論の経緯を踏まえて検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの経済の諸問題に対する解決策を歴史的な議論の経緯を踏まえて検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学史

ECN222M

授業の概要 /Course Description

人間の歴史は思考の歴史でもある。我々が生きる経済社会も同様で、現代の経済社会を知るためには、市場社会の形成・確立・展開の歴史のプロセスをとらえ、ときどきの経済社会で展開された理論と思想を理解することが不可欠になる。そこで、本講義では現代に至るまでに登場した経済学の理論と思想について講義する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

馬渡尚憲『経済学史』有斐閣、1997年。
早坂忠編『経済学史』ミネルヴァ書房、1989年。
高哲男編『自由と秩序の経済思想史』名古屋大学出版会、2002年。
中村廣治、高哲男『市場と反市場の経済思想—経済学の史的再構成』ミネルヴァ書房、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、経済学史とは、重農主義【ケネーの経済表】
- 第2回 重農主義【富と貨幣、貿易差額説、貿易政策、高利反対論】
- 第3回 スミス1【古典派経済学とは、富とは何か、分業論、価値と価格、自然価格と市場価格】
- 第4回 スミス2【賃金と利潤、生産的労働と不生産的労働、重農主義批判、小さな政府論】
- 第5回 イギリス産業革命期の社会【工場制度の進展、企業規模の拡大、雇用形態と企業管理者、労務管理】
- 第6回 リカード【労働価値説、地代論、利潤論、機械論、貿易】
- 第7回 マルサスとオウエン【マルサス：人口論争、貿易、有効需要の理論、オウエン：労務管理、コミュニティ】
- 第8回 バベッジ【管理の科学化、賃金、大規模生産の優位性】
- 第9回 ミル【生産論、分配論、動態論、社会主義論】
- 第10回 マルクス【商品と価値、貨幣、剰余価値、工場制度の光と影】
- 第11回 ウェーバー【支配の諸類型、官僚制組織】
- 第12回 マーシャル【4つの時間区分、短期供給曲線と長期供給曲線、内部経済と外部経済、企業家機能、経済騎士道、生活基準の経済学】
- 第13回 ケインズ1【新古典派の限界、非自発的失業、有効需要の原理、消費関数】
- 第14回 ケインズ2【乗数効果、資本の限界効率、流動性選好、ケインズ政策】
- 第15回 シュンペーター【経済発展と新結合、企業者利潤、企業者の機能】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：参考書の該当範囲をよく読み、内容を整理する。

事後学習：授業内容について改めて整理する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済思想史、経済理論史

業界研究I【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	個人のキャリア形成に関わる課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	キャリア形成に関する知識を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

業界研究 I

CAR310M

授業の概要 /Course Description

2020年3月卒業予定で、就職活動を控える3年生対象の授業です。
(この授業は、毎回外部からお迎えした講師の方によって行われます。)
(※一般就職を希望する方(公務員希望も含む)は必修に近い意識を持って受講してください。)

大学生生活も折り返しに入り、3年生は就職活動も意識しなければなりません。
就職活動自体は後期から本格的に動き出すと思いますが、前期の段階で、今の大学生活から、
自分の将来を真剣に考え、具体的な将来の職業を考える。そのためのキャリアプランニングをすること。そして、その
プランニングしたことに、最終的に自ら実行していただくことを目的とした授業をいたします。

- 「大学生」という今の時間をどのように充実して過ごすのか。
- 北九大で何をやるのか。
- 北九大生として何を意識するのか。
- 北九大生として何を考え、どう動くのか 等々、

上記のことが将来の職業人生に多大な影響があることを理解し、具体的な「考動」を喚起することを目標といたします。
その目的・目標のために必要な、経済、業界、職種、企業、組織の情報、プラス、就職活動に関する情報を学びます。

この授業を受講していただきたい学生像としては、

- ①3年生になって自分の「将来」に漠然と不安を持っており、それを真剣に考え始めようと思っている学生
- ②受講後の夏季休暇に、企業インターンシップに参加し、業界や企業について勉強する意思のある学生
- ※特に②の考えを持っている、興味のある学生に参加いただきたい。

このような学生は是非積極的に受講ください。

この講座は、更なるステップアップ 『実践の場』 として用意されている課外講座 「業界研究II(インターンシップ)」の準備講座としての役割を持っています。

教科書 /Textbooks

テキスト： マイナビ2019 オフィシャル就活BOOK
内定獲得のメソッド 「自己分析」 適職へ導く書き込み式ワークシート
岡茂信 著、 1,365円(定価)

その他、授業の中で適宜プリントを配布いたします。

業界研究I【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

【授業の課題で使用するサイト等】

- 就職情報サイト 「マイナビ」
⇒業界・企業研究はもちろん、自己分析のツールとして使います。
- 北九州市立大学経済学部の共通ツール 「My Compass」 と 「My Collection」
⇒自らの「棚卸し」として 「My Compass」 の自己カルテのブラッシュアップをしていただきます。
⇒自分の興味ある業界・企業研究として 「My Collection」 の作成を課題にいたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス(オリエンテーション)
- 2回 昨年度から大きく変わった『就職活動スケジュール』について
- 3回 社会を知る(社会の仕組みや「会社・企業」の存在意義)
- 4回 自分を知る(自己理解の必要性)基礎編
- 5回 自分を知る(自己理解の必要性)実践編
- 6回 自分と社会との接点(職業興味の発見)
- 7回 業界研究(研究の方法と調べ方)
- 8回 先輩(OB・OG)から社会の話を聴く
- 9回 業界研究(課題研究・中間報告)
- 10回 業界研究・トピックス(履修者希望の業界を取り上げる①)
- 11回 業界研究・トピックス(履修者希望の業界を取り上げる②)
- 12回 業界研究(将来像を描くための情報収集・働く意味を見つける)
- 13回 現状把握(現役人事担当者から意見とアドバイスを聴く)
- 14回 インターンシップの現状・今後に求められる活動
- 15回 まとめ

※内容は若干前後したり、変わる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 平常の学習状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40%
 - 授業内での小レポート提出(計7回)・・・・ 35%
 - 最終授業での課題発表・提出・・・・・・・・ 25%
- ※記入量と内容で評価。欠席、未提出は評価点を減点します。
※15分以上の遅刻者は、減点となります。
(講師は全員「社会人」ですので、そのルールで評価いたします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習(事前学習、事後学習)として内容を予定しております。
授業終了後、次の講座に関する簡単な宿題(復習と予習を網羅した)を課す予定です。

履修上の注意 /Remarks

今後、社会に出て活躍する者として貪欲に情報を知ることや新しい知識を得ること、自分の将来を考えることに高い意識を持って臨む姿勢を希望いたします。

上記しましたが、例えば、夏季休暇時に企業が主催するインターンシップに積極的に参加し、貪欲に色々な情報を取得し、自らの意思でしっかり成長をしていける、もしくは、していきたい学生に受講していただきたく思っております。

また、この講義は「就職テクニック」や「就活の裏技」を教えるものではありません。受講生皆さんの今後の長期的な職業人生のプランニングから、学生として今必要な情報と経験を理解し、それについて真剣に考え、自分の人生と将来の職業を結びつける授業です。

成績評価のところにも記載いたしましたが、講師は全て「社会人」です。皆さんは大学卒業後、「社会人」として生きて行かれるはずですので、その「社会人」のルールで成績評価をしていきます。(要は「遅刻」「欠席」などは、当たり前ですが減点対象となります。)

自らの将来に期待、希望、不安、危機を感じており、今から何か動かなければならない。と、感じている学生の積極的な参加をお待ちしております。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キーワード /Keywords

業界研究II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	みずからのインターンシップ体験を口頭や文書によつて的確に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	インターンシップに対し意欲的かつ挑戦的に取り組むことができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

業界研究II

CAR380M

授業の概要 /Course Description

本講義は本学経済学部が参加するインターンシップに対して単位を認めようとするものです。本講義は夏期集中で実施され、履修登録方法が一般の科目と少し異なる点に注意してください（登録方法に関しては「業界研究I」で説明されます。なお、履修上の注意にも記してあるとおり、本講義は「業界研究I」が履修済みであることが受講条件です）。この講義のねらいは、（1）就業体験（インターンシップ）を通して生きた経済活動に触れ、キャリア能力を開発、育成すること、（2）大学での学習体験を現場で活かし、学問上の学習意欲を高めるとともに、実践的な知識をも習得すること、（3）職業意識を涵養し、進路選択に資すること、（4）就業体験（インターンシップ）を通して、地域や社会に対する認識を深めながら貢献すること、以上4点です。

昨今、就職活動におけるインターンシップの重要性が高まっており、各企業ともこの導入を積極的に図っています。

インターンシップに参加することは、企業側が求める人材像を実体験を通じて知ることができ、そのことは当然、その後の就職活動において大きくプラスとなることと思います。また、インターンシップへの参加は、実際の就業体験を通じて、自分の「向き不向き」を確め、また「向き不向き」について新たな発見をする機会となり、今後の進路を改めて考える機会ともなります。本講義はそうした貴重な体験を後押しすることを目的とするものです。

インターンシップにおいてはアルバイトとは違い、一定期間とは言え、「社会人」という立場で企業に身を置くこととなります。そこには事前に知っておくべき知識や所作などがあり、これを欠いては実りあるインターンシップを望むことはできません。本講義では、インターンシップの現状に詳しい専門家が講師を務め、そこで必要となる情報を提供します。また、インターンシップで得た実感を今後役に立つスキルにまで昇華してもらうべく、インターンシップ後には、プレゼンテーションやディスカッションの機会を用意しています。

このようにインターンシップの重要性を説くのは、本学に限らず就職活動を取り巻く状況は厳しくなっているからです。就職活動を成功させるため、あるいはそれだけでなく、やりがいをもっと見い出せる仕事に就くためには、大学生時代から実際の仕事に触れることが必須です。ゆえに、インターンシップの機会を活かして、各自の将来のキャリア展望をクリアにすることが期待されます。

なお、すべてのインターンシップが単位認定対象となるわけではなく、いくつかの条件があることに注意してください。詳細については、「業界研究II」に関するインターンシップ実施要領を参照してください（「業界研究I」において「業界研究II」の履修に関して説明が行われる予定ですので、注意して説明を聞いてください）。

教科書 /Textbooks

とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

インターンシップへ行く前に、自身のキャリアについて考えておくことが望ましいので、さしあたりキャリア関連の入門書として下記を挙げておきます。

金井壽宏(2002)『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書(○)

森岡孝二(2011)『就職とは何か』岩波新書(○)

業界研究II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回 インターンシップに関わる事前学習(7月下旬から8月上旬に複数回実施、全回の受講が必須)
- 第5回～12回 インターンシップによる実践的活動(8月～9月)
- 第13回～15回 活動報告と事後評価(9月下旬に一日集中で実施予定、受講が必須)

※上述しましたが、通常の学期科目とは異なり変則的な日程が組まれます。日程の詳細については業界研究Iで説明がなされますので、よく確認してください。

※9月下旬に開催予定の「事後報告会」(第13～15回に相当)では、インターンシップの成果について10分間程度、パワーポイントにて報告してもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

学生が提出するインターンシップ報告書(就業受け入れ企業・団体・組織の評価を含む)および報告会の発表内容により総合的に評価します。なお、インターンシップ報告書は事後報告会のときに提出しなければなりません。報告会の報告内容については、経済学部インターンシップ委員会にて評価します。

※事前研修、インターンシップ、事後報告会の全日程への出席が単位修得要件である。いずれかを無断で欠席した場合には成績が即不可となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: インターンシップに行くにあたって失礼のないように、希望する産業および企業に関する理解を諸文献を通じて深めてください。また、インターンシップに行く際の心構えについては事前研修で講義されます。

事後学習: インターンシップの報告書を作成すること、および事後報告会で報告・ディスカッションすることが、事後学習として位置づけられます。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 1学期開講の「業界研究I」を履修済みであることが受講条件となります。なお、インターンシップ実施要領を参照してください。
- (2) 本科目は1学期の時点から受講に関わるいくつかの申込手続きが開始されますので、それぞれの手続きの締切日には注意を払ってください。また、本科目の履修のためには諸書類を提出してもらう必要があります。例年、この書類不備のために残念ながら履修不可になってしまう学生が後を絶ちませんので、細心の注意を払ってください。申込プロセスやスケジュールについては「業界研究I」のなかで説明する予定です。
- (3) 単位認定にあたってはインターンシップへの出席のみならず、事前研修と事後報告会(経済学部主催とキャリアセンター主催の双方)のすべてに出席しなければなりません。特段の事情なしにいずれかを欠席した場合には単位を認めないものとします。
- (4) インターンシップに行くにあたり、事前の業界・企業研究と、事後的な振り返りを怠らないよう努めてください。
- (5) 本科目の関連科目として人材のマネジメントを扱う専門科目の「人的資源管理論」や、キャリアを扱う基盤教養科目の「キャリアデザイン」などが参考になるかと思えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

例年、履修申請をしていながら、事前研修や事後報告会を無断で欠席する学生が散見されます。申請したからには最後まで責任をもって学修に取り組むよう心掛けてください。

今後の就職活動およびその後の人生において必ず役立ちますので、インターンシップに行くことをよい機会として、社会人としての自覚と基本的素養を今から持つようしてください。

なお本科目の受講において必要な予備知識はとくにありません。はじめは知識が不十分であったとしても、本科目を通じて「業界や企業に関する知識」「自己の理解」が豊かになることを願っています。

キーワード /Keywords

経済・社会、キャリア、インターンシップ、人材マネジメント、実践

外書講読【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	外国語で書かれた経済に関する文献を講読するのに必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	外国語で書かれた経済に関する文献講読を通じて、身の回りの経済の諸問題を理解し、その解決策を検討することができる。
	生涯学習力	●	外国語で書かれた経済に関する文献講読を通じて、身の回りの経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外書講読

ECN390M

授業の概要 /Course Description

発音の周波数域一つ取ってみても、英語と日本語は全く異なった言語と言えます。ですから、日本でだけ暮らしている人には、英語はたいへん聞き取りにくく感じられます。逆の経験として、私は、アメリカに住んでいたときに不意に日本語で話しかけられ、全然聞き取れなかったことがありました。

そんな英語の文章を、日本人が読めるようにするにはどうすればいいんでしょう？私は、カタカナ発音と学校文法からどれだけ脱却できるかだと思います。その過程で、辞書をできるだけ引かず、書いてある内容を漠然とでも理解しながら適度なスピードで読み進む練習がとても重要になります。

授業では、順番に経済に関する英文を音読してもらいながら、日本語で内容を解説します。また、各国経済や国際経済に関する必要な知識を説明して、身に付けてもらいます。

教科書 /Textbooks

The Economist の記事（こちらで用意します。）

The Economist は1843年9月にロンドンで発行が開始された世界的な経済雑誌です。世界中に事務所を構え、多くのビジネスマンや学者をファンに持ちます。記事の内容も世界のあらゆる経済事情に渡りますが、タイムリーで興味深い内容を中心に毎回最新号の記事を読み解いていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な書籍があれば授業で紹介します。

外書講読【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. The Economist を読む (1)
2. The Economist を読む (2)
3. The Economist を読む (3)
4. The Economist を読む (4)
5. The Economist を読む (5)
6. The Economist を読む (6)
7. The Economist を読む (7)
8. The Economist を読む (8)
9. The Economist を読む (9)
10. The Economist を読む (10)
11. The Economist を読む (11)
12. The Economist を読む (12)
13. The Economist を読む (13)
14. The Economist を読む (14)
15. The Economist を読む (15)

たとえば、日本のニュースでも株価、為替レートなどがよく出てきますが、あなたはそれらを英語で言えますか。正解はそれぞれ、stock price, foreign exchange rate です。日本語のニュースでよく聞く経済用語も英語では意外と言えないものですね。

授業では世界の企業や業界の現状や各国の人々の生活など、産業や企業、消費生活についてのタイムリーな記事を取り上げ、参加意識を持ちながら楽しく読解に取り組みます。知らず知らずのうちに英文読解力を身に付けることができます。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度合で100%評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、インターネットやマスメディアで、ときどきの世界経済やアメリカ経済の状況を調べておいてください。
事後学習は、授業であえて最後のパラグラフを説明せずに残しますので、各自で読み解き理解しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

この授業では、英文読解のコツを伝授したいと思います。経済学者による英文講読の授業で、英語を読む勉強と経済知識の獲得と、一挙両得を目論みませんか？英語は得意だがもっと読解に強くなりたい人にも、昔から英語に苦手意識のある人にも、面白く、ためになる授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

気楽な気持ちで受講してください。英語力と経済知識がアップします。

私は福岡大学教授（経済学部・大学院経済学研究科）なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール（yamazaki@kitakyu-u.ac.jp）に送ってください。

キーワード /Keywords

The Economist 世界経済 業界 英語力 経済知識 発音 読解

ビジネス英語A (選抜クラス) 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年選抜クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication and critical thinking in relation to business. A variety of topics will be introduced with a focus on speaking and listening. Practical examples will provide a springboard for discussion, while case studies introduce problem solving.

教科書 /Textbooks

The textbook will be introduced in the first lecture
Additional handouts will be provided by the lecturer.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Getting to know people; deciding on topics for this semester
- 2 回 Topic 1
- 3 回 Topic 1 continued
- 4 回 Case study 2
- 5 回 Topic 2
- 6 回 Topic 2 continued
- 7 回 Case study 2
- 8 回 Topic 3
- 9 回 Topic 3 continued
- 1 0 回 Case study 3
- 1 1 回 Topic 4
- 1 2 回 Topic 4 continued
- 1 3 回 Case study 4
- 1 4 回 Wrap up
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review material from previous week.
Prepare for active participation.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Challenge your English. Challenge yourself.

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication and understanding through interviews with working professionals. Through their jobs we will learn and discuss about various workplace situations and challenges. These activities will hopefully provide some insight and guidance into how to deal with intercultural situations in work related environments.

教科書 /Textbooks

Working in Japan. Cengage Learning. 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction to the course
- 2 回 Sales Representative
- 3 回 Sales Representative continued
- 4 回 Tour Planner
- 5 回 Tour Planner continued
- 6 回 Marketing Director
- 7 回 Marketing Director continued
- 8 回 Translator
- 9 回 Translator continued
- 1 0 回 Assistant Supervisor
- 1 1 回 Assistant Supervisor continued
- 1 2 回 President and CEO
- 1 3 回 President and CEO continued
- 1 4 回 Teacher
- 1 5 回 Teacher continued

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 30%
Assignments/Quizzes 40%
Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review material from the previous class for the next class and complete any homework assigned by the teacher.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との取引が必要です。国際ビジネスの領域は多岐にわたりますが、ここでは主たる状況を貿易の場に限定します。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学びます。その第一歩としては、どのような場で英語が使われるかの理解から始めます。

英語によるビジネスコミュニケーションのスキルのうち、特にリーディング・ライティングの力の向上を目指します。英語を母国語としない学習者にとって、仕事で英語が必要な場合、必要な技能はリーディング・ライティングができることが中心になると考えます。その二つの領域のスキルを入門的なビジネスのレベルにまで高めておくことが大切です。また、貿易の様々な場面に伴う実務的な知識の理解も目指します。

また、英語そのものの力を底上げするために、TOEICの対策のテキストを使い、リーディング・リスニングの力を高めます。TOEICのテキストは、400～500点レベルを対象としており、かなりわかりやすい英語です。

教科書 /Textbooks

福田 靖 「Eメール時代のグローバル ビジネス英語」 成美堂 2010年
林 裕二 他 「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】
- 2回 ビジネスコミュニケーションと英語(1) 【ビジネス、英語】
- 3回 ビジネスコミュニケーションと英語(2) 【わかりやすさ】
- 4回 レターとEメールのフォーマット(1) 【構成】
- 5回 レターとEメールのフォーマット(2) 【エチケット】
- 6回 オフィスの英語 電話の英語 (1) 【リスニング】
- 7回 オフィスの英語 電話の英語 (2) 【メッセージ】
- 8回 海外出張の英語(1) 【スケジュール】
- 9回 海外出張の英語(2) 【交渉】
- 10回 ビジネス社交の英語(1) 【招待】
- 11回 ビジネス社交の英語(2) 【案内】
- 12回 取引申込の英語(1) 【新規取引】
- 13回 取引申込の英語(2) 【信用照会】
- 14回 引合いの英語(1) 【インコタームズ】
- 15回 引合いの英語(2) 【見積もり】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

ビジネス英語A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては次のようになります。英語テキストの場合は、意味・発音等が分からない表現は、辞書等を使い調べておきます。日本語テキストの場合は、意味・読みが分からない表現を調べておきます。
事後学習としては次のようになります。英語テキストの場合は、授業で確認したことの理解を深めます。そのためには、テキスト付属のCDを何度も聞いて、文字・音声・意味が結びつくようにします。そして音読を繰り返します。日本語テキストの場合は、ビジネスについての実務の理解を深めるようにテキスト・ノートを読み込みます。英語・日本語のどちらにしても、事後学習で疑問点が出れば、次回授業で質問をしてください。メールでの質問もできます。

履修上の注意 /Remarks

次回の予告をします。「事前・事後学習の内容」にあることを、確実にすることが必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの人にとって、英語を使うビジネスの場、特に貿易には、なじみがないものです。最初の二ヶ月ほどは、難しく思える時期が続きます。それは、貿易の場に使われる表現に初めて出会い、特殊に見えるからだけです。習うより慣れるが大事です。慣れてもらえれば楽になります。

キーワード /Keywords

ビジネス / 貿易 / コミュニケーション / レター

ビジネス英語B (選抜クラス) 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年選抜クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication and critical thinking in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking and listening. Practical examples will provide a springboard for discussion, while case studies introduce problem solving.

教科書 /Textbooks

The textbook will be introduced in the first lecture.
Additional handouts will be provided by the lecturer.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 First semester review: deciding on topics for this semester
- 2 回 Topic 1
- 3 回 Topic 1 continued
- 4 回 Case study 2
- 5 回 Topic 2
- 6 回 Topic 2 continued
- 7 回 Case study 2
- 8 回 Topic 3
- 9 回 Topic 3 continued
- 1 0 回 Case study 3
- 1 1 回 Topic 4
- 1 2 回 Topic 4 continued
- 1 3 回 Case study 4
- 1 4 回 Wrap up
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review material from previous week.
Prepare for active participation.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Challenge your English. Challenge yourself.

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication and understanding through interviews with working professionals. Through their jobs we will learn and discuss about various workplace situations and challenges. These activities will hopefully provide some insight and guidance into how to deal with intercultural situations in work related environments. This course continues from where ビジネス英語A finished in the first semester.

教科書 /Textbooks

Working in Japan. Cengage Learning. 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction - review of first semester
- 2 回 Architect
- 3 回 Architect continued
- 4 回 Freelance Designer and Advertising Consultant
- 5 回 Freelance Designer and Advertising Consultant continued
- 6 回 Business Development Manager
- 7 回 Business Development Manager continued
- 8 回 President
- 9 回 President continued
- 1 0 回 Chief Technology Officer
- 1 1 回 Chief Technology Officer continued
- 1 2 回 Chef and Owner
- 1 3 回 Chef and Owner continued
- 1 4 回 Chair
- 1 5 回 Chair continued; final review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 30%
Assignments/Quizzes 40%
Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review material from the previous class for the next class and complete any homework assigned by the teacher.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との取引が必要です。国際ビジネスの領域は多岐にわたりますが、ここでは主たる状況を貿易の場に限定します。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学びます。ビジネス英語が初めての人もいますので、最初に英文ビジネスレター・メールの構成要素のような基本的なことから学び始めます。

英語によるビジネスコミュニケーションのスキルのうち、特にリーディング・ライティングの力の向上を目指します。英語を母国語としない学習者にとって、仕事で英語が必要な場合、リーディング・ライティングができることが中心になると考えます。その二つの領域のスキルを入門的なビジネスのレベルにまで高めておくことが大切です。また、貿易の様々な場面に伴う実務的な知識（貿易実務の知識）を習得します。テキストは、原則として二回の授業で一つのチャプターを終えます。

また、英語そのものの力を底上げするために、TOEIC対策のテキストを使い、リーディング・リスニングの力を高めます。TOEICのテキストは、400～500点レベルを対象としており、かなりわかりやすい英語です。TOEICのテキストは、二回の授業で一つの章を終えます。ビジネス英語Aと同じテキストを使いますが、Bの方が英語は少し難しくなっています。

教科書 /Textbooks

福田 靖 「Eメール時代のグローバル ビジネス英語」 成美堂 2010年
林 裕二 他 「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

ビジネス英語B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【グローバルビジネス、英語】
- 2回 オファーの英語 (1) 【オファー、インコタームズ】 レター等の構成要素
- 3回 オファーの英語 (2) 【カウンターオファー】
- 4回 注文の英語 (1) 【発注】
- 5回 注文の英語 (2) 【信用状態】
- 6回 契約書の英語 (1) 【契約】
- 7回 契約書の英語 (2) 【売買契約】
- 8回 信用状の英語 (1) 【当事者】
- 9回 信用状の英語 (2) 【取り消し不能信用状】
- 10回 出荷の英語 (1) 【船積み】
- 11回 出荷の英語 (2) 【船積書類】
- 12回 決済の英語 (1) 【支払い】
- 13回 決済の英語 (2) 【支払い方法】
- 14回 クレームの英語 (1) 【請求】
- 15回 クレームの英語 (2) 【処理】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては次のようになります。英語テキストの場合は、意味・発音等が分からない表現は、辞書等を使い調べておきます。日本語テキストの場合は、意味・読みが分からない表現を調べておきます。

事後学習としては次のようになります。英語テキストの場合は、授業で確認したことの理解を深めます。そのためには、テキスト付属のCDを何度も聞いて、文字・音声・意味が結びつくようにします。そして音読を繰り返します。日本語テキストの場合は、ビジネスについての実務の理解を深めるようにテキスト・ノートを読み込みます。英語・日本語のどちらにしても、事後学習で疑問点が出れば、次回授業で質問をしてください。メールでの質問もできます。

履修上の注意 /Remarks

次回の予告をします。「事前・事後学習の内容」にあることを、確実にすることが必要です。辞書、テキストを忘れると評価が下がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの人にとって、英語を使うビジネスの場、特に貿易には、なじみがないものです。最初の二ヶ月ほどは、難しく思える時期が続きます。それは、貿易の場に使われる英語に初めて出会うからであり、特殊に見えるからです。習うより慣れるが大事です。慣れてもらえれば楽になります。

キーワード /Keywords

ビジネス / 貿易 / コミュニケーション / レター

金融論Ⅰ【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論Ⅰ

ECN260M

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論Ⅰ（および「金融論Ⅱ」）では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Ⅰでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③修得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジュメを印刷し、目を通しておく。
講義後には、講義内容について復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。
レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論II

ECN261M

授業の概要 /Course Description

「金融論」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融に関する問題について、専門知識に基づいた議論ができる。
- ②現実の経済情勢の的確な分析に基づき、解決策を考えることができる。
- ③経済・社会に関する知識を用い、社会に貢献する意欲を身につける。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

櫻川昌哉『金融立国試論』光文社新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジユメを印刷し、目を通しておく。
講義後に復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。
レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をして臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【昼】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際経済論を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、海外との経済取引（貿易や資本取引—国際金融&国際投資—）と日本経済について分析していくことが重要となる。ここでは、国際経済の新しい動向を日本経済を基軸にして“通貨”の視点から考察していくことをも視野に入れている。

また講義では、「国際経済の動きと今後の展望」について、具体的な統計データを示しながら分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「国際経済の動き」を“日本経済”、及び“通貨”の視点から理解することができ、また「日本経済が抱える課題」を国際経済の動向と結び付けて解明することが出来るようになる。

< 本講義の到達目標 >

1. 国際経済の動向と諸課題を理解するための「基礎概念」と「基礎理論」を身につける。
2. 国際経済の新しい動きと日本経済の課題について、解説できること。
3. 国際資本の流れ—国際金融の視点—から日本経済を分析できること。

* 日本経済新聞を読むようになればなお良い。

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際経済論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン-経済のグローバル化と日本経済の動向-
- 第2回 国際経済の現状 (I) : 国際経済の新潮流-グローバル経済化と新しい国際通貨システム-
【東西冷戦の終焉】 【資源大国】 【国際資本】 【国際通貨制度】
- 第3回 国際経済の現状 (II) : アメリカ経済の動向と今後-その変遷と戦略-
【レーガノミクス】 【クリントノミクス】 【IT革命】 【ニュー・エコノミー】 【ドル基軸通貨】 【双子の赤字】 【グローバル・インバランス】 【トランプショック】
- 第4回 国際経済の現状 (III) : 欧州連合 (EU)と通貨統合 (統一通貨ユーロ) 【欧州連合】 【ユーロ】
【英国のEU離脱】
- 第5回 国際経済と日本経済 (I) : 戦後の日本経済の変遷とその特徴
【経済の民主化政策】 【政府主導の成長政策】 【高度経済成長】 【オイルショック】
【バブル崩壊と低成長】
- 第6回 国際経済と日本経済 (II) : 外需 (輸出) 主導型の経済成長と円高デフレ - ション
【プラザ合意】 【円高不況】 【経常収支の黒字問題】 【外貨準備高】 【日本経済の再生 & アベノミクス】
- 第7回 国際経済と日本経済 (III) : 国際金融市場の動きと日本経済 【ジャパン・マネー】 【オイル・マネー】 【国際資本】
【経常収支黒字】 【資本収支赤字】 【外貨準備率】 【世界経済の不均衡問題】
- 第8回 国際貿易の基礎理論 (I) -基本構造 (メカニズム) と基本理念- 【国際分業】 【交易条件】
- 第9回 国際貿易の基礎理論 (II) -自由貿易と比較優位 (生産費) の理論-
【リカード】 【比較生産費】 【ヘクシャー=オーリンの理論】 【国際競争力】
- 第10回 貿易政策の基礎分析 (I) : 貿易摩擦と保護政策 【日米貿易摩擦】 【市場開放】 【非関税障壁】
- 第11回 貿易政策の基礎分析 (II) : 保護政策の具体的手段とその効果 【関税政策】 【数量割当政策】
- 第12回 戦後の国際貿易制度 : GATT&WTO、及びFTA (EPA) TPP
- 第13回 TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) と日本経済 【関税撤廃】 【市場開放】 【高コスト構造の是正】
- 第14回 戦後の国際通貨制度と最適通貨制度 【米ドルと基軸通貨】 【グローバルインバランス問題】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 定期試験・・・80%
- (2) 日常の授業への取り組み (授業中に適宜指示致します)・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指示された範囲の予習と、各単元での授業内容の復習を行って下さい。
- (2) 授業に関連した記事 (雑誌記事、新聞記事etc) を収集して、授業のさらなる理解に役立てて下さい。
- (3) 授業の中で配布された資料は、テキストと一緒に事前・事後学習に活用して下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料etcをよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

グローバル経済 グローバル・インバランス BRICs 資源大国 国際資本 国際通貨 (基軸通貨) 米ドル ユーロ 最
適通貨 円高・円安 経常収支 資本収支 外貨準備 アベノミクス 国際分業 比較優位 交易条件 国際競争力 関税障壁
市場開放 対外債権 対外債務 対外純資産
対外直接投資 対内直接投資 産業の空洞化

国際経済論II 【昼】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

国際経済論IIは、世界の様々な国々・地域の経済動向について学び、国際経済の動き（動向）を的確に把握すると同時に、国の対外的な経済活動、すなわち「貿易や資本取引」（国際金融&国際投資）、「企業の国際的な事業展開」（多国籍企業の動向、外資系企業の活動）等々を学ぶ分野である。

本講義では、I学期の「国際経済論I」の講義内容を前提に、国際経済の動きをよりの確・理論的に理解するために外国為替市場を通じた国際的経済取引（貿易や資本取引）のメカニズムについて解説していく。なお、国際経済論では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が対象となるので、「国際収支表」「国際収支の諸概念」等々のマクロ経済指標（統計データ）の動きについても適宜解説していく予定である。

* なお、我が国の国際収支統計の表記法が、2014年1月から国際通貨基金（IMF）公表（2008年）の「国際収支マニュアル：BPM」（第6版）に準拠して改定された。本授業では、この改訂版についても併せて解説します。

< 国際経済論IIの基本的視点 > - 授業の流れ -

* 授業展開における基本視点 → 下記のように、「通貨」の視点からも国際経済の現状&将来を分析していきます。

1. 世界の三大通貨 → 基軸通貨（国際通貨）：「米ドル」（\$）、欧州連合（EU）における統一通貨：「ユーロ」（€）、日本通貨：「円」（¥） 英国通貨：「ポンド」（£）
2. その他の注目通貨 → 中国通貨：「人民元」、スイスの通貨：「スイスフラン」etc

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1)伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社：○
- (2)末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際経済論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：世界経済と資金の流れ
- 第2回 国際収支表と国際収支の諸概念 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第3回 国際収支と日・米経済関係（Ⅰ）：世界経済の不均衡問題 【経常赤字と財政赤字】 【双子の赤字】
【資本収支の黒字】 【債務大国：アメリカ】 【グローバル・インバランス】
- 第4回 国際収支と日・米経済関係（Ⅱ）：資本輸出国日本 【経常収支の黒字】 【資本収支の赤字：
資本輸出】 【外貨準備高】 【債権大国：日本】 【対外投資】 【対外純資産】
- 第5回 経常収支と「貯蓄・投資のマクロ・バランス」 【貯蓄超過】 【財政収支赤字】 【経常収支黒字】
- 第6回 国際通貨制度とその変遷 & 現状 【金本位制度】 【固定制度】 【変動制度】 【管理通貨制度】
【IMF 体制】 【基軸通貨：米ドル】 【トリフィンのジレンマ】 【最適通貨制度】
- 第7回 外国為替取引と為替レート 【邦貨（円）建て】 【外貨（ドル）建て】
- 第8回 外国為替制度：固定相場制度 【平価】 【為替介入】 【固定レート】 【資本規制】
- 第9回 外国為替制度：変動為替相場（フロート）制度 【市場レート】 【円高】 【円安】
- 第10回 外国為替レートの変動と為替変動リスク 【基軸通貨ドルの特権】 【ドル危機】 【リスクヘッジ】
【通貨危機】 【通貨危機と円キャリートレード】
- 第11回 変動為替相場制度と為替介入（Ⅰ） 【管理フロート制】 【通貨当局】 【為替介入】 【外貨準備高】
- 第12回 変動為替相場制度と為替介入（Ⅱ） 【FB：政府短期証券】 【外国為替資金特別会計】
- 第13回 固定相場制と変動相場制度の比較分析 【ドルベック】 【通貨のトリレンマ】 【最適通貨圏】
- 第14回 グローバル経済化と最適通貨制度 【世界経済の不均衡問題】 【国際資本移動】 【ドルのジレンマ】
【共通通貨：ユーロ】 【複数通貨制度】 【SDR】
- 第15回 まとめ -世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験 80%
- (2) 日常の授業への取り組み（授業の中で適宜指示します） 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行って下さい。
- (2) 授業に関連した資料【雑誌記事、新聞記事etc】を収集して、授業で学んだ知識を深めてください。
- (3) 授業の中で配布された資料は、テキスト & ノートと共に事前・事後の学習に役立てて下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1)世界経済や日本経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2)授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料をよく読んでおいて下さい。
- (3)出来たら、日本経済新聞を読めるようになればなお良いです。

キーワード /Keywords

国際収支の均衡 経常収支黒字・赤字 資本収支赤字・黒字 財政収支赤字 外貨準備高 輸出超過 輸入超過 内需・外需 邦貨（円）建レート 外貨（ドル）建レート 円高・円安 通貨当局 管理フロート制 外国為替市場 市場レート 平価 為替介入 外国為替資金特別会計 FB（政府短期証券） 国際通貨制度 基軸通貨（国際通貨） IMF 体制 国際通貨制度の三位一体説 トリフィンジレンマ 最適通貨制度 複数通貨制度 共通通貨：ユーロ SDR グローバル・インバランス 国際資本移動

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共部門の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共部門に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経済学

ECN262M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

教科書 /Textbooks

寺井公子、肥前洋一（2015）、『私たちと公共経済（有斐閣ストウディア）』、有斐閣、2,160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏（1998）、『基礎コース 公共経済学』新成社○
井堀利宏（2005）、『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社○
スティグリッツ（2003）、『公共経済学』（上・下）（第2版）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回) ...40%、課題...10%、期末試験...50%

変更する予定あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ファイナンス論【昼】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ファイナンスに関する専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	ファイナンスに関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りのファイナンスに関する諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りのファイナンスに関する諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ファイナンス論

ECN360M

授業の概要 /Course Description

ファイナンスは、学生のみなさんの生活に役立つ知識です。またファイナンスは、本質を理解すれば、難しくありません。講義では、始めに、現在の金融環境を俯瞰することによって、ファイナンスの知識の必要性を理解してもらいます。そして、現代ファイナンス理論の根幹である現在価値分析について、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式など、具体的な事例を題材にして、理解を深めます。後半は、さまざまな証券を組み合わせた、いわゆるポートフォリオにおける、リターンとリスクについて学びます。ファイナンスの勉強はステップ・バイ・ステップで積み上げていくことが大切なので、講義では理論の説明と問題演習を交互に行い、全員が100%理解することを目指します。学生のみなさんは、直感的・論理的にファイナンスを理解できるようになり、身につけた知識を実生活に活かすことができるようになります。到達目標は以下のようになります。①現在価値分析を理解して、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式などの金融資産の価値を計算できるようになる、②ポートフォリオ理論におけるリスクとリターンの概念を理解して計算ができるようになる。

教科書 /Textbooks

榊原&城下&姜&福田&岡村著 (2013) 『入門証券論 [第3版]』有斐閣

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ブリーリー&マイヤーズ&アレン著、藤井・国枝監訳 (2014) 『コーポレート・ファイナンス 第10版 上』『コーポレート・ファイナンス 第10版 下』日経BP社
- 小林孝雄・芹田敏夫 (2009) 『新・証券投資論 [I]』日本経済新聞出版社
- 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣 (2009) 『新・証券投資論 [II]』日本経済新聞出版社
- 日本証券アナリスト協会編 『証券投資論 第3版』日本経済新聞社
- 三井住友信託銀行マーケット事業 (2016) 『第6版 投資家のための金融マーケット予測ハンドブック』NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：ファイナンスとは、ファイナンスを勉強する効用
- 2回 投資の基本概念【現在価値】【将来価値】【キャッシュ・フロー】
- 3回 投資の基本概念【内部収益率】
- 4回 債券（1）【機関投資家】【債券の種類】【債券のリスク】
- 5回 債券（2）【単利】【複利】
- 6回 株式（1）【インカム・ゲイン】【キャピタル・ゲイン】【株価指数】
- 7回 株式（2）【配当割引モデル】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 ポートフォリオ理論（1）【期待収益率】【投資リスク】【分散】【標準偏差】
- 10回 ポートフォリオ理論（2）【分散】【標準偏差】に関する練習問題
- 11回 ポートフォリオ理論（3）【選好】
- 12回 ポートフォリオ理論（4）【相関度】【相関係数】【分散投資効果】
- 13回 ポートフォリオ理論（5）【効率的フロンティア】【分離定理】
- 14回 CAPM（資本資産評価モデル）（1）【資本市場線】【証券市場線】
- 15回 CAPM（資本資産評価モデル）（2）【ベータ】

ファイナンス論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験または中間レポート... 50% 期末試験または期末レポート... 50%
宿題の提出は、成績が境界上にある場合に、プラスに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の後、解答を見ないで問題がすらすら解けるようになるまで復習してください。
- ・ 日本経済新聞を購読して、金融・経済・経営に関する記事を中心に、毎日読んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 毎回授業に出席して、内容を100%理解するように努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境経済学

ECN340M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

教科書 /Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介（2016）、『環境経済学をつかむ 第3版』、有斐閣、2,592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木（2008）、『環境経済学をつかむ』有斐閣
時政・荻田・今泉・有吉編（2007）、『環境と資源の経済学』勁草書房○
日引 聡、有村俊秀（2002）、『入門 環境経済学』、中公新書○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社○
R. K.ターナー他（2001）、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネツツ曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回)...40%、課題...10%、期末試験...50%
変更する予定あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。
経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【昼】

担当者名 /Instructor 川崎 晃央 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論I

ECN341M

授業の概要 /Course Description

産業組織論を学ぶうえで必要な最低限のミクロ経済学の理論及びゲーム理論を確認したうえで、産業組織論で用いられる基本的な理論モデルについて解説する。

教科書 /Textbooks

『経営の経済学』（第3版）丸山雅祥 著 有斐閣 2017年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プラティカル産業組織論』 泉田成美, 柳川隆 著 有斐閣 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション・産業組織論とは
- 第2回：需要の特性1（価格効果，弾力性）
- 第3回：需要の特性2（消費の外部性）
- 第4回：費用の基礎概念
- 第5回：規模の経済・範囲の経済・経験の経済
- 第6回：完全競争市場の効率性
- 第6回：独占の基礎理論
- 第7回：独占の応用理論
- 第8回：ゲーム理論1（同時手番ゲーム）
- 第9回：ゲーム理論2（逐次手番ゲーム）
- 第10回：寡占と競争1（複占市場モデルの構築）
- 第11回：寡占と競争2（複占市場モデルの分析）
- 第12回：寡占と競争3（寡占市場モデルの構築）
- 第13回：寡占と競争4（寡占市場モデルの構築）
- 第14回：寡占と競争5（寡占市場モデルの応用）
- 第15回：講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：事前に授業予定箇所の部分を読んでおくこと
復習：板書，あるいは講義資料を改めてまとめ直すこと

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の最低限基礎知識を持っていることが望ましい（持っていなくても対応できるような講義にはする予定です）。講義中の私語に対しては厳正に対処します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor 川崎 晃央 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義 クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業や産業を分析するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論II

ECN342M

授業の概要 /Course Description

産業組織論の基本的なツールを用いて、様々な応用問題についてのモデルの紹介、並びにモデル分析について解説を行う。

教科書 /Textbooks

『経営の経済学』（第3版）丸山雅祥 著 有斐閣 2017年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プラティカル産業組織論』 泉田成美, 柳川隆 著 有斐閣 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：完全競争市場と独占市場（復習）
- 第3回：市場集中
- 第4回：独占禁止法教室（予定）
- 第5回：クールノー競争
- 第6回：ベルトラン競争（同質財）
- 第7回：ベルトラン競争（製品差別化）
- 第8回：価格戦略1（第1次価格差別）
- 第9回：価格戦略2（第3次価格差別）
- 第10回：価格戦略3（第2次価格差別）
- 第11回：製品戦略1（バンドリング）
- 第12回：製品戦略2（水平的製品差別化）
- 第13回：製品戦略3（垂直的製品差別化）
- 第14回：製品戦略（過剰参入定理）
- 第15回：講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：事前に授業予定箇所の部分を読んでおくこと
復習：板書，あるいは講義資料を改めてまとめ直すこと

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の最低限基礎知識を持っていることが望ましい（持っていなくても対応できるような講義にはする予定です）。
講義中の私語に対しては厳正に対処します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論 I

ECN345M

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。例えば、アメリカのトランプ大統領である。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社(2016年)
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 学期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

最初に参考書を紹介するので、それらの参考書における対応する講義内容にあらかじめ目を通しておくと、授業をより理解しやすくなる。講義がわかりにくいと感じた場合には、参考書の対応する部分を精読すると、理解はより深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 比較優位 トランプ米国大統領

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 貿易に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論II

ECN346M

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論Iにおいて講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、対外直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである対外直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。

対外直接投資の結果として、海外子会社とともに海外孫会社の増加が見られる。海外子会社や海外孫会社の増加は、日本に何をもたらすのであろうか。その意味することともに、なぜ増加しているのかなども紹介する。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：海外子会社と海外孫会社

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社、2016年出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 直接投資理論を紹介1【直接投資】
- 3回 直接投資理論を紹介2【直接投資】
- 4回 対外直接投資概説【直接投資】
- 5回 中国における海外子会社と海外孫会社【中国】
- 6回 ASEAN4における海外子会社と海外孫会社【ASEAN4】
- 7回 アジANIESにおける海外子会社と海外孫会社【アジANIES】
- 8回 ヨーロッパにおける海外子会社と海外孫会社【ヨーロッパ】
- 9回 アメリカにおける海外子会社と海外孫会社【アメリカ】
- 10回 組織モデル【組織】
- 11回 海外子会社の役割【海外子会社】
- 12回 富士ゼロックス事例【事例】
- 13回 チャーター逸脱事例【事例】
- 14回 ポスト・トランスナショナル組織【組織】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書はあらかじめ読んでおくことを前提としているので、講義に合わせて予習しておくこと。また、直接投資に関連する文献は多くあるので、講義に合わせて予習していることがより望ましい。

履修上の注意 /Remarks

出席を重視している。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃の国際(経済)関連ニュースに注目してほしい。

キーワード /Keywords

海外子会社 海外孫会社 直接投資理論

国際金融論I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論 I

ECN363M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや研究書を理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
 - 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
 - 3回 国際収支表 【フロー統計】
 - 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
 - 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
 - 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
 - 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
 - 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
 - 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
 - 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
 - 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
 - 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
 - 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
 - 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
 - 15回 まとめと総復習 【24時間ディーリング】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に各自講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットなどで用語検索すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論II

ECN364M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや専門書を理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
 - 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】 【変動相場制】
 - 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】 【カバー取引】
 - 4回 デリバティブ取引 【先渡し】 【先物】 【オプション】 【スワップ】
 - 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】 【キャリー取引】
 - 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】 【ERM】
 - 7回 欧州通貨統合の構造的な問題 【安定成長協定】
 - 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
 - 9回 国際的な金融危機の種類 【資本収支型の危機】
 - 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
 - 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
 - 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
 - 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】 【ブルーテンス政策】
 - 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】 【ボルカールール】
 - 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する) 。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際マクロ経済学I【昼】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	海外部門を考慮したマクロ経済分析についての基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界経済情勢に関連する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際マクロ経済学 I

ECN310M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合の国際マクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「世界経済の最新の動向」及び「日本経済の現状と課題」について「国際マクロ経済学」の視点から理解することができるようになるものと考えられる。

なお、国際マクロ経済学では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が研究対象となるので、「国際収支表」と「国際収支の諸概念」等々の国際マクロ経済の統計指標の動向が分析対象になる。国際収支表については、近年、経済のグローバル化の進展に伴い国際資本の動きが活発化しており、国際金融の視点からマネーの動きを把握していく必要性が高まっている。本講義では、国際通貨基金（IMF）による新改訂に準拠した「国際収支マニュアル：BPM」（第6版）の視点から国際金融動向を基軸とした国際マクロ経済の最新の世界情勢についても言及していく予定である。

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際マクロ経済学I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第2回 世界経済の現状（I）：世界の余剰資金とアメリカ経済・・・【国際資本】【基軸通貨：ドル】
- 第3回 世界経済の現状（II）：世界経済の動向と欧州連合（EU）&新興経済国（BRICs）の現状 【英国のEU離脱】【欧州連合】【共通通貨：ユーロ】【ギリシャの財政危機】【中国経済の現状】
- 第4回 国際マクロ経済の分析視点（I）ーマクロ経済学の基本的枠組み（基礎概念）ー
【総供給・総需要バランス】【閉鎖経済モデル】【開放経済モデル】【マクロ均衡・不均衡】 第5回 国際マクロ経済の分析視点（II）ー国際マクロ経済の分析枠組み（基礎理論）ー
【輸出・輸入】【輸入超過】【輸出超過】【マクロ不均衡と経常収支】【世界経済の不均衡問題】
- 第6回 国際マクロ経済の分析視点（III）ー国際マクロ経済の分析枠組み（応用理論）ー
【内需・外需】【経常収支の黒字・赤字】【世界一の債権国】【世界一の債務国】
- 第7回 国際収支表と国際収支の諸概念（I）・・・【経常収支】【資本収支or金融収支】【外貨準備】
- 第8回 国際収支表と国際収支の諸概念（II）・・・【経常収支黒字と資本収支赤字】【外貨準備の増減】
- 第9回 国際収支と日・米経済関係（I）・・・【経常赤字】【財政赤字】【外貨準備高】【双子の赤字】
- 第10回 国際収支と日・米経済関係（II）・・・【資本の輸出】【対外投資】【対外純資産】【世界一の債権国】 第11回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（I）【貯蓄・投資】【財政収支】【経常収支】
- 第12回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（II）【過剰貯蓄】【資本輸出】【金融資産】
- 第13回 日本経済現状分析：経常収支の黒字問題と外貨準備高
【円高&円安の経済分析】【対外純資産】【円キャリートレード】【円高とデフレ】
- 第14回 世界経済の不均衡問題・・・【経常収支の黒字・赤字】【債権大国：日本・中国】【債務大国：アメリカ】
【グローバル・インバランス】
- 第15回 まとめ - 日本経済の再生：円の国際戦略&円の国際化 -

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・80%
- (2) 日常の授業への取り組み（授業の中で適宜指示します）・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指示された範囲の予習と、授業内容の復習を行って下さい。
- (2) 授業内容に関連する資料（雑誌記事、新聞記事etc）を収集して、事前・事後の学習に役立てて下さい。
- (3) 授業の中で配布された資料は、授業の補助教材ですので、テキストやノートと共に有効に活用して下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 経済学部学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (3) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料等をよく読んでおくとよいでしょう。

キーワード /Keywords

GDP 貯蓄と投資 内需と外需 総需要と総供給 マクロ需給・バランス オープン・マクロ 国際収支表 経常収支黒字・赤字 資本収支赤字・黒字 外貨準備高 輸出超過 輸入超過 資本輸出 資本輸入 対外債権 対外債務 対外純資産 円キャリートレード 貯蓄超過 財政赤字 対外投資 対内投資 金融資産 国際資本円高・円安 基軸通貨：米ドル 共通通貨：ユーロ グローバル・インバランス（世界経済の不均衡問題）
国際通貨のトリレンマ

国際マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	海外部門を考慮したマクロ経済分析についての専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	世界経済情勢に関連する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際マクロ経済学II

ECN311M

授業の概要 /Course Description

< 講義の概要 >

国際マクロ経済学は、海外との経済取引を考察の対象とするので、究極的には、“外国為替レート”の問題が議論の中心になってくる。外国為替レートは、基本的には海外貿易や資本取引（国際金融）といった経済取引を反映した形で外国為替市場で決定されるが、今日では国際資本の動きが活発になってきており、国際資本の動向（投機的な動き）が各国の為替レートに大きな影響を及ぼし、各国の実体経済に深刻な影響を与えている。

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な“外国為替市場”に関する「基本概念」と「基本理論」をできる限り平易に解説していくことを目的としている。特に、現在の国際通貨システムの根幹を担っている米国通貨ドル（基軸通貨）の役割が大きく揺らいできている状況下、国際通貨（基軸通貨）ドルの不安定な動きが国際金融システムの波乱要因ともなっている。講義では、国際通貨“米ドル”の動きを基軸にして、海外との取引を視野に入れた国際マクロ経済学（オープン・マクロ経済学）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

< 講義の目的 >

本講義を受けることで、「国際マクロ経済学」を“通貨”（為替レート）の視点から理解し、各国のマクロ経済政策の在り方について理解を深めて頂けることを講義の目的としています。

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際マクロ経済学II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション：国際通貨システムの視点から見た「世界経済の動向」と「日本経済」	
第2回	国際通貨制度とその変遷・・・【金本位制度】【固定相場制度】【変動相場制度】【管理通貨制度】	【IMF体制】
	SDR】【国際通貨制度の三位一体説】【流動性ジレンマ】【最適通貨制度】【複数通貨制度】	
第3回	外国為替取引と為替レート・・・【外国為替市場】【邦貨（円）建てレート】【外貨（ドル）建てレート】	
第4回	外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度・・・【平価】【固定レート】【市場レート】	
第5回	外国為替レートの決定メカニズム・・・【ドル買い】【円売り】【フロー・アプローチ】	
	【アセット・アプローチ】【購買力平価説】	
第6回	変動為替相場（フロート）制度・・・【円高】【円安】	
第7回	固定為替相場制度・・・【平価】【為替介入】【外貨取引の規制】【マクロ経済政策】	
第8回	変動為替相場制度と為替介入（I）・・・【管理フロート制】【金融のグローバル化】	
	【国際資本移動】【為替リスク】	
第9回	変動為替相場制度と為替介入（II）・・・【外国為替資金特別会計】【FB：政府短期証券】	
第10回	為替介入と外貨準備高・・・【通貨当局】【ベース・マネー】【マネー・サプライ】【信用創造】	
第11回	外国為替レートとマクロ経済政策の効果・・・【財政政策】【金融政策】【資本移動】	
	【不胎化介入】【非不胎化介入】	
第12回	固定相場制と政策効果・・・【固定レート】【平価】【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】	
第13回	変動相場制と政策効果・・・【市場レート】【金融政策】【財政政策】	
第14回	グローバル経済化と資本移動・・・【マンデル＝フレミングモデル】【金融政策の効果】【財政政策の効果】	
第15回	まとめ-世界経済の動向と今後の展望-	

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・80%
- (2) 授業への意欲益な取組み（授業中に適宜指示します）・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指示された範囲の予習と、授業単元（授業内容）の復習を行って下さい。
- (2) 授業に関連する資料（雑誌記事、新聞記事etc）を収集して、事前予習や事後復習に役立てて下さい。
- (3) 授業の中で配布した資料は、テキストやノートと共に授業中の補助教材として活用します。予習や復習に役立
てると共に、授業には必ず持参して下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 経済学部学生は、マクロ経済学や金融論、財政学などの講義を事前に受講していれば本講義の理解に役に立つ
でしょう。
- (2) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業が
より効果的なものになるでしょう。
- (3) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料等をよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

国際通貨制度 基軸通貨（国際通貨） MF体制 SDR 国際通貨制度の三位一体 流動性ジレンマ 最適通貨制度 複数通貨制度 外国為替市場 邦貨（円）建てレート 外貨（ドル）建てレート 平価 為替介入 外貨取引の規制 マクロ経済政策 国際金融 金融政策 為替政策 財政政策 円高 円安 通貨当局 管理フロート制 外国為替資金特別会計 FB（政府短期証券） 不胎化介入 非不胎化介入 国際資本移動

経済地理学I【昼】

担当者名 /Instructor 近江 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動 (I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動 (II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動 (III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動 (IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動 (V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10%
期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済活動が実際の空間・地域でどのように行われるのか、理論と現実を結び付けて解説していきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 /Instructor 近江 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。使用する場合は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付値曲線】【土地利用】
- 4回 都市と集積 【都市とは】【都市の成長】【都市化の利益・不利益】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【ブレット】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代的地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策、地域構造

地域経済I【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 裕哉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	地域経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済 I ECN244M

授業の概要 /Course Description

近年、地域経済を取り巻く環境は大きく変化し、「地方消滅」や「地方創生」といった言葉に示されるように注目を集めている。本講義では、身近な経済事象を取り上げ、地域との関わりについてみていく。また、本講義を通じて、地域の見方を身につけ、地域が抱える諸問題（特に経済面）に対して自分なりの解決策を考えて欲しい。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川端基夫 (2008) : 『立地ウォーズ 企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」』新評論。(○)
松原 宏編 (2002) : 『立地論入門』古今書院。
松原 宏編 (2013) : 『現代の立地論』古今書院。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域と経済 (ガイダンスを含む)
- 2回 コンビニと地域
- 3回 ファストフードと地域
- 4回 ファミレスと地域
- 5回 ファッション産業と地域
- 6回 コンテンツ産業と地域
- 7回 自然災害による生産への影響と地域
- 8回 エコタウンと地域
- 9回 農業と地域
- 10回 工業と地域
- 11回 自動車産業と地域
- 12回 化学産業と地域
- 13回 製鉄業と地域
- 14回 商店街の変遷からみる地域
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

コンビニやファストフード店など身近にあるものが「どこに立地しているか?」、「それはなぜか?」ということを普段から意識しておいて欲しい。また、授業後に学んだことがどの程度当てはまるか、身近な地域で確認して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業立地、労働力、自然環境

地域経済II【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済II

ECN245M

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。
本講義では、「人口動態」と「情報化」という視点から地域経済の変化について学び、今後について見通す。
1. 人口動態の変化と地域経済の今後について学ぶ。
2. 情報化の進展の広範な影響と地域経済に引き起こされる変化について学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報論と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 今地域経済の何が変わっているのか(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造論】
- 3回 生産年齢人口の減少と地域構造【人口動態, 生産年齢人口】
- 4回 産業構造高度化と地域構造【産業構造】
- 5回 技術革新と経済発展【技術論】
- 6回 地域経済と人口減少と技術革新【人工知能, IoT】
- 7回 情報社会の捉え方【情報社会論】
- 8回 ちょっと面倒な情報社会論批判【情報とは何か】
- 9回 インターネットの衝撃【CN(コンピュータ・ネットワーク)】
- 10回 空間克服技術としてのCN【空間克服】
- 11回 金融市場と商品市場の変容【グローバル・マーケット】【電子商取引】
- 12回 労働市場の変容【格差社会】
- 13回 企業の変容【多数立地企業】
- 14回 CNと都市【産業集積】
- 15回 地域経済の行方(まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業に際して、前回までの流れを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「地域経済I」、「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済、情報技術、それに人口動態に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域政策を検討するのに必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域政策に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域政策

ECN250M

授業の概要 /Course Description

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、前半で戦後日本の地域政策の手法や特徴、問題点を学び、後半では地域の視点からの新しい政策の姿を探ります。

教科書 /Textbooks

使用しません。
配布プリントをもとに授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○本間義人『国土計画を考える』中公新書、1999年。
山崎亮『縮充する日本』PHP新書、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のグランドデザインについて
- 8回 国土形成計画について
- 9回 地域政策の転換と今後の政策に必要なもの
- 10回 新産業育成と地域政策
- 11回 地域連携と地域政策
- 12回 交流人口と地域政策
- 13回 地域問題解決の新たな手法
- 14回 地域政策と地域経営
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート... 20% 期末テスト... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、1) 講義後に配布プリントを見直し重要なポイントを3つにまとめること、2) 事前課題がある場合には準備をして講義に臨むことを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

この授業の一部には、学生が主体的に参加するワークショップ形式の内容を含みます。積極的に発言してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策、地域問題、地域間格差、新たな公共、地域経営

北九州経済分析I【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 北九州市の経済動向を理解するために基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 北九州市の経済動向に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができてい
	プレゼンテーション力	る。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

北九州経済分析 I

ECN251M

授業の概要 /Course Description

前半は、北九州市の経済産業の歴史を概観しながら、都市としての北九州市の変容過程を説明する。また、北九州市で展開されている地域開発、具体的には響灘開発、東田開発を具体的に解説する。さらには、昨今の市民セクターの台頭を考慮しながらソーシャルビジネスの実態についても具体的に言及する。

後半は、北九州地域を中心とした北部九州に本社・拠点を置く企業の動向を踏まえながら、企業戦略、産業・業態・企業の盛衰やダイナミズムについて検討します。

よって、受講生には日常的に北九州市の経済社会や地元の企業の動向に興味を持って授業に望んで欲しいと思います。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』（2010年10月）
- 九州経済調査協会編『図説 九州経済2017』（2017年10月）
- 北村亘『政令指定都市』（2013年7月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州の発展を支えた筑豊炭田と若松港【石炭産業】、【港湾】、【沖仲士】
- 2回 近代都市・北九州の誕生【官営八幡製鐵所】、【企業城下町】、【鉄鋼業】、【軍都】
- 3回 近代都市・北九州を支えた経営者【鮎川義介】、【出光佐三】、【安川第五郎】
- 4回 政令指定都市としての北九州市【人口動向】、【少子・高齢化】、【政令指定都市】
- 5回 成熟化する北九州市の今後【成熟化】、【NPO】、【協同】、【指定管理者制度】
- 6回 北九州市の都市形態の変容【再都市化】、【高速交通】、【再開発】
- 7回 地域の上場企業の実態【上場企業】、【大企業】、【経営戦略】
- 8回 地域の主要企業におけるグループ経営【グループ経営】、【子会社】、【系列企業】
- 9回 地域企業の盛衰【老舗企業】、【企業の寿命】、【倒産】、【多角化】
- 10回 FCビジネスと外食産業【店舗展開】、【FCビジネス】、【メガフランチャイジー】
- 11回 地域における小売業I【デパート】、【スーパー】、【業態変化】
- 12回 地域における小売業II【コンビニ】、【通信販売】、【ドラッグストア】
- 13回 響灘開発とエコタウン事業【傾斜生産方式】、【地域産業】、【企業誘致】、【跡地利用】
- 14回 東田開発とスペースワールド跡地問題【テーマパーク】、【データセンター】、【スマートグリッド】
- 15回 総括～北九州の特徴と今後の展望～

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で実施する小レポート 20 % レポート 20 % 試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、授業終了後に速やかに、講義で活用したパワーポイントや資料、さらには参考文献などを m o o d l e にアップしますので、各自きちんと振り返りを行なってください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」、「地域経済」、「地域政策」の受講を薦めます。また、教養科目の「北九州学」、「人文地理学」、「地誌学」をあわせて受講すると理解しやすいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は北九州そのものを対象とした講義なので日常的に街の景観から歴史や経済活動を読み解くことを心がけると関心が深まります。

キーワード /Keywords

地域振興、地域開発、都市形成、再都市化、人口減少社会、成熟社会、協働、地域企業、グループ経営、業態変化、ICT

北九州経済分析II 【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 北九州市の経済動向を理解するために専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 北九州市の経済動向に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

北九州経済分析II

ECN252M

授業の概要 /Course Description

北九州市立大学大学院マネジメント研究科（北九州市立大学ビジネススクール）を卒業して、活躍している経営者や地域のキーパーソンをゲストスピーカーとして招いて、実践的に地域企業・組織の経営戦略、マーケティング戦略、新規事業戦略、海外戦略、組織のマネジメント、ガバナンス等について学びます。とりわけ、サービス経済化における付加価値の向上についてフォーカスしていきます。また、北九州地域で進行している人口減少や少子高齢化への対応策についてもフォーカスしていきます。受講生の皆さんには、各ゲストスピーカーの話から、成熟する地域社会における新しい市場の開拓の方法や付加価値の高い商品・サービスの開発などを考察してもらいます。また同時に、ゲストスピーカーの方々の観察し、マネジメント・スタイルについても検討してもらいます。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ヘンリー・ミンツバーグ『マネジャーの実像』日経BP（2011年1月）
伊藤宗彦・高室裕史『1からのサービス経営』碩学会（2010年4月）
○広井良典『コミュニティを問い直す』ちくま新書（2009年8月）
稲葉陽二『ソーシャル・キャピタル入門』中公新書（2011年11月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域のリーダー、地域のマネジャー【リーダーシップ】、【マネジメント】
 - 2回 北九州における成熟化の現状【人口動向】、【少子高齢化】、【人材不足】、【サービス経済化】
 - 3回 《事例研究1》地域密着型サービス業の経営戦略の変遷【中小企業】、【サービス産業】、【店舗展開】、【人材マネジメント】
 - 4回 事例研究1に係る補足と解説【サービス産業】、【立地戦略】、【サービス・プロフィット・チェーン】
 - 5回 《事例研究2》医療・福祉現場の人材マネジメント【医療・福祉】、【人材マネジメント】、【人材不足】
 - 6回 事例研究2に係る補足と解説【医療・福祉】、【マネジメント・スタイル】、【省力化】、【ICT利用】
 - 7回 《事例研究3》地域密着コンテンツビジネスの可能性【マーケティング】、【広告】、【ICT利用】
 - 8回 事例研究3に係る補足と解説【コンテンツ・ビジネス】、【WEBマーケティング】、【営業】
 - 9回 《事例研究4》地域ビル管理会社の新展開【駅前開発】、【地域コミュニティ】、【地域密着ビジネス】
 - 10回 事例研究4に係る補足と解説【テナントリーシング】、【都市計画】、【地域コミュニティ】
 - 11回 《事例研究5》行政サービスの変容とNPOの可能性【NPO】、【指定管理者制度】、【行政サービス】
 - 12回 事例研究5に係る補足と解説【ニューパブリック・マネジメント】、【ソーシャル・ビジネス】
 - 13回 《事例研究6》地域におけるマルシェの可能性【女性活躍推進】、【起業】、【地域コミュニティ】
 - 14回 事例研究6に係る補足と解説【起業】、【複業・兼業】、【人的ネットワーク】、【女性活躍推進】
 - 15回 総括～成熟社会における付加価値戦略とソーシャル・キャピタル【成熟社会】、【ソーシャル・キャピタル】
- * 3回目、5回目、7回目、9回目、11回目、13回目の授業にゲストスピーカーを招聘する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で行う小レポート（6回）60 % 試験 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、ゲストスピーカーを招聘する事例研究の授業の前には、予習としてゲストスピーカーに係る情報収集を指示しますので、きちんと対応してください。また、その他の授業で活用したパワーポイント等の資料は、授業の終了後速やかに学習支援フォルダにアップしますので、きちんと復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、日常的に新聞等で地域企業の動向を抑えていると関心が広がります。また、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」や「地域経済」の受講を薦めます。また、P.F.ドラッカーの理論などに知見を持っていることを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市立大学大学院マネジメント研究科(北九州市立大学ビジネススクール)のOBの方々をゲストスピーカーとして招聘しますので、ゲストスピーカーの方々のマネジメントやリーダーシップについて意識して聞いてください。

キーワード /Keywords

サービス経済化、サービス産業、サービス・マネジメント、人材マネジメント、インターナル・マーケティング、リーダーシップ、成熟社会、地域コミュニティ、女性、コミュニティ・ビジネス、ソーシャル・ビジネス

地方財政論 【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方財政論

ECN365M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

この講義の到達目標は、自治体における財政の在り方とは何かであり、財政の役割について理解することです。さらに、住民として自らが納める税や社会保険料がどの様に使われているのかについて知り、今後起こりうる財政問題を考え、それに対する対応策について考える。本講義は、公務員を志望する学生にとって、公務の意義や役割について理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本隆・難波利光・森裕亮編著『ローカルガバナンスと現代行財政』ミネルヴァ書房 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.財政とはなにか
- 2.住民生活と地方財政
- 3.財政の役割と機能
- 4.公共財の理論
- 5.国と地方の財政関係
- 6.租税原則と地方税
- 7.地方財政計画
- 8.財政調整制度
- 9.中間試験
- 10.自治体財政分析
- 11.財政破綻の教訓
- 12.地方財政と地域経済
- 13.地方財政と福祉政策
- 14.財政の自治を考える
- 15.地方財政のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40% 期末試験 60%
試験は、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として地方財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 園 康寿 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの中国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの中国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済	ECN350M
------	---------

授業の概要 /Course Description

中国は1978年「改革・開放」政策実施以来、40年余りを迎えようとしています。この間、中国は経済成長・雇用創出のための様々な改革を実施し、急速な経済発展を遂げ、世界第2位のGDP国を実現しました。一方、先富論の号令の下、新たな改革の実施は様々な課題を積み上げることになりました。とりわけ格差問題を意識せざるを得ない状況を生んでしまいました。高度経済成長過程から次の成長過程へとソフトランディングしていくための要件はどのようなことなのでしょうか。中国が掲げる「和諧社会」に近づいているのでしょうか。大きな転換点としてとらえることのできる1992年「社会主義市場経済」の道を歩みだした当時の中国を中国ウォッチャーにどのように映っていたのかについてみていきます。また現在、課題とされている地域経済格差、外需依存型経済成長、金融システム改革、国有企業改革、行財政改革などに注目しながら、「和諧社会」実現という今日の課題の成り立ちがどこにあるのかについて見ていきます。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

21世紀中国総研編『中国情報ハンドブック2017年版』、蒼蒼社、2017年。
渡辺利夫『社会主義市場経済の中国』（講談社新書）、1994年。
関志雄『中国経済のジレンマ-資本主義への道』（ちくま新書）、2005年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

参考文献として挙げた2冊（渡辺氏、関氏）をもとに、1978年の改革開放政策の導入以降から1992年「社会主義市場経済」導入までの歩みとその10年後の中国経済の実態を概説していきます。また、現在の中国経済はどのような成長を遂げ、どのような課題を抱えているのかについても新聞や雑誌のトピックスを交えながら概説していきます。

1. 東アジアの自己増殖メカニズム形成【世界の成長センター】【世界の生産基地】【世界の消費市場】
2. 鄧小平の思想の核心【生産力主義】【即物主義】【実験主義】
3. 現代中国における社会主義【共産党一党体制の堅持】【四つの基本原則】【天安門事件と改革・開放の全面加速】
4. 農業生産力の解放と市場経済化【下からの改革】【価格の自由化と個人農の創出】
5. 郷鎮企業の登場【郷鎮企業生産のメカニズム】【中国市場経済化の特異性】
6. 「放権讓利」と対外開放【華南経済の中核】【全方位開放体制】
7. 難渋する国有企業改革【経営メカニズム転換条例】【経営請責任制】
8. 小まとめ【1992年「社会主義市場経済」を掲げるまでの中国経済の歩み】
9. 改革開放の全体像【計画経済から市場経済へ】【公有制から私有制へ】
10. 市場経済への道【改革開放の実験と模索の段階】【社会主義市場経済への移行】【市場経済化の進展】
11. 国有企業改革【四大国有銀行を中心とする銀行システムの形成】【本格化する不良債権の急拡大と処理】
12. 人民元改革【ドルベッグから管理変動制】【人民元切り上げ論の背景】【人民元切り上げの影響】
13. 資本主義への課題【不均衡型成長からバランス型成長へ】
14. 小まとめ【改革・開放政策の現状】
15. 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：50%、学習レポート：50%

定期試験では中国経済に関する術語を理解しているか、経済発展を時系列に捉え、どのような経緯を以て今日の中国を形成しているかについて体系的に理解できているか、「中国経済」を履修してアジアに対する興味関心がどのように変化しているかについて自身の言葉で表現できるかを評価対象とします。

学習レポートでは課題への取り組み、日々の中国ニュースに関する問題意識度を評価対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回「学習レポート」を課します。その内容は（1）新聞記事から中国に関する項目の列挙、（2）中国に関する用語調べの課題、（3）授業の振り返り（ノートまとめ）とします。

履修上の注意 /Remarks

毎回の学習レポート作成にあたって、義務的に作成するのではなく、理解を深めるという目的意識で取組めること。

提出のために学習レポートに取り組むのではなく、興味関心を深めていきたいという意識のもとに楽しみながら取組むことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「東アジアを見る眼」はこれからますます求められてくると思われます。この要請に応えていくにはいわゆる「生産するアジア」「消費するアジア」「老いるアジア」「疲弊するアジア」の視点といった多様な側面からアジアの現状を見ていくこととなるでしょう。とりわけ中国は大きなプレゼンスを占めています。他の講義と合わせて点（国・地域）と点（国・地域）を関係づけ、線から面へとアジア全体を俯瞰していけるように興味関心の幅を広げてみましょう。また、機会があれば自分の目で確認してみることもプラスの影響をもたらすと思います。

キーワード /Keywords

アメリカ経済 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	米国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	米国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ経済

ECN351M

授業の概要 /Course Description

トランプ大統領のアメリカ・ファーストの政策は、経済のグローバリズムの流れを経済ナショナリズムへと反転させました。トランプ大統領の経済政策によってアメリカ経済は世界経済成長の牽引車となるのでしょうか？それとも、保護主義的な通商政策によって新興経済を不安定な状況に陥らせてしまうのでしょうか？アメリカの中央銀行にあたるフェッドは、QE政策からの出口戦略をゆっくりですが確実に進めつつあります。このことはアメリカ経済や各国通貨の為替レートにどのような影響を及ぼすのでしょうか？学部を超えて、現代を生きていくうえで必須の知識がここにはあります。

この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済と比較しながら分かりやすく説明します。

前提となる経済学の知識も分かりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

武者陵司『結局、勝ち続けるアメリカ経済 一人負けする中国経済』講談社 + α新書、2017年8月。

副島隆彦『アメリカに食い潰される日本経済』徳間書店、2017年4月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が2問出題されます。

試験の出題範囲は時期が来たらポータルサイトを通じて連絡します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、テキストの当該章を読んでください。
事後学習では、その日の講義内容を理解・記憶し、コラムの計算問題を解いて答え合わせをしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授（経済学部・大学院経済学研究科）なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール（yamazaki@kitakyu-u.ac.jp）に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 Fed 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨

東アジア経済論【昼】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東アジア経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 東アジア経済について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア経済論

ECN352M

授業の概要 /Course Description

東アジア地域は長い期間にわたって経済発展を続けてきた地域でやかなり、今後東アジア経済の動向が世界の中で重要な意味を持つようになる。この授業のねらいは、一つには多様性に富んだ東アジア地域の代表的な国々の経済を概観し、その特徴を深く理解することである。もう一つには、東アジア経済に関連する共通した特徴や課題を理解することである。

授業では、まず東アジア地域全体の統計データを確認して、世界の中での東アジア経済の位置づけと全体像を把握する。次に、東アジア経済の特徴を「工業化」、「サービス化」、「移民」、「体制移行」という4つのキーワードで捉えて、それぞれの特徴について代表的な国の経済を紹介し、そのキーワードに関する理論的背景や歴史的な事情などを解説をしていく。次に、東アジア地域が共通して経験した問題点と、今後取り組むべき課題を取り上げる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺利夫編『アジア経済読本 第4版』、東洋経済新報社
長谷川啓之編著『アジア経済発展論』、文真堂
三木敏夫『東アジア経済発展論』、創成社
郭洋春『現代アジア経済論』、法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、世界の中の東アジア
- 2回 韓国経済
- 3回 台湾経済
- 4回 東アジアの工業化戦略
- 5回 シンガポール経済
- 6回 香港経済
- 7回 国際金融・国際物流
- 8回 マレーシア経済
- 9回 インドネシア経済
- 10回 ASEANにおける華人経済
- 11回 中国
- 12回 その他移行経済（ベトナム、ミャンマー、北朝鮮など）
- 13回 国家と市場、開発独裁
- 14回 アジア通貨危機
- 15回 アジアにおける地域統合

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況及び小テスト...40% 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、普段から東アジアの政治経済情勢について新聞、ニュースなどで接するおく。事後学習としては、授業で取り上げたキーワードについての知識と、各国の事例を結びつけて復習しておく。

履修上の注意 /Remarks

経済学科以外の受講生は経済学の入門書を読んだり、経済関係の授業を受けて、経済用語に慣れ親しんでおくことを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

工業化、サービス化、移民・華人、体制移行、アジア通貨危機、地域統合

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営学の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営に関する諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学入門

BUS100M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを、企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2014)『経営学への招待(新装版)』白桃書房。

基本的な用語集として、吉田和夫・大橋昭一編(2010)『最新基本経営学用語辞典』同文館出版が有用である。用語集は各概念の確認と理解のために用いる本であり、棒暗記を目的とするものではない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 13回 マーケティング【消費者行動】【流通】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
※ただし出席はとり、単位修得の要件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。
事後学習：毎回復習問題を配布するので、この内容を講義後に復習しておくことが期待される。

経営学入門 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- (1) 高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくことよい。
- (2) 第3回「コーポレート・ガバナンス」は企業論全体の広い内容を含むので、1回の講義に収めるには難しい内容である。場合によっては2回に分けて講述するかもしれない。
- (3) シラバスには記載されていないが、企業論との連動を鑑み、ファイナンスの内容もどこかで取り扱いたいと思っている。
- (4) 私語をしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。
履修上の注意にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。
講義の進め方や、成績評価に関する詳細な情報は講義初回に説明する。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営学の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営に関する諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学入門

BUS100M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを、企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2014)『経営学への招待(新装版)』白桃書房。

基本的な用語集として、吉田和夫・大橋昭一編(2010)『最新基本経営学用語辞典』同文館出版が有用である。用語集は各概念の確認と理解のために用いる本であり、棒暗記を目的とするものではない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 13回 マーケティング【消費者行動】【流通】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
※ただし出席はとり、単位修得の要件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。
事後学習：毎回復習問題を配布するので、この内容を講義後に復習しておくことが期待される。

経営学入門 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- (1) 高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくことよい。
- (2) 第3回「コーポレート・ガバナンス」は企業論全体の広い内容を含むので、1回の講義に収めるには難しい内容である。場合によっては2回に分けて講述するかもしれない。
- (3) シラバスには記載されていないが、企業論との連動を鑑み、ファイナンスの内容もどこかで取り扱いたいと思っている。
- (4) 私語をしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。
履修上の注意にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。
講義の進め方や、成績評価に関する詳細な情報は講義初回に説明する。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

企業論基礎（ファイナンス入門）を受講する人の多くは、経営情報学科の必修科目である「経営学入門」を前期（1学期）に受講しているはず。なぜなら、この講義は「経営学入門」を履修した後に受講する講義科目（必修科目）として位置付けられているからです（経営情報学科のカリキュラム・ツリーを参照）。この講義では、「経営学入門」で学習した内容のうち、「カネ」の側面に着目して、会社（特に株式会社）の基本的な仕組みや資金調達方法などについて、多くの事例を交えながら講義を進めていきます。

この講義の目的は大きく2つあります。1つは、2年次以降のファイナンス系の専門科目（企業ファイナンスI、企業ファイナンスII、証券市場論、ファイナンス論、企業論I、企業論IIなど）を受講するうえで必要となる基礎知識を提供することです。この講義を受講することで「ファイナンス」の基礎を身に付けることができます。もう1つは、企業経営に関して、世界ではどのような研究が行われているのかをざっくり紹介することで、まだ大学に入学して日が浅いみなさんに、少しでも学問の面白さを伝えることです。大学は「学問」を発展させるために、日々「研究」が行われているところです。ですので、みなさんは大学で世界の最先端の研究に触れることができます。みなさんには学問的知見を貪欲に吸収して欲しいと思います。また、この講義は「公認会計士」・「証券アナリスト」・「ファイナンシャルプランナー(FP)」・「経営学検定」・「ビジネス数学検定」といった各種資格試験にも深い関わりがあります。

教科書 /Textbooks

特に指定をしません。毎回資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

砂川 伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門〈第2版〉』、日本経済新聞社、2017年。
 大村 敬一・俊野 雅司、『証券論 - History, Logic, and Structure』、有斐閣、2014年。
 釜江 廣志(編)、『入門証券市場論 第3版補訂』、有斐閣、2015年。
 小松 章、『企業形態論』、新世社、2006年。
 榎原 茂樹・城下 賢吾・姜 喜永・福田 司文・岡村 秀夫、『入門証券論 [第3版]』、有斐閣アルマ、2013年。
 手嶋 宣之、『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』、ダイヤモンド社、2011年。
 古川 浩一・蜂谷 豊彦・中里 宗敬・今井 潤一、『コーポレート・ファイナンスの考え方』、中央経済社、2013年。
 森生 明、『バリユエーションの教科書』、東洋経済新報社、2016年。
 (その他の参考書は講義で紹介します)

企業論基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【講義の目的・意義・概要，成績評価の方法】
- 第2回 証券と投資①【証券，金融市場，金融仲介機関，直接金融，間接金融】
- 第3回 証券と投資②【発行市場，流通市場，効率的市場仮説(EMH)，リスクとリターン，統計学】
- 第4回 株式会社と株式①【企業形態，株式会社，株式，有限責任，株式市場，株式公開，会社法，M&A】
- 第5回 株式会社と株式②【株式会社の機関構造，所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード，コーポレート・ガバナンス，企業価値，株式価値】
- 第6回 企業分析①【経営戦略，競争戦略，コストリーダーシップ戦略，差別化戦略，リソース・バースト・ビュー，ダイナミック・ケイパビリティ，財務諸表】
- 第7回 企業分析②【財務分析，収益性，効率性，安全性，成長性】
- 第8回 評価の基本原則①【貨幣の時間価値，単利，複利，将来価値，現在価値】
- 第9回 評価の基本原則②【年金現価係数，永続価値，成長永続価値，裁定取引，一物一価の法則】
- 第10回 ポートフォリオ理論①【リスク，リターン，期待値，分散，標準偏差】
- 第11回 ポートフォリオ理論②【共分散，相関係数，ポートフォリオ，システムティックリスク，アンシステマティックリスク】
- 第12回 ポートフォリオ理論③【効率的フロンティア，マーケットポートフォリオ，資本市場線，証券市場線，CAPM】
- 第13回 行動ファイナンス①【伝統的なファイナンス，行動ファイナンス，アノマリー，認知誤差，保守主義】
- 第14回 行動ファイナンス②【自信過剰，プロスペクト理論，メンタルアカウンティング，過剰反応，過小反応】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講にあたって，(次回の) 講義内容に関するキーワードについて調べておくこと。
講義終了後には，必ず講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経営情報学科の学生は「経営学入門」・「簿記論I」・「入門経済学A(ミクロ経済学)」を履修済みで，「マネジメント論基礎」・「簿記論II」・「経営統計」を履修中 (または履修済み) であることが望ましい。この講義の内容は「経営統計」と深い関わりがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 久多里 桐子 / Kiriko Kudari / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

企業論基礎（ファイナンス入門）を受講する人の多くは、経営情報学科の必修科目である「経営学入門」を前期（1学期）に受講しているはず。なぜなら、この講義は「経営学入門」を履修した後に受講する講義科目（必修科目）として位置付けられているからです（経営情報学科のカリキュラム・ツリーを参照）。この講義では、「経営学入門」で学習した内容のうち、「カネ」の側面に着目して、会社（特に株式会社）の基本的な仕組みや資金調達方法などについて、多くの事例を交えながら講義を進めていきます。

この講義の目的は大きく2つあります。1つは、2年次以降のファイナンス系の専門科目（企業ファイナンスI、企業ファイナンスII、証券市場論、ファイナンス論、企業論I、企業論IIなど）を受講するうえで必要となる基礎知識を提供することです。この講義を受講することで「ファイナンス」の基礎を身に付けることができます。もう1つは、企業経営に関して、世界ではどのような研究が行われているのかをざっくり紹介することで、まだ大学に入学して日が浅いみなさんに、少しでも学問の面白さを伝えることです。大学は「学問」を発展させるために、日々「研究」が行われているところです。ですので、みなさんは大学で世界の最先端の研究に触れることができます。みなさんには学問的知見を貪欲に吸収して欲しいと思います。また、この講義は「公認会計士」・「証券アナリスト」・「ファイナンシャルプランナー(FP)」・「経営学検定」・「ビジネス数学検定」といった各種資格試験にも深い関わりがあります。

教科書 /Textbooks

特に指定をしません。毎回資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川 伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門〈第2版〉』、日本経済新聞社、2017年。
 大村 敬一・俊野 雅司、『証券論 - History, Logic, and Structure』、有斐閣、2014年。
 釜江 廣志(編)、『入門証券市場論 第3版補訂』、有斐閣、2015年。
 小松 章、『企業形態論』、新世社、2006年。
 榎原 茂樹・城下 賢吾・姜 喜永・福田 司文・岡村 秀夫、『入門証券論 [第3版]』、有斐閣アルマ、2013年。
 手嶋 宣之、『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』、ダイヤモンド社、2011年。
 古川 浩一・蜂谷 豊彦・中里 宗敬・今井 潤一、『コーポレート・ファイナンスの考え方』、中央経済社、2013年。
 森生 明、『バリユエーションの教科書』、東洋経済新報社、2016年。
 (その他の参考書は講義で紹介します)

企業論基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【講義の目的・意義・概要，成績評価の方法】
- 第2回 証券と投資①【証券，金融市場，金融仲介機関，直接金融，間接金融】
- 第3回 証券と投資②【発行市場，流通市場，効率的市場仮説(EMH)，リスクとリターン，統計学】
- 第4回 株式会社と株式①【企業形態，株式会社，株式，有限責任，株式市場，株式公開，会社法，M&A】
- 第5回 株式会社と株式②【株式会社の機関構造，所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード，コーポレート・ガバナンス，企業価値，株式価値】
- 第6回 企業分析①【経営戦略，競争戦略，コストリーダーシップ戦略，差別化戦略，リソース・バースト・ビュー，ダイナミック・ケイパビリティ，財務諸表】
- 第7回 企業分析②【財務分析，収益性，効率性，安全性，成長性】
- 第8回 評価の基本原則①【貨幣の時間価値，単利，複利，将来価値，現在価値】
- 第9回 評価の基本原則②【年金現係数，永続価値，成長永続価値，裁定取引，一物一価の法則】
- 第10回 ポートフォリオ理論①【リスク，リターン，期待値，分散，標準偏差】
- 第11回 ポートフォリオ理論②【共分散，相関係数，ポートフォリオ，システムティックリスク，アンシステマティックリスク】
- 第12回 ポートフォリオ理論③【効率的フロンティア，マーケットポートフォリオ，資本市場線，証券市場線，CAPM】
- 第13回 行動ファイナンス①【伝統的なファイナンス，行動ファイナンス，アノマリー，認知誤差，保守主義】
- 第14回 行動ファイナンス②【自信過剰，プロスペクト理論，メンタルアカウンティング，過剰反応，過小反応】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講にあたって，(次回の) 講義内容に関するキーワードについて調べておくこと。
講義終了後には，必ず講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経営情報学科の学生は「経営学入門」・「簿記論I」・「入門経済学A(ミクロ経済学)」を履修済みで，「マネジメント論基礎」・「簿記論II」・「経営統計」を履修中(または履修済み)であることが望ましい。この講義の内容は「経営統計」と深い関わりがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待（第3版）』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【組織と個人】【統合】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80％）と学期中の小レポート等提出物の結果（20％）によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

マネジメント論基礎【昼】

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。
企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待（第3版）』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【組織と個人】【統合】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80％）と学期中の小レポート等提出物の結果（20％）によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

マネジメント論基礎【昼】

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な基本的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンス I

BUS214M

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には、企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から、企業がどのように資本調達を行い、実物資産へ投資し、また、投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹、『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門（第2版）』，日本経済新聞社（2017年）
石野雄一、『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
Stephen A.Ross,Randolph W.Westerfie,『コーポレートファイナンスの原理【第9版】』，きんざい（2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション コーポレート・ファイナンスの世界
- 2回 コーポレート・ファイナンスの世界(1)【期待リターン，リスク（標準偏差）】
- 3回 コーポレート・ファイナンスの世界(2)【証券，発行市場，流通市場】
- 4回 コーポレート・ファイナンスの世界(3)【ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
- 5回 投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
- 6回 資本調達の基礎知識：自己資本調達(1)【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株】
- 7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達(2)【ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
- 8回 資本調達の基礎知識：負債資本調達(1)【普通社債，フロント債】
- 9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達(2)【転換社債，MSCB】
- 10回 配当の基礎知識(1)【配当政策，配当性向，配当利回り】
- 11回 配当の基礎知識(2)【自社株買い戻し，株式分割】
- 12回 コーポレート・ガバナンス(1)【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード】
- 13回 コーポレート・ガバナンス(2)【取締役会制度，執行役員制度，大株主】
- 14回 コーポレート・ガバナンス(3)【敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業外学習について
- (1)事前に講義資料等を学習支援フォルダに挙げているので，必ず参照し準備すること。
- (2)授業終了後には，授業の内容を反復すること。

企業ファイナンスI【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回「電卓」を持参すること。

この講義を受講する場合は、「企業論基礎」・「経営統計」・「簿記論I」・「簿記論II」・「経済学入門A」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンスII

BUS215M

授業の概要 /Course Description

本講義は企業ファイナンスIで学習した内容をふまえて、株主の観点から、企業の財務活動を考える上で必要になる理論的基礎を与えることを目的とします。具体的には、「将来の1万円と現在の1万円ではどちらの方が価値が高いか」、「企業価値を最大化するための資本構成は存在するか」などを学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹，『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸，『コーポレート・ファイナンス入門（第2版）』，日本経済新聞社（2017年）
石野雄一，『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
大津広一，『ファイナンスと事業数値化力』，日本経済新聞社（2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 企業ファイナンスIの復習
- 2回 現在価値計算(1)【現在価値 (PV)，将来価値 (FV)，安全利子率】
- 3回 現在価値計算(2)【リスクプレミアム，投資信託】
- 4回 株式価値・負債価値と企業価値(1)【金融商品，利付債，割引債，クーポン】
- 5回 株式価値・負債価値と企業価値(2)【配当割引モデル (DDM)】
- 6回 株式価値・負債価値と企業価値(3)【企業価値，株式価値，負債価値】
- 7回 資本コスト(1)【資本コスト，最低要求収益率】
- 8回 資本コスト(2)【加重平均資本コスト】
- 9回 資本コスト(3)【マーケット・ポートフォリオ，資本資産評価モデル (CAPM)， β (ベータ)】
- 10回 投資決定の基礎理論(1)【投資決定，割引キャッシュフロー (DCF) 法，正味現在価値 (NPV)】
- 11回 投資決定の基礎理論(2)【内部収益率 (IRR)，回収期間法】
- 12回 資本構成の基礎理論(1)【レバレッジ効果，MM理論，裁定取引】
- 13回 資本構成の基礎理論(2)【法人税，倒産コスト】
- 14回 資本構成の基礎理論(3)【トレード・オフ・モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業外学習について
- (1)事前に講義資料等を学習支援フォルダに挙げているので、必ず参照し準備すること。
- (2)授業終了後には、授業の内容を反復すること。

企業ファイナンスII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回「電卓」を持参すること。
この講義を受講する場合は、「企業論基礎」・「企業ファイナンスI」・「経営統計」・「経済学入門A」・「簿記論I」・「簿記論II」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングI【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マーケティングの理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マーケティングに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マーケティングに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マーケティング I

BUS230M

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。
本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。
そこでマーケティング(前期)では、マーケティング概論とマーケティング・リサーチについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦「マーケティング戦略」有斐閣、
P・Gホーエル「初等統計学」培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館
林田実「サイコロを振って、統計学!」創成社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの意義と歴史 【マネジリアル・マーケティング】
- 第3回 マーケティング・マネジメントの考え方【市場細分化】【ターゲティング】
- 第4回 " 【ポジショニング分析】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 科学的方法論
- 第8回 マーケティング・リサーチの進め方【アンケート】【グループインタビュー】
- 第9回 " 【平均値の差の検定】
- 第10回 " 【適合度検定】
- 第11回 " 【回帰分析】
- 第12回 " 【多変量解析】
- 第13回 事例演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合・50% テスト・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

マーケティングI【昼】

履修上の注意 /Remarks

マーケティングIでは、実務でよく使われる統計学を紹介するため、「統計学」の履修が効果的学習に繋がる。それができなければ、マーケティングIIから受講しても良い。

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングII【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マーケティングの理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マーケティングに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マーケティングに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マーケティングII

BUS231M

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。
本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。
そこでマーケティングII(後期)では、戦略的マーケティングとマーケティング・ミックスについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦「マーケティング戦略」有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシック」同文館
小川孔輔「マーケティング入門」日本経済新聞出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 戦略的マーケティングの考え方【SWOT分析】
- 第3回 " 【戦略ドメイン】 【製品ポートフォリオ分析】
- 第4回 " 【競争市場戦略】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 製品戦略 【製品ライフサイクル】
- 第8回 " 【ブランド】 【経験価値】
- 第9回 価格戦略 【需要価格弾力性】 【プロスペクト理論】
- 第10回 プロモーション戦略【広告効果測定】
- 第11回 流通戦略 【チャネル政策】
- 第12回 " 【取引コストの経済性】
- 第13回 ケース演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合・50% テスト・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

マーケティングII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場論 【昼】

担当者名 久多里 桐子 / Kiriko Kudari / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	証券市場の仕組の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	証券市場に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	証券市場に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場論

BUS330M

授業の概要 /Course Description

本講義では、証券と証券市場に関する仕組みや役割等の基礎事項を学ぶ。証券に関する理論に加えて、証券取引所における証券取引の仕組みや、わが国の株式市場の現況というような、証券に関する制度および実務的側面についても触れる予定である。

教科書 /Textbooks

テキストは指定せず、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

釜江廣志(編)(2015)「入門証券市場論(第3版補訂)」有斐閣
小林 孝雄, 芹田敏夫(2009)「新・証券投資論I」日本経済新聞出版社
手嶋宣久(2011)「基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門—理論のエッセンスを正確に理解する」ダイヤモンド社
花枝英樹(2005)「企業財務入門」白桃書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: 証券市場論の概要(ガイダンス)
- 第 2 回: 証券の役割と証券市場の機能
- 第 3 回: 発行市場と流通市場
- 第 4 回: 財務分析と株式の投資尺度
- 第 5 回: 評価の基本原則
- 第 6 回: 債券の評価と株式の評価
- 第 7 回: 中間テスト
- 第 8 回: ポートフォリオ理論(1)【個別証券のリターンとリスク】【2つの証券の連動性】
- 第 9 回: ポートフォリオ理論(2)【ポートフォリオのリターンとリスク】【最適ポートフォリオ選択】
- 第 10 回: 資本資産評価モデル
- 第 11 回: 先物: スワップとオプション
- 第 12 回: 投資家と投資戦略
- 第 13 回: さまざまな金融商品と資産運用
- 第 14 回: 証券市場の現状と諸問題
- 第 15 回: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の確認テスト24% + 中間テスト26% + 期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 毎回の講義資料を確認しておく。
事後学習: 講義内容を毎回復習し、webにて講義内容に関する確認テストを受験する。

履修上の注意 /Remarks

電卓の持参を推奨する。

証券市場論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

証券市場に関する歴史、制度、理論など、体系的な知識の習得を目標とする。個別企業や証券市場に関するニュースもタイムリーに取り入れて紹介する予定である。

キーワード /Keywords

証券市場、投資家、債券、株式

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2017年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・50% 期末レポート・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

中小企業論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経営【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経営の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	国際経営、グローバルビジネス全般に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経営

BUS311M

授業の概要 /Course Description

本講義は比較経営の枠組みを押さえた上で、東アジア地域の企業経営、特に同じ漢字文化圏（または儒教文化圏）に属する国同士の企業経営システムの比較を中心に講義を進めていく。
現地企業調査で得た一次資料を活用し、具体的な企業事例を織り交ぜながら、日本と東アジア地域の企業経営様式の異同について学ぶ。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

王効平『日中韓企業の経営比較』税務経理協会
王効平『華人系資本の企業経営』日本経済評論社
末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大学出版会
末廣昭『ファミリービジネス論-後発工業化の担い手』名古屋大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 比較経営の基本的枠組み【定性分析】、【定量分析】、【環境適応理論】
- 第2回 比較アプローチの意義と課題
- 第3回 東アジア型企業経営の捉え方【儒教文化圏】
- 第4回 企業制度比較【企業統治】、【経営権市場】、【同族企業】
- 第5回 経営システムの比較【内部特性】
- 第6回 内部特性I：経営目標【成長重視】、【利益重視】
- 第7回 内部特性II：経営戦略【国際化】、【M&A】、【戦略的提携】、【事前合理性】
- 第8回 内部特性III：経営組織【公式化】、【集権化】、【フラット化】、【ミドルアップダウン型】
- 第9回 内部特性IV：管理特性【業績評価】、【人材養成】、【情報伝達】
- 第10回 資金調達様式の比較【内部調達・外部調達】、【負債比率】、【自己資本比率】
- 第11回 ベンチマーク採用の有無【ビジネスモデル】、【エクセレントカンパニー】
- 第12回 事例紹介I【日本企業のケース】
- 第13回 事例紹介II【中華圏企業のケース】
- 第14回 事例紹介III【ほか東アジア系企業のケース】
- 第15回 グローバル化と東アジア型企業経営

国際経営【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 小テスト 40%
- ・ 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料を熟読すること
参考文献を各自入手し、活用する

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語を慎んで下さい
- ・ 遅刻・早退を慎んで下さい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 経営学の基礎知識が取得済みであることを前提に講義を進めていく
- ・ 質疑は随時受け付けるが、教員から質問された場合、自分の考えを述べられるように心構えをしてもらいたい
- ・ 講義中に小テストを複数回実施する

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コンピュータシステムの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのコンピュータシステムに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてコンピュータシステムを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コンピュータシステム

INF220M

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
- 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
- 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
- 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
- 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】
- 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
- 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
- 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
- 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
- 10回 問題解決のためのモデル(その4)【デシジョンテーブル】
- 11回 データ集合を効率よくコンピュータ処理する際の形式化【データ構造】
- 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
- 13回 情報と情報量、あいまいさ【エントロピー】
- 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【電子自治体】【公的個人認証】
- 15回 まとめと演習

コンピュータシステム【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。
授業では、多くのIT用語が出てくる。授業中にwebで調べておくように指示され用語は、必ず調べてある程度は理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容欄に示すように授業内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等積極的に自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

オペレーションズ・マネジメント 【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	オペレーションズ・マネジメントの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するためのオペレーションズ・マネジメントに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に理解し、その解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の数理的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

オペレーションズ・マネジメント INF200M

授業の概要 /Course Description

組織を運営していく上では、多くの場面で意志決定が必要になります。たとえば、どの順番に仕事を片付ければいいのか、お金を借りるべきか否か、人を増やした方がいいのかなど様々です。この授業では、こういった意志決定が必要な場面で、どうすれば合理的な基準を定めることができるのか、その基準に基づくと、どのように決定はなされるのかについて、実習を交えて実践的に学びます。
この授業を通して、問題解決のための客観的な基準を自ら定め、読み解くことのできる能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、この授業で学ぶこと
- 2回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅰ、工程管理とは
- 3回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅱ、PERT図の作成
- 4回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅲ、所要時間の評価
- 5回 【PERT】の実習
- 6回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅰ、金利を踏まえた意思決定のあり方
- 7回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅱ、金利を踏まえた変換式の導出
- 8回 【経済性工学】の実習
- 9回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 10回 【線形計画法】の実習
- 11回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅰ、待ち行列の定義
- 12回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅱ、待ち行列に関する指標の導出
- 13回 【待ち行列理論】の実習
- 14回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 15回 質問受付・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%、レポート...30%
ただし、欠席を減点対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理解できなくても構いませんので、教科書の該当章をあらかじめ読み、どのような内容になるのか、どういった点が重要と考えられるかなど、考えておくことで講義での理解が深まります。

講義のあとは、練習問題を解いてみることで、講義で習った手法の実際場面での利用について考えることで理解が深まります。

オペレーションズ・マネジメント【昼】

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、1GB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ構造【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報科学の理解に必要なアルゴリズム・データ構造の基本的専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータ構造に関するスキルを修得する。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータ構造を通じて論理的に考察することができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。	
	コミュニケーション力			

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データ構造

INF231M

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

この授業主な到達目標は以下のとおりである。

- 1.データ構造・アルゴリズムを理解する。
- 2.データ構造・アルゴリズムを適用するためのスキルを身につける。
- 3.情報科学を活用して問題を分析し、解決するためのスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【シェルソート】【マージソート】
- 11回 ソート法2、グラフ【ヒープソート】【グラフ】【隣接行列】
- 12回 応用例1【ダイクストラ法】【ハノイの塔】
- 13回 応用例2【動的計画法】
- 14回 応用例3【最大流問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%

課題... 20%

データ構造【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにキーワードについて調べておくこと。
授業終了後には授業の内容を反復すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データベース【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なデータベースの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータベースに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータベースを通じて効率的に提案することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データベース

INF232M

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。

本講義では、データベースの基本知識、設計技術を中心に学びます（データベースの利用者の立場からではなく、作成者、設計者の立場としての内容です）。まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

個々の情報科目への適性にもよりますが、難易度は高めです。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -
その他、講義中に指示

データベース【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義時間の2/3以上は講義(資料を使った説明、およびノート取り)で、パソコンの演習は多くても1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...15% 小テスト・課題...15% 期末試験...70%

詳細は第1回目に説明するので必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計技術が中心で、難易度は高めで、しっかりとした予習復習が必要です。

講義後にはノート、参考書等により、内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。)

集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料(パワーポイント資料)は配布しません。図表など部分的に配布します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが難易度は高めです。データベースの仕組みに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

キーワード /Keywords

情報ネットワーク【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なコンピュータネットワークの専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● コンピュータネットワークの活用に関する問題を解決するための情報ネットワークに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● コンピュータネットワークを活用する上での課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● コンピュータネットワークに係わる諸問題に関心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報ネットワーク

INF320M

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりである。

1. コンピュータネットワークの運用に用いられる各種の機器やネットワークの論理構造を理解する。
2. コンピュータネットワークの構成を理解するスキルを身につける。
3. コンピュータネットワークを活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 課題... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにキーワードについて調べておくこと。
授業終了後には授業の内容を反復すること。

情報ネットワーク【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味をきちんと調べて受講してほしい。

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

簿記論III 【昼】

担当者名 白石 和孝 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要なより高度な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論III

ACC210M

授業の概要 /Course Description

日商簿記検定2級程度（中級レベル）の講義内容であり、すでに簿記論I・IIを履修していることが絶対的な条件である。できる限り多くの練習問題を解いてもらい、中級レベルの問題に慣れてもらうことに特に主眼をおきたい。

日商簿記検定2級の新しい出題範囲である連結会計、外貨建取引、リース会計などの問題についても慣れてもらうようにしたい。

教科書 /Textbooks

TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（TAC出版）、そのほかプリントを配布。テキストは新しい出題範囲を盛り込んだものをご購入してほしい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに（講義の概要について）
- 2回 日商簿記検定演習（解答と解説）①：商業簿記第1問・第2問【日商簿記検定試験2級（第148回）】
- 3回 日商簿記検定演習（解答と解説）②：商業簿記第3問・工業簿記第4問・第5問【同上（第148回）】
- 4回 第148回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説①
- 5回 第148回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説②
- 6回 日商簿記検定演習（解答と解説）①：商業簿記第1問・第2問【日商簿記検定試験2級（第147回）】
- 7回 日商簿記検定演習（解答と解説）②：商業簿記第3問・工業簿記第4問・第5問【同上（第147回）】
- 8回 第147回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説①
- 9回 第147回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説②
- 10回 日商簿記検定演習（解答と解説）①：商業簿記第1問・第2問【日商簿記検定試験2級（第149回）】
- 11回 日商簿記検定演習（解答と解説）②：商業簿記第3問・工業簿記第4問・第5問【同上（第149回）】
- 12回 第149回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説①
- 13回 第149回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説②
- 14回 第149回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説③
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に即して、テキストの該当箇所について予習と復習を必ず行っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

簿記論III 【昼】

キーワード /Keywords

工業簿記【昼】

担当者名 /Instructor 大崎 美泉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	工業簿記の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	工業簿記の諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	工業簿記に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	工業簿記に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

工業簿記

ACC211M

授業の概要 /Course Description

工業簿記は、製造業で用いられる簿記であり、商業簿記と対比して論じられます。すなわち、工業簿記は、材料を購入、加工して製品化する製造過程の記録・計算に主眼を置く点で、商業簿記と大きく異なっています。工業簿記では、製造活動を記録・計算するための特別の勘定を設け、これに原価計算の手続きによって算出された数値を記録していきます。したがって、工業簿記をよりよく理解するためには、原価計算の仕組みを把握し、これを簿記システムと関連付けることが重要です。本講義では、工業簿記の基本的な仕組みと手続きを学習していきますが、理論的説明に終始することなく練習問題をできるだけ多く取り入れていく予定です。このような実習を積み重ねることによって、工業簿記の理論と実践の双方を理解するために必要な知識を習得することができます。

教科書 /Textbooks

伊藤博 小林哲夫 『最新 工業簿記(三訂版)』 (2009年 実教出版) ¥2,400

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

問題集等必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 工業簿記の基礎と構造
2. 原価と原価計算
3. 工業簿記に特有の勘定科目
4. 材料費の計算と記帳
5. 労務費の計算と記帳
6. 経費の計算と記帳
7. 個別原価計算の仕組み
8. 製造間接費の配賦法
9. 部門別個別原価計算
10. 総合原価計算の特色と単純総合原価計算
11. 等級別総合原価計算
12. 組別総合原価計算
13. 工程別総合原価計算と減損
14. 標準原価計算
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常的な授業への取り組み (15%)、課題の提出状況 (35%) を目安として、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習のため、類似問題を解いてください。

工業簿記【昼】

履修上の注意 /Remarks

商業簿記の基礎を理解しておいてください。
電卓等を準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論I【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	原価計算の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	原価計算に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	原価計算に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	原価計算に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

原価計算論I

ACC212M

授業の概要 /Course Description

そもそも価格とはどうやって決まるのであろうか。「価格」＝「利益」＋「原価」であるが、原価計算論の焦点は「原価」の計算、つまり、製品の製造にいくらかかったのか、にある。

本講義では、造船業や土木建設業などの個別受注生産の企業における原価計算の手続き（個別原価計算）を学習する。

なお、「原価計算論II」では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を扱う。

教科書 /Textbooks

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

教科書

- ① 清水孝・長谷川恵一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第1講～第8講）
- ② TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記（よくわかる簿記シリーズ）』TAC出版。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 テキスト第1講 原価計算の基礎【原価】
- 3回 テキスト代2講 個別原価計算の概説【個別原価計算】
- 4回 テキスト第4講 材料費の計算①【材料費】
- 5回 テキスト第4講 材料費の計算②【材料費】
- 6回 テキスト第5講 労務費の計算①【労務費】
- 7回 テキスト第5講 労務費の計算②【労務費】
- 8回 テキスト第6講 経費費の計算【経費】
- 9回 前半のまとめ
- 10回 テキスト第7講 製造間接費の配賦①【実際配賦の限界】
- 11回 テキスト第7講 製造間接費の配賦②【製造間接費配賦差異】
- 12回 テキスト第7講 製造間接費の配賦③【予算差異】【能率差異】【操業度差異】
- 13回 テキスト第8講 部門別個別原価計算①【部門別個別原価計算】
- 14回 テキスト第8講 部門別個別原価計算②【部門別個別原価計算】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% レポート...30% (全10回×3点)

*各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

原価計算論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には教科書・レジユメを一読し、授業のあとは宿題の問題を解き、それを提出期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

電卓を毎回持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論II 【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	原価計算の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	原価計算に関する諸問題を解決するための分析手法を維持する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	原価計算に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	原価計算に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

原価計算論II

ACC213M

授業の概要 /Course Description

そもそも価格とはどうやって決まるのであろうか。「価格」＝「利益」＋「原価」であるが、原価計算論の焦点は「原価」の計算、つまり、製品の製造にいくらかかったのか、にある。

本講義では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を学習する。

教科書 /Textbooks

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

* 教科書 *

清水孝・長谷川惠一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第3講、第9講～第14講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版。

TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 テキスト第 3 講 総合原価計算の概説【加工費】
- 3回 テキスト第 9 講 総合原価計算における月末仕掛品の評価【月末仕掛品】
- 4回 テキスト第 10 講 工程別総合原価計算①【工程】
- 5回 テキスト第 10 講 工程別総合原価計算②【前工程費】
- 6回 テキスト第 11 講 仕損・減損の処理①【仕損】
- 7回 テキスト第 11 講 仕損・減損の処理②【減損】
- 8回 テキスト第 12 講 その他の総合原価計算①【組別総合原価計算】
- 9回 テキスト第 12 講 その他の総合原価計算②【等級別総合原価計算】
- 10回 テキスト第 12 講 その他の総合原価計算③【積数】
- 11回 テキスト第 13 講 標準原価計算①【直接材料費差異】
- 12回 テキスト第 13 講 標準原価計算②【直接労務費差異】
- 13回 テキスト第 13 講 標準原価計算③【製造間接費差異】
- 14回 テキスト第 14 講 利益管理のための原価情報【CVP分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...67% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には教科書・レジュメを一読し、授業のあとは宿題の問題を解き、それを提出期限までに提出すること。

原価計算論II【昼】

履修上の注意 /Remarks

「原価計算論I」を履修済みであることが望ましい。

電卓を毎回持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会計学)とは何か?【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 中間のまとめ
- 12回 会計談話その1 - 会計学とは何か? - 【資本循環範式、現金、ホスピタリティ】
- 13回 会計談話その2 - 会計学とは何か? 【会計のアカデミズム】【会計学者の群像】
- 14回 財務諸表の種類等を知る【投資家、ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト等を含む)... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

財務会計論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定である。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論II

ACC215M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計固有の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIは、財務会計論Iの応用編（あくまでも動態論）である。財務会計論Iと異なる点は、会計の基本問題に限定している点である。主たるテーマについては、授業内容を参考にして欲しい。動態論の基本的思考を中心にして、現代会計について言及したいと思う。

教科書 /Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 課題 ... 10% 期末試験 ... 80%

財務会計論II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記論のテキスト（簿記2級程度の仕訳）や、財務会計論の入門書及び教科書（例えば、田中弘、広瀬義州、桜井久勝、新井清光 & 川村義則の最新の書籍）を読むことをすすめる。

事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「財務会計論I」を既に受講した場合、財務会計論IIの講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。会計の考え方について説明しているので、眠くなると思われるが、授業で話しているポイントについては、レジュメだけに終わらず、財務会計論の教科書に該当する説例(=仕訳等)を調べたり、ネットで、さらに深く調べて自分で考えてみる事が重要である。聞き流しでは、会計について考える機会を逸してしまうので、是非、自主的に勉強してもらいたい。

キーワード /Keywords

経営学特殊講義 A 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 時勢に応じた経営学分野の専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学特殊講義 A

BUS390M

授業の概要 /Course Description

本講座のメインテーマは、公共経営です。
資本主義経済の成熟化や超少子・高齢社会の到来などにより、公共的な仕事は国や地方公共団体などの政府部門だけではなく、営利法人や非営利法人などの民間事業者がその一翼を担うことにより、効率的で効果的なモノやサービスの提供を行う仕組みが形成されています。
歴史的に見ると、1970年代～80年代においては米国のレーガノミクス、英国のサッチャリズムによってNPM (New Public Management: 新しい公共経営) と呼ばれる取り組みが行われるとともに、わが国においては1980年代からの規制改革や公益法人改革などによって市場原理の導入が進められました。1990年代には、地方公共団体による行政評価や企業会計手法の導入など、公共部門への民間の経営手法の導入が試みられ、やがて国において制度化されたNPMの取り組みが推進されるようになりました。
公的部門への市場原理の導入は自由放任ではなく、一定のルールや規制によることが必要ですが、今後はNPMの成果を踏まえて、公共的な仕事における政府部門の役割や実施部門としての民間事業者の役割を一層明確化するとともに、公共的なサービスの最終消費者、生活者としての市民の参画を含めた公共ガバナンスが重要となります。
本講座では、これらの歴史的経緯と制度的内容、実践例や社会保障分野における展開などを紐解き、今後の経済社会の枠組みを展望します。

教科書 /Textbooks

授業において適宜、資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「行政学」西尾勝(有斐閣)
「世界の経営学者はいま何を考えているのか」入山章栄(英治出版)
「教養としての社会保障」香取照幸(東洋経済新報社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	公共経営総論(1)	【公共とは何か、歴史、公共セクターの役割や特性】
第2回	公共経営総論(2)	【公共セクターの職業倫理、ソーシャルキャピタルの概念】
第3回	公共経営総論(3)	【NPMの背景と理論】
第4回	公益事業	【特性、医療、福祉、教育、文化、災害支援】
第5回	規制改革の事例	【社会福祉基礎構造改革と介護保険制度】
第6回	公益法人、NPO制度	【公益法人改革、NPOなど市民セクター】
第7回	公共セクターの組織	【官民の人事制度の特徴と比較】
第8回	公共セクターの財政	【国・地方の財政と会計制度】
第9回	公共政策(1)	【市民参画：ゲストスピーカー】
第10回	公共政策(2)	【NPO法人：ゲストスピーカー】
第11回	公共サービスの改革(1)	【官民パートナーシップ、民間委託】
第12回	公共サービスの改革(2)	【独立行政法人、指定管理】
第13回	公共サービスの改革(3)	【第3セクター、外郭団体】
第14回	公共サービスの改革(4)	【PFI、民営化】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への態度、姿勢、貢献度・・・50%
授業でのレポート提出・・・50%

経営学特殊講義 A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日常的に新聞を閲覧し、経済社会のエポックの理解・整理を行うように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業においては、履修生からの積極的な質問や意見表明を歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公共の仕事は、マクロ的には企業や消費者が日々の活動や生活を行うための制度インフラを提供し、ミクロ的には公共財（教育、福祉、道路、公園、その他ソフト・ハードの社会資本）の提供を行うことにあります。
これらの公共的な仕事に、政府、企業、消費者（市民）がどのように関わっているかを理解することで、現代社会の仕組みを概観したいという皆さんの参加を期待します。

キーワード /Keywords

公共部門への市場原理の導入、規制改革、超少子・高齢社会への対応

経営学特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 時勢に応じた経営学分野の専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学特殊講義B

BUS391M

授業の概要 /Course Description

本講義は、消費者行動にかかわる人間特性について、認知心理学や社会心理学の見地から概観していきます。社会においてヒトがどのように世界を見聞きし、理解し、判断を行っているか、さらにはコミュニケーションがどのようになされるかを知ることは重要だと言えます。

教科書 /Textbooks

講義ごとに資料を紙面配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松井剛・西川英彦(編著)『1からの消費者行動』中央経済社 2016年 ¥2400
他にも、講義内で適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 消費者行動と経営学1：ガイダンスと授業の概要説明，経営学と心理学との接点
- 2回 消費者行動に関わる人間の特性1：感覚と知覚1
- 3回 消費者行動に関わる人間の特性2：感覚と知覚2
- 4回 消費者行動に関わる人間の特性3：多感覚統合
- 5回 消費者行動に関わる人間の特性4：選択的注意
- 6回 消費者行動に関わる人間の特性5：よさと感性
- 7回 消費者行動に関わる人間の特性6：感情と情動
- 8回 消費者行動に関わる人間の特性7：学習理論
- 9回 消費者行動に関わる人間の特性8：強化スケジュール，動機づけ
- 10回 消費者行動に関わる人間の特性9：記憶
- 11回 消費者行動に関わる人間の特性10：対人認知，対人感情
- 12回 消費者行動に関わる人間の特性11：コミュニケーション
- 13回 消費者行動に関わる人間の特性12：説得と態度変容
- 14回 消費者行動に関わる人間の特性13：確率判断，リスク認知，認知バイアス
- 15回 消費者行動と経営学2：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内小テスト ... 40% 授業内レポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後には、必ず授業の復習をおこなってください。

履修上の注意 /Remarks

授業中に模擬実験を行う場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業の人的資源の活用や顧客とのコミュニケーション等を学んでいくにあたって、心理学の知識を得ることは有益となります。

経営学特殊講義B 【昼】

キーワード /Keywords

経営学 認知心理学 社会心理学

法学総論 【昼】

担当者名 梁田 史郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

意識するかどうかは別として、日本社会で生活していく以上、法の問題は誰もが関わりを持たざるを得ない。身近な例を題材として、自分たちと法の関わりを確認しつつ、日本の法体系、法原則を学ぶ。

教科書 /Textbooks

池田真朗ほか著『法の世界へ』（有斐閣アルマ）
『ポケット六法』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南野森編『ブリッジブック法学入門』（信山社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 法とは何か
3. 日本の法体系
4. 法の解釈
5. 日常生活と契約
6. 意思表示と法律行為
7. 債務不履行と損害賠償
8. 不法行為と損害賠償
9. 民事責任と刑事責任
10. 欠陥製品による被害
11. 悪徳商法による被害
12. 婚姻と離婚
13. 親子関係と法
14. 相続
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%
遅刻・欠席や不真面目な受講態度は減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、テキストを一読し、読み方や意味の分からない言葉については辞書で調べておくこと。
事後学習として、講義の内容を復習し、関連事項を自分で調べてノートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

テキストを使用して講義を進めるので、必ずテキストを持参してください。
「六法」は指定のものでなくてもかまいません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

黒板に書かれたことを写すだけでなく、講師の話聞いたうえで、整理してノートをとることを心がけてください。法律学は、やや難しい言葉で説明されることが多く、専門用語に限らず、不明確な言葉は辞書で確認する習慣をつけてください。また言葉になれるためにテキストや法律の条文を音読すると良いでしょう。

キーワード /Keywords

憲法 民法 民事責任 刑事責任 契約 損害賠償

地方自治法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える地方自治法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治法

LAW223M

授業の概要 /Course Description

「地方自治」は本来われわれの生活に身近な存在である。授業においては、まず地方自治に関する法制度の原理と仕組みの概要を把握することがねらいである。さらに国と地方公共団体との役割分担と相互関係、それらを前提とした諸問題の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点から関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『地方自治法概説【第7版】』（有斐閣、2017年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中川義朗編 『これからの地方自治を考える』（法律文化社、2010年）

磯部力ほか編 『地方自治判例百選[第4版]』（有斐閣、2013年）

地方自治法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 地方自治の基礎理論 (1) わが国における地方制度の沿革	第16回 住民の権利義務 (3) 参加権
第 2回 地方自治の基礎理論 (2) 地方自治の意義、地方自治に関する法源	第17回 住民の権利義務 (4) 公の施設利用権
第 3回 地方自治の基礎理論 (3) 自治権の本質、地方自治制度の基本枠組み	第18回 国と地方公共団体との関係 (1) 相互関係の在り方、関与の在り方
第 4回 地方公共団体の種類 (1) 普通地方公共団体、特別地方公共団体	第19回 国と地方公共団体との関係 (2) 係争処理の仕組み
第 5回 地方公共団体の種類 (2) 基礎的地方公共団体、広域の地方公共団体 大都市制度、市町村合併、道州制	第20回 国と地方公共団体との関係 (3) 事務配分と財源配分
第 6回 地方公共団体の事務 (1) 地方公共団体の事務の区分	第21回 国と地方公共団体との関係 (4) 地方公共団体の財政、税源、補助金等
第 7回 地方公共団体の事務 (2) 事務配分のあり方	第22回 情報公開制度 (1) 情報公開制度の概要
第 8回 地方公共団体の権能 (1) 自治のための権能	第23回 情報公開制度 (2) 情報公開制度の諸問題
第 9回 地方公共団体の権能 (2) 自治行政権とその統制原理	第24回 個人情報保護制度 (1) 個人情報保護制度の概要
第10回 地方公共団体の権能 (3) 自治立法権の意義と限界	第25回 個人情報保護制度 (2) 個人情報保護制度の諸問題
第11回 地方公共団体の機関 (1) 地方議会	第26回 住民監査請求 (1) 住民監査請求の制度
第12回 地方公共団体の機関 (2) 執行機関、補助機関	第27回 住民監査請求 (2) 住民監査請求と住民訴訟
第13回 地方紅葉団体の機関 (3) 長と議会との関係	第28回 住民訴訟 (1) 住民訴訟の意義と要件
第14回 住民の権利義務 (1) 住民の参政権	第29回 住民訴訟 (2) 住民訴訟における諸問題
第15回 住民の権利義務 (2) 直接請求権	第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法学(統治機構論)および行政法総論を履修していることが望ましい。
授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報公開・個人情報保護法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える情報公開・個人情報保護法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報公開・個人情報保護法

LAW322M

授業の概要 /Course Description

情報公開・個人情報保護の法制度は、国の法律と各地方公共団体の条例により構成されている。情報公開制度は、国民・住民が国・地方レベルで政治に参画するための手段である。また情報化社会の進展により情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。情報公開及び個人情報保護の仕組みはどのようになっているのか、それらは現実にはどのように運用されているのか、具体的にどのような法律解釈上の問題が生じているのかということについて、概要を把握することが授業の狙いである。授業では、情報公開制度及び個人情報保護制度について、基本的知識を体系的に理解すること、問題点の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法逐条解説[第7版]』（有斐閣、2016年）
同 『個人情報保護法の逐条解説[第5版]』（有斐閣、2016年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著 『情報公開法』（有斐閣、1999年）
園部逸夫編集 『個人情報保護法の解説<<改訂版>>』（ぎょうせい、2005年）
行政情報システム研究所編 『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 情報公開の意義 情報公開とは何か	第10回 個人情報保護制度の憲法上の基礎 個人の尊厳とプライバシー
第 2回 情報公開制度の憲法上の基礎 知る権利、国民主権	第11回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（1） 個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者
第 3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（1） 情報・行政文書の意義	第12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（2） 個人情報の収集、管理、利用
第 4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（2） 個人情報の不開示とプライバシー保護	第13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（3） 開示請求、不開示情報、訂正等請求
第 5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（3） 法人等情報及び意思形成過程情報の不開示	第14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（4） 不服申立て、審査会による審査
第 6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（4） 事務事業情報、安全・公安情報、外交等情報の不開示	第15回 まとめ
第 7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（5） 部分開示、応答拒否、裁量的開示	
第 8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（6） 開示手続、不服申立て、審査会による審査	
第 9回 個人情報保護の意義 個人情報保護とは何か	

情報公開・個人情報保護法【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労使関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 労使関係法と社会のつながりを確認し、労使関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労使関係法

LAW241M

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集団的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、集団的労働関係法に焦点を当てます。集団的労働関係法は、労働組合と使用者の関係を規律する労働組合法を中心とするものですが、労働組合の組織率の低下により、そのあり方が問われています。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働組合法を中心とする集団的労働関係法の基本事項を身に付けるとともに、集団的労働関係法の将来像を模索することを通じて、雇用社会への関心を高めるところにあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2016年）を使用予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第11版』（弘文堂、2016年）
土田道夫『労働法概説 第3版』（弘文堂、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 労使関係法の意義と目的
- 2回 労働組合の歴史と機能
- 3回 団体交渉の仕組みとその主体
- 4回 団体交渉の目的と態様
- 5回 争議行為
- 6回 組合活動
- 7回 労働協約
- 8回 不当労働行為制度（1）【不利益取扱いと支配介入】
- 9回 不当労働行為制度（2）【制度の趣旨とその主体】
- 10回 労働組合による労働者の統制
- 11回 労働組合の衰退と合同労組
- 12回 公共部門の労使関係法
- 13回 従業員代表制度
- 14回 労使関係法の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

普段から労働問題に関心を持って情報を収集するとともに（事前学習）、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

履修上の注意 /Remarks

労使関係法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 雇用関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 雇用関係法と社会のつながりを確認し、雇用関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

雇用関係法

LAW240M

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集団的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、個別的労働関係法に焦点を当てます。個別的労働関係法は、労働組合（労働者集団）と使用者の関係を規制する集団的労働関係法と異なり、労働契約の成立、展開、終了にかかわる個別の労働者と使用者の関係を規制するものです。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働基準法や労働契約法をはじめとした個別的労働関係法の基本事項に関する知識を身に付けること、個別的労働関係における現代的諸課題に関する基本的な分析の視点を養うこと、これらを通じて雇用社会に対する関心を高めること、にあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2016年）を使用予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第11版』（弘文堂、2016年）
土田道夫『労働法概説 第3版』（弘文堂、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「就労」の意義と労働法の役割
- 2回 労働契約関係の成立
- 3回 労働条件決定の法的仕組み
- 4回 労働時間規制
- 5回 休暇、休日、休業
- 6回 健康と安全
- 7回 懲戒処分
- 8回 人事異動
- 9回 労働条件の変更
- 10回 労働契約の終了
- 11回 期間の意義と定年制
- 12回 労働者派遣の法規制
- 13回 雇用差別禁止法
- 14回 企業組織の変動と労働関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

普段から労働問題に関心を持って情報を収集するとともに（事前学習）、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

履修上の注意 /Remarks

雇用関係法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会サービス法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会サービス法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会サービス法

LAW242M

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、個々の制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、障害者総合支援法の制定や介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。

- 第1回 インTRODクション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保障① ～医療供給体制～
- 第3回 医療保障② ～医療保険の保険関係（保険者・被保険者）～
- 第4回 医療保障③ ～保険医療の仕組み～
- 第5回 医療保障④ ～医療保険の保険給付①～
- 第6回 医療保障⑤ ～医療保険の財政①～
- 第7回 医療保障⑥ ～医療保険の財政②、高齢者医療～
- 第8回 社会福祉① ～社会福祉の法体系とその展開～
- 第9回 社会福祉② ～社会福祉の給付方式～
- 第10回 社会福祉③ ～サービス利用の法律関係～
- 第11回 社会福祉④ ～福祉サービスの提供体制～
- 第12回 社会福祉⑤ ～権利擁護システム～
- 第13回 社会福祉⑥ ～不服申立制度～
- 第14回 質問事項に対する講義（医療・福祉）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

社会サービス法【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

- ・「社会保障法」としての体系的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目(憲法・民法・行政法領域)を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。
- ・授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 下村 英嗣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境法

LAW342M

授業の概要 /Course Description

環境法は、環境基本法を頂点とした環境問題にかかわる法律群・法体系の総称である。環境法の対象領域は、各種の公害の防除、開発事業の環境影響評価、循環型社会の形成、自然保護や文化財保護、化学物質の管理・規制など多岐にわたる。循環型社会や持続可能な社会、環境にやさしい社会を家とするならば、環境法は、その家の柱、骨組みといえよう。

この講義では、環境基本法の規定を中心に環境法全般に共通する理念や原則、手法を学んだ上で、重要な国内環境問題を事例として取り上げ、個別の環境法に関する内容・特質・問題・判例・学説を概説する。授業は、1つないし少数の個別環境法を詳細に講義するのではなく、現代社会が直面する環境問題に関連する個別環境法を幅広く取り上げる。また、環境法の理解を深め、特徴をとらえやすくするため、比較法的視点も取り入れて講義を行う。

講義で取り上げる具体的な環境問題や個別環境法は、後述の「授業計画・内容」を参照すること。

教科書 /Textbooks

北村喜宣『環境法』(有斐閣、2015年) (有斐閣ストウディアシリーズ)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ①『ベーシック環境六法』(第一法規)
- ②北村喜宣『環境法(第4版)』(弘文堂、2017年)
 - ①は講義時にできる限り持参してください。
 - ②は発展的に学習したい人向けです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 概要(環境と法律)、環境法の史的展開
- 第2回 環境法の理念・原則
- 第3回 環境権の意義と機能
- 第4回 環境法の手法 / 小テスト(30分)
- 第5回 規制的手法①(大気汚染防止法)
- 第6回 規制的手法②(水質汚濁防止法)
- 第7回 環境法のその他の手法
- 第8回 土壌汚染対策法(汚染土壌の浄化制度) / 小テスト(30分)
- 第9回 廃棄物処理法①(廃棄物の定義)
- 第10回 廃棄物処理法②(適正処理の確保:業と施設の許可制)
- 第11回 リサイクル関連法(容器包装、家電、自動車)
- 第12回 環境影響評価法(開発事業の事前審査) / 小テスト(30分)
- 第13回 自然保護関連法①(土地利用規制)
- 第14回 自然保護関連法②(生物多様性)
- 第15回 エネルギー問題と環境法(原発事故の影響) / 小テスト(30分)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト4回・・・100% (1回あたり25%)

環境法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業計画を参照して、講義テーマに対応する教科書の部分を一読し、予習すること。
- ・ 教科書とノートを参照して、授業内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

- ①教科書に書いていない内容を講義することもあるため、受講時は、しっかりと話を聞き、ノートを取ること。
- ②講義で取り上げた環境法の条文を六法等でチェックすること。
- ③予習として教科書を一読しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一方通行の講義にならないよう、受講生と対話しながら(問題を投げかけながら)講義を進めたいと思っています。

キーワード /Keywords

独占禁止法【昼】

担当者名 /Instructor 諏佐 マリ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 独占禁止法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える独占禁止法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

独占禁止法

LAW340M

授業の概要 /Course Description

「経済憲法」または「経済の基本法」と呼ばれる独占禁止法によって規制される行為、および違反行為に対する措置の内容を学びます。まず、最初に、独占禁止法の執行・運用を中心的に担っている公正取引委員会の組織およびその手続について学びます。そのうえで、違反行為に対する公正取引委員会およびそれ以外の主体による措置についても学びます。そして、具体的な違反行為としての、カルテル・談合や、「私的独占」行為、競争制限的な合併、「不公正な取引方法」などについて、具体的事例に接しながら理解してもらいます。

教科書 /Textbooks

土田和博ほか『条文から学ぶ独占禁止法』（有斐閣、2014年）2500円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

金井貴嗣ほか編「経済法判例・審決百選（第2版）」（有斐閣、2017年）2800円＋税
鈴木孝之・河谷清文『事例で学ぶ独占禁止法』（有斐閣、2017年）4600円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 独占禁止法の目的と仕組み
- 2 公正取引委員会の組織と手続
- 3 違反行為に対する民事上の責任
- 4 違反行為に対する刑事上の責任
- 5 競争制限行為の禁止
- 6 「私的独占」行為の禁止
- 7 「不当な取引制限」行為の禁止
- 8 事業者団体の行為の規制
- 9 企業集中規制
- 10 「不公正な取引方法」の禁止（1） 取引拒絶行為の規制
- 11 「不公正な取引方法」の禁止（2） 不当廉売行為の規制
- 12 「不公正な取引方法」の禁止（3） 不当顧客誘引行為の規制
- 13 「不公正な取引方法」の禁止（4） 拘束条件付取引の規制
- 14 「不公正な取引方法」の禁止（5） 優越的地位の濫用の規制
- 15 国際的な経済活動の展開と独占禁止法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に必要な読書等を行うこと。

独占禁止法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

最新の独占禁止法の条文を必ず手元に用意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法、消費者、競争、経済活動の自由、公正取引委員会

民法総則【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則

LAW160M

授業の概要 /Course Description

この授業では、主に民法第1編「総則」(民法1条~174条の2)について、判例・学説の解説を中心に講義を行う。全30回の講義を通して、民法の全体像を理解するとともに、民法総則に関する基本的な法解釈の能力を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

教科書 /Textbooks

山田卓生ほか『民法I—総則(第4版)』(有斐閣Sシリーズ,平成30年) 本体1800円+税
このほか、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権(第7版)』(有斐閣,平成27年) 本体2100円+税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

民法総則 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民法とは何か？
- 第3回 民法の基本原則
- 第4回 法律行為と意思表示
- 第5回 権利の主体(1)【権利能力，意思能力】
- 第6回 権利の主体(2)【行為能力-未成年者】
- 第7回 権利の主体(3)【行為能力-成年後見制度】
- 第8回 権利の主体(4)【行為能力-制限行為能力者の相手方の保護】
- 第9回 権利の主体(5)【住所，死亡，不在者の財産管理，失踪宣告】
- 第10回 権利の主体(6)【法人】
- 第11回 権利の主体(7)【権利能力なき社団】，権利の客体
- 第12回 法律行為(1)【法律行為とは何か？】
- 第13回 法律行為(2)【公序良俗違反，強行法規違反】
- 第14回 法律行為(3)【意思表示の効力，心裡留保】
- 第15回 法律行為(4)【虚偽表示】
- 第16回 法律行為(5)【錯誤】
- 第17回 法律行為(6)【詐欺，強迫】
- 第18回 法律行為(7)【無効と取消し】
- 第19回 代理(1)【代理とは何か？】
- 第20回 代理(2)【代理権】
- 第21回 代理(3)【代理行為】
- 第22回 代理(4)【無権代理】
- 第23回 代理(5)【無権代理と相続】
- 第24回 代理(6)【表見代理】
- 第25回 条件，期限，期間の計算
- 第26回 時効(1)【時効とは何か？】
- 第27回 時効(2)【時効の援用】
- 第28回 時効(3)【時効の完成の障害】
- 第29回 時効(4)【取得時効，消滅時効】
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

授業中に条文を参照することができるように，必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業終了前に質問時間を設けるので，分からないことは放置せず，積極的に質問して欲しい。

キーワード /Keywords

民法 民法総則

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱えている、企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業活動と法

LAW273M

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』という法体系の中から、特に、「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題（課題）をいくつか取り上げ、これらにつき法解釈論上ならびに立法論上の解説を行うことです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

以上を通して、現代型企業ビジネスが抱えている問題に関心をもち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることが最終目標となります。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです（毎回、必ず持参してください）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の関心・理解度等により，進度・順番が変わりうることをご了解願います。

第1回	商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
第2回	商人・商行為とは何か
第3回	商法の特徴(1)【営利主義】
第4回	商法の特徴(2)【外観主義】
第5回	商法の特徴(3)【公示主義】
第6回	企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
第7回	企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
第8回	企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護
第9回	企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(4) 名板貸人の責任
第10回	現代型取引と名板貸制度【フランチャイズ】【ショッピングモール】
第11回	企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人とは何か】
第12回	企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
第13回	企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【支配人の義務】
第14回	営業・事業譲渡をめぐる法律問題
第15回	総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート20% 期末試験80%

企業活動と法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に配布されるレジュメには、随時、以下の事項が記載されていきます。

- ①予習すべき教科書の箇所、
- ②授業後に取り組むべき復習問題、
- ③レポート提出用の課題など

事前に配布される「レジュメ」や「判例資料」をよく読んで、指示された範囲の予習・復習を心がけ、課題に積極的に取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

1, 本講義が対象とする「商法」は、応用科目としての性格が非常に強いものです。つまり、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「物権法」「会社法」「民事訴訟法」などの諸科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

2, 配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

配布済レジュメや裁判例プリントなどを持参しないで受講すると授業の理解度が著しく低くなります。

3, 欠席した場合には、教員研究室前に置かれている残余分レジュメを受領してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法総則、会社法総則、不正競争防止法

会社法I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法I

LAW270M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の設立
- 6回 株式と株主の権利
- 7回 株式会社の機関(1)【株主総会】
- 8回 株式会社の機関(2)【取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関(3)【代表取締役】
- 10回 株式会社の機関(4)【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
- 11回 株式会社の機関(5)【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関(6)【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
- 13回 株式会社の機関(7)【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(8)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法II

LAW271M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式の譲渡】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【自己株式】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【新株予約権発行の瑕疵】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
- 11回 株式会社の解散・清算
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【合併】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【事業譲渡】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法I

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってこようようにしてください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

国際法I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。

国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってこられるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認

第3回 国家の基本的権利

第4回 国家の基本的義務

第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定

第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援

第8回 国際犯罪

第9回 国際刑事裁判所(ICC)

第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権

第12回 海と国際法：海上交通

第13回 海と国際法：海洋資源

第14回 空と国際法

第15回 まとめ

国際法II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。

詳細は北方モデルの情報で確認してください。

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

福祉国家論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉国家、社会保障制度の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会保障制度の問題点を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会保障制度が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉国家論

PLC112M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートをとって、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第9回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%

原則として、毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点します。

*ただし、教室定員に対して受講生数が著しく多い場合は、出席による評価を変更する可能性があります。
確定された成績評価基準は、第3回目の授業でお知らせします。

福祉国家論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論

PLC113M

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。本講義は、都市の経済的問題を基軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。

講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとどのようなことが、域内産業の特性との関連で見ていきます。

さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村良平[2014]『まちづくり構造改革』日本加除出版
 - 川端基夫[2013]『立地ウォーズ 改訂版』新評論
 - 佐藤泰裕[2014]『都市・地域経済学への招待状』有斐閣
 - 山崎朗他[2016]『地域政策』中央経済社
 - 藤井正他[2014]『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
 - 小長谷一之[2005]『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか？
6. 都市空間の形成
7. 都市の成長と衰退① - 都市の構造、郊外化
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化のしくみ① - 域外マネーの獲得
10. 地域経済活性化のしくみ② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興
15. まとめ

都市経済論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席レポート30%、期末試験70%
- ・ 一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジユメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
- ・ 授業終了後は反復学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。指導に従わない場合、退室いただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は禁止します。
- ・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。近年、打ち出されている「地方創生」の理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略性の洞察は不可欠です。

キーワード /Keywords

地方自治論【昼】

担当者名 壬生 裕子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

地方自治の制度やしくみは、私たちの暮らしに大きな影響を与えています。この授業では、地方自治の制度や地方自治体の政策や組織など、地方自治に関する基礎的事項や最新の取り組みを学び、私たちの暮らしと地方自治の関係やこれからの地方自治のあるべき姿を考えていきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくにありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：地方自治とは
- 2 自治体の政策
- 3 自治体の機関
- 4 自治体の組織
- 5 自治体で働く人
- 6 地方自治の制度①：歴史
- 7 地方自治の制度②：地方分権
- 8 自治体の行政改革
- 9 前半の復習
- 10 自治体の政策過程
- 11 自治体の財政
- 12 自治体の広報・広聴
- 13 市民参加と協働
- 14 地域コミュニティ
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート・・・40％
定期試験・・・60％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で紹介する書籍を読んだり、資料を確認したりすること。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから自分が暮らすまちのさまざまな出来事に関心をもっておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験への出題対策というよりも、近年の地方自治の現状や課題を中心に学ぶことに重点をおきます。

地方自治論 【昼】

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、地方分権、市民参加、まちづくり

公共政策論【昼】

担当者名 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは使いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものを挙げておきます。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップー』（東洋経済新報社、2012年）。

阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）

阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

公共政策論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困（6）・・・社会実験（ペリー幼稚園プログラム）とまとめ
- 10回 介護保険（1）・・・導入
- 11回 介護保険（2）・・・現状分析
- 12回 介護保険（3）・・・問題点とその検討（「下流老人」、「介護離職」の問題も含む）
- 13回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 14回 シルバー・デモクラシーと公共政策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと公共政策」等をはじめ講義内容等は、学生の理解度などに応じて変更する可能性があります。ご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞむので、授業には必ず出席するようにして下さい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険。

政治過程論 【昼】

担当者名 秦 正樹 / HATA Masaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治過程の視座から政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治過程上の課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治過程論

PLS210M

授業の概要 /Course Description

政治家が政党に所属したり、あるいは離党したりするのはなぜなのか。有権者はなぜ、投票に行く（行かない）のか。マス・メディアが特定の政治家を批評するのはなぜなのか。本講義では、こうした諸アクターが「政治」を動かす際の意思決定のメカニズムについて説明します。具体的には、①「scienceとしての政治学」の視点から政治文化や政治制度の重要性について説明した上で、②諸アクターの政治的な意思決定のメカニズムについて検討します。また本講義を通じて、民主主義が成立するための条件に関する理解を深めることを目指します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジュメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩』有斐閣ストウディア。
久米郁男（2013）『原因を推論する：政治学方法論のすゝめ』有斐閣。
砂原庸介（2015）『民主主義の条件』東洋経済新報社。
坂本治也編（2017）『市民社会論：理論と実証の最前線』法律文化社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【民主主義】【規範理論】【実証】
- 2回 Scienceとしての政治学（1） 【因果関係】【相関関係】【変数】【反証可能性】
- 3回 Scienceとしての政治学（2） 【3つのI】【文化】【合理的選択】
- 4回 政治制度(1) 【選挙制度】【デュベルジェの法則】
- 5回 政治制度(2) 【大統領制】【議院内閣制】【議会の類型】
- 6回 政治家と政党(1)【再選・昇進・政策】【議員行動】【集合行為問題】
- 7回 政治家と政党(2)【ダウズモデル】【政党システム】【離党と新党】
- 8回 政官関係【政治主導】【官僚主導】【本人—代理人理論】【エージェンシー・スラック】
- 9回 政治文化【政治的社会化】【政治意識】【ソーシャルキャピタル】
- 10回 政治参加と選挙(1)【投票参加】【投票外参加】【投票義務感】
- 11回 政治参加と選挙(2)【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 12回 政治参加と選挙(3) 【圧力団体】【コーポラティズム】【NPO / NGO】
- 13回 マス・メディア(1)【強力効果論】【限定効果論】【プライミング理論】
- 14回 マス・メディア(2)【ソフトニュース】【SNS】【テレポリティクス】
- 15回 まとめ 【選挙制度改革】【18歳投票権】【シルバーデモクラシー】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：85%
- ・ 日常授業への取り組み：15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておくこと。また、政治過程論は連続しているテーマを扱うため、各授業内容についてはレジュメに示した参考文献を読むなどの復習をしておくこと。

政治過程論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「政治学」をすでに履修している場合、本講義の理解がより深いものになります。
「政治過程論」は、政治学におけるモデルやメカニズムの紹介を重点的に取り扱います。これらのモデルが日本政治においていかなる意味を持つかについては「日本政治論」で詳しく説明しますので、併せて受講することが望ましいです。
また、予習や復習、授業時間以外でも各自が主体的に学習に取り組むようにしてください。とくに新聞やテレビなどで政治のニュースに積極的に触れるように心がけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政治学は「いろんな意見をうまくまとめる方法」を教えてくれる学問分野です。シラバスを見て難しそうと感じる人もいるかもしれませんが、授業計画の「政治」の部分をあなたが所属する集団（たとえばクラブやサークルなど）に置き換えてみると、授業で扱う内容もずっと身近に感じるのではないでしょうか。「政治」と聞いて食わず嫌いにならず、ぜひ一緒に勉強してみましょう！

キーワード /Keywords

民主主義の条件・政治制度・政治文化・実証政治学

自治体政策研究【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体における公共政策の体系的理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方自治体において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地方自治体が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

自治体政策研究

PLC214M

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④単身世帯の急増、といった問題は避けて通れない最重要課題です。本講義では、「超高齢人口減少社会」をキーワードに、①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティ、④移住政策等、といった視点から地方自治体を分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含め考えていくことにします。

また、「超高齢人口減少社会」の問題を考えるに際しては、様々なレベルでの「担い手」の問題が極めて重要になります。受講生は上記の問題とともに社会の「担い手」について本講義を通して考えてください。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）。
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農山漁村文化協会、2005年）。
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）。
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）。
- 山下祐介『限界集落の真実-過疎の村は消えるのか?』（ちくま書房、2012年）。
- 藤山浩『田園回帰1%戦略-地元にとり戻す-』（農山漁村文化協会、2015年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的-超高齢人口減少社会の到来
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想の検討
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-串とお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落(1)-限界集落とは何か
- 6回 限界集落(2)-限界集落の事例の検討
- 7回 限界集落(3)-綾部市の「水源の里」条例
- 8回 限界集落(4)-限界集落の再生、「集落支援員制度」、「地域おこし協力隊」等の検討
- 9回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは何か?
- 10回 北九州市の局地的高齢化
- 11回 限界コミュニティとその再生
- 12回 団地の超高齢化、買い物難民(買い物弱者)を考える
- 13回 ふるさと納税
- 14回 小さな自治体は消滅するのか?-島根県海士町から考える
- 15回 移住1%戦略-地方は消滅しない!!

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

自治体政策研究【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加して下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の復習を必ず行うようにしていただきたい。
受講生の数に応じて、どの教室にするかを決めますので、第1回目の講義にはなるべく参加するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しなければ何も始まりません。授業には必ず参加してください。

キーワード /Keywords

人口減少社会、超高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民（買い物弱者）、超高齢社会の担い手

政治学 【昼】

担当者名 秦 正樹 / HATA Masaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

授業の概要 /Course Description

本講義では、①「政治」が必要であること理由、②戦後日本における政治過程、③政治家・官僚や有権者などの様々なアクターの意思決定や行動様式など、政治学の基盤となる理論や概念について概説します。また本講義では、現在日本が抱える諸問題の原因がどこに（何に）あるのかを自ら発見し、その解決策を模索するための基礎的能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジュメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹（2017）『政治学』有斐閣。
砂原庸介（2015）『民主主義の条件』東洋経済新報社。
伊藤光利編（2009）『ポリティカル・サイエンス事始め（第3版）』有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション 【政治と政治学】【規範】【実証】
2. 政治と権力(1) 【直接民主制】【間接民主制】【国民主権】
3. 政治と権力(2) 【権力】【権威】
4. 日本の政治(1) 【保守と革新】【自社対立】【55年体制】
5. 日本の政治(2) 【政治改革】【民主党】【小泉自民党】【無党派層】
6. 日本の政治(3) 【政権交代】【改革勢力】【安倍政権と自民党】【維新の会】
7. 政治制度 【二大政党制】【選挙制度】【アメリカ政治】
8. 政党制度 【社会的亀裂】【多党制】【ヨーロッパ政治】
9. 議員と官僚 【官僚主導】【政治主導】【本人—代理人理論】
10. 地方政治(1) 【二元代表制】【地方分権】【団体自治】
11. 地方政治(2) 【足による投票】【都市の限界】【住民自治】
12. 市民と政治(1) 【政治参加】【若者の低投票率】【投票行動】
13. 市民と政治(2) 【市民参加】【新しい公共】【NPO/NGO】
14. 国際政治 【リアリズム】【コンストラクティビズム】【紛争発生】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：80%
- ・ 講義への参加の積極性（リアクションペーパー・授業中の質問など）：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておいてください。また、各授業内容のレジュメには毎回参考文献を示しているため、それら文献を読むなどの復習をしてください。

政治学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義の性質上，授業の中で時事的なトピックに触れることがありますので，積極的に新聞やテレビなどで政治のニュースに触れるようにしておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校までの公民や現代社会・政治経済などでは知識を習得することがメインだったかと思いますが，本講義では，むしろ皆さん自身が考えて答えを出すための材料を提供することが重要だと考えています．政治学の知見の習得を通じて，さまざまな社会問題に対する処方箋を考えてみましょう！

キーワード /Keywords

政治理論・実証政治学・行政学

途上国開発論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 途上国において何が政策課題を見極め、政策的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論

PLC215M

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはインド・バングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年、3800円
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008
- * 太田和宏『貧困の社会構造分析～なぜフィリピンは貧困を克服できないのか』法律文化社、2018年、5500円
- * 村山真弓・山形辰史編『知られざる工業国 バングラデシュ』アジア経済研究所 IDE-JETRO、5400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|-------------------|
| 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 | |
| 第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発（SD）」の定義 | 【持続可能な開発（SD）】 |
| 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線と余るティ・線の考え方 | 【貧困概念】【アマルティア・セン】 |
| 第4回 急速の経済発展～インドのIT産業を事例として | 【IT産業】 |
| 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策の転換と先進国の少子化対策 | 【一人っ子政策】【少子化】 |
| 第6回 都市産業問題～インフォーマルセクターの存在 | 【インフォーマルセクター】 |
| 第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区 | 【スクオッタ居住区】 |
| 第8回 資源分配をめぐる（エネルギー技術のあり方） | 【資源配分】 |
| 第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など | 【森林破壊】 |
| 第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に | 【廃棄物管理問題】 |
| 第11回 保健・医療問題～感染症、下痢を中心に | 【感染症】 |
| 第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方 | 【農業・漁業】 |
| 第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA | 【ODA】 |
| 第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より | 【NGO】 |
| 第15回 まとめ | |

途上国開発論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、日ごろから途上国に関心を持ち、新聞などから記事を抽出、また、関係文献を読んでおくこと、事後学習は、授業で習ったことをノートに再度まとめ、コメントを加えておくことなどの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々な新聞記事を読み、テレビ番組を視聴しててください。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りがないようにしてください。
同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。もっと本を読もう。

キーワード /Keywords

開発途上国 (インド・ バングラデシュなど)、アマルティ・ セン、環境問題、持続可能な開発目標 (SDGs)

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	都市の政策に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	都市の諸課題と政策を理解し、新たな政策提案等を行う力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	都市に対する関心を高め、市民生活と政策とのつながりを理解する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市政策論

PLC219M

授業の概要 /Course Description

グローバル化や人口減少社会が深刻化する中、多くの都市では、経済分野、社会分野、環境分野をはじめとする多彩な政策課題が存在する。本講義では、「都市」についての基本的な理解や都市の現状と課題を概観した後、経済政策、地域コミュニティ政策、安全安心政策、環境政策、文化政策などの様々な政策分野の状況と、政策展開の実際を学んでいく。
都市政策に関する表層的な理解にとどまらず、歴史の変遷や多面的・多層性を有する都市政策の構造的な理解、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ 特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○石原武政・西村幸夫編[2010]『まちづくりを学ぶ - 地域再生の見取り図』有斐閣
・ 講義の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市政策とはなにか
2. 人口減少と都市政策課題
3. 都市政策の変遷と都市ビジョン
4. 都市政策と政策手法
5. 政策形成の実際
6. 経済産業政策
7. 社会保障制度と少子化対策
8. 地域コミュニティと市民活動
9. 安全安心のまちづくり
10. 社会資本の老朽化と空き家対策
11. 環境創造と持続可能性
12. 都市文化政策と文化創造
13. インバウンドと観光まちづくり
14. 町並み景観の保存と活用
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 出席レポート30%、期末試験70%
・ 一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業開始までにMoodleによりレジユメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
・ 授業終了後は反復学習を行ってください。

都市政策論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。指導に従わない場合、退室いただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は禁止します。
- ・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、地方自治体での豊富な政策実務経験を有することから、都市政策の理論と実際をわかりやすく解説します。後期科目である都市経営論と併せての受講をお勧めします。

キーワード /Keywords

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論

PLC216M

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、そして環境との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動、放射能の大気汚染）について理解し原因を分析する。

環境政策に関する専門知識の取得と政策形成能力の向上。

- ① 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ② 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ③ エネルギーと生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ④ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

教科書 /Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・孫 穎・竹歳 一紀・在間 敬子著 ミネルヴァ書房 2014年 ¥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 2010年 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 2000年 ¥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 1974年 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 2006年 ¥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 2012年 ¥840）

環境政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など(自分の環境概念について、書いてもらう)
- 2回 公害、環境(問題)とその構造(被害者、加害者等)
環境問題の特性とその構造(環境、社会構造と制度、技術、自然=資源、人口)
- 3回 日本の環境問題と歴史
環境権、環境政策の特徴1(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 4回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5回 環境権、環境政策の特徴2(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 6回 環境政策の手段(間の比較分析)1; 補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7回 環境政策の手段(間の比較分析)2; 有料化、road pricing等
- 8回 発表会
- 9回 自治体の環境政策(環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等)、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか(アジアへ、私の食卓へ、そして体へ)
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 地球温暖化とエネルギー政策
- 13回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 まとめ(試験などの質問)

成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表 30%、レポート 20%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない(原発なくても)と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な~ぜ~!!
あなたは、どう思う?

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当!!
また、エネルギーナシで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの??

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策(政策手段)、環境影響、国際環境問題、産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、地域エネルギーと原子力。

東南アジアの政治と外交【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める。
技能	専門分野のスキル	● 東南アジアの政治と外交に関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジアの政治と外交

ARE216M

授業の概要 /Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN（東南アジア諸国連合）を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与えうる地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- 山影進『転換期のASEAN---新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
- 黒柳米司『ASEAN35年の軌跡---'ASEAN Way'の効用と限界』有信堂高文社、2003年。
- 黒柳米司編著『アジア地域秩序とASEANの挑戦---「東アジア共同体」をめざして』、明石書店、2005年。
- 山影進『新しいASEAN-地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジアにおける地域協力という発想の登場
- 4回 東南アジア連合(ASA)の成立と地域紛争
- 5回 地域紛争と第2の地域協力機構：マフィリンド(Maphilindo)
- 6回 東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
- 7回 ASEANの始動と変容
- 8回 インドシナ紛争とASEAN諸国(1)「難民」への対応
- 9回 インドシナ紛争とASEAN諸国(2)カンボジア内戦への関与
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大
- 11回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み：AFTA
- 12回 ASEANのAPECへの参画
- 13回 ASEAN地域フォーラム(ARF)、ASEAN+3、東アジア首脳会議(EAS)
- 14回 ASEANの展望
- 15回 まとめ

東南アジアの政治と外交 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ...45% 期末テスト...55%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割以上を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえで本科目を受講すると、本科目の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究

ENG232M

授業の概要 /Course Description

The objectives of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabulary in English.

このクラスは英語で行います。The lectures are basically conducted in English.

Foreign students are extremely welcome.

教科書 /Textbooks

Essentials of Economics 6th edition N. Gregory Mankiw, South-Western cengage learning 2011、International Edition (ISBN-10: 0-538-45348-6)

ただし、書き込みしない場合は貸し出したりはused bookで対応することも可能です。しっかり自分の財産としたい方は購入をお勧めします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー入門経済学
アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書
池上彰のやさしい経済学

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week1 Ten principles of economics
week2 Thinking like an economist
week3 Interdependence and the gains from trade
week4 Supply and demand
week5 Consumers, producers, and the efficiency of markets
week6 Measuring a nation's income
week7 International trade
week8 Mid-term examination
week9 Production and growth
week10 The cost of production
week11 The firm in competitive markets
week12 Measuring the cost of living
week13 Basic tools of finance
week14 The monetary system
week15 Money growth and inflation: Abenomics

ビジネス英語研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(1) Class participation	20%
(2) Class presentation	20%
(3) Mid-quizzes	30%
(3) Final test	30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students can use lecture slides on "moodle" on the university website for pre-class preparation and post-class follow up.

履修上の注意 /Remarks

All lessons are basically conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Foreign Students are the most welcome, you will learn about the Japanese Economy as well.

内容は易しいですので特に前知識は必要ありませんが、日本語で経済関係の基礎を学んだことがある学生はより理解が深まると思われる。

キーワード /Keywords

GDP, Inflation, comparative advantage, opportunity cost, market force, GDP deflator, present value, future value, put, call, Black-Scholes, derivative, purchasing power parity, interest rate parity, fixed and float exchange rate, currency crisis, capital flight

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: A Debaters Handbook、Debbie Newman (編集), Trevor Sather (編集), Ben Woolgar (編集) Routledge; 19版 (2013/9/27)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Supplementary materials to be provided by instructor. Students should use library references and resources to prepare for class debates.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory (Textual/Source Study)
- 3.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) A
- 4.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) B
- 5.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) C
- 6.International relations (Textual/Source Study)
- 7.International relations (Argumentation and Debate) A
- 8.International relations (Argumentation and Debate) B
- 9.International relations (Argumentation and Debate) C
- 10.Social, moral, and religious (Textual/Source Study)
- 11.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) A
- 12.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) B
- 13.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) C
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

Advanced English I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings.

For review students should apply the results of class discussions to their individual topics. Students should continue to pursue tasks in relation to their own topics for presentation.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English II

ENG354M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic-focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
- 2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
- 3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
- 4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
- 5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
- 6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
- 7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
- 8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
- 9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
- 10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
- 11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
- 12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
- 13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
- 14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

Advanced English II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

歴史と政治【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の課題図書などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と文化

第11回 宗教と家族・コミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、順序を入れ替えて補講を行う。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化」とビジョンII「現代社会と文化」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』 (朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

ことばの科学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		生活世界の哲学	
		PHR110F	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代とは何か【概説】
- 3回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 4回 生活世界の概念(1)【フッサールの科学批判】
- 5回 生活世界の概念(2)【ハイデガーの世界論】
- 6回 生活世界の変容(1)【工場労働】
- 7回 生活世界の変容(2)【近代産業社会】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の変容(3)【戦争の美学】
- 10回 生活世界の変容(4)【政治の美学】
- 11回 生活世界の変容(5)【ホロコースト】
- 12回 生活世界の変容(6)【全体主義と思考能力】
- 13回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 14回 古代世界の公共空間(1)【古代ギリシャ概説】
- 15回 古代世界の公共空間(2)【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。	
	コミュニケーション力			
現代人のこころ PSY003F				

授業の概要 /Course Description

この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察します。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、それを、グループワーク等を通じて体験していただきます。そして課題として、先行研究や日頃の問題意識に基づく研究計画をグループでレポートとポスターにまとめ、ポスターツアーでの質疑応答を通じ、それをさらに深めてもらいます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを学習支援フォルダにアップしますので、講義前に、学習支援フォルダからダウンロード、印刷してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス，グループ分け
2. 心理学とは NHK大心理学実験 研究計画の基礎
3. コミュニケーションと共有 GWメンバー紹介作成(1)
4. GWメンバー紹介作成(2)
5. 集団討議(1)
6. 集団討議(2)
7. 集団の心理学
8. 伝えるスキル (アサーション、説得的コミュニケーション)
9. レポート・ポスター課題・研究法説明
9. レポート・ポスター作成(1)
10. レポート・ポスター作成(2)
11. レポート・ポスター作成(3)
12. レポート・ポスター作成(4)
13. ポスターツアー1
14. ポスターツアー2
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポート(20%) + PTグループポイント(20%) + PT個人ポイント(20%) + 試験(40%) - 【平常点(減算式)】

※ PTとはポスターツアーを指し、グループで作上げるものです。詳細は講義中に説明します。

※平常点は、講義一回目に示したルールに反した場合(講義を放棄した居眠り、別科目の作業、スマートフォン操作、グループワーク不参加等)による減算式です。単なる欠席は減算の対象となりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

グループ課題(レポートおよびポスター)作成のために必要。

現代人のこころ【夜】

履修上の注意 /Remarks

本講義は、ポスターツアーなどグループワークを中心としたアクティブラーニング形式です。

☆アクティブラーニングとは...

教員による一方向性な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修を取り入れた講義（文部科学省，2012）

講師は，学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように授業方法を設計します。

学生は【見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動】【学生自身が活動し，その活動について思考することで学ぶ】ことが必要です。

※グループワークに参加する意思のない方やスケジュール上参加が難しい方には履修をお勧めしません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題は簡単ではなく、楽な科目ではありません。

主体的にしっかり取り組んだ学生からは「やりがいがあった」「楽しかった」という感想が、そうでない学生からは「二度とやりたくない」「講義に来るのが嫌だった」という感想が出ています。

主体的にしっかり取り組みたいという方への受講をお勧めします。

キーワード /Keywords

心理学、認知心理学、社会心理学、実験、調査、グループワーク、アクティブラーニング、ポスターツアー

文学を読む【夜】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科
鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 村上 義明 / 北方キャンパス 非常勤講師
畑中 佳恵 / 北方キャンパス 非常勤講師, 藤崎 祐二 / 北方キャンパス 非常勤講師
山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と文学との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文学について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			文学を読む
			LIT001F

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？ さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2018年のテーマ：「文学」への誘い

ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。今年度も「文学を読む」では、担当教員が大学1年生にぜひ読んでもらいたい作品を取り上げ、その作品の面白さやアトラクティブなメッセージについて、熱く語ります。また、本講義は日本文学を中心に講義を進めていきますが、アジアの文学（中国、インドネシア）についても紹介します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しません。取り上げる作品を事前に通知したり、適宜プリントを配布したりします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

文学を読む【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本上代文学への誘い(藤崎祐二)
- 第3回 日本上代文学のメッセージ性(藤崎祐二)
- 第4回 まとめ(藤崎祐二)
- 第5回 中国文学への誘い(鄧紅)
- 第6回 日本近世文学への誘い(村上義明)
- 第7回 日本近世文学のメッセージ性・まとめ(村上義明)
- 第8回 インドネシア文学への誘い(山口裕子)
- 第9回 文学理論の歴史概観(畑中佳恵)
- 第10回 トドロフの「幻想」と三島由紀夫「美神」(畑中佳恵)
- 第11回 イーザーの「内包された読者」と芥川龍之介「地獄変」(畑中佳恵)
- 第12回 日本現代詩への誘い(稲田大貴)
- 第13回 日本現代詩のメッセージ性・まとめ(稲田大貴)
- 第14回 日本現代文学への誘い(河内重雄)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

取り上げる作品についての予習(作品を読む、作者について調べる、など)と、講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。「文学を読む【昼】」と同じ講義内容です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等については、コーディネーターの生住に質問すること。
講義内容については、各回の講義担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

現代正義論 【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題（3）【種差別の問題】
- 11回 現代における差別の問題（4）【種差別の諸相】
- 12回 現代における差別の問題（5）【優生学】
- 13回 現代における公平性の意義（1）【貧困問題】
- 14回 現代における公平性の意義（2）【公平主義】
- 15回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に簡単にでも目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身についている。
	コミュニケーション力		
			グローバル化する経済
			ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【産業・物流政策の事例】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【上下水道・環境分野の事例】
- 10回 比較社会心理学(1)【文化と認知】
- 11回 比較社会心理学(2)【文化と感情】
- 12回 バブルと国際金融危機(1)【資産価格】【バブル】【不良債権】
- 13回 バブルと国際金融危機(2)【リーマンショック】【不況の伝播】
- 14回 国際金融危機の伝染(1)【欧州金融危機】【資産担保証券】
- 15回 国際金融危機の伝染(2)【銀行同盟】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			国際紛争と国連 IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る①【国連 1945-1980's】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国連を知る②【国連 1990's-】【冷戦後の国連】
- 第5回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第6回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第7回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第8回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

国際紛争と国連【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本 IRL004F

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構築・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

ガイダンスの時にあらためて紹介する。
第8回～第15回については、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。
前半部分の朝鮮半島にかんする記述では、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)が役立つ。その他、前半で使う参考書として、図書館所蔵のものをあらかじめ示すと、
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』(高文研、2005)
日中韓3国共通歴史教材委員会編『新しい東アジア近現代史』上・下(日本評論社、2012)がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国、日本、朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【自由貿易】【朝鮮問題】
- 3回 日清・日露戦争 【日英同盟】【日露交渉】
- 4回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【韓国併合】
- 5回 日本の朝鮮統治、大陸経営と国際関係 【三・一運動】【五・四運動】
- 6回 国際情勢の緊迫 【満州事変】【日中戦争】
- 7回 第二次世界大戦開戦から日本の敗戦へ【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 8回 冷戦のはじまり 【日本占領】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 9回 帝国支配の解体 【脱植民地化】【日米安全保障条約】
- 10回 革命の時代 【中国革命】【中ソ同盟】【朝鮮戦争】
- 11回 ヴェトナム戦争と戦後秩序の変容 【高度経済成長】【ヴェトナム戦争】【ニクソン政権】
- 12回 デタントから新冷戦へ 【デタント戦略】【米中接近】【石油危機】
- 13回 冷戦の終結 【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 21世紀の世界 【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。特に「史料」のところはよく読んでおいてください。授業終了後には講義中に配布した史料プリントを読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

歴史の読み方I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本近代史プラス史料解説です。

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II
			HIS005 F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件～佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 「立憲主義」と軍事の間
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の該当箇所を目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

履修上の注意 /Remarks

歴史の読み方II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。

21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。

イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。

こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くかと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

人物と時代の歴史【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)
- 『歴代アメリカ大統領』(ブティック社)

毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】

第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】

第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】

第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について

第9回 イギリスとEUの関係について

第10回 キャメロン首相と国民投票

第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか

第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か

第13回 トランプ候補が勝利した理由

第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description
 授業のねらい、テーマ
 メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。
 本講義では一般的な心理学やアドラー心理学、餅田療法などを基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks
 テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 「森田療法」 岩井寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 授業内容とタイムスケジュール
 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理……青年期のこころの病
 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
 第11回 こころの健康の展望……自己受容・自己開示・あるがままの心理学
 第12回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
 第13回 老年期の心の健康……機能の低下・高齢者の心理学
 第14回 病と死の心理学……自殺を打ち明けられたら。死の教育(デスエデュケーション)
 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の感想や意見や質問を小片紙に記入する機会を多く持つので、積極的に記入してもらいたい。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようとする人のことである。よって本来、メンタルヘルスとは「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。

本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらに健康科学やポジティブ心理学の領域から心の健康増進にも役立つような要件を学ぶ。人は人の中にあつて人となる。人生の方向性を正しく導く「逞しき知恵」と「強き生命力」をどうすれば体得できるかを受講生と共に考えたい。食事、睡眠、運動による健康な身体作りも心の基盤として重要である。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。アドラー心理学などの欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法や内観法など心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力が高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキストは特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経症の時代」 渡辺利夫 著 学陽書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 オリエンテーション……受講上の注意・評価・人間の発達と自己形成
- 第2回 人間関係の心理学 1……自己開示について
- 第3回 人間関係の心理学 2……聞く力と話す力
- 第4回 自己愛の心理学と心の健康 1……コフォート理論・自己対象理論
- 第5回 自己愛の心理学と心の健康 2……生涯発達の視点から
- 第6回 アドラー心理学から見た心の健康 1……共同体感覚と感情道具論
- 第7回 アドラー心理学から見た心の健康 2……健康な集団づくり
- 第8回 心のリフレッシュ 1……内観法・森田療法
- 第9回 心のリフレッシュ 2……脳と心について・認知行動療法
- 第10回 発達障害についての理解…自分の場合・他者の場合
- 第11回 平和と暴力 1……対話の文化を
- 第12回 平和と暴力 2……人権の文化を
- 第13回 心の健康と感情……感情の理論
- 第14回 心の健康と芸術……映画の力
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人間社会への興味や感心と心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考えます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業の際の感想や質問などを積極的に自己開示してもらいたい。授業後の個別の質問も大歓迎である。

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

統計学I【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	統計分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済の諸問題を発見するのに必要な統計的分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力) 生涯学習力 コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

統計学 I

ECN130M

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方(推定、検定)を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① 統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ② 点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③ 割合の検定、割合の差の検定などを原理的に理解する。
- ④ 確率分布をヒストグラムから理解する。
- ⑤ 経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実(2013)『サイコロを振って、統計学!』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔(2011)『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定(準備)
- 10 割合pに関する仮説検定(本体)
- 11 割合pに関する仮説検定(考察)
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題1
- 15 推定と検定に関する標準問題2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:教科書を事前に熟読し、演習をしておくこと。

事後学習:SASプログラムを実行することによって、講義内容の理解を深めておくこと。

統計学I【夜】

履修上の注意 /Remarks

教科書の各章を順に講義していく。事前・事後学習を必ず行わないと、単位修得は難しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

統計学II 【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	統計分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済の諸問題を解決するために必要な統計的手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力) 生涯学習力 コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

統計学II

ECN230M

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心に展開される。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① 統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ② 点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③ 平均値の検定、平均値の差の検定などを原理的に理解する。
- ④ エクセル、SASを利用したデータ解析ができるようになる。
- ⑤ 経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実(2013)『サイコロを振って、統計学!』創成社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔(2011)『コア・テキスト 統計学』新世社
鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房(本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イントロダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 乗の推定、t変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、t変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

統計学II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を事前に熟読し、演習をしておくこと。

事後学習：SASプログラムを実行することによって、講義内容の理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

教科書の各章を順に講義していく。事前・事後学習を必ず行わないと、単位修得は難しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学I

ECN112M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1): 【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2): 【課税】
- 5回 市場と厚生(1): 【余剰】
- 6回 市場と厚生(2): 市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1): 【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2): 【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと

ミクロ経済学I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学II【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学II ECN210M

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学(旧カリ科目)」の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(戴下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学I

ECN113M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【資産価格バブル】【投機的取引】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【バブルと資源配分】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 10回 GDP決定理論(1) 【完全雇用GDP】【有効需要原理】【ベビーシッター組合の寓話】
- 11回 GDP決定理論(2) 【消費関数】【45度線分析】
- 12回 GDP決定理論(3) 【比較静学】【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【外国貿易乗数】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題: 25%, 期末試験: 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学II

ECN211M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズのな短期モデル(=45度線モデルやIS-LMモデル)を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、新古典派的な長期モデル(=新古典派成長モデル)を説明し、一国の経済成長の原動力や経済成長のメカニズムなどを学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 45度線モデル(1) 【有効需要原理】【均衡GDP】
- 3回 45度線モデル(2) 【政府支出乗数】【均衡予算乗数】
- 4回 45度線モデル(3) 【ケインズ政策の問題点】【外国貿易乗数】
- 5回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 6回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 7回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 8回 流動性選好理論(4) 【信用創造】【貨幣乗数】
- 9回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 10回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 11回 新古典派マクロ経済学(1) 【マクロ生産関数の諸性質】
- 12回 新古典派マクロ経済学(2) 【一人当たりGDPの決定要因】【全要素生産性】【資本労働比率】
- 13回 新古典派マクロ経済学(3) 【新古典派成長モデル】
- 14回 新古典派マクロ経済学(4) 【貯蓄率】【収束】【黄金律】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題: 25%, 期末試験: 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【夜】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第3版）東洋経済新報社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について (2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について (3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

経済学入門 A 【夜】

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 インTRODクシヨN (マクロ経済学とは何か? 講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【夜】

担当者名 森脇 敏雄 / Toshio Moriwaki / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基礎的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論I

ACC110M

授業の概要 /Course Description

日商簿記3級の内容を学習します。授業では、教員による解説と問題演習を実施します。教員による解説では、教員が作成した資料（パワーポイント）、問題演習では、「教科書」に記載のワークブックを用います。
(注1) 教員が作成した資料（パワーポイント）の内容は、「参考書」に記載の書籍に基づいています。

教科書 /Textbooks

TAC簿記検定講座（2017）『合格トレーニング日商簿記3級Ver.9.0（よくわかる簿記シリーズ）』TAC出版
(注2) パワーポイントの資料を「Moodle（ムードル）」にアップロードします。印刷の上、持参してください。
(注3) 講義開始時点で最新版が出版されている場合には、そちらを購入してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座（2017）『合格テキスト日商簿記3級Ver.9.0（よくわかる簿記シリーズ）』TAC出版
滝澤ななみ（2017）『スッキリわかる日商簿記3級第8版 [テキスト&問題集]（スッキリわかるシリーズ）』TAC出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：簿記の基礎，記帳のルール，簿記一巡の手続き
- 第2回：商品売買I（記帳方法），商品売買II（掛け、手付金等）
- 第3回：商品売買III（返品・値引き），商品売買IV（当座取引）
- 第4回：商品売買V（手形），商品売買VI（送料等）
- 第5回：商品売買VII（帳簿）
- 第6回：確認テスト（第1回～第5回）
- 第7回：その他の取引I（小口現金）
- 第8回：その他の取引II（貸付け・借入れ等）
- 第9回：その他の取引III（商品券），その他の取引IV（給料等）
- 第10回：その他の取引V（固定資産等）
- 第11回：その他の取引VI（有価証券）
- 第12回：その他の取引VII（個人企業の資本）
- 第13回：その他の取引VIII（訂正仕訳）
- 第14回：試算表，決算
- 第15回：確認テスト（第7回～第14回）

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト：20%，期末試験：80%

簿記論I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：Moodleにアップロードされた資料を読んでください。
事後学習：ワークブックの問題を解き，間違えた箇所を中心に復習してください。

履修上の注意 /Remarks

電卓を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II【夜】

担当者名 森脇 敏雄 / Toshio Moriwaki / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基本的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基本的諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基本的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論II

ACC111M

授業の概要 /Course Description

日商簿記3級の内容のうち簿記論Iで未学習の論点、日商簿記2級の内容のうち基本的な論点を学習します。授業では、教員による解説と問題演習を実施します。教員による解説では、教員が作成した資料（パワーポイント）、問題演習では、「教科書」に記載のワークブックを用います。（注1）教員が作成した資料（パワーポイント）の内容は、「参考書」に記載の書籍に基づいています。

教科書 /Textbooks

TAC簿記検定講座（2017）『合格トレーニング日商簿記3級Ver.9.0（よくわかる簿記シリーズ）』TAC出版
TAC簿記検定講座（2017）『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記Ver.11.0（よくわかる簿記シリーズ）』TAC出版
（注2）パワーポイントの資料を「Moodle（ムードル）」にアップロードします。印刷の上、持参してください。
（注3）講義開始時点で最新版が出版されている場合には、そちらを購入してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座（2017）『合格テキスト日商簿記3級Ver.9.0（よくわかる簿記シリーズ）』TAC出版
TAC簿記検定講座（2017）『合格テキスト日商簿記2級商業簿記Ver.11.0（よくわかる簿記シリーズ）』TAC出版
滝澤ななみ（2017）『スッキリわかる日商簿記3級第8版 [テキスト & 問題集]（スッキリわかるシリーズ）』TAC出版
滝澤ななみ（2017）『スッキリわかる日商簿記2級商業簿記第9版 [テキスト & 問題集]（スッキリわかるシリーズ）』TAC出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 日商簿記3級 >
第1回：決算整理I（現金過不足）
第2回：決算整理II（消耗品）
第3回：決算整理III（売上原価）
第4回：決算整理IV（貸倒れ）
第5回：決算整理V（減価償却）
第6回：決算整理VI（繰延べ・見越し）
第7回：精算表，帳簿の締め切り（英米式決算）
第8回：損益計算書と貸借対照表，伝票
第9回：確認テスト（第1回～第8回）
< 日商簿記2級 >
第10回：商品売買
第11回：現金および預金，債権・債務
第12回：有価証券
第13回：有形固定資産（I），有形固定資産（II）
第14回：引当金
第15回：確認テスト（第10回～第14回）

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト：20%，期末試験：80%

簿記論II【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：Moodleにアップロードされた資料を読んでください。
事後学習：ワークブックの問題を解き，間違えた箇所を中心に復習してください。

履修上の注意 /Remarks

電卓を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、国家間の貿易がなぜ発生するのかその仕組みを学ぶ。
- 2、関税、補助金など貿易政策の経済効果を図解分析を通じて学ぶ。
- 3、自由貿易協定、海外直接投資などについての理解を深める。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【貿易の利益】
- 4回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 6回 生産要素の国際移動（1）【海外直接投資】
- 7回 生産要素の国際移動（2）【国際労働移動】
- 8回 貿易政策分析の基礎【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 小国の貿易政策（1）【関税政策】、【補助金政策】
- 10回 小国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 11回 大国の貿易政策（1）【関税政策】
- 12回 大国の貿易政策（2）【最適関税】
- 13回 地域経済統合（1）【FTA】【CU】【EPA】
- 14回 地域経済統合（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 20% 課題提出 20 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、貿易政策、経済統合、海外直接投資

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論（国際経済論I）とマクロ経済学の応用分野である国際金融論（国際経済論II）から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論を学習する。

< 本講義の概要 >

- 1、国際収支表の主要項目と記載方法を学ぶ。
- 2、外国為替の基礎的な知識を学習し、為替相場の決定要因を理解する。
- 3、国際マクロ経済学の基礎を学び、財政政策と金融政策の効果などについての理解を深める。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、開放経済におけるマクロ経済政策の分析手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

国際経済論II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表(1)【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表(2)【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎(1)【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎(2)【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引(1)【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引(2)【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論(1)【金利平価】
- 9回 外国為替の決定理論(2)【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定(1)【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定(2)【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策(1)【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策(2)【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策(3)【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 20% 課題提出 20% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

財政学I【夜】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学 I

ECN361M

授業の概要 /Course Description

前期の授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政収支の現状そして基本的な経済学のフレームワークを使って財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。ミクロ経済学やマクロ経済学で勉強した内容もありますが、財政学（特に政府の役割）の観点からもう少し詳しく捉えていきます。経済学を勉強していない人にも毎回配るレジюмеにベースに基本的な内容から説明していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- 『公共経済学』 林正義 小川光 別所俊一郎 著 有斐閣アルマ
- わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ - 篠原総一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと資源配分および所得分配
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 景気変動と経済成長について 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 景気安定化機能の役割
- 13 財政政策の乗数効果
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は90分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) やむおえない事情により配布資料・プリントが受け取れなかった場合にのみ後日配布などの対応をしますが、練習問題や配布プリントの空欄箇所の答えを教えてくださいといった申し出には応じません。それ以外の講義内容に関する質問には応じます。
- 3) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できません。授業に出ないのであれば、テキストだけでなく参考文献も自力で十分に読み込まなくては試験に対応できないということを覚悟しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学II 【夜】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学II

ECN362M

授業の概要 /Course Description

後期の授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学ではどのように議論されているのかを説明します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- マンキュー マクロ経済学 I 入門編 と II 応用編
N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
- マクロ経済学
二神孝一 堀敬一 (著) 有斐閣
- 公共経済学
林正義・小川光・別府俊一郎 (著) 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：マクロ経済政策と財政
- 2 45度線モデルと乗数効果
- 3 乗数効果：公債発行と均衡財政
- 4 IS-LMモデル① 財・サービス市場の均衡
- 5 IS-LMモデル② 貨幣市場の均衡
- 6 財政政策の効果とその有効性① (IS-LMモデルからの考察)
- 7 長期経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
- 8 長期経済モデル②企業による異時点間の最適化行動
- 9 財政政策の効果とその有効性② (リカード=バローの中立命題)
- 10 財政赤字の問題点
- 11 財政赤字の持続可能性
- 12 財政再建の議論
- 13 公的年金の財政方式
- 14 少子高齢化と年金収益率
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は90分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) やむおえない事情により配布資料・プリントが受け取れなかった場合にのみ後日配布などの対応をしますが、練習問題や配布プリントの空欄箇所の答えを教えてくださいといった申し出には応じません。それ以外の講義内容に関する質問には応じます。
- 3) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できません。授業に出ないのであれば、テキストだけでなく参考文献も自力で十分に読み込まなくては試験に対応できないということを覚悟しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

- この授業では、企業の仕組みや役割、社会との関係などをできるだけ平易に説明したい。企業概念や種類、株式会社の仕組みといった基礎的な内容を学んだうえで、近年における最大の企業問題である、「企業統治（コーポレート・ガバナンス）」と「企業の社会的責任（CSR）」について、事例を通じて学習する。
- 授業の進め方としては、ケースメソッドやグループ学習など、アクティブラーニングを取り入れて実施する予定である。
- 毎時間、ミニツッパーパーに書かれた受講生の質問や意見を紹介し、理解の共有を図る。

教科書 /Textbooks

「なし」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 汪志平『企業論テキスト』中央経済社(2015年) 2,700円+税 ○
- ・ 守屋貴司・近藤宏一編著『はじめの一歩経営学 入門へのウォーミングアップ 第2版』ミネルヴァ書房(2012年) 2,400円+税 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション（講義の概要や目的、評価方法等の説明）
- 2回 企業の諸形態（1）【企業とは何か】【企業の変遷】
- 3回 企業の諸形態（2）【企業の分類、企業の種類】
- 4回 企業の諸形態（3）【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 5回 企業の諸形態（4）【株式会社の仕組み】
- 6回 株式会社の所有と支配（1）【米国における会社の支配構造】
- 7回 株式会社の所有と支配（2）【日本における会社の支配構造】
- 8回 企業統治（1）【企業統治とは何か】
- 9回 企業統治（2）【日本の企業統治】
- 10回 企業統治（3）【企業統治改革】
- 11回 企業統治（4）【企業統治の国際比較】
- 12回 企業と社会（1）【企業とステークホルダー】
- 13回 企業と社会（2）【企業の社会的責任（CSR）】
- 14回 企業と社会（3）【企業倫理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）...40% 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ① 予習：事前に配布される授業資料には必ず目を通して授業に望むこと。
- ② 復習：その日のうちに重要な内容や用語などを整理・理解するようにすること。

企業論基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「経営学入門」を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は大学における「企業論」の入門的科目です。この講義を端緒として企業の分析に本格的に取り組んでくれることを期待します。

キーワード /Keywords

企業形態（企業の種類） 株式会社 株式会社の所有と支配 企業統治（コーポレート・ガバナンス） 企業の社会的責任（CSR）

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

これまでの経営学とは異なり、学生の立場から企業経営のあり方を考察した、新しい経営学を学んで行く。
学生諸君が21世紀の企業社会で働き、生きていくことを支援するための知識を広範に獲得することができるよう、講義していく。

教科書 /Textbooks

齊藤毅憲・渡辺峻編著『個人の自立と成長のための経営学入門』文真堂、2016年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて関連資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【組織と個人】【統合】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト70%（随時行う、1回の小テストが30分程度）
定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講義で予定されているテキストの章に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

マネジメント論基礎【夜】

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コンピュータシステムの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのコンピュータシステムに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてコンピュータシステムを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コンピュータシステム

INF220M

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
 - 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
 - 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
 - 10回 問題解決のためのモデル(その4)【デジジョンテーブル】
 - 11回 モデル化の演習
 - 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
 - 13回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
 - 15回 まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

コンピュータシステム【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業では、多くのIT用語が出てくる。授業中にwebで調べておくように指示された用語は、必ず調べてある程度は理解しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

データベース【夜】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なデータベースの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータベースに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータベースを通じて効率的に提案することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データベース

INF232M

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。

本講義では、データベースの基本知識、設計技術を中心に学びます（データベースの利用者の立場からではなく、作成者、設計者の立場としての内容です）。まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

個々の情報科目への適性にもよりますが、難易度は高めです。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -
その他、講義中に指示

データベース【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義時間の2/3以上は講義(資料を使った説明、およびノート取り)で、パソコンの演習は多くても1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...15% 小テスト・課題...15% 期末試験...70%

詳細は第1回目に説明するので必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計技術が中心で、難易度は高めで、しっかりとした予習復習が必要です。

講義後にはノート、参考書等により、内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。)

集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料(パワーポイント資料)は配布しません。図表など部分的に配布します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが難易度は高めです。データベースの仕組みに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

キーワード /Keywords

情報ネットワーク【夜】

担当者名 劉 怡 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なコンピュータネットワークの専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● コンピュータネットワークの活用に関する問題を解決するための情報ネットワークに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● コンピュータネットワークを活用する上での課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● コンピュータネットワークに係わる諸問題に関心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報ネットワーク

INF320M

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりである。

1. コンピュータネットワークの運用に用いられる各種の機器やネットワークの論理構造を理解する。
2. コンピュータネットワークの構成を理解するスキルを身につける。
3. コンピュータネットワークを活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 課題... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにキーワードについて調べておくこと。
授業終了後には授業の内容を反復すること。

情報ネットワーク【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味をきちんと調べて受講してほしい。

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

財務会計論I【夜】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)をみずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 中間のまとめ
- 12回 会計談話その1 - 会計学とは何か？ - 【資本循環範式、現金、ホスピタリティ】
- 13回 会計談話その2 - 会計学とは何か？【会計のアカデミズム】【会計学者の群像】
- 14回 財務諸表等を知る【投資家、ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

財務会計論I【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト等を含む) ... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相—言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。

事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定でいる。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

公共政策論【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものを挙げておきます。
 伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』(東京大学出版会、2011年)。
 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』(有斐閣、2010年)。
 阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』(岩波書店、2014年)。
 山野良一『子どもに貧困を押しつける国・日本』(光文社新書、2014年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命(社会起業家論)
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
- 4回 子どもの貧困(1)・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困(2)・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困(3)・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
- 7回 子どもの貧困(4)・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困(5)・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥夺指標について
- 9回 子どもの貧困(6)・・・社会実験(ペリー幼稚園プログラム)とまとめ
- 10回 介護保険(1)・・・導入
- 11回 介護保険(2)・・・現状分析
- 12回 介護保険(3)・・・問題点とその検討(「下流老人」、「介護離職」の問題も含む)
- 13回 介護保険(4)・・・介護保険の改革
- 14回 シルバー・デモクラシーと公共政策
- 15回 まとめ

公共政策論【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習(事前学習)して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと公共政策」等をはじめ講義内容等は、学生の理解度などに応じて変更する可能性があります。ご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞむので、授業には必ず出席するようにして下さい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険。